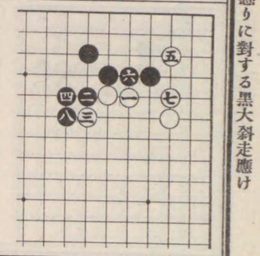
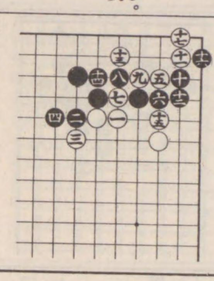
〔一六〇五〕 黒形大に善し

白一に引かば黒は二、四の綽行、厚くして宜し。手六、八、また應酬宜しきを得たり。



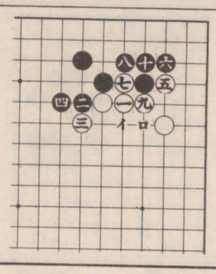
〔一六〇六〕 黒陋穽に落つ

黒六、大いに悪し。白十七となり、攻合黒敗となれり。



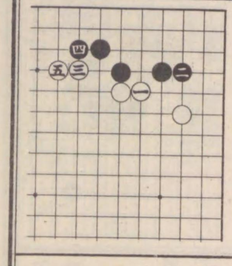
〔一六〇七〕 黒少しく善し

白一をイに尖むも、黒は二、四と綽行ぶべし。黒六を九に出で、白ロ、黒七と粘がば、前々圖と略同じ。



〔一六〇八〕 場合による

黒二と下る手あり。專ら地を守らんとする場合、斯く打つ手善し。此形、黒確なり、得失は場合による。

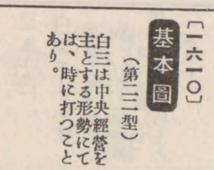


〔一六〇九〕 要點約言（第十九、二十型及び二一型）

白三にて——イは、黒を固めて厚みを作る手なれど、黒ハまたはニで多く白不利。ま

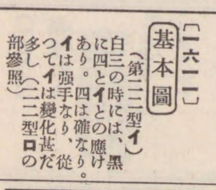
〔一六一〇〕 基本圖（第二二型）

白三は中央經營を主とする形勢にては、時に打つことあり。



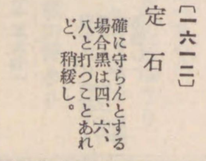
〔一六一一〕 基本圖（第二二型イ）

白三の時には、黒に四とイとの應けあり。四は確な手なり。イは强手なり。從つてイは變化甚だ多し。（二二型ロの部參照）



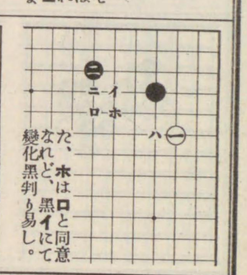
〔一六一二〕 定石

確に守らんとする場合黒は四、六、八と打つことあれど、稍緩し。



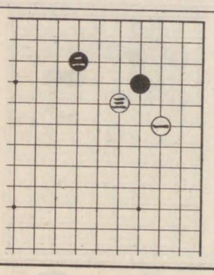
〔一六一三〕 白優れり

黒四、六は俗筋にして可ならず。白七、九の要領、善し。



〔一六一四〕 場合による

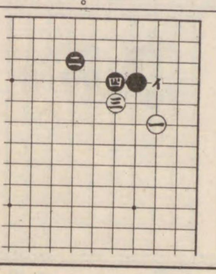
黒二と綽る手あり。白三の時、黒はイと打つも宜しく、また手抜して他に轉ずるも善し。



た、ホはロと同意なれど、黒イにて變化黒判り易し。

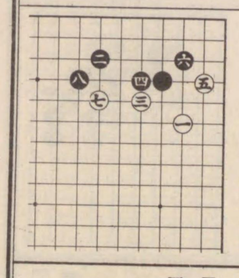
〔一六一五〕 黒有利の分れ

白一には、黒二の尖附最確なり。



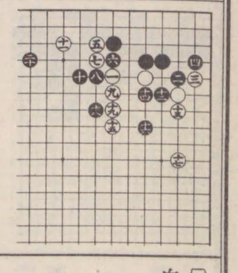
〔一六一六〕 黒利勢なり

白五、打過なり。黒六、八、此場合善なり。黒十二、八、手筋なり。黒十二、八、手は强手にして、斯かる處は恐れず必ず斯く綽ぬべし。



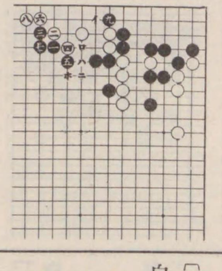
〔一六一七〕 黒善し

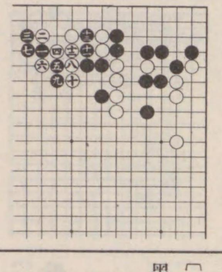
黒二十は、上下へ攻を含む。手筋にして甚だ面白し。（變化次圖）



〔一六一八〕 白低く損なり（前圖黒二十を一とす）

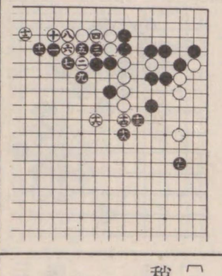
黒九は、要點。此將に白イなれば、黒ロ、又白イを、ハに綽込めば黒ニ、白ロ、黒ホと打つ黒の外形益々確實。





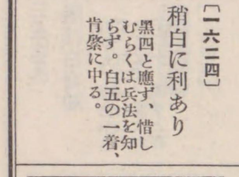
〔一六一九〕 黒利勢なり

白十に突出すも、黒十一、十三と二目を取る、黒確にして且つ有利の形。



〔一六二〇〕 黒形勢大に佳

白十二に至つて、黒十七に夾攻せんとし、先んじて十三、十五と、白の急を伐つ。手段、甚だ面白し。

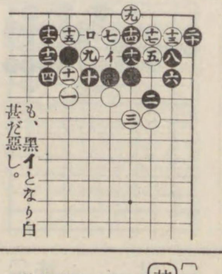


〔一六二一〕 白勢稍優れり

黒は、味方多く敵に在り。地の利、黒に在り。而かも白五の時、黒は六以下攻守して十二に至る、戰機を捉へむるの明なるや、憐むべし。

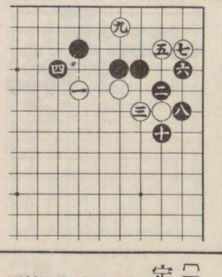
〔一六二二〕 白潰れ

白三に行びる形、好まず。白五、無理。白九を十三は、黒イ、其時白ロは、黒十四、又白ロをた、白十七を十八



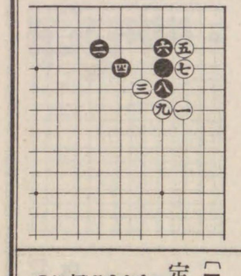
〔一六二三〕 黒善し

白七に約ゆ。九まで黒十に綽上げるとなりては、白隅と小西子の白、外面傷少からず。



〔一六二四〕 稍白に利あり

黒四と應ず、惜しむらくは兵法を知らず。白五の一着、肯綮に中る。

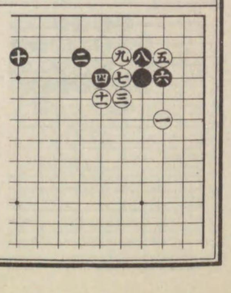


〔一六二五〕 黒甚だ悪し

黒六の約妥當ならず。黒八を九に打てば、白八と切つて攻合白勝なり（一六〇六圖參照）。

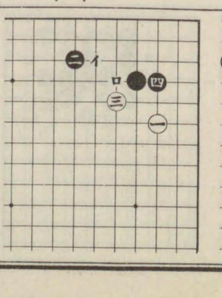
〔一六二六〕 基本圖（第二二型ロ）

黒四と隅を固めれば、白よりイに附け、筋あり。此形、種々變化あれど、黒應を誤らずば、前圖より優れり。



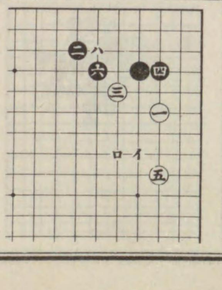
〔一六二七〕 定石

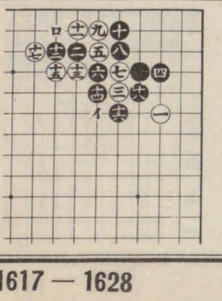
白五ならば、黒六の尖確なり。白五をイ、ロまたは共邊に打つも、黒は白より邊に、俊さるゝ嫌あれば、同じく六に守る手肝要なり。



〔一六二八〕 定石

白五、手筋なり。黒若しイの征に、白十五をロに放ちては、黒十六、打つて勝なり。白十五の時、黒六をロに打つて勝合の場合は、白の手段無理なり。





〔一六二九〕
場合による
白十五、十七、善し。蓋し、白は○の一子黒の堅陣に近接せるを見て、寧ろ軽く捌かんとを期したり。黒十六以下は、打たずして暫く時機を見合すも宜し。

〔一六三〇〕
黒優れり
白九は征悪しき場合（前々圖參照）已むを得ざれど、斯く下を這ふ形となりては白甚だ悪し。但しこれとて黒は難しき變化あり（次圖）。

〔一六三一〕
黒潰滅に瀕す
黒二六を三三は、白イ、黒ロ、白ニにて、黒死。白三一、打過なり。黒三四、以下追撃急なり。白四十に至つて、白軍生色を失ふ。

〔一六三二〕
白大に無理
白二五、二七、打過ぎ。爲に黒よ り三十の先手を利かされ、尋で三四に辛辣なる附を越し、啖ふ假令隅を取るとも白悪し。斯くしては、假令隅を取るとも白悪し。

〔一六三三〕
隅は白寄劫
白十九、面白からず。白二一を二二に打てば、黒イと打つて活なり。白二一、黒イと打つて活なり。

〔一六三四〕
黒十二に潰ゆ
黒の潰敗、十二の一着に崩す。白十九と絡ね、次に二一と突當る、手段の妙見るべし。

〔一六三五〕
白逆に悞れり
白十九に手順を失し、禍蘆の内に起る。黒二十白の意表出づ。手筋なり。白二一五を二六に絡れば、黒イにて善しし。

〔一六三六〕
互角
黒十二の應け、同じく悪し。白三九、同妙なり。此形、隅の黒死なれども、外勢黒優れる故に互角の分れなり。
㊟二四ノ處ッグ

〔一六三七〕
白少しく善し
白に四七と打たる、隅と絡ねては、手順なり。白は劫付きの石は勘分れ此分れ黒少しく好なります。

〔一六三八〕
黒の勢優れり
若し一六二八■の如く征に取られて黒不充分とする時は、黒は八と粘ぐ手あり。黒十二の附越し手筋なり。黒四以下、また以て範とすべし。
㊟十六ノ處ッグ

〔一六三九〕
征如何による
黒六は、征の如何により可否あり。即ち、白三を征宜しき場合は十三を征宜しき、黒ロ、白十五、黒ハ、白十三と、黒以下の黒を取つて白善し。

〔一六四〇〕
外勢黒稍優る
白は、征悪しき場合は、圖の如く打つ外なし。
㊟一目トル

〔一六四一〕
白少しく善し
白に四七と打たる、隅と絡ねては、手順なり。白は劫付きの石は勘分れ此分れ黒少しく好なります。

〔一六四二〕
白潰れ
（前圖參照）
白十三、悪し。
八一ノ處ッグ

〔一六四三〕
黒攻合勝
白、前圖の敗績に鑒みて十七と行びれば、黒は十八、以下二二に泳ぎ、轉じて二四に白の止めを刺す。
八一ノ處ッグ

〔一六四四〕
黒利勢なり
白三、悪し。斯くては、黒四の粘となりて、初めに白○と打ちし効果なし。

〔一六四五〕
黒確なり
白一に附ければ、黒二に引きて隅を固め、次に四と搦む。黒の攻防、宜しきを得たり。

〔一六四六〕
黒少しく善し
白一を㋑或は㋺と打つも。黒は、同じくハの邊に隙を生ずる故に、二に尖む手善し。

〔一六四七〕
要點約言
（第二二型㋑、㋺）
白三には、黒に㋑と㋺の應けあり。㋑は堅き手なれど稍緩く、㋺は手強くして優れども、變化甚だ多し。

〔一六四八〕
基本圖
（第二三型）
白三、正着なり。

〔一六四九〕
基本圖
（第二三型㋑）
黒四、定法なり。

〔一六五〇〕
定石
白五は、中を厚くする場合に打つ手にて、時に面白し。黒六、白七の後、黒は手抜も宜しく、また㋑に應けれぱ確なり。

〔一六五一〕
定石
白七までの形にて白㋑に打込む筋あり。故に之を防ぐ意味に黒八に飛ぶ手堅くして善し（次圖）

〔一六五二〕
白死
（前圖變化）
黒六、俗手に似たれども、此場合佳手なり。斯くて、白には活路無し。

〔一六五三〕
白　死

白五を六に打てば黒イ、白ロ、黒五にて、攻合黒勝。

〔一六五四〕
白活戒は攻合

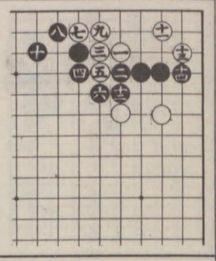
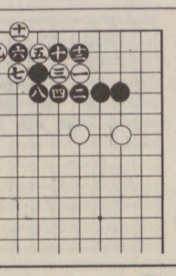
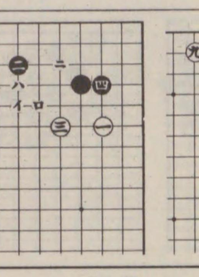
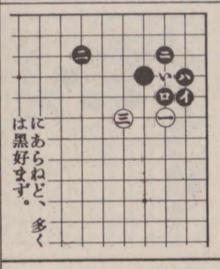
黒一と廣く拓きしは形、充分ならず。白二、四と打ちて隅に手段あり。白十は手筋、〇の白あるに甚く。玩味すべし。

〔一六五五〕
黒確なり

黒二は、前圖イより手堅けれど、白より三に掛けられる手あり。適否場合を得れば、黒イ何れにても善し。

〔一六五六〕
黒確なり

白一と附ける手あれど、黒を堅くして好まず。黒二、確なり。

〔一六五七〕
征如何による

黒二、手強くして宜。然し白十一でイと征に取らるる場合は、此形黒好まず。

十　三ノ處ッグ

〔一六五八〕
黒少しく善し

白九と劫提の時、黒十に適當の劫抛あらば、白潰れなり。十七まで移を見るに、黒の棋地は白の厚味に比して稍優れり。

九　劫トル
十四ノ處ッグ

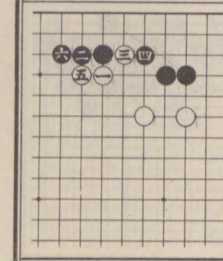
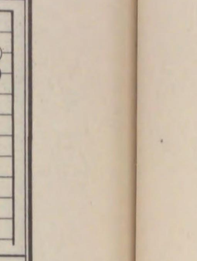
〔一六五九〕
黒勝

種々變化あれど、結果何れも黒良し。〈互先之部二間挟出切の圖參照〉猶白三をイに切れば、黒三にて、白に手段無し。

〔一六六〇〕
黒勝

黒二、四二、而して二四の手順宜し。二二を只二四に粘げば、白イ黒ハ、白二三の二二手あり。

十三ノ處ッグ

〔一六六一〕
白大敗

白二五、無理なり。白二五を一に打つも、黒は二六以下圖の如く運びとなり、白三一まで六に封鎖する時は、三六に封鎖すると以て、黒同じく善し。

〔一六六二〕
白潰れ

白二三、二五、甚だ無理なり。黒三十、好手なり。

十三ノ處ッグ

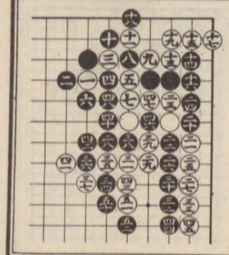
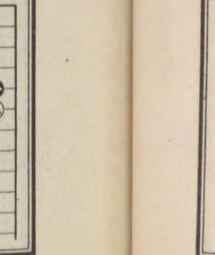
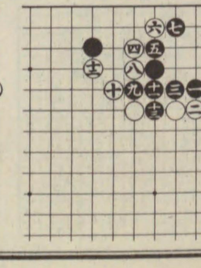
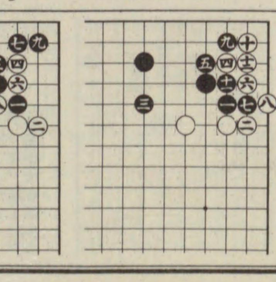
〔一六六三〕
黒の外勢厚壯

白三一を三五に打たば、黒三一に扼す。又圖の三六に至つては、黒の六に子死なりとは言へ、黒は完全に外側を封鎖せるを以て、白潰れ形なり。

〔一六六四〕
白全滅を嘆く

前圖と同じく、黒三四へ掛けらるるに至つては此重圍白は脱出の途無し。

十三ノ處ッグ
究四六ノ處ッグ

〔一六六五〕
黒善し

白一と打込む手あり。此變化は九〇二圖以下に似たれど、彼の結果よりも黒優れり。

〔一六六六〕
互角の分れ

黒四、六と二段綽すれば、隅は確なり。然し普通黒は、前圖の如く外を固む方優れり。

〔一六六七〕
要點約言

（第二三型イ）

白五にてイ、ロ又はハは、外を厚くすれど黒地も確定し。ニの打込は稍打過。ホは一〇四圖以下の變化と同じ。

〔一六六八〕
基本圖

（第二三型ロ）

白三の時、黒はいに締るを正着とすれど、其他に、イ、ロ、及ニの手あり。場合により斯く打つことなきにあらねど、多くは黒好まず。

〔一六六九〕
黒一、悪し

黒一悪し。白二との變換は白を堅くし、而かも隅に打込み殘れり。白四、時機見合せ時打込べし、早き時は黒を厚くせしめて悪し。

〔一六七〇〕
白形稍優れり

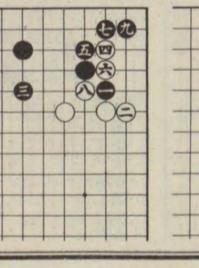
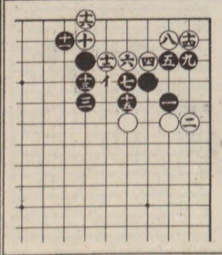
黒一の非を伐つに、白は四と打込む手あり。黒七、佳手なり。

〔一六七一〕
白少しく善し

黒一、三場合によれる。白四は大地に外への連絡と侵地の意あり。蓋し、要黙なり。

〔一六七二〕
黒普通は緩し

黒五、善し。白八にてイに打てば、黒ロに綽込むべし。〈大圖〉此形、黒確なれども、稍緩し。

〔一六七三〕
白、支離滅裂

白八面白からず。十三に至つて、白の形崩れたり。

〔一六七四〕
黒一も悪し

黒一も前の斜走と同じ意味にして、普通は白を堅くし且つ隅の守も充分ならず。白四は時機を見合せ打込む手なり。

〔一六七五〕
白の形稍可なり

白六に突當る手あり。

〔一六七六〕
白少しく善し

白四と打込む手あり。黒十三はイと約へる方善し。〈一六六九圖參照〉

【一六七七】
黒一、悪し
黒一と打つ手あり、地は得なれど隅の守には㋑を確とす。白四直ちに打つ手に非ず、時機を見て此尖附により隅を寂ふべし。黒七は㋺に打たざれば

【一六七八】
白　活
（前圖參照）
白八に打つ手あり。黒十三に尖附けて白を取らんとするは無理なり。

【一六七九】
互　角
十二に至り此白に死なきを看取して、黒は中原の要衝十三に綽ぬ。次に隅の守を白怠らば、黒此時こそは次圖に從つて白を伐つ、白に活路無し。

【一六八〇】
互　角
白十四と應ずる手も無きに非ず。三に至つて、白八以下五子を取らるるも、攻取なれば白も惡しからず。
㊀……二十ノ處ツグ

【一六八一】
互角の分れ
黒七に打てば、確なり。白八は、五に過ぎ。白十二を十打つては、黒十二にて白生還の途無し。

【一六八二】
白　劫
黒十三に約へて、劫とする手もあり。

【一六八三】
黒嵌手に陷る
白八に、黒九はウ〳〵と嵌りたり。斯くては、隅に白十に行ぶべし。黒九は活路あり。
㊀八ノ處ツグ

【一六八四】
場合による
黒例へば五と、隅に手を拔けば、白は六と附けて宜し。

【一六八五】
黒一、緩し
黒一は、一一五一圖以下と同樣確なれど、攻なき故面白からず。斯く黒一の時は、白は此中へ打込むより外より侵削する手段優れり。

【一六八六】
要點約言
（第二四型㋑）
白三の時、隅の守りには黒㋑の下り最も善し。㋺、ハニ及び㋣は前の變化の如くにして、何れも黒面白からず。尤も場合によつては、斯く打つを可とする事もあり。

【一六八七】
參考圖
㊃手拔
黒四を手拔、白五と附けたる變化。（一二八六圖以下參照）

【一六八八】
參考圖
定法以上は大斜走應けに於て、白が直に隅の邊に着手したる變化なれど、實戰には白はニ、㋺、ハまたはニと先づ邊に根據を占むる手段最も多し。

【一六八九】
基本圖
（第二四型㋑）
白三の狹き拓は、黒の打込を豫防せし手なれど、多く緩し。白三には、黒は四の尖附と五の附とあり。何れも白を凝らす目的なり。黒は㋑の締りは氣の利かぬ手なり。白三に對して、黒㋑にて勝なり。

【一六九〇】
定　石
黒六、八の綽粘善し。黒十は此形に於ける常用の應答。

【一六九一】
白稍無理形
白八、稍無理筋なり。黒九、十一、手筋。黒十三は手を拔いて他に打つも宜し。

【一六九二】
黒善し
黒十二に切取るも次に白十六の形惡しき故に、之も黒善し。

【一六九三】
黒優れり
黒五、七と打つ手あり。上を厚くせんとする場合、此手段善し。白八を手拔せば隅に死あり。（次圖）

【一六九四】
黒先白死
（前圖參照）

【一六九五】
黒陷穽に落つ
黒十三、惡し。白十四に至つて、黒は騎虎の勢、十五と綽出せり。此兩五着に、黒臺穴を招掘つて自ら破滅を招く。以て後車の戒とすべし。

【一六九六】
黒優勢
白十、面白からず。前圖ヨに綽ぬ次に白十二に綽ぬ次に十四に斜走する形なり。

【一六九七】
黒　勝
劫なれど、激しき劫なれば、黒先提となりて白惡し。黒二一の時、白者にて勝なり。黒ロに粘げば、

【一六九八】
黒堅實、善し
白九に出を打たず單に八に斜走すれば、黒九に粘ぐ、白隅に活きるも、黒の外形に、一點の隙無し。

【一六九九】
黒稍利勢なり
黒七、九確なり。斯く打てば、變化は簡單にして、結果も亦、黒惡しからず。

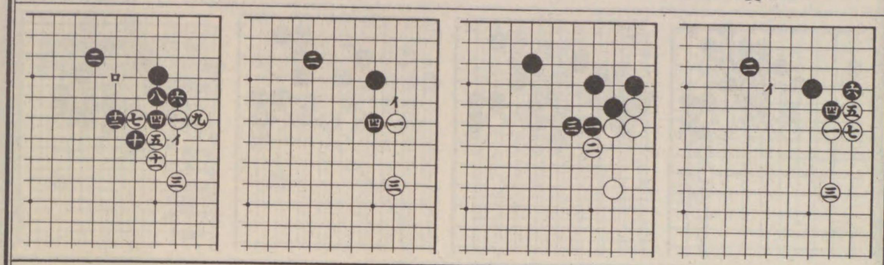
【一七〇〇】
定　石
白九に詰めれば、黒十に飛ぶべく、此形となれば、隅は先づ確なり。

〔一七〇一〕
基本圖
（第二四型ロ）
此形、黒八をイに打てば確なり。（變化は一六八一圖以下參照）

〔一七〇二〕
黒厚し
黒一、三の綽行、隅の防ぎを兼ね、且つ手厚くして宜し。

〔一七〇三〕
基本圖
（第二四型ハ）
黒四と附ける手あり。前圖までのイと同じく、白を凝らす手段なり。

〔一七〇四〕
定石
白九を十は、黒イの切り。また白九をイは、黒は手抜か、或はロの守りを可とす。

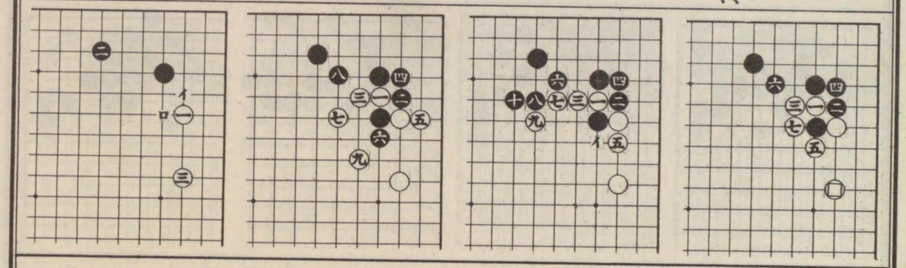


〔一七〇五〕
互角
普通は、白に七と打抜かる〻形となりては黒面白からねど、此場合は、白◎と間狭き故、白も重複の嫌あり、先づ互角の分れ。

〔一七〇六〕
黒利勢なり
白五でイと征に取れぬ場合、圖の如くなりて黒善し。

〔一七〇七〕
黒の手趣あり
白五と下る方、前圖より稍優る。黒が八玆に至つて、黒が先だつて一着六に行び二子にして棄てしては、後に種々の意味遺りて面白し。

〔一七〇八〕
要點約言
（第二四型イロハ）
白三と狹く拓けば、黒はイ或はロに打ち、白を凝らせる意味によりて、自然に隅を堅くする手段面白し。

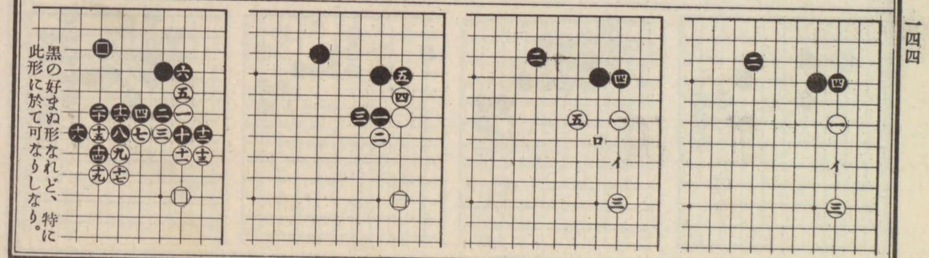


〔一七〇九〕
基本圖
（第二六型イ）
白三なれば、黒四と締りてイの點に打込の時機を狙ふべし。斯く打込みし變化は、打込の部五六〇三圖以下參照）

〔一七一〇〕
定石
白五にて應けれぱ、黒はよりイに打込む筋は先づ消滅せり。猶白五はイに守る手もあり。

〔一七一一〕
黒機變に乏し
黒一、三、機變の明を缺く。果然白四に至つて、黒が四の位置絶好の點となす。（一八一五圖參照）

〔一七一二〕
黒厚くして善し
小野田千代太郎 六段
二子番勝 高橋重行 當時三段
兩氏の對局にあり。黒十、十二、十四、白◎あり。此形、黒面白し。普通



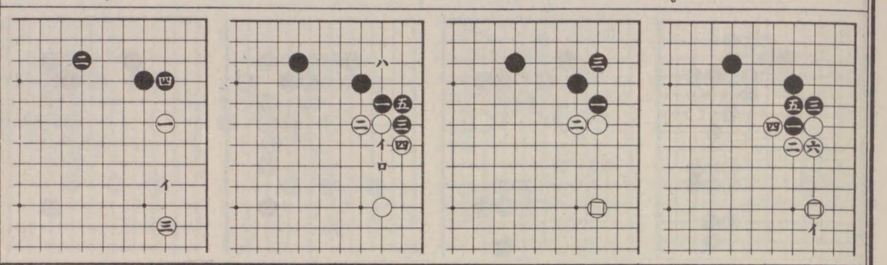
黒の好まぬ形なれど、特に此形に於て可なりしなり。

〔一七一三〕
黒可なり
黒三、善し。圖の形となれば、白◎は稍狹く、イにある方優るなり。その丈に黒としては利かした譯なれば、此一、三の附は、黒面白し。

〔一七一四〕
黒堅實に過ぐ
圖の如き形は、初心者の打樣に屢見る。◎の白絶好の拓に化せり。加之黒三緩しと、三に打つ位ならば、一に打つて直ちに三と打つ方優る。

〔一七一五〕
場合による
黒一、三と綽く手は、次に黒イ或はロの味もあれば、前圖黒ハに尖むより優れり。

〔一七一六〕
基本圖
（第二五型ロ）
白三の四間拓にも、黒は先づ四と隅を堅くすべし。（此形黒イと打込む變化は五六二三圖以下參照）

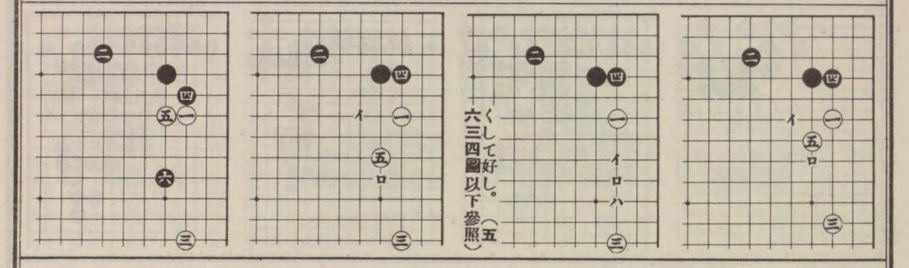


〔一七一七〕
定石
白五は、外にイ或はロに締る手もあり。後の運び、此何れも相應ずれば、何れも可なり。

〔一七一八〕
基本圖
（第二五型ハの一）
白三の五間拓、拓の中にては最も廣し。黒四確なり。此形次に黒には、イ、ロ、其中イの打込嚴し

〔一七一九〕
參考圖
布石の定法
白五はイに飛ぶ手或はロに守る手もあり。

〔一七二〇〕
基本圖
（第二五型ハの二）
五間拓の場合に限り、黒四、次に六と打込む手あり。變化は一間應け五部之五七二六圖參照。

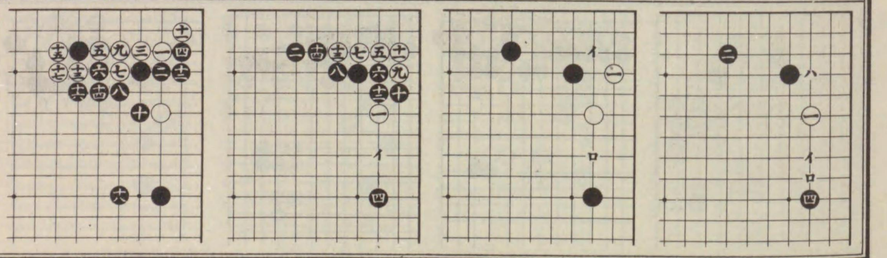


〔一七二一〕
基本圖
（第二六型イ）
白三を手抜の場合は、黒四でイなれば、白◎共に面白けれど、正着は四の三間夾なり。黒四はハもあり。

〔一七二二〕
參考圖
白一は綾き手なれど、此石を凌ぐには、斯く斜走するものなり。黒二をイは、白ロと打つべし。

〔一七二三〕
定石
黒四にある時は、白七に黒八と行くを普通とす。（ハのイある時は、白七に黒八と行くを普通とす。）

〔一七二四〕
黒利勢に非ず
黒四と打つも惡しく、（二〇八圖以下參照）黒十は、白十三が普通。黒十、白十五と抱へらるゝ形は、黒損。

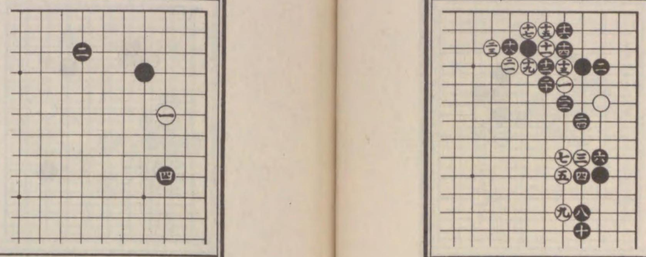


〔一七二五〕
定　石
（三）手抜
黒四の三間夾には、白五、七の切違も定石なり。（三三七圖以下切違の變化參照）

〔一七二六〕
定　石
黒六に應ければ、確にして六ヶ敷變化無し。

〔一七二七〕
黒有利の分れ
白一に打てば、黒❶のある場合も、二に下る手あり。手強くして善し。（一六二六圖以下參照）

〔一七二八〕
黒甚だ利勢
白三以下九の後、十一と附けるも白一は惡し。白十九、二は征關係の手なり。黒二四、此場合宜し。



〔一七二九〕
白潰滅の姿
白二一の時、黒二二善し。（一六三〇圖以下參照）黒四八となりて、白に手段無し。

〔一七三〇〕
黒大に優れり
黒三六を三九は、白イにて黒惡し。猶隅は結局劫となれど、白寄劫なり。（次々圖）

〔一七三一〕
黒嵌手に陷る
黒三六の一失に、大事既に去る。四七に至り、黒脫出を希つて働き哭くとも雖も、狂瀾は既倒に廻らす能はず。

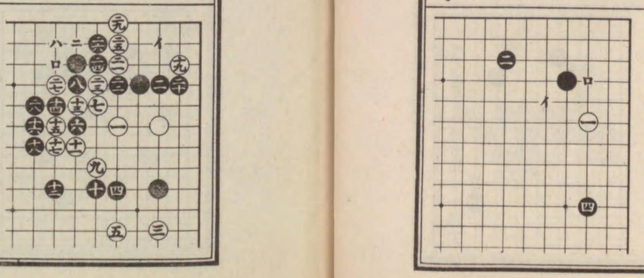
〔一七三二〕
白先劫
（前々圖參照）
劫なれど、白寄せ劫なり。

〔一七三三〕
白先劫
黒二、惡し。同じく劫なれど、黒後手なり。黒四を若し手抜せば、白六、黒五、白四にて花六目黒死となり。

〔一七三四〕
黒三十に滅す
黒誤つて三十に守る。禍因忽ち鼓に胚胎す。白卽ち一に備へ堅うし尋で三三、三五と、黒の隅を屠る。黒は一七二九圖の如く打つべし。

〔一七三五〕
白　勝
（前圖白三三）を一とす
白七、善し。黒八を十は、白十一。その時黒九は、白イ、黒八、白ロにて、隅の黒は死なり。

〔一七三六〕
要點約言
（第二六型イ）
白三を、手抜する場合、實戰には甚だ多し。實次に黒四と三間夾の時、白ニノグ手段あれど、種々此石をシ段あれど、其中白イにカケレば黒ロにて黒善し。

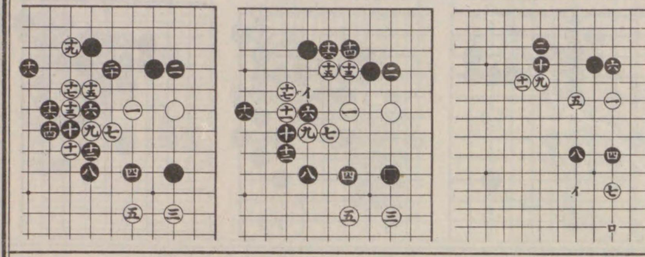


〔一七三七〕
基本圖
（第二六型ロ）
（三）手抜
黒四と二間に夾むは黒二と大斜走應けにある場合、面白し。

〔一七三八〕
定　石
（三）手抜
黒八は、此場合斯く一間に飛ぶ一手なり。白十一の時、黒はイに曲とロに夾む手とあり。イは堅く、ロは手強し。

〔一七三九〕
黒優れり
白五は、前圖の如くイを正着とす。黒六と冠し、白の動きを見て八と中央に飛出し行く手順妙なり。（此形、打込の部五六二三圖參照）

〔一七四〇〕
黒優れり
白十一を十三、黒十一、次に白十五にても、黒は十六、白十七、黒十八と打ちて善し。佳手なり。黒二十、佳手なり。

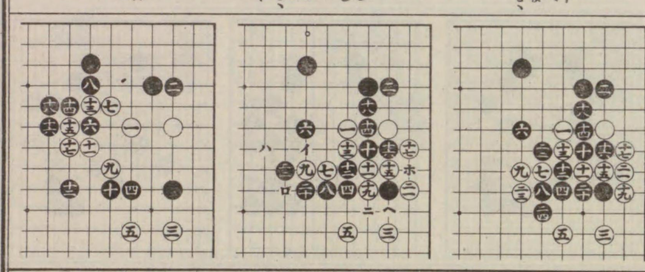


〔一七四一〕
黒稍優れり
白九をイは、黒ロ、白十、黒ハとなりて、白の形惡し。黒十で筋あり。（變化次圖）

〔一七四二〕
黒甚だ打易し
白十一、手筋。十一を平凡に十四へ粘がば、黒猶豫なく十三に突出して、白の敗決す。

〔一七四三〕
黒甚だ善し
白十九に突出せし時は、黒眼を轉じて二十を可とす。白二一をイに應ずれば、黒ロ、白ハの時、黒ヘにて當て、白ホ、黒ヘと粘ぐ勁手あり。

〔一七四四〕
黒勢稍優れり
白九、十一、手筋なり。



〔一七四五〕
黒慘敗を喫す
黒十八強行に過ぎて、鴨鼓に萌す。白二九の妙手、黒を震駭せしむ。黒三十でイならば、白ロ、黒ハ、白ニ、また黒ハ、白ロならば、白イ。

〔一七四六〕
常　形
黒四、善し。斯くて次に黒八、十、十二と外を固めしは、手堅き手法なり。

〔一七四七〕
互　角
白九に打てば、黒十以下十四となり、先づ互角の分れなど、黒は上下を連絡し確になれるだけ面白し。

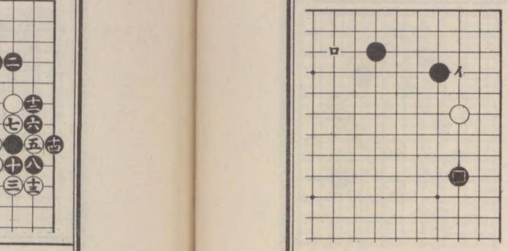
〔一七四八〕
黒善し
二間夾の場合、白三に押せば、黒四の線善し。尤も黒四は徒の可否によりて優劣あり（次圖）。此形、白若しイに切れば、黒ロ。（二〇八圖以下參照）

【一七四九】
白潰れ
黒二十の征悪しき場合は、白二三でイ、黒二四、白ロにて、黒取られて悪し。若し撕かる場合には黒は次圖の如く打つべし。

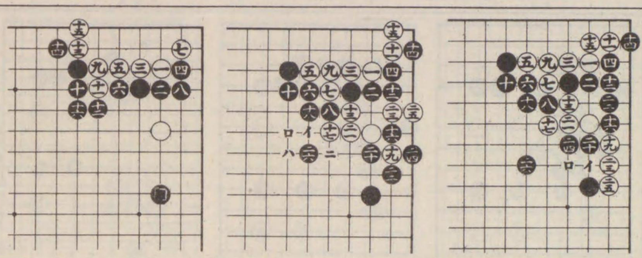
【一七五〇】
分れ先づ互角
黒二六に白イ、黒ロで、白ハは、黒ニ、黒善し。此形、黒の締附け充分ならぬ故、先づ互角の分れなり。尤も場合によりては、撕かる形黒打易し。

【一七五一】
黒稍優れり
撕くなれば、黒の外勢厚く、且つ黒●は好點にある形となれり。

【一七五二】
參考圖
以上の外白はイ、ロ其他の手あれど、其變化は、三三七圖或は八九九圖以下同じ。勿論、黒は●にあるだけ打易し。



【一七五三】
黒善し
此形、白一に附ける手あり。手筋なれども、白はそれ程の效果なし。

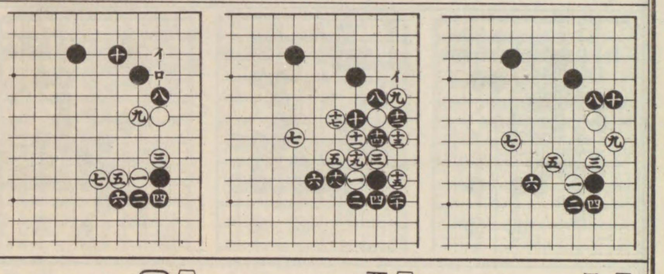


【一七五四】
黒利勢なり
白九は、黒のイに應ずるを期待す。黒敵の裏を撫いて此形劫なれど、白善し。白十と伐ち劫無く、黒六の劫粘となりて有利の分れなり。
(大劫ッグ)

【一七五五】
黒善し
白五には、黒六、八が善し。黒六、七、十の守は、白堅き故、黒善し。猶白五をイに應ずるは、ロは、前掲變化と同じく、三は却て悪手となるなり。

【一七五六】
黒優れり
黒二の線出し、善し。十二は、黒共に一子形の打拔の形なれど、白のはに向ひ、居るだけに、黒優る。

【一七五七】
黒利勢なり
此一、三と打ちし形は猶外に種々變化あり。(互先二間夾の部參照)



【一七五八】
要點約言
(第二六型ロ)
白三、手拔。黒四と二間に夾みし形に於て白イには、黒ニ。又白ロには、黒ニ、白ホ、黒ヘ(或はその白ホをヘは黒ト)。更に白

【一七五九】
基本圖
(第二六型ハ)
(三)手拔
黒四と一間に夾む手あり、前の二間と三間と異る意味あり、黒面白し。

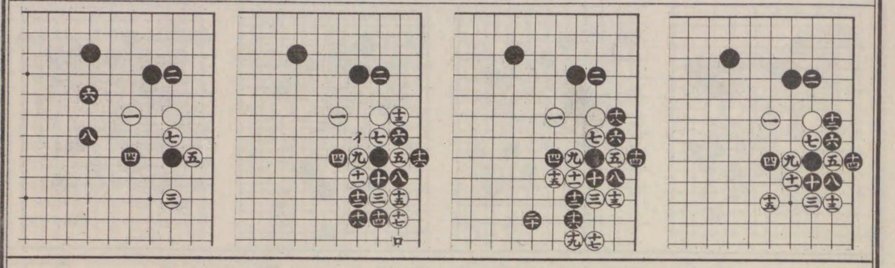
【一七六〇】
定石
白五、黒六、共に正着なり。黒六を七、白イとなる形あり。面白き變化を生ず(一二八六圖以下參照)。黒八は、ロと二間に拓く手もあり。

【一七六一】
白優れり
黒四は十一に尖み、白の五の盤を防ぎながら上に出す手もあり。黒六、打つべき時機見合せし。早き時は白を堅くして悪し。

【一七六二】
場合による
黒十二、手强し。尤も、此形は征の如何により可否あり。(次圖)

【一七六三】
可否征による
十八に次でイの征の成立せぬ場合は、白十九をロと行出されて、黒敗なり。

【一七六四】
黒稍優れり
黒六、八と輕く手談して大勢を占め、用兵の妙、賞するに足る。



【一七六五】
場合による
黒四と尖む手あり。十まで双方互角の勢なり。

【一七六六】
黒優れり
白イの一間飛を打だず直ちに一と打込み、三と綽に尋でし時、黒四、六に尋で十と專ら八而して白を低地に這はせ、十一段善し。手段にて、黒の厚壯に至る。四隣を壓す。

【一七六七】
黒善し
白九と行びる手あり。黒に九と約へ込まるゝ前圖より善し。之は前の二間夾の時よりも黒打易し。

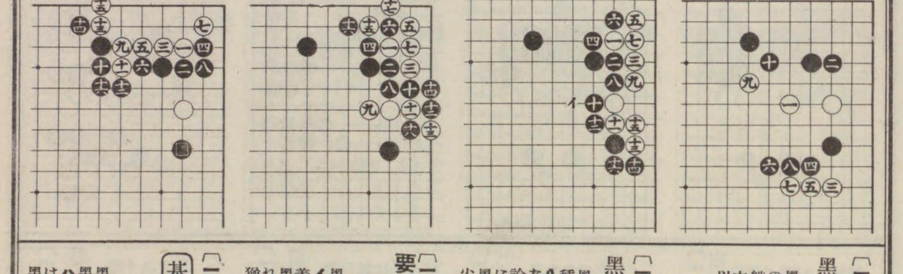
【一七六八】
黒稍優れり
黒●にて白を一間夾の時は、白三に黒は四の綽、最も善し。之は前の二間夾の時よりも黒打易し。

【一七六九】
黒優れり
黒●もある故、圖の如く黒十六にて盤りなり。(二間夾の中一七四八圖以下參照)

【一七七〇】
黒善し
黒四以下の變化は種々あれど、二〇八圖以下と略同樣なれば省略す。勿論黒●のある故に變化も論いづれの變化も黒打易し。黒六の尖み、手筋。

【一七七一】
要點約言
(第二六型ハ)
(三)手拔
黒四にはイならば白五、黒ロが正着。白五を厚くせず、外を厚くせら黒イれ、白面白からず。猶黒の四ニロの夾

【一七七二】
基本圖
(第二七型ロ)
(三)手拔
黒四、白五の時、黒六、又はイ、ロ、ハもあり。之等は常用の手なれど、黒四と白五との交換は、黒六を以て直ちに白を攻むるの外、黒好まず。



〔一七七三〕
定　石

黒八、善し。黒十㊂手抜は、白よりイに附けて盤らるゝを防ぎし手。黒十二と煽り、白十三黒十四手順なり。

〔一七七四〕
互　角

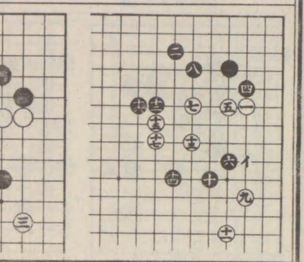
白七、九と打たば、出足早けれど、白は、黒よりイに衝かるゝ間隙を遺せる故、味悪し。

〔一七七五〕
黒優勢なり

白七は、位低く且つ味悪し。斯かる姿の盤は、多く黒悪しと知るべし。黒八、根品の雄渾を思はしむ。

〔一七七六〕
黒稍面白し

黒四と飛べば、白五に附けて盤る手あり。黒十六と打ち、而して十八に打ちしは手筋なり。



〔一七七七〕
白善し

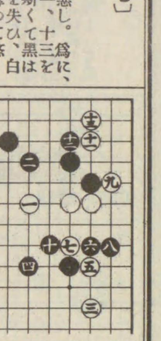
黒十、悪し。白は十一、十三と爲に許す。斯くて黒は隅の地を失ひ、白は之を奪つて悠々活に就く。黒の非勢、火を見るより明なり。

〔一七七八〕
黒潰れ

黒十二、十六等、悉く打過なり。黒軍の死傷算なし。黒三一に至り、始めの地なりし一隅を今や擧げて白に歸す。正に、桑田變じて碧海となるの類か。

〔一七七九〕
白少しく善し

黒二は三に打つべし。白三以下の手順善し。また、黒二を㊀或はロにても、同じく白三の手善し。

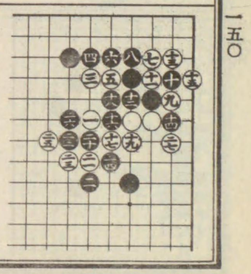


〔一七八〇〕
白の形善し

黒十、弁二と打つこと、あれど、前圖と同樣白を堅くしめて面白からず。

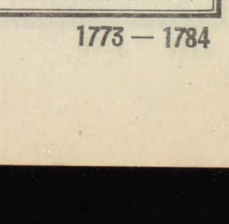
〔一七八一〕
場合による

場合により、黒は十二以下十六と綴込む手あり。佳手なり。



〔一七八二〕
白稍優れり

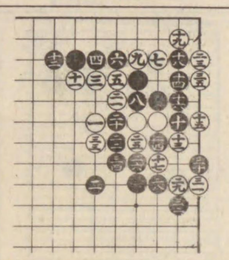
黒八の筋あれど、白一のある場合は、無理なり。白十三と押しに先だち十一と打つも善し。白二は、傍敏なるに、たゞ㊀に



〔一七八三〕
一顰大厦覆る

三五に至つて、黒十八までの要石遂に奪はる。黒惨敗の因、蓋し、二十にてイの綴を怠りし一顰に在り。

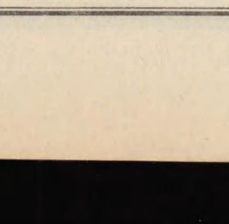
㊀二四ノ處ッグ



〔一七八四〕
白陥穽に落つ

白二、悪し。黒即ち白の虚を衝いて二二に綴込みの劫材を尋ねて二十、二六、二八と利して急攻す。白は腸九廻すと雖も遂に及ばず。

㊀劫トル



〔一七八五〕
白潰れ

白二五に打たば、黒二六、次に二八の曲りとなりて、中央の白逸出の望絶え、空しく黒に勝を譲る。

〔一七八六〕
黒優れり

圖の如く黒が外を圍む形となりては、隅の黒を取らるも、黒優勢なり。

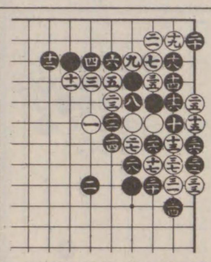
〔一七八七〕
白悪し

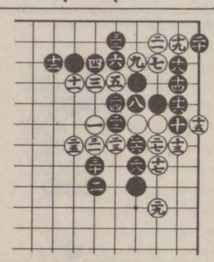
二六に至つて黒に兩斷さる。而かも、隅の攻合も漸く白の寄劫となる。位のものなれば、此形、白甚だ悪し。

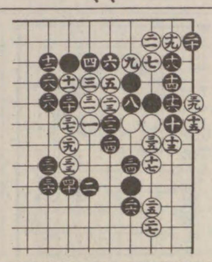
〔一七八八〕
黒　勝
（前々圖白二五變化）

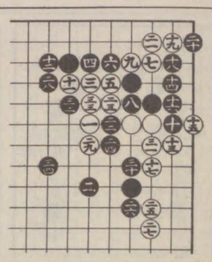
白二一、二五、悪し。

㊀二六ノ處ッグ　六三ノ處打カウ









〔一七八九〕
黒大敗

白十二と打たば、黒十三及び十五と二段綿せられて惡し。白九まで、攻合黒一手敗なり。

〔一七九〇〕
白劫勝なり

黒八、悪し。黒十の時、白十一宜し。此形、黒イにて劫なれど、白先劫提劫となり、次に白打抜となる故に黒ップレなり。

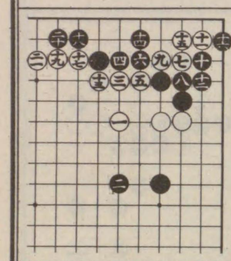
〔一七九一〕
白劫勝

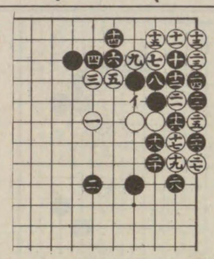
黒八、無理。白寄劫なれど、黒他の劫に應ぜず、二次に白イと打抜に善。と㊀なる。二一、二三巧なり。

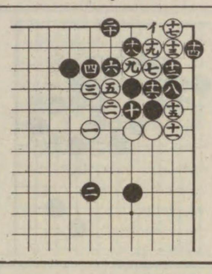
㊀劫トル處

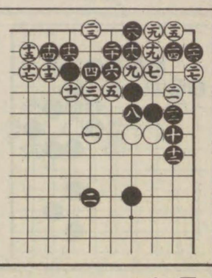
〔一七九二〕
白優れり

前圖の如く劫として悪しき場合は、白十三に打つも白の外形厚壮なり。









〔一七九三〕
白稍優れり

黒八も、同じく好まず。白十一を十三、黒十一、白十七ならば一七八二圖以下と同じ。

〔一七九四〕
白面白し

此形、場合により打つも白面白し。白は、白十五に至つては、隅の白綴ある故に、隅の白活なり。（次圖）

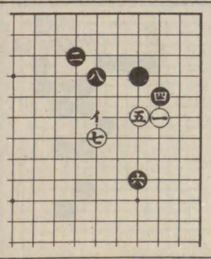
〔一七九五〕
白　活
（前圖のつゞき）

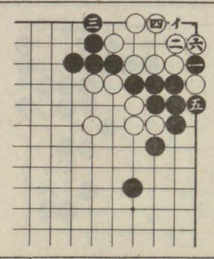
黒一、白二共に善し。白二を若し六に提れば、黒イにて白死なり。

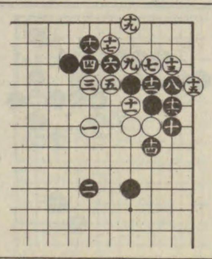
〔一七九六〕
定　石

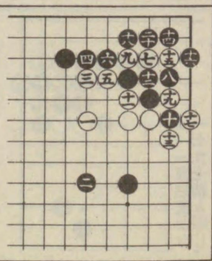
㊂手抜

白七に斜走するも、黒は八に尖むる手確なり。其他の變化はイの一間飛と略同樣なり。



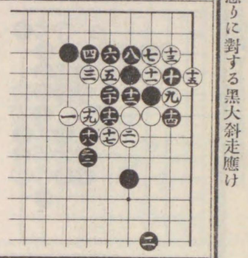




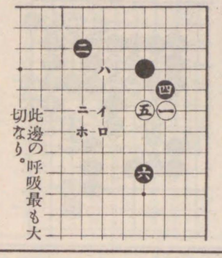


【一七九七】
黒善し
白一に二間飛すれば、黒は二に拓き、白七に打込み來らば、八以下十六、十八と、二間飛の間隙を伐つて出づべし。黒百戰、必ず勝たん。

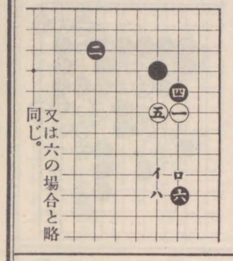
【一七九八】
黒優れり
白一に大斜走するも、黒は前圖と略同じく、白一と□との間隙を衝く要領最も善し。

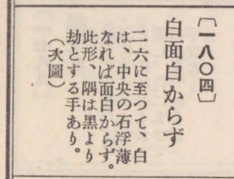


【一七九九】
要點約言（第二七型イ）
㊂手抜
黒六の時に、白イ或はロと打てば、黒はロの守り肝要なり。ハの守り又白ニ、或はホなれば、黒ハの守りの要なし。

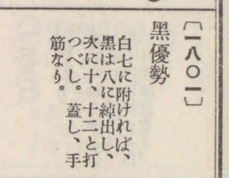


【一八〇〇】
基本圖（第二七型ロ）
㊂手抜
白五の時、黒はイまたは圖の六のみ善し。猶、他に夾むロ又は夾む手あれど、變化はイに及ばず。

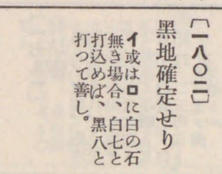



又は六の場合と略同じ。

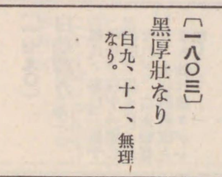
【一八〇一】
黒優勢
白七に附ければ、黒は八に綽出し、次べし。十二と打つべし。蓋し、手筋なり。



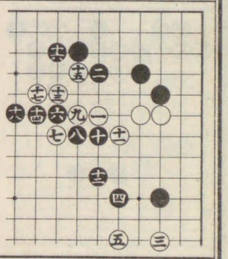
【一八〇二】
黒地確定せり
イ或はロに白の石無き場合、白七と打込めば、黒八と打つて善し。



【一八〇三】
黒厚壯なり
白九、十一、無理なり。

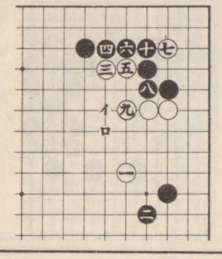


【一八〇四】
白面白からず
二六に至つて、白は、中央の石浮薄なれば、中央白からず。此形、隅は黒より劫とする手あり。（次圖）

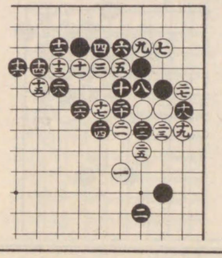


【一八〇五】
黒先劫
黒五、七、常に用ふる手筋なり。

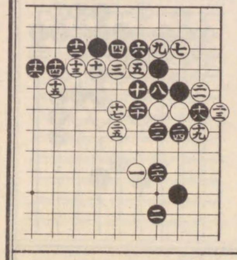
【一八〇六】
黒先劫
黒五、七、善し。白十を十一に粘げば、黒イ、白十、黒ロとなりて、白は缺眼なり。



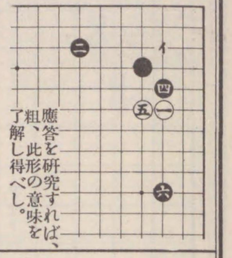
【一八〇七】
黒善し
白十七の綽を打つて後十九に掛ければ、黒は二二、二四と一子を打抜く、黒二六の時、次に白イならば、黒ロで攻合勝なり。



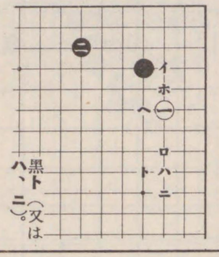
【一八〇八】
黒善し
（黒八より變化）
黒八、十も簡單にして結果惡しからず。前圖の變化は黒隅を堅くする手段。本圖は黒が外を厚くする手段。黒十六以下の變化は一一四三圖及び一七九七圖と同じ。



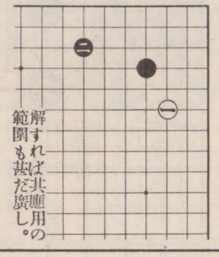
【一八〇九】
要點約言（第二七型ロ）
㊂手抜、次に尖附け、次に六と三に夾む手は、黒面白し。此形次に白イと打込みし變化至難なり。若し此打込の


應答を研究すれば、粗、此形の意味を了解し得べし。

【一八一〇】
要點約言（第二六、二七型全部）
㊂手抜
黒四の手は一、イ。二、ロ、ハ、ニ。三、黒ホ、白ヘ、

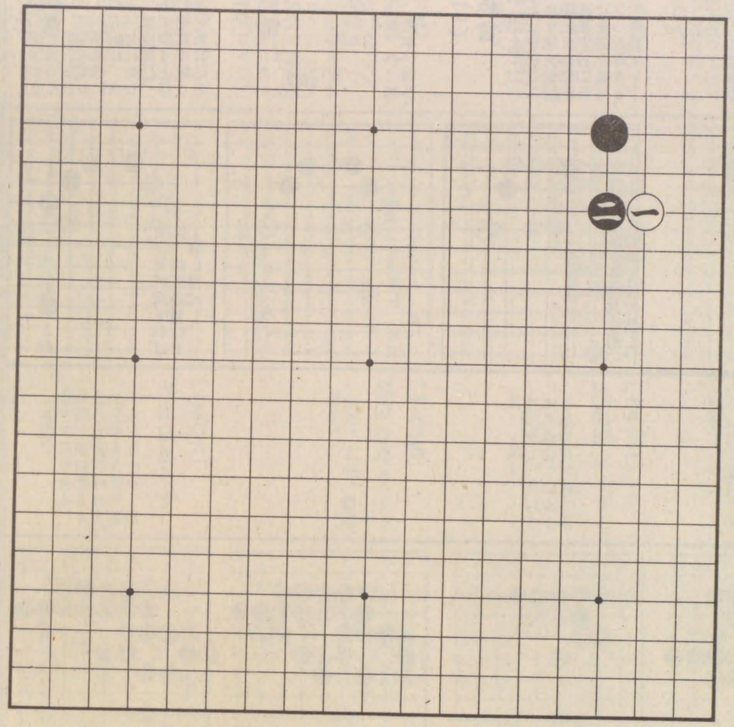

黒ト（又はハ、ニ）

【一八一一】
要點約言（一型より一七型迄全部）
以上にて黒大斜應けの變化は全部終了。置碁定石の中にて、此變化最も多く、且つ至難なり。但し、此變化を了


解すれば共應用の範圍も廣だ廣し。

【一八一二】 **基本原圖**

白小斜走懸りに對する 黒附定石



白一に對する黒二は、白の手に隨つて之に應酬し接伐の間自然に置石を固めんとする手段にて實際定石の中最も確なる打方なり。

【一八一三】 **基本圖**（第二八型）

定法 白三は定法なり。

【一八一四】 **基本圖**（第二八型イ）

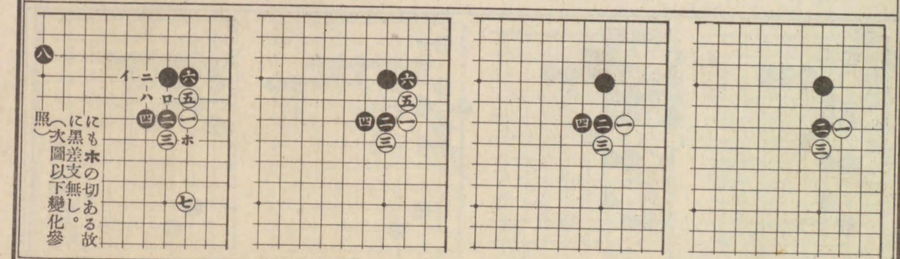
定法 黒四、定法なり。

【一八一五】 **基本圖**（第二八型イの一）

定法 白五、黒六、共に定法なり。

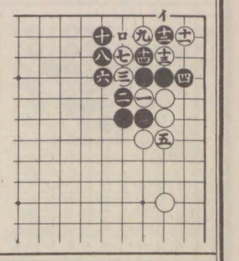
【一八一六】 **基本圖**（第二八型イの一變化）

定石 白七には、黒八最も善し。黒八をイに稍緩し。白ロ、黒ハ、白ニは、黒



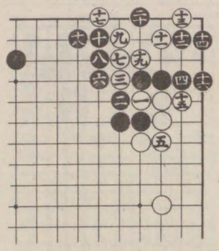
にもホの切ある故に黒差支無し。（次圖以下變化參照）

【一八一七】 **黒勝**

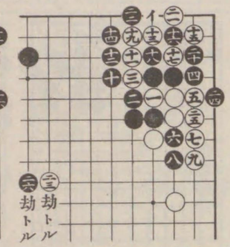


白一、三の出切無理なり。白十三をイならば、黒ロ。（猶、此變化は一九八五圖以下參照）

【一八一八】 **黒勝**

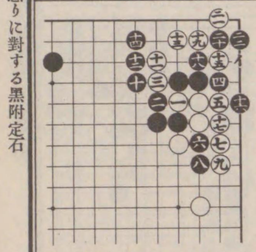


【一八一九】 **黒劫勝**



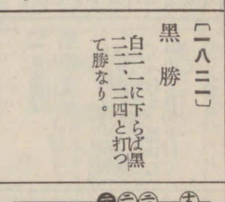
白十五は、黒が二四の劫抛を殘したるまゝ、單に十六と綽む手あり。黒提ぐれば、白十三と劫抛にて、次に黒は何の應ぜず劫抛にイと四子を打抜くべし。

【一八二〇】 **黒勝**



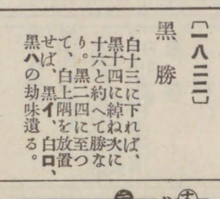
白十五と打つも、同じく黒勝なり。黒二二を誤つてイに取らば、白二二に投じて此處に痛烈なる劫爭始まる。注意すべし。

【一八二一】 **黒勝**



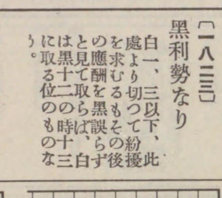
白二一に下らば黒三、二四と打つて勝なり。

【一八二二】 **黒勝**



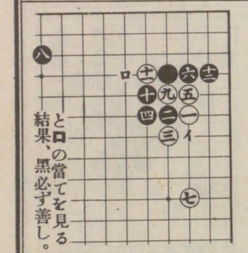
白十三に下れば、次に黒十六と約へて勝なり。黒二四に至つて、白上隅を放置せば、黒イの劫味遺る。

【一八二三】 **黒利勢なり**



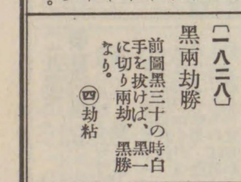
白一、三以下、此處より切つて紛擾を求むるもその後の應酬を黒誤らず黒ロと見て取らば、白は黒二の時十三に取る位のものなり。

【一八二四】 **要點約言**（仁）（第二八型イの一變化）



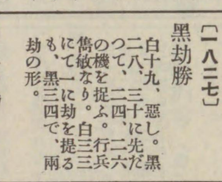
白直ちに九、十一と切らば、黒十二の下りが最も肝要なり。之によつて黒は、次に、イの切と口の當てを見る結果、黒必ず善し。

【一八二五】 **黒有利の形**



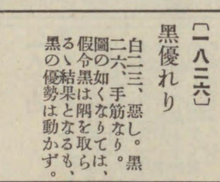
白一と綽ね、然る後三、五と、出切る手あり。變化難しけれど、これも白遂に無理たるを免れず。黒二八は、白十九、善し。打込み劫とするも善し。

【一八二六】 **黒優れり**



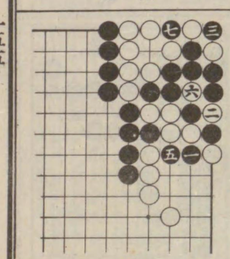
白二三、惡し。黒二六、手筋なり。圖の如くなりては、假令黒は隅を取らるゝも、結果となるも、黒の優勢は動かず。

【一八二七】 **黒劫勝**



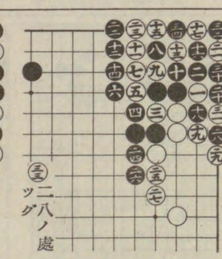
白十九、惡し。黒二八、三十に先だつて、二四。二六の機を捉ふ。行兵傚敏なり。白三三に劫を提るも、黒一に劫を提る、兩劫の形。

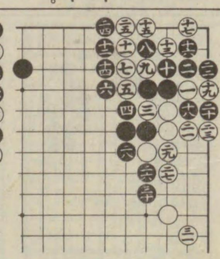
【一八二八】 **黒兩劫勝**

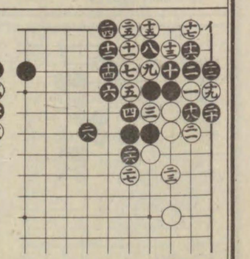


前圖黒三十の時白手を拔けば、黒一に切り兩劫、黒勝なり。

四劫粘

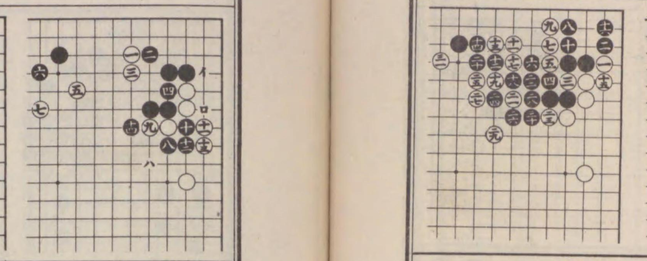






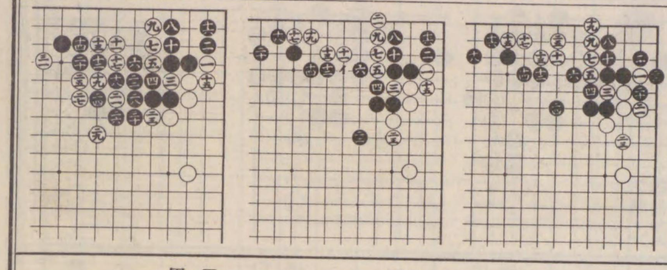
〔一八二九〕黒勢大に善し

白二一を二七に下れば黒二二、白二三、黒イ、白一、黒ロとなり、南勢黒勝なり。黒二八の一喝に、白二九と届す。白の形、業に既に佳観に非ず。



〔一八三〇〕黒の勢優れり

白單に九と約べれば、黒十に粘さず、十三以下、上邊に小活を得たるも大勢黒に一籌を輸す。黒厚くする手段外を優れり。



〔一八三一〕黒形勢大に佳

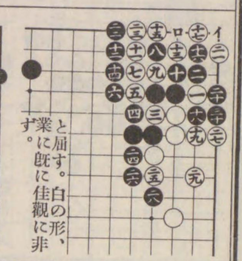
白十五に粘く、以下二一まで必至なり。上邊の白はイの出の工合にて僅に餘喘を保つに過ぎず。

〔一八三二〕黒形好まず

圖の如く黒十四に突當れば、變化多く且つ白は死なれど、外部を塗らるゝ結果となる故、黒は前の如く打つ方優れり。

〔一八三三〕黒勝

白十七惡し。以下三十に至つて、白は丁度アマリ形となる。白十七の悔恨轉た切なり。



〔一八三四〕黒稍勢なり

白十三、十五、十七と、上邊の小活を棄てゝ、形勢を張るに努む。輕妙の手段、面白し。

〔一八三五〕黒面白からず

黒四、確なれど稍緩し。此形、黒後手なれば、幾分面白からず。

〔一八三六〕黒確なり

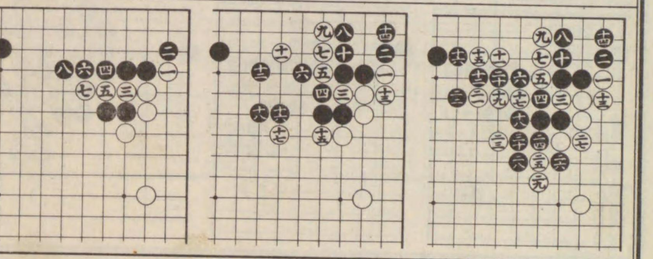
白□にあり、次に三と押したる形とては、黒は四に打つ(白イ、黒ロ白ハの)べし。出切を防ぐ

〔一八三七〕要點約言（義）（第二八型變イの一）

白九と出切して十一、黒は圖の如く打つべし。此結果、白上邊に活きれば黒厚くなり。又强ゐて攻合に出れば、何れの變化も白惡し。

〔一八三八〕黒善し

白一に打込まば、黒は二、四を可とす。此形、黒の□て三間夾の形となりて善し。



〔一八三九〕黒の勢善し

黒八、常に用ゆる手筋なり。十四に至つては、茫々乎たる中央上邊一帶の地、勢威悉く黒に歸す。是より後、白動くに隨つて黒の利目ら加へむ。

〔一八四〇〕黒善し

黒八以下良し、白十三に守る。黒即ち十四と、白の虚を衝いて敵腹を奪ふ。白は寡兵かも四圍悉く黒の堅壘なり。黒は百戰一も敗れず。

〔一八二一〕征如何による

黒惡しき場合は十四にて下り、白□、黒ハと打つべし。然し斯かる形となるも黒白から ぬ場合は、黒は次圖の如く打て宜し。

〔一八四二〕黒攻と厚あり

黒十に夾みて面白から ぬ場合は、白八より打つべし。白十二を、黒イと十一、白イと兩斷して黒善し。

〔一八四三〕分れ黒稍有利

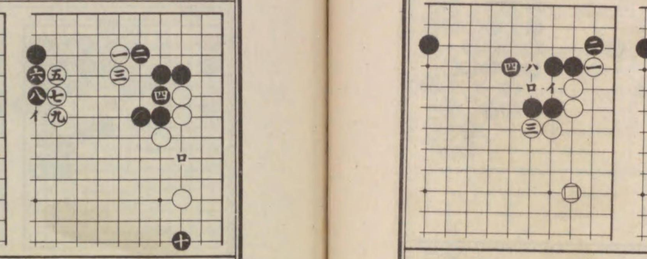
白九に打てば、黒十と踏込むべし。此形、黒實利を收む。

〔一八四四〕黒善し

白十九、早きに過ぐ。黒二十妙なり。猶、白五をイと打ち變化は、イと互先三間夾參照。（元劫トル）

〔一八四五〕黒も打易し

白五、七と打てば、其形確なり。黒十はイに打つも善し。又た、黒十とある形に、黒より打込む筋あり。（次圖）



〔一八四六〕黒勝（前圖參照）

黒□にあれば、次の一の打込みキビシクして善し。

〔一八四七〕黒善し

白八をイならば、黒八に綿ねて勝なり。

〔一八四八〕黒少しく善し

黒九、確なり。九はイに打つ手もあれど、これは手機を見てる白にロと逃出される。白は黒十七となつては、黒は外勢厚き場合の外無理なり。

〔一八四九〕黒利勢なり

白二、手筋なれど、此形にては、矢張り結果白惡し。

（大）二ノ處ツグ

〔一八五〇〕白無理形なり

黒九、十一、普通は好まぬ形なれど、此場合は、白を兩ふ き意味あり。斷して戰ふ强き意味あり。佳手なり。

〔一八五一〕要點約言（禮）（第二八型變イの一）

白九には黒十、而して白十一ならば、黒十二佳し。此形、八の黒自然に三間夾攻の好點に化す。

〔一八五二〕黒打過なり（イに駄目ある場合）

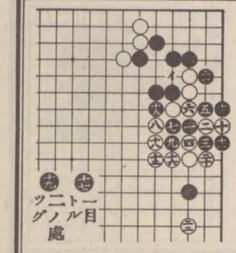
此時も、黒一と込む手無きに非ざれど、イの駄目に至大の關係あり。白

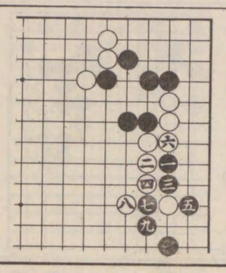
【一八五三】
黒潰れ
イに駄目あるに拘らず、黒五に飛ぶ。白一瞬を失はずして六に出切る。以下の黒、終に非業の死を遂げたり。

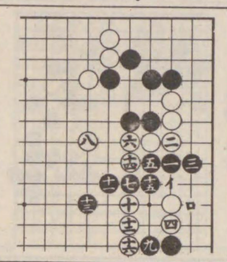
【一八五四】
場合による
黒三に下る手あり。白四を五は、黒イ、白十五、黒ロとなりて、黒打易き形なり。

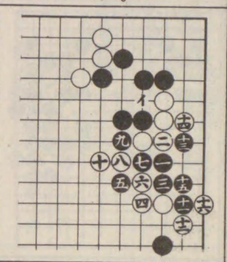
【一八五五】
黒善し
白二、四、場合によれども緩し。白六を七に粘げば、黒イ。又黒此手を六に切れば、二子を取る事を得。

【一八五六】
分れ先づ互角
此變化は一八四九圖以下參照。但し、此形は、イに駄目ある故、白二十の約へ先手利きなり。
㊂ 二ノ處 打カウ







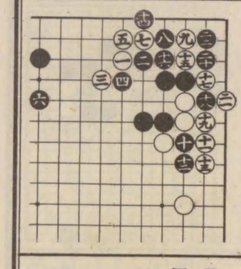


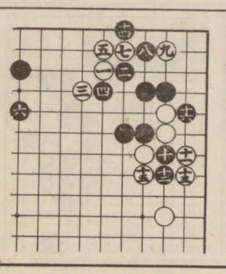
【一八五七】
場合による
黒十五と盤る手あり。前圖に比しての得、失は、場合による。
㊂ 二ノ處 打カウ
㊄ 一目 トル

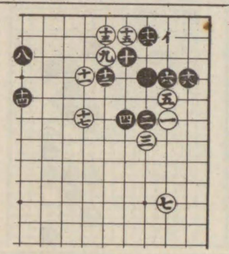
【一八五八】
定石
白十一、十三、手筋なり。黒十八は、イの附に備へし堅實の守なり。（變化三間夾喰懸り四五九七圖以下參照）

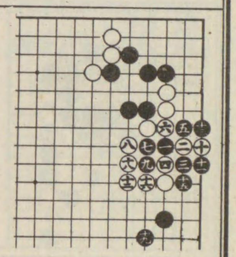
【一八五九】
黒善し
白九、時機早し。黒十、善し。

【一八六〇】
黒堅を加ふ
圖に見る如く、黒が十の切を利かし得れば、白に盤る手なし。







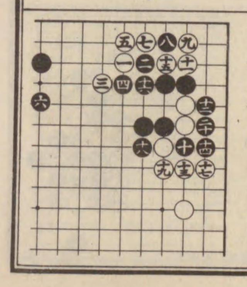


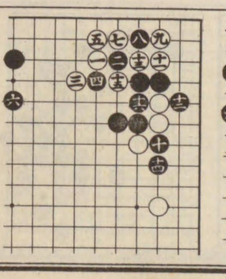
【一八六一】
黒善し
此形、白□にあつて凝形となる故、黒は斯く十に切つて二子を棄つるも悪しからず。

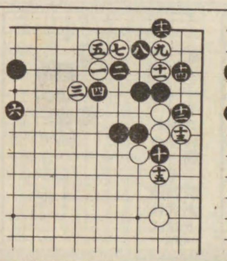
【一八六二】
黒打易し
黒十二、十四、十六、手筋なり。

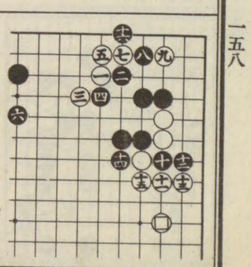
【一八六三】
黒確なり
白十三には、黒十四善し。

【一八六四】
黒勢稍優れり
白十三、十五の手順善し。







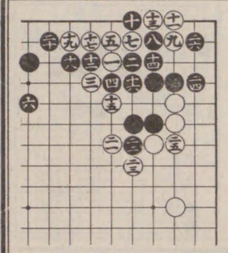


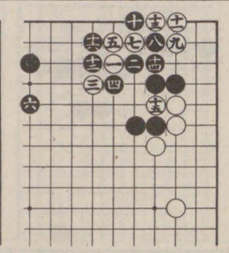
【一八六五】
黒凝形となる
黒十、悪し。白三子を棄て、黒を凝形に陥る、巧なり。

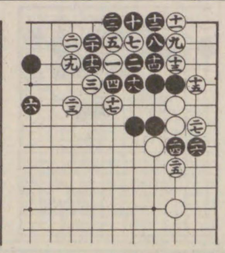
【一八六六】
嵌手に陥る
白十一、奇手なり。黒十二、二四、共に悪し。圖の如く白に悪一まで利かされたる上、十三、十五と盤られては、黒甚だ悪し。

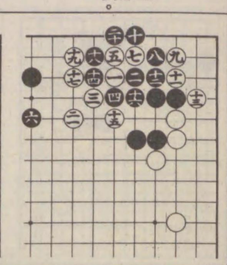
【一八六七】
白敗
黒十二の切り、善し。白十一の詐謀、玆に於て粉砕さる。

【一八六八】
白ツブレ
白十三、十五、十七、共に悪し。黒二四、二六、善し。此秋、局面頓に緊張せり。若し黒一手を誤らば勝敗忽ち地を易へむ。







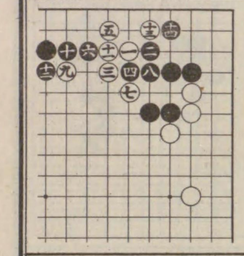


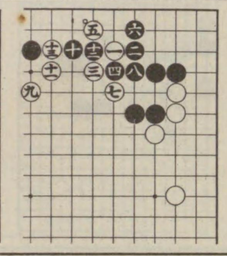
【一八六九】
黒堅守に過ぐ
黒六、稍緩し。九までとなつては、白の姿活潑なり。

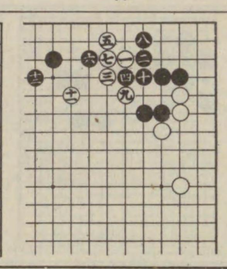
【一八七〇】
黒確かなり
白五に掛粘げば、黒六、八の手順善し。

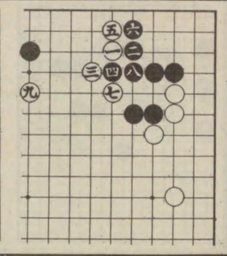
【一八七一】
白面白し
黒六、手順を失す。黒六の後十に覗けば、白は出づ一と變の妙手なり。黒十二を十三に粘くべし。

【一八七二】
黒善し
白七の後九と覗けば、黒は十、白十一、と打つべし。此形、白七、黒八の交換ある故、白は隅に手段なし。（次圖）







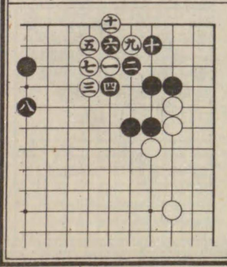


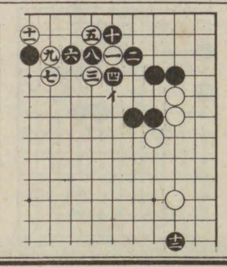
【一八七三】
白に手段なし
黒四、八妙なり。

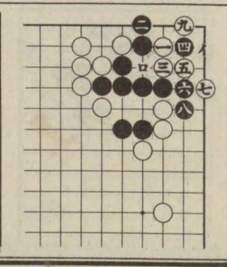
【一八七四】
黒八罠に落つ
白七の時、黒若し八に應ければ、白九にて黒の失敗。此時、黒イならば白はロにて勝。

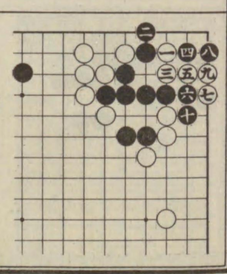
【一八七五】
黒堅實良し
白イの綿を打たず、單に七にノゾケば、次に十と黒八を打抜いて黒一目を厚し。

【一八七六】
白善し
黒六と當てれば、先手黒に歸して先手に先手に歸して八白に九、白に九、十一と提る。斯くては、白堅くなり、且つ隅は手残りなり黒好まず。









〔一八七七〕
要點約言（智）
（第二八型イの一變化）

白十一には、黒十二善し。之は、後の一兩懸り附定石一の中にもあれど、實戰には此形甚だ

〔一八七八〕
黒優れり

白三、惡し。黒四善し。次に、白五をに引けば、黒イに約へて善し。黒六をイに約へれば、白ロとなりて一八五八圖以下と同形。

〔一八七九〕
白殆ど潰れ形

白六、黒七、黒八の後、白九、ならば、黒は十の點に約へて善し。只手順の相違のみにて、結果は白甚だ惡し。

㊟ 二ノ處ヲ切トル

〔一八八〇〕
黒面白からず

黒四、白の頭指に甘んず。惡しく白五を遮つて白七の黒に迫れば、黒はイの切斷をも望む。黒八、綴けれども、また已むを得ず。

〔一八八一〕
形、黒に不利

黒八以下、上邊に備ふ。黒覺悟の前なり。白十三の切に至つては、然れども戰線一二に渉り、戰ひ多岐に渉る。黒とし斯かる形不利なり。

〔一八八二〕
常形

黒一の打込には、黒二、手筋。白五、手筋。

〔一八八三〕
黒好まず

黒六、調子を與へる故、好まず。果せる哉、白は一以下七、九と捌かんとしての手筋を弄す。

〔一八八四〕
黒稍優れり

白一に打込めば、黒は攻めの要衝を占むべし。黒六、此場合常用の好手なり。

〔一八八五〕
黒形甚だ善し

黒十二の時白十三は、多く見る形なり。（黒四と十二とを駄目詰りの意味になし、且つ後、白イによる眼形に資す）

〔一八八六〕
黒面白からず

白六は前圖の如く八に引く筋なり。此形、イに切れ味あり。黒無氣味なり。

〔一八八七〕
白善し

黒八暴に近し、遂に白より十一と切られて、黒形勢を損ず。

〔一八八八〕
黒稍凝形なり

黒六、八、俗筋。白を堅くせしめて惡し。畢竟、拱理に暗きの笑を免れず。

〔一八八九〕
互角の分れ

白五を先にして七と附ける手順、善し。黒は先づ八に綽ねべし。

〔一八九〇〕
黒確なり

白一と二、間に高くカ、レば、黒二の斜走善し。黒若し七までの白を攻めんとする場合は、黒イと打ち、白ロ、黒ハイを善しとす。（一八四二圖以下參照）

〔一八九一〕
黒稍有利の形

一以下の白、未だ根據を得ず。それ丈に、白稍不利の形なり。

〔一八九二〕
黒善し

白一と肩を衝けば、黒二、白三と應けて善し。黒八に先だち六と七の交換を遂ぐ。之は白イの覗きの利くに形なれば、此交換は黒に利あり。

〔一八九三〕
黒確なり

白三に約へれば、黒四の行び、礙なり。黒十、此場合は白の備へし佳手なり。猶此變化は一八五八圖以下參照。

〔一八九四〕
要點約言（信）
（第二八型イの一變化）

以上仁義禮智の四場合の外、黒ロの時、白ハ、又は、白イをニ、ホ或はヘの手あり。

〔一八九五〕
基本圖
（第二八型イの一變化）

定石

白七に掛粘げば、黒も八に堅く備へるべし。

〔一八九六〕
參考圖

白一には、黒二の夾撃宜し。此時、白の手段は、イロまたは、ハ。白イにはまた黒ニ、白ホまたはヘには、白ハ、黒ト、白ヘに、黒リにて變化は簡明。

〔一八九七〕
黒優勢なり

白五の時、黒に六と九の應けあり。六は礙にして結、黒宜しく、また、九は手弱くして時に甚だ面白し。

〔一八九八〕
黒利勢なり

黒十二となりては、隅の白には活路無し。（次圖）

〔一八九九〕
白先死
（前圖參照）

白一、三と打つも、以下黒六に飛ぶ筋ありて、白死。

〔一九〇〇〕
白稍無理形

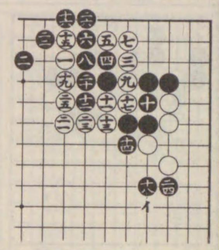
黒六、強手なれど普通は打過なり。白七善し。（變化一九〇圖以下）白九には、黒十と十七との應けあり、十七は攻合となり、十七は黒厚くなる。

【一九〇一】
場合による

黒十八と掛ければ、白に二一と掛けらるゝ形となりて、黒の形好ならず。白十九を二四に打てば黒イの行を打つて後に黒十九に綽ぬべし。

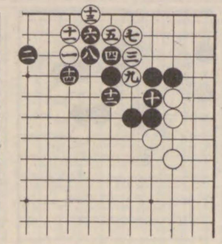
【一九〇二】
黒少しく善し

白十七、十九、二一と打つ手あれど、これも白好結果を得ず。



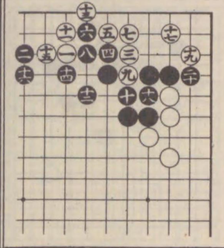
【一九〇三】
黒善し

白十一手順悪し。此時は黒は十二、次に十四と約へて、形優れり。



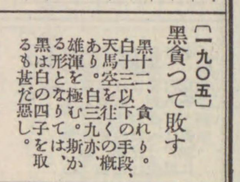
【一九〇四】
黒優勢なり

黒十と約へる手あり。斯く打てば、黒は外側厚く打ち込み形となるなり。



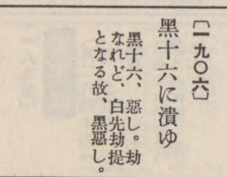
【一九〇五】
黒貪つて敗す

黒十二、貪れり。白十三以下の手段、天馬空を往くの概あり。白三九亦雄渾を極む。斯かる形となりては、黒は白の四子を取るも甚だ悪し。



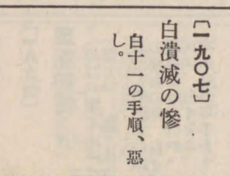
【一九〇六】
黒十六に潰ゆ

黒十六、悪し。劫なれど、白先劫提となる故、黒悪し。



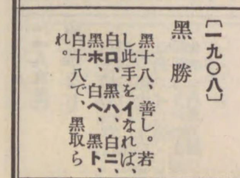
【一九〇七】
白潰滅の惨

白十一の手順、悪し。



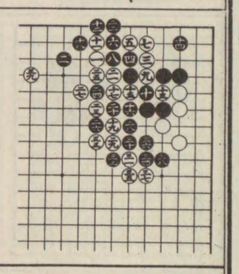
【一九〇八】
黒勝

黒十八、善し。若し此手をイなれば、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ト、白ホ、黒ヘ、白ト、黒取られ。



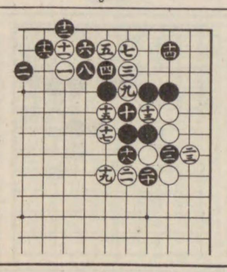
【一九〇九】
黒稍優れり

隅は白若し手を抜けば、黒イに打つて白死、即ち黒イに打つて白ロは黒ハ、又白ロをニには黒ホ、又白ヘ黒トに白ロ黒チ白リ黒ヌ。



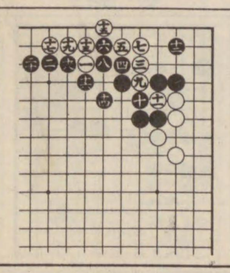
【一九一〇】
黒利勢なり

白七、此場合面白からず。則ち黒に八と綽ねられ、後に白イの約、利かず、白の手段の餘地少し。



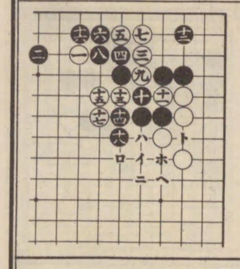
【一九一一】
白軍支離滅裂

白、騎虎の勢に乗じて十七に綽ねしは打過なり。黒二十に至つては勝敗の數既に定まる。黒二、十白を兩斷すれど、形悪しけに形悪しけ



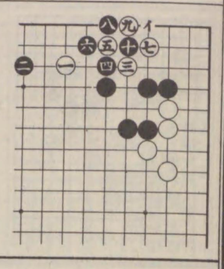
【一九一二】
黒優勢なり

白二五は、黒のイを防ぐためには止むを得ず。黒三四三六、手順善し。



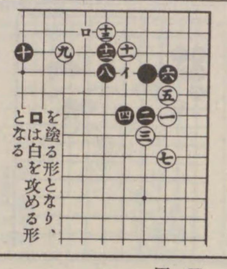
【一九一三】
黒劫勝

斯かる劫は、白に特別の劫拠無き限り、黒は次にイと打抜いて他に轉生を拂ふも、黒大に善し。



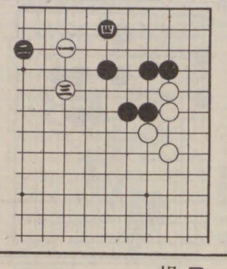
【一九一四】
要點約言（上）（第二八型イの一變化）

先づ白七と打てば、黒も八と守り次に白九より十三に至りし時、黒にイとロとあり。イは上を塗る形となり、ロは白を攻める形となる。



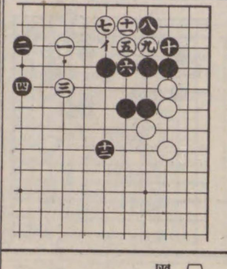
【一九一五】
常形

白三の飛を先にせし時は、黒四と打つこともあれど、四は稍緩し。



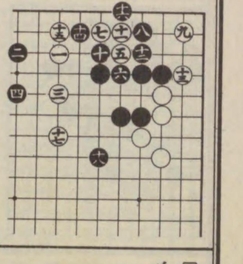
【一九一六】
互角

黒四の飛、次に、白五なれば、黒六、善し。白七の時には。白とイと變化となり、イは一九二〇圖の如し。



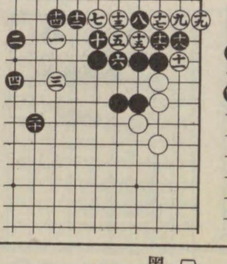
【一九一七】
互に得失無し

白九、手筋なり、黒十と當てる手順善し。



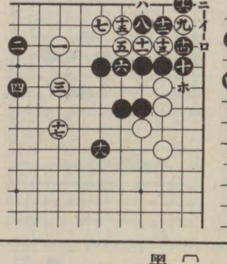
【一九一八】
黒善し

白十一は、十三に粘いで後に打つべし。白十三を十四に約へれば、黒十三に切つて眼形あり。



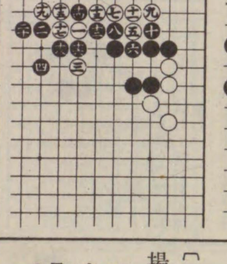
【一九一九】
場合による

黒十と打つ手あり。斯く打てば白九、一子は取得たれど、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ロ、白イ、黒ヘ、白ト、黒取られ。



【一九二〇】
黒打易し

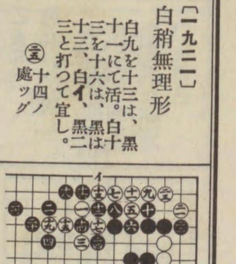
黒八と當てる手あり。中を厚くする場合、斯く打つ手面白し。若し四子以上の置碁にして四子は置碁にして打易し。



【一九二一】
白稍無理形

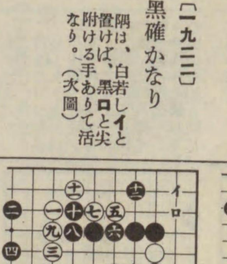
白九を十三は、黒十一にて活。白十六は、黒十三と打つて宜し。

㊟十四ノ處ツグ



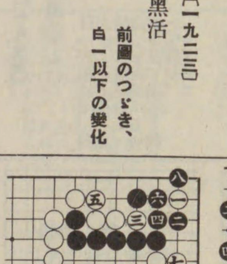
【一九二二】
黒確かなり

隅は、白若しイと置けば、黒ロと尖附ける手ありて活なり。（次圖）



【一九二三】
黒活

前圖のつゞき、白一以下の變化



【一九二四】
場合による

黒十二と切る手あり、場合による。白十九をイに綽れば、黒ロ、白ハ、黒ニの掛けにて白の三子は死なり。

【一九二五】
黒善し
白三、イに附け、黒ロ、白ハ、黒ニとなりし時、白六に覗きし變化も略ぼ同じ。白五図以下と一九一、六図以下と略ぼ同じ。白五悪し。黒十二、手筋なり。（一八七三図參照）

【一九二六】
黒確かなり
白五ならば、黒六に飛んで隅を守る手、確にして宜し。

【一九二七】
黒優勢なり
白三、五と打てば、黒四、六と運んで善し。

【一九二八】
要點約言（下）（第二八型イの一變化）
白九、黒十の時、白イは黒ロ。又白イは黒ニ、白ハは、黒ホ。以上何れも、白はトを狙ふ。若し白トに來らざれば、黒は時機を見てチに守るべし。

【一九二九】
參考圖
常法
白一と打ちし形は、イより一路遠き故に、ロ方面の戰は白がイにある時よりも黒打易し。又た、白一には黒は

【一九三〇】
常形
白一、黒二、ともに常に用ふる手なり。又た、イに黒ある時は、黒ニを尖み、白ハ、ロに、黒ニ、白ホ、黒ヘと打つて上を塗るも面白し。

【一九三一】
黒確かなり
白一、打過なり。黒六の粘、確なり。

【一九三二】
形勢互角なり
黒六と打つ手もあり。白七に突出せし以下の變化は、一九〇〇図以下參照。

【一九三三】
基本圖（第二八型イの一）（第二三變）
白七で④の時は次に白イ、黒ロ、白ハの切厳しき故、黒ヘと守るが本手なり。以下の變化

ハも善く、或は手抜して他に打つも宜し。

【一九三四】
黒善し
白一と拓けば、場合により、黒ニと附ける筋面白し。白三を四或は五に打てば、黒三と約へて善し。

【一九三五】
定石
白九に備へれば、黒も十に守るべし。猶、白九をイ、黒ロ、白ハと切る變化は、第二八型イ（一）變化一七図（以下）の出切の形と同じ。

【一九三六】
黒大いに善し
黒二と備へし時、白三を手抜せば、黒勇を鼓して四に打込むべし。白殆んど應手に苦しむべし。

【一九三七】
黒優れり
㊂手抜

【一九三八】
黒確なり
㊂手抜
白七に綽ねれば、黒八に兵を進めて密にイの斷點を狙ふ。蓋しイの斷點を八は佳手なり。白十一を十三に守らば、黒は飛電一閃イに切つて形勢大に振ふ。

【一九三九】
白潰れ形なり
㊂手抜
白九は士氣沮喪せり、惡しに假面を徹して攻撃の火蓋を切る。黒十六に至つて、白の祉稷滅びんとす。

【一九四〇】
黒優れり
㊂手抜
白七、筋逸なり。又を反して八、十に切つて入る。勇氣凛として四圖を掃ふに至る。尤も黒八は場合によりイに逸出する手もあり。

【一九四一】
白大敗
㊂手抜
白七、甚だ惡し。
㊃八ノ處ツグ

【一九四二】
黒善し
㊂手抜
白五と接、双す。黒は此時、上隅二二まで、の堅きを見て、十、十二と押す。手厚き手段にして可なり。

【一九四三】
白形悪し
㊂手抜
白五、筋逸なり。黒八は手筋にて辛辣。白九をイに粘げば、黒イをロに粘げば、白イをロに粘。

【一九四四】
場合による
㊂手抜
黒四と高く打込むも可なり。之も黒手もあり。

【一九四五】
黒有利の分れ
㊂手抜
白五、七悪し。黒十二、三に行び、白イの時、黒十二に打つも善し。

【一九四六】
要點約言（天）（第二八型イの一）（第二三變化）
白七と廣く拓き黒八と締り形にて、黒よりイ或はロと打込まれし場合は、共何れの變化となるも白悪し。

【一九四七】
黒厚く、善し
白一と廣く拓きし時は、黒六の備なくとも直ちに黒ニと攻め、白七善し。黒八、次に十と打ち、十二に押す。手厚くして佳なり。

【一九四八】
黒稍優れり
白十一に打てば、黒十二に納ね、次に十四に掛く形善し。

【一九四九】
黒有利の分れ
黒は場合により、八を先にする手もあり。然し九を九或は十一に打つ手も白にイと曲られて黒面白からず。

【一九五〇】
黒少しく善し
白七をイに打てば、黒は手抜して他に転ずべし。また白七を八に打てば、黒七、白ロと兵を進むべし。

【一九五一】
黒優れり
白十一に切れば、黒十二に切り、以下黒十六の先手約をなして次に十八に拓くべし。黒厚壮にして且つ雄大なり。

【一九五二】
黒優勢なり
白五、悪し。白十三を黒はロイに切り白ハと交換して、尋でホの間隙に備へニに雄圖を劃すべし。

【一九五三】
黒稍優れり
白五、「無理なり。黒八は、稍緩なれど、次圖へ黒十は「十一」より當て、白十一、黒十二と、二と六の二子を引出して打つ手段もあり。

【一九五四】
黒大に優れり
黒八、手強くして善し。白一、二三の手順肝要なり（次圖）。

【一九五五】
黒必勝の勢
白二一、手順を誤る。黒二二は能く敵失に乗じて勝を定む、佳手なり。此結果黒は、隅も取られしも、肝要の白二子の打抜きにて、白発と潰れ形なり。

【一九五六】
白潰れ
白二一の當ての有無にて、先手後手の相違あり（前々圖の參照）圖の如く三三と後手を引きては白発と潰れ形なり。

【一九五七】
白潰れ
白二一、無理なり。圖の如くなりて隅は白寄せ劫或は大點小點の攻合となりて白敗なり。

【一九五八】
白軍潰敗す
白二九、無理なり。以下四二に至つて、白軍の屍は積んで山を成す。

【一九五九】
白潰れ
三六に至つては、黒は堅固なる外圍を繞らして中央の覇権を擅にす。加之三十までの隅の黒にも手段殘れり。白潰滅の形。

【一九六〇】
黒勝
白十八に切を打たず單に十三と出れば、十五と切れば、十黒十八に、十六、十八に應ずるを可とす。前圖此圖要領同じ。

【一九六一】
黒善し
白七に粘れば、黒は八に切り、以下十が礒なり。此形、後に黒イと約へる意味にあり。白七のロにある形よりは黒善し。

【一九六二】
黒善し
白三は、凌ぎには止むを得ぬ手なれど、二と三の交換は、白甚だ悪し。猶、後に此處を黒、打つとすれば、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト。

【一九六三】
黒善し
すでにして、白七は九に留めて伏す。是に於て黒十二と、大勢を占め、且つ白面は「窮冠」と、兵聖孫子の教ふる所なり。

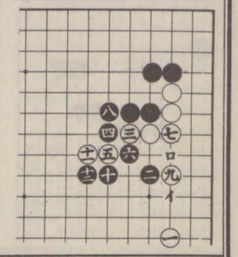
【一九六四】
黒優れり
白九をイと出切るは「二八型イ變化の一」第三變化「イと同じ。（一九五四圖以下）

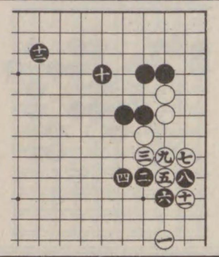
【一九六五】
黒厚壮なり
黒十八は、イと約へる手もあり（次圖）。黒二十と白の三子を打抜き、利は大なるも黒の二子の犠牲などの比にあらず。

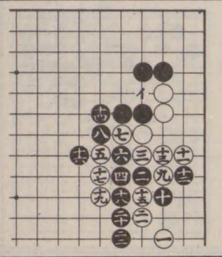
【一九六六】
黒優れり
斯く打てば、黒の隅は安全なり。

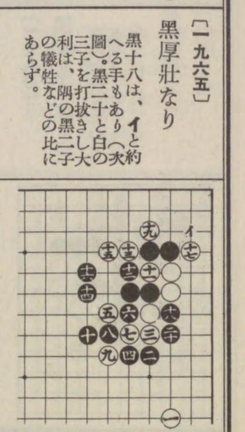
【一九六七】
黒稍優れり
白十五、十七の手段、穩健なり。此變化も矢張り面白からざれば、前變化に比ずれば、前變白優れり。

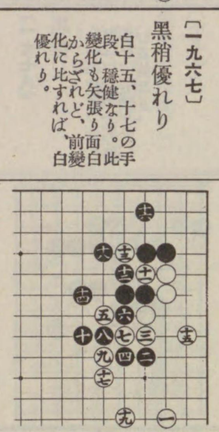
【一九六八】
要點約言（地）
（第二八型イの一變化）
（第三變化）
白七に拓けば、黒八手筋にして面白し。此時に白イに押し、（或は、黒ロ、白ハ）このハを

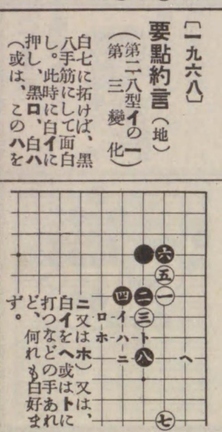




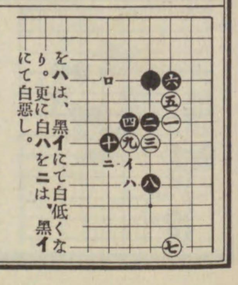


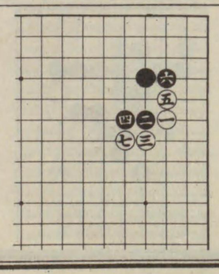


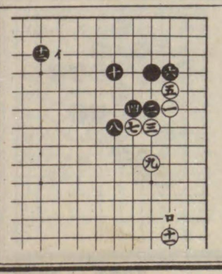




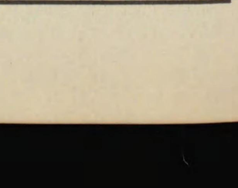
【一九六九】
要點約言（玄）
（第二八型イの一變化）
一而して、白十一ならば、黒ロに備へて八の一子は輕き意味に打つべし。また白イは、黒イにて白低くなり。更に白ハをニは、黒イにて白悪し。

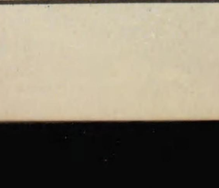


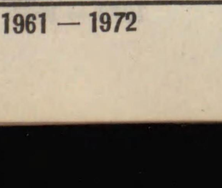




【一九七〇】
要點約言（黄）
（第二八型イの一變化）
一更に右の外の手段として白九でイは位低く。また九でロの突當りは、黒ハの行となりて、白は如何にも重き姿なり。







【一九七一】
基本圖
（第二八型イの一變化）
（第四變化）
常法
白七に押す手、常に用ふる手段なり、

【一九七二】
定石
白九に飛べば、黒も十に守つて堅を持つべし。白一、黒イに打てば白イを占む何れも好黒なり。

【一九七三】
黒の勢善し

黒三と廣く拓く手もあり。白六、八と出切りし以下の變化は黒に誤りなくば、黒三は佳着となるなり。（一八三〇圖以下參照）

【一九七四】
白善し

黒九、十一、惡し、此形、次に黒は、イと逸走を圖るも、白にロと打たれて萬事休す。

【一九七五】
白正形に非ず

白二、筋違なり。此形は、依然として黒より、イの切り殘れる故、黒三と廣く拓いて善し。（一九八五圖以下參照）

【一九七六】
黒少しく善し

白二と綯れば、黒三と行びて善し。白六を切らば、黒は、イに切る。白恐らくは急所の傷手に泣かん。

【一九七七】
黒確なり

白八と打込む。此場合白十二、五、面白し。黒十五、十七は、專ら堅實を期す。

【一九七八】
黒善し

白十の行は、惡し。黒一、三、五の働きを、活潑ならしむる故なり。

【一九七九】
定石

白九、場合の手段にして普通無理なり、此形は白黒共に中央へ行出す形となるも、黒は十、十四の方面には地を作る結果となりて面白し。

【一九八〇】
黒少しく善し

白四、六と打つ手あり。

【一九八一】
白善し

黒七、惡し。白十、十二、十四手筋なり。

【一九八二】
黒十三に嵌る

黒十三甚だ惡し。黒十三を十四は、白イで善し。その時、黒十三ならば、白ロ。また、そのまま黒十三をロならば、白十五。

【一九八三】
定石

黒八はイに綽く手筋なれど、斯く飛ぶ手もあり。黒十は、ロに打つも善し。

【一九八四】
要點約言
（第二八型イの一變化）

黒七の押しには、黒八手筋なり。次に白イに守れば、黒もロ或はハに備ふ。又、白イをニに切れば、黒ロに應けて戰となるも、此形は黒善し。

【一九八五】
基本圖
（第二八型イの一變化）

白七、九の出切無理で單に九、十一と出切る手は、黒に七と下られて、簡單に白惡し。（一八一七圖以下參照）

【一九八六】
黒堅實、利勢

黒一の切善し。（一八一七圖以下參照）白イとありし時の變化にして、此白イの有無は、隅の變化に多少異る處あり。白四を五は、黒ロにて勝。

【一九八七】
黒善し

黒五に取れば、確なり。然しこれは八に打つ手もあり。（次圖）

【一九八八】
黒稍優れり

黒十一の取り、確なり。黒十九は、形。十九をイならば、白に十九と綽られて損なり。

【一九八九】
黒勢なり

白十二、功を急いで却て形勢を損ず。戰の跡を見るに黒は白七の點を奪はれ、隅に十七の點に黒先手持となる。白形勢振はず。

【一九九〇】
黒必勝の勢
本圖は、黒ロのあるに注意

白六、無理なり。隅の黒は劫死なれど、斯かる形となりては、黒必勝の勢なり。

（参）二五ノ處 劫トル

（参）二八ノ處 劫トル 二五ノ處 ダメ

【一九九一】
黒大いに善し

白十四に這へば、黒は十五に守り次に十七の約へとなりて善し。

【一九九二】
黒面白からず

黒一、手順惡し。白二の粘となりて、此形黒惡し。

【一九九四】
要點約言
（第二八型イの一變化）

白七と押し、大に手あり。此時は黒十二に當て、然し後、四に下る、べし。隅の變化は一八一圖以下と同じ。

【一九九三】
黒勝

白七、九、十一に押し、黒は十二が善し。又、白七をイ、黒ロの時、白十一に出切れば、黒は出切るも白形勢振はず。

【一九九五】
基本圖
（第二八型イの一六變化）

白七に押し、猶九に打つて後の綽を十三と出切る手もあり。此場合は黒善し。

【一九九六】
黒必勝の勢

此形、黒は白の二、三子をポン抜きして、必勝の勢を示すも、尤も黒四と打つて白二を征に取り得ぬ場合は一九圖の如く打つべし。

【一九九七】
黒必勝の勢

白十一と劫に仕掛ける手、打過なり。黒二六、面白し。三十に至つて、黒は外勢厚壮、必勝の勢なり。

㊟劫トル

【一九九八】
黒優勢なり

黒イにて白の二子を征に取れぬ場合の下る、べし。時黒二、白一の十二は、他に打つも善し。

【一九九九】
白自ら潰ゆ

白三と綽れて次にイの征を諦し、黒を虚喝す。黒四は以て征を防ぎ、先手を以て征を防ぐ。白三の惡手を咎む。白六に至つて、白の敗決す。

【二〇〇〇】
黒優れり

白一、三と打たば、黒は四に綽ね、尋で六に取るべし。隅は、白イに附けば、黒ロ。白れば、黒ロは、黒イにて活なり。

【二〇〇一】
常形なり

四段當時
互先 **橋本宇太郎**
四段
先番 **關山利一**

兩氏の對局に出づ。黒■にある形なり。

【二〇〇二】
黒甚だ不利

四段當時
橋本宇太郎
六子 **某**
氏

兩氏の局に出づ。

【二〇〇三】
要點約言
（第二八型イの一六變化）

白七、九の後、十三へ出切る手あり。此場合も、黒五、黒十四の切り善し。則ち、黒は外勢を張る形。

【二〇〇四】
要點約言
（第二八型イの一全部）

黒六の時、白はイを定石とすれど、其外白ロ、ハ、ニ、ホへ、或はトニ、黒チ白リの變化も

【二〇〇五】
基本圖
（第二八型イの二）

白五は、白イ、黒五とならぬ場合に打つ手なり。白五に、黒はイとロの應けあり。イは形を確にする手、ロは隅の守なり。

【二〇〇六】
基本圖
（第二八型イの二第一變化）

黒六と綽込めば、以下十まではの必然の着なり。

【二〇〇七】
定石

白十一に粘げば、黒は必ず十二の曲げを打つて後、十四に拓くべし。猶十四はイ及ロと拓く手あり、其意味は多少異れり。

【二〇〇八】
黒勝

黒四は拓きを兼ねて豫め白五の切に備ふ。白五、七は、無慘にも、黒四の伏線にかゝれり。十八に至つて、白脫出の途無し。

【二〇〇九】
黒勝

白二三に至つて、黒始めて二四に投ず。凡そ手順の妙は、此の如き所にあり。初心者以て範とすべし。

㊟六ノ處ッグ

【二〇一〇】
互角

白五に曲れば、黒は手抜して他に打つべし。次に、白イに切れば、黒ロ、白ハ、黒ニと打つべし。その黒ニをホに約へるは無理なり。（次圖）

【二〇一一】
黒逆に嵌る

凡そ兵の拘ぶ所は、敵情を審にするにあり。然るに、白の□を無視して、前圖と同じく二、四以下の運びを採る。黒の敗、怪むに足らず。

【二〇一二】
參考圖

黒一は、侵分の計算より見て、約十八目に當る好所なり。

【二〇一三】
參考圖

黒勝

白一、二、そして四と切れば、黒五、七と打ちて勝なり。黒十五の一着、能く白の虎口を脫す。

【二〇一四】
黒の形善し

白五は侵分に打つ手にて、時機早ければ、却て黒を堅くして惡し。

【二〇一五】
黒嵌手に陷る

黒六は、打過ぎ。白十五となつては、二以下の黒根據を失ふ。若し白が七に打つて惡しき場合は、此手を十に打てば確に盤り得べし。

【二〇一六】
互角の形勢

黒四と一路廣く拓くも、あれど、白に五と切る手あり。故、普通好ずまず。黒八は九、白八にて黒敗（二〇〇圖と比較參照）。

【二〇一七】
互角の形勢

黒猶一路廣く四と星下に拓く手あり。之はイの切或は五の打込を豫期しての着手にして、場合により面白し。黒堅き手なれど、稍緩し。

【二〇一八】
互角の形勢

白五には、黒は六と掛ける手、段手強くして善し。白七、九、十一、手筋にして輕し。

【二〇一九】
白潰滅を嘆く

白九以下、俗筋にして、重し。劫となりたれど、三四の劫抛にて白甚だ窮せり。

㊟劫トル

【二〇二〇】
白甚だ惡し

白九、無理。二七に至つて白漸く小活を得たれど、黒、二八を許しては、大勢既に黒に歸す。

〔二〇二一〕 **黒厚大、優勢**

黒三六でイと劫にする手あれど、圖の如く打つも、黒の勢甚だ壯なり。

㊀五ノ處 ㊁ッグ

〔二〇二二〕 **黒の形善し**

白七、九の手順善し。十八に上邊に小活を得しも、外圍の黒の形大いに善し。

〔二〇二三〕 **黒善し**

黒八と尖附ける手もあり。黒十の時、白十七と切るに先だち、十五までと中央に味を殘せしは、機敏。此形黒、後手なれど地あり、且つ形も確なり。

〔二〇二四〕 **黒の形好し**

白五と打込みし以下の變化は如く、要するに、以上の變化にして、黒六と掛けし以下白は活となるも、これにより黒の外圍を壯にする故、白好まず。

〔二〇二五〕 **定　石**

白十一と押せば、黒は必ず十二に打抜くべし。此打抜は、他の何れの點よりも遙に大なり。

〔二〇二六〕 **黒勝の形なり**

㊀手抜

此場合、黒一、三で三、順善し。黒一と一と覗けば、白には次圖の如く輕く外す手あり。

〔二〇二七〕 **白輕し**

（前圖參照）

黒㊀のある時、黒一と覗けば、白二の手筋輕妙なり。五までの形は重複の意味ありて黒面白からず。

〔二〇二八〕 **黒稍凝形なり**

此形、黒惡しといふ程にはあらねど、稍重複の感あり。白十は、手を抜くも宜し。

〔二〇二九〕 **白面白し**

白の形や、輕くして洒落、光風霽月の感あり。

〔二〇三〇〕 **黒優勢**

白九、低き手にて、甚だ惡し。

〔二〇三一〕 **黒優勢なり**

黒の外圍、厚壯なり。

〔二〇三二〕 **黒の形善し**

前圖の如く征に取り得ぬ場合、黒は六に打つも善し。

〔二〇三三〕 **黒優勢なり**

白一、惡手なり。黒より痛烈なる二の切りを喫ひ、白三と粘くに及んで形崩る。五までの形、白は一隅に蹈跼し、黒は中央に厚壯を作す。

〔二〇三四〕 **要點約言**

（第二八型イの二）（第一變化）

以上の變化によるに、黒六、八の時、次に白はイと掛粘く一手にして、其他の着手は何れも皆惡し。

〔二〇三五〕 **基本圖**

（第二八型イの二）（第二變化）

黒六に約へる手あり。此形白には七とイの應けとあり。變化多少異るも、共に正着なり。

〔二〇三六〕 **定　石**

白七なれば、黒は八の一手なり。白九、黒十、共に要點なり。

〔二〇三七〕 **黒優れり**

白四、打過なり。黒五と煽り、白六に次で七の曲げを打つ。手順可なりて、斯かる形の結果必ず黒優勢なり。

〔二〇三八〕 **常形なり**

白は、八の筋を望みつゝ四と黒の肩を衝いて行く。白の用兵、高雅なり。

〔二〇三九〕 **黒優れり**

黒十一以下十五までは、實戰に於ける常用の手筋面白し。

〔二〇四〇〕 **黒有利の分れ**

黒十五は、白十八を十九の時黒十八と征に取り得る場合に限る。若し、征惡しき場合は、黒十六に曲り、白十五、黒イと打つも黒の形善し。

〔二〇四一〕 **黒稍利勢なり**

白十八は、十一以下の黒に望むと共に、次に以てイの約を以て上部左右の黒へ襲撃せんとす。黒十九の連絡は、肝要の一着なり。

〔二〇四二〕 **白無理形なり**

白十八、黒十九に遭つて白二十の後手に喫し、尋いで二三の好形を得、せしむ。上下の白、共に殲滅難なり。

〔二〇四三〕 **定　石**

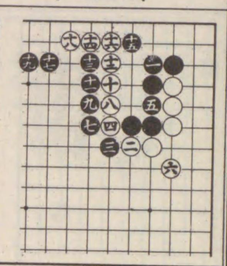
白九、黒十と絡ねし時は、白は十一が、本手なり。

〔二〇四四〕 **黒有利の分れ**

白眦を決して四に切りしも、打過なり。黒は堅甲を期し、粘ぎ、次圖に五と抱へ、六の兩睨みに七と打つも黒の形善し。黒五は佳手なり。

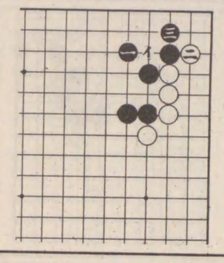
【二〇四五】
白に手段無し

黒十五は敏捷辛辣、白をして痛憤已む能はざらしむ。黒十七は、十五に伴ふ手なり。黒の手筋簡明。賞すべし。



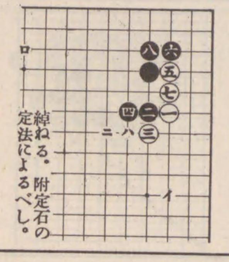
【二〇四六】
白利勢なり

黒一に掛粘いで、白より二の先手を打たる、損耗甚し。黒一は前圖までの如く、イを正着とす。



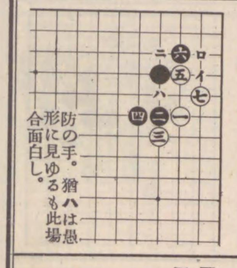
【二〇四七】
要點約言
（第二八型イの二變化）

白七、黒八共にキマリ手。次に白イに守れば、黒ロの拓き。又白イを八に押せば、黒ニと



【二〇四八】
基本圖
（第二八型イの二變化）

白七と尖みたる形には、黒はイ、ロ、及ハの應けあり。イは普通見ゆる形。ロは、ニの切を豫



防の手。猶ハは愚形に見ゆるも此場合面白し。

【二〇四九】
定　石

黒八、十は、隅を守る手なり。次に白十一に守れば、黒は十二に堅守すべし。

【二〇五〇】
互角の形勢

白五に對しても、黒六と打つべく、此形に於ける黒六の竝びは要點なり。

【二〇五一】
黒有利の形

白五と損を先にすれば、黒六以下手段堅實。假令白取らるゝとも、黒有利の分れなり。若しイと逃出し得る場合は、黒一層善し。

綽ねる。附定石の定法によるべし。

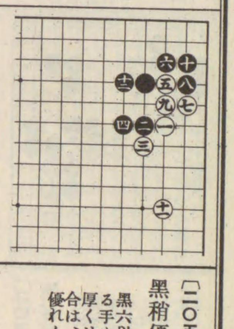
【二〇五二】
黒稍優れり

此形、黒は恰かも鯨を狙ふ鯱の如し。眈々として、イに切る時機を覗ふ。

【二〇五三】
黒稍優れり

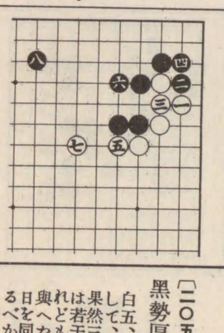
黒六以下隅を棄てる手もあり。上を厚くせんとする場合は、斯く打つ方優れり。斯く打つ方之は中央戰の歸趨如何により可否を決すべき形なれど、中の黒石は割合に堅固なれば黒惡しからず。

(二)五ノ處ツグ



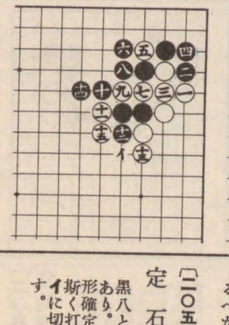
【二〇五四】
黒勢厚壯なり

白五、七は俗筋にして、甚だ惡し。果然三十まで、白は若干の利を得たれども、爲に黒には與へたる厚大と共に日を同じうして語るべからず。



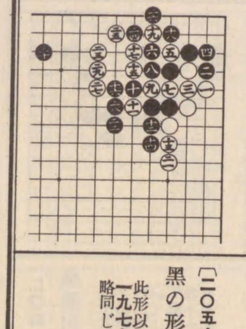
【二〇五五】
定　石

黒八と單に下る手あり。前圖程には形確定せざれど、斯く打てばイに切る意味消滅す。



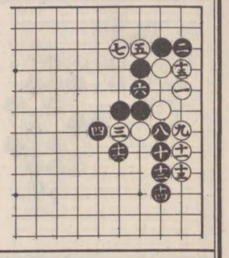
【二〇五六】
黒の形好し

此形以下の變化は一九七九圖以下と略同じ。



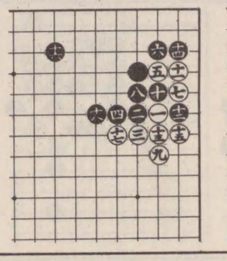
【二〇五七】
黒勢稍優れり

白五に切れば、黒六に粘さて白に手段無し。此形、黒は隅の二子を敵に委したれど、中原に厚壯の利は、白に比して優れり。



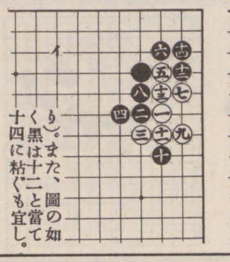
【二〇五八】
定　石

黒八は愚形の如くなれど、面白き手段なり。黒十八までの結果は、黒の地確となりて打易し。



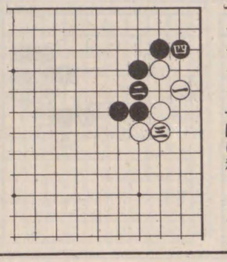
【二〇五九】
定　石

白九と掛粘がば、黒は十に覗くべし。尋いで黒はイに拓くも宜しく（此圖は二〇〇七圖と略同じにして二〇〇七圖よりも稍優れり。また、圖の如く黒は十二と當て十四に粘くも宜し。



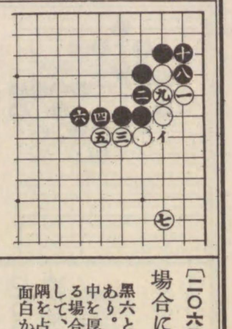
【二〇六〇】
黒の形確なり

黒四、堅要の處なり。斯くなれば、黒は隅に根據ありて確なり。



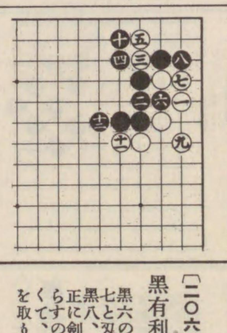
【二〇六一】
黒利勢なり

此形、黒は恰かも鯨を狙ふ鯱の如し。眈々として、イに切る時機を覗ふ。



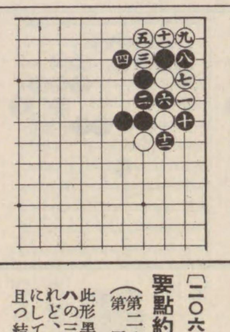
【二〇六二】
黒利勢なり

白三は、無理なり。飛んで火に入る夏の蟲一今に至つて白哀憐すとも、遂に及ばず。



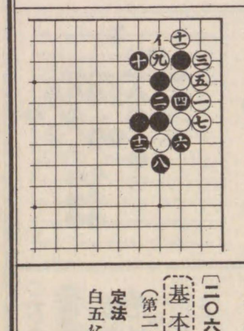
【二〇六三】
黒優勢なり

白は三、五の二子の救助に眈みて、九に出づ。眈九は惡手なり。嗟乎、黒十の切りの痛さよ！遂に白血涙を呑んで打抜きを許す。



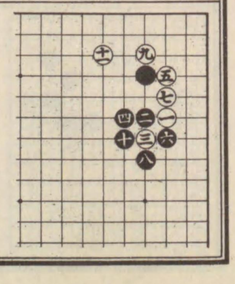
【二〇六四】
黒優れり

白三、低くして惡し。此形は、二〇三一圖と同じ。只手順の相違のみ。



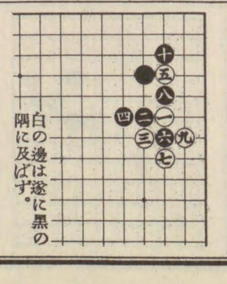
【二〇六五】
場合による

黒六と振替る手段あり。尤も此形は、中を厚くせんとする場合に打つ手にして、通常は白に隅を占領されて黒面白からず。



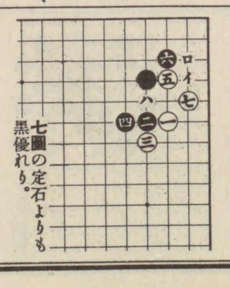
【二〇六六】
黒有利の分れ

黒六の切りに、白七と刃を合はす。黒八、白九、黒十、正に劍尖火花を散らすの概あり。斯くて、隅邊各一子を取り合ひしも、



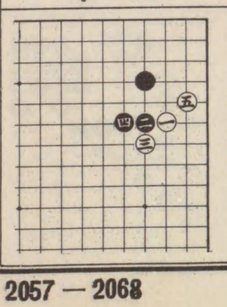
【二〇六七】
要點約言
（第二八型イの二三變化）

此形黒にイ、ロ、ハの三つの應けあれど、此中黒ハ確にして最も宜しく、且つ結果は二〇〇



【二〇六八】
基本圖
（第二八型イの三）

定法
白五に尖む手あり。



七圖の定石よりも黒優れり。

白の邊は遂に黒の隅に及ばず。

【二〇六九】
定　石

黒六に應け、白七に綽込めば、二〇四九圖以下と同じ。

【二〇七〇】
定　石

黒六の當て宜し。白七をイに當て、黒ロ、白七に掛粘げば、二〇七圖以下と同じ。白七をハには黒ニ、定石なり。

【二〇七一】
黒の勢優れり

白四と直ちに隅へ手を附けたるは、無理なり。黒五、肝要。此綽、先手利きなる故、始の三の約宜し。黒九、善し、最とし攻を含む。

【二〇七二】
黒堅實、優勢

白二二を怠れば、黒イと綽ねて白死。黒ロ、白二四の後、黒ハと綽ね、白若しハならば、黒ニと劫にする手あり。此劫は黒花見劫なり。

【二〇七三】
黒善し

黒堅甲を鎧うて、二六までの白を攻む。黒の形や整々、動もすれば、白は動くに從つて損失を招くの處あり。

【二〇七四】
黒優勢なり

白八以下十四に四圍して、黒に十五迄の厚壯を與ふ。剩さへ、白は十六の後手をも餘儀なくせられ、黒此間に踊躍して十七に形勢を張る。

【二〇七五】
黒堅實打易し

白八を九に粘げば、黒は㊀を頭邊とする旣勢の堅壘を利して、イに邀へ擊つべし。此イをロなどは、黒自ら勢力重複を招くものにして、惡し。

【二〇七六】
白、四面楚歌

白四黒五の後、猶白と打込みしは一層白無理なり。白八をイに劫とするも、黒八に劫提となりて、白に劫拋無し。二三に至つて、白遂に活きず。

【二〇七七】
黒優勢なり

白十四をイならば、黒十七、白十五、黒十四にて、白に手無し。十九に至つては、白の形惡しく、黒地は確となれり。

【二〇七八】
白潰れ形なり

白十二、暴なり。此形、他に變化あれど、執れの結果も白惡し。

【二〇七九】
要點約言（上）

（第二八型イの三）

此定石は甚だ簡單なれど、隅の變化は前圖までの如くにして、黒イの綽に先手利きなれば白に適當の手段無し。

【二〇八〇】
定　石

白七と堅く粘げば、黒八定石なり。

【二〇八一】
黒の形善し

白六以下、小事に拘泥して大勢を忘る。十二に至つて白小利を得たるが如きも、黒の城砦は、堅益〻堅を加ふ。畢竟、白六以下は惡手なり。

【二〇八二】
定　石

白十三、黒十四、共に要點なり。

【二〇八三】
黒惡しからず

黒惡しからざれど、二〇七一圖以下の變化より劣る。白六、八以下、十四の約を利かせる形となり、黒より嚴しき攻無し。

【二〇八四】
定　石

黒六と尖む手あり。斯く打つも、黒は確なり。

【二〇八五】
黒一、ウソ手

黒一は、退いて守るだけの手なり。而かも後に白よりイに飛込む手遣る。黒の不利いふまでも無し。

【二〇八六】
黒一、損なり

これは初心者の打碁に往々見る手にて、白に二、四と隅を占領されては黒損なり。

【二〇八七】
要點約言（下）

（第二八型イの三）

以上の變化の如くにして、黒は六にてイ、ロ、ハの應けあれど、此中、イの當て嚴しくして最も善し。

【二〇八八】
基本圖

（第二八型イの四）

白五、低くして好ます。

【二〇八九】
黒優勢なり

黒一、三、白の非を伐つ。佳手なり。黒五は征宜しき場合の手なり、惡しき場合は、二〇九圖或は二一〇圖の如く打つべし。

【二〇九〇】
黒優勢なり

黒九に約へ、白十、黒十一と打抜く手あり。此時、白イに切れば、白ロ、黒ハと打ちて善し。黒ニと打ちて善し。

【二〇九一】
黒堅實、善し

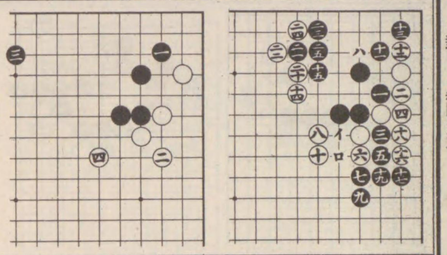
黒五にて八と征に取り得ぬ場合は、圖の如く五に尖んで黒善し。

【二〇九二】
黒稍優れり

これも黒征惡しき場合一黒は五と行び戰ふ手もあり。前圖と本圖とは形勢の如何によりて、優劣異れり。

〔二〇九三〕白に活無し

白八に飛べば、黒九に竝ぶ手佳し。尤も、黒イ、白ロ、黒十以下の征に白は宜しき場合は、白は十を八に附けて宜し。

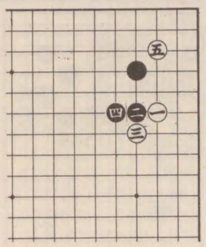


〔二〇九四〕白形稍優れり

黒一、緩着なり。白二の掛粘となりては、白好形を成せり。

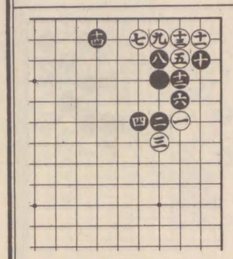
〔二〇九五〕基本圖（第二八型イの五）

白五と直ちに隅に打込む手あり。これは場合の手段にして、普通は位低くなる故好まず。



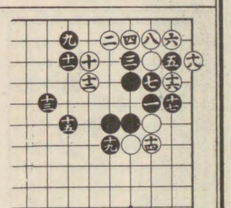
〔二〇九六〕定石

黒八、十の手善し。黒十四、手筋なり。



〔二〇九七〕黒勢稍優れり

白十四の時、黒十五と完封し、白の十六を導いて十七に錘鋲を露はし、白十八の後は、黒十九の厚手を用ふ。讀者幸に、黒が手段の妙を雲煙過眼視せざれ。

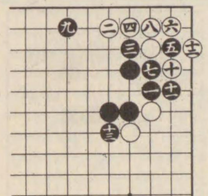


〔二〇九八〕黒優れり

黒十三、善し。

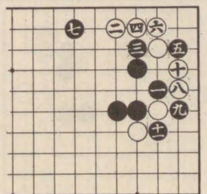
〔二〇九九〕黒申分なき形

白六と粘ぎたる時も、黒は同じく七に攻む。いづれにしても、黒に附行びある場合は、七の攻、肝要なり。白八を十は、黒八にて前圖と同じ。



〔二一〇〇〕白潰滅の姿

白八に粘がべば、黒九に引く。白一二十に對する黒二は佳手。至つては變化簡明、用武の途無し。白は百戰一も敗せざる形勢なり。



〔二一〇一〕黒大に優れり

此形、他にも變化あれど、黒が九に引き、次に十一に攻むる形となりては、結果は何れも黒面白し。

〔二一〇二〕黒優勢なり

白二と打てば、黒は二〇七一圖以下嚴しく三の手筋にして善し。

〔二一〇三〕黒自ら敗る

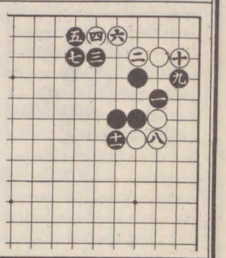
黒九強ひて白を取らんと、貪に過ぎて無理なり。夫れ程を貪るの暇は覺らざるの類か。九は前圖の如く打つて可なり。

〔二一〇四〕黒優勢なり

黒九と切つて永に肝要の着なり。

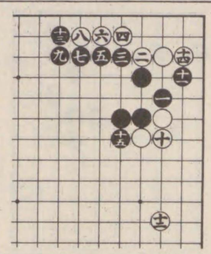
〔二一〇五〕黒勢稍なり

白十まで活に就きしも、二、四及び六の三子の委棄は已むを得ず。則ち黒三に對する白四、六の附引きは、此場合不可なり。



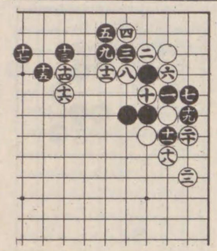
〔二一〇六〕黒優勢なり

黒三と急攻せしも却て稍緩し。白十まで十三に打てば、黒は十と切るべし。また白十二を十三になれば、黒は十二に夾攻す。何れも黒善し。



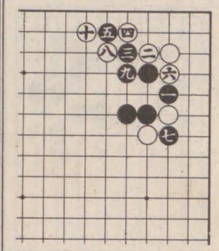
〔二一〇七〕白急所を衝く

黒五と二段に約へて、意氣昂れるも、のあり。されど、鵜籠の内に起る。白六の攻手を見るに及んで、黒は五の惡手を覺る。



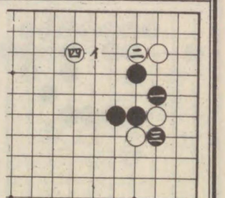
〔二一〇八〕白有利の分れ

黒七に切れば、白は八、十と抱へて善し。



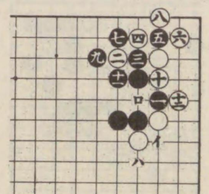
〔二一〇九〕互角の分れ

黒三、緩し。前の如く、イに打ちて白を攻むべき形なり。



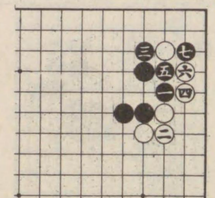
〔二一一〇〕黒稍優れり

白二、手筋なり。黒三と出切つて二の白を取りしは善し。白十二の次に黒征宜しくばイに切り、白ロ、黒ハと取りて宜し。



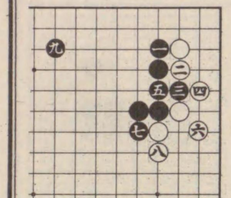
〔二一一一〕黒確なり

白二と粘げば、黒三と約へる手確なり。尤も、三の約は、六に尖む手もあり。（二一三九圖以下參照）



〔二一一二〕白利勢なり

黒一は、特殊の場合打つことあれど、普通損なり。



〔二一一三〕白利勢なり

白六に粘げば、黒は先づ七と切り、次に九と曲る手順は、肝要なり。猶此變化は、三間夾の中の四七、三七圖參照。

〔二一一四〕白大いに善し

黒は前圖イの切を看過して單に七と曲りしも、惡手なり。白八と下るに及んで黒よりイを利かすべき好機逸に去る。

〔二一一五〕黒優れり

七の征宜しき場合は、白二に黒は三と切る手あり。黒が臨機の措置面白し。十三と打抜くに至つては、形勢黒優る。

〔二一一六〕黒優れり

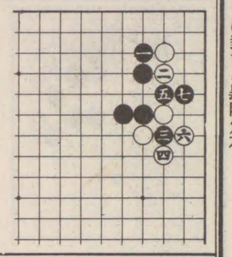
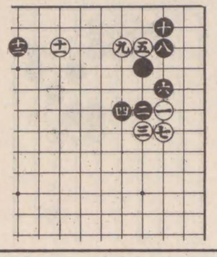
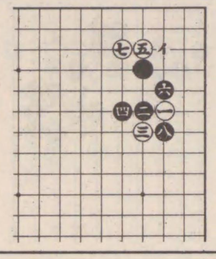
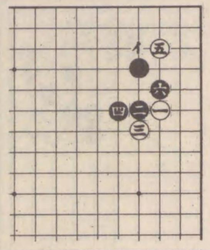
白十六をイ、黒十七、白ロと打たば、黒はハと白を拘禁す。白の三子、逸脫の途無し。

〔二一一七〕
黒利勢なり
黒三の切りに白四と打つ、蓋し悪手なり。黒五、七と、振替りに出づ。此形、隅の白に多少の味遺れりとはいへ、黒の方善し。

〔二一一八〕
黒善し
白五と附ける手あり。その意味は、前圖までの白イと略同じ。

〔二一一九〕
黒優れり
黒十まで に隅に根據を占む。白卽ち十一に展開して五以下の陣容を整へしも、黒は息をも吐かせず十二の要點を扼して白に迫る黒の布局志局面に磅礴たるを見る。

〔二一二〇〕
要點約言
（第二八型イの五）
白五には、黒六と約へて、一と五を隔て、攻勢に出る手段善し。六をイは、特別の場合の外、黒損なり。

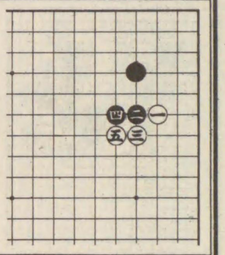
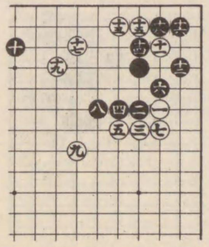
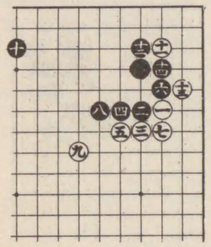
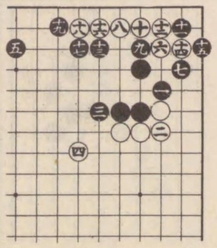





〔二一二一〕
〔基本圖〕
（第二八型イの六）
定法
白五、正着なり。

〔二一二二〕
定　石
黒六、肝要なり。黒十二、堅を持す。

〔二一二三〕
定　石
黒が十二と攻める手、變化あれども、嚴しくして善し。

〔二一二四〕
白十二に敗す
白十二は悪手なり、前圖に從ふべし。黒十三に至つて、一隅の白、萬死あつて一生無し。

〔二一二五〕
白の形崩る
白八に押せば、二〇一圖以下と同様黒九手筋なり。

〔二一二六〕
黒大に優れり
白十、悪し。黒十一以下の手段手強くして宜し。白イ黒ロ白ハの切を防ぎ、黒二七は、次に黒二九の厳しき綽を含みて好し。

〔二一二七〕
白大敗なり
白二八打過なり。黒四一を四四に切れば、白は劫とする手あり（次圖）。

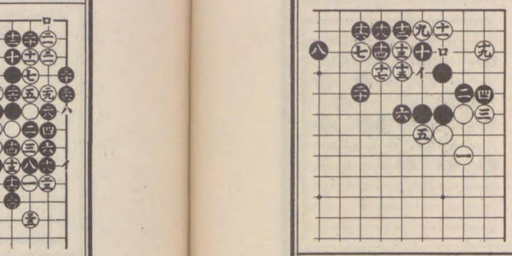
〔二一二八〕
黒劫勝
（三）二ノ處劫ツグ（三）劫ツグ（三）劫ツグ（三）二三ノ處劫提（六）全（六）全（六）全（六）劫ツグ（三）劫ツグ（三）劫ツグ（三

〔二一四一〕
黒堅實打易し
白十一をイに切れば、黒十四にて善し。

〔二一四二〕
黒好形打易し
白一に掛粘ぐ手は黒に二と約へられて惡し。白三を手抜せば、黒三、白イ、黒ロの劫提となりて黒善し。黒十、要點なり。

〔二一四三〕
黒申分なき形
黒四と單に約へる手もあり。白九を十三ならば、黒イに打つべし。

〔二一四四〕
黒有利且優勢
黒十、善し。白十一、打過なり。此手は十三にて綽ね、黒十一、白イ、黒ロ、白二十と飛ぶ位のものなり。

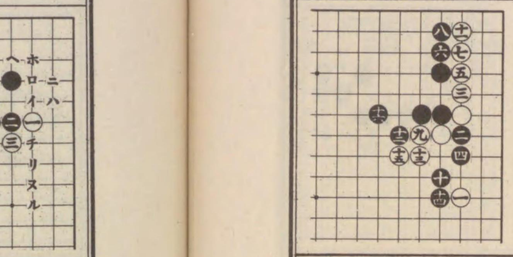


〔二一四五〕
互角の形勢
黒四は大場なれど、實利の要點なる七、九の盤のみならず、八を九ならば、白はイに打つべし。

〔二一四六〕
黒地あり堅實
黒二は以上の諸圖に於けると同じく肝要の處なり。白七をイならば、黒ロより攻むべし。其變化は二一四三圖と同じ。

〔二一四七〕
黒優勢きり
白一と更に一路廣く拓けば、黒は直ちに、二と切つて、白の腹を奪ふべし。

〔二一四八〕
白無理形なり
征惡しき場合は、黒四と行びて同じく善し。

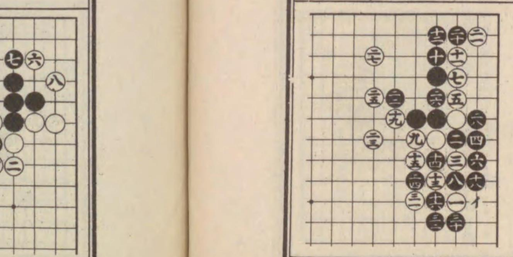


〔二一四九〕
黒優勢なり
黒十二は佳手、幸に看過する勿れ。

〔二一五〇〕
白面白からず
白九、無理なり。此形、後に黒よりイと走る筋あり。（次圖）

〔二一五一〕
黒先劫
（前圖參照）
白四の綽かぬ形ならば、白六の時、黒七を八に打ち、白イ黒ロ、白ハ、黒七と打つて白死なり。

〔二一五二〕
黒攻合勝
黒二四を二五に打てば、白イとなりて、黒は却て白の術中に陷る。

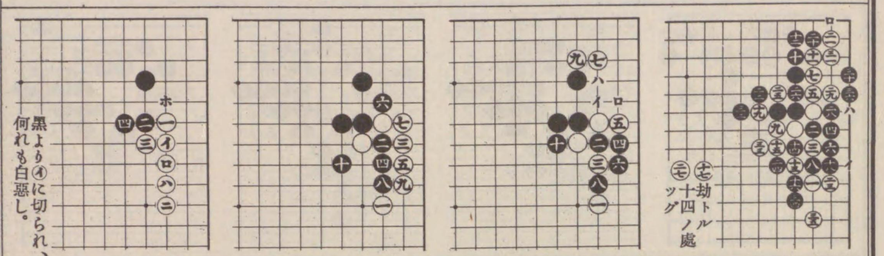


〔二一五三〕
白嵌手に陷る
白二三以下無理。黒三六となりて、次に白イは黒ロ、又、白イをロは、黒ハ、いづれも、持劫なれど、黒の外勢壯なれば、黒優れり。

〔二一五四〕
黒優勢なり
白五を六に打てば、黒五、白イ、黒ロ、白ハ、黒七にて、黒勝なり。

〔二一五五〕
白低く、惡し
十二に至つて、白は低く、黒は中原に厚壯を作す。白甚だ惡し。

〔二一五六〕
要點約言
（第二八型イの七）
黒四の時、白④は緩き樣なれど、時に面白き事あり。白の㊀は、黒ホの要點を占められ、また白㊂は黒より④に切られ、何れも白惡し。

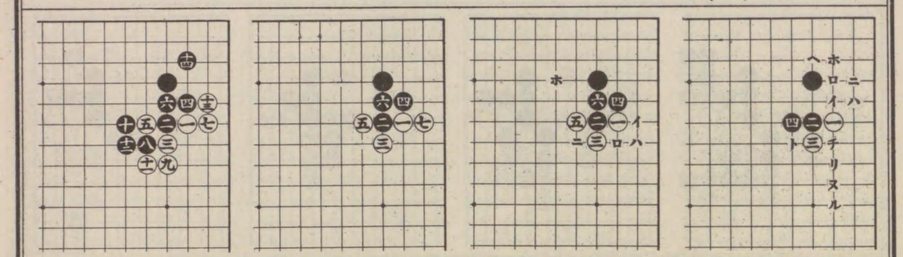


〔二一五七〕
要點約言
（第二八型イ全部）
此形白にイ以下ルまでの手段あり。此中イ、ロ、ハ、ト、ヘは正着、ホ、ヘ、チ、リ、ヌ、ルは、場合の手段、ニは、何れも白惡し。

〔二一五八〕
基本圖
（第二八型ロ）
定法　黒四に約込む手あり。次に白五黒六は必然。此時白にイロハニホの六法あり。

〔二一五九〕
基本圖
（第二八型ロの一）
定法　白七は、隅に手を殘し且つ中邊に勢を失はざる好手なり。

〔二一六〇〕
定石
白七に黒八は必然の着。白九の時、黒には十と十一との抱へあり。此時、黒十は確なれど、形不充分。また、黒は十三に對して白十四に約して宜し。（二一六〇圖參照）

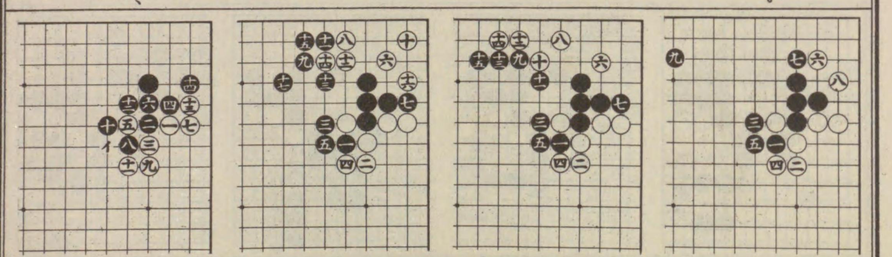


〔二一六一〕
互角の形勢
白六と打込む手あり。黒七、確なり。

〔二一六二〕
互角の分れ
黒七と約へる手あり。前變化と劣るは、周圍の形勢によること。十五迄の戰の跡を見るに、黒は地に於て損し勢に於て優る。互角の分れなり。

〔二一六三〕
黒の勢優れり
既にして十七に至る。黒の左側雄大なるに反し、白四まで形勢今や枚を銜み矛盾や薄し。黒は手を伏せて、四まで白に逼り進まんとす。形勢黒優れり。

〔二一六四〕
定石
黒十二と打拔けば、前圖のイの粘よりも隅の守備堅し。從つて白十三に對しても黒は十四に約して宜し。（二一六〇圖參照）



〔二一六五〕
黒打易き形

白八と打てば、黒の隅を破り得れど、十九となりては黒手厚くなりて、白悪し。黒十三は常用の手筋（二〇九六圖以下參照）。

〔二一六六〕
黒勢稍優れり

白十二と長騙す。而も過きたるは猶ほ及ばざるが如しとか。果然、黒十三、十五の佳手を用ゐて遂に二一に至る。白十二の孤軍途絶えたり。

〔二一六七〕
黒優勢なり

黒。白十二、悪し。直に十三と白の搦手を襲ふ、蓋し佳形なり。白十、此手をイに打てば、黒よりロの下りのキク意味あり。

〔二一六八〕
黒優勢なり

白六に打込めば、黒七に約へるべじ。

〔二一六九〕
白利勢なり

黒三、貪婪に馳せて俗手に喰ひ一見、利多きが如きも味悪し、多くの場合不可なり。白六は、場合により更に廣くも宜し。

〔二一七〇〕
定石

黒十、強手にして善し。白十一にし行びれば、黒十二の抱へとなりて、其の以降は前二一六〇圖より優れり。

〔二一七一〕
黒の形善し

白四に行びる手の變化は至難なり。黒五佳手なり。白六と逆撃す。白八は、白イの征悪しと場合は、黒に十と打たれて白潰れなり。（次圖）

〔二一七二〕
黒攻合勝

既にして白八に至る。黒一、三の二子、白イの征にかゝらぬ場合は、黒九に下つて勝なり。黒二一の一着、白の止めを剜す。

〔二一七三〕
黒の勢優れり

黒十五、十七手順なり。黒十九、善し。攻に至つて、戰雲漠々、局に漲る。混戰亂鬪は免れざるも、黒優勢なり。

〔二一七四〕
黒の勢稍優る

一、三の黒を征に取れぬ時は（二一七二圖參照）。白は八の外、無し。四の時、黒十五と白十。中の白二子に迫りし善し。黒二五、彼我消長の分るゝ所、要點なり。

〔二一七五〕
黒の勢優れり

白八、手順悪し。黒九は筈敏く味方を有利に導けり。白十二、白イの征無き時は不可。白十八をロは、黒ハにて善し。

〔二一七六〕
白低く好まず

此形は、前圖征關係、白不利の場合。黒十五を十九に打てば、白二十。黒十五に飛べば、次、白二一に打つべし。

〔二一七七〕
黒利勢なり

白六には、黒七の粘善し。黒九の手筋へに、白は無念の涙を呑む。此要點、既に黒に歸す。十五に至つて、黒の武威八紘に輝く。

〔二一七八〕
黒の勢優れり

白八に曲れば、黒九の要を扼す。白十を十一に下れば、黒イに約へるべし。黒十一は手筋、此としての切を狙ふ。宛ら猛鷲の小雀を狙ふに似たり。

〔二一七九〕
白面白し

黒五、緩し。爲に、白より、八、十を利かせらるに至つては、黒の形既に佳觀に非ず。

〔二一八〇〕
黒利勢なり

白二と綽上げるも、所詮、匹夫の勇のみ。四に戻り、黒五の曲りを喫す。黒七に拓いて悠然たるもの、實に白二の罪なり。

〔二一八一〕
要點約言

（第二八型ロの一）

白七に、黒八と白九とは、必然の棋移。イに抱へる手とロに押す手とあり。イは堅き手なれど、ロの押しに及ばず。

〔二一八二〕
基本圖

（第二八型ロの二）

定法

白七の粘は、黒の四、六に對する定型なり。

〔二一八三〕
定石

黒八、白九、共に要點なり。

〔二一八四〕
定石

黒八と拓く手もあり。前圖イよりは働きあれど、その代り白よりロに附ける筋あり。（次圖）

〔二一八五〕
黒攻勢、善し

白二は時機を見合打つべし。早き時は、黒を厚くせしめて悪し。黒十三の根據を奪ふ。急所の襲撃、忽ち白の急所なり。

〔二一八六〕
黒の形好まず

黒五の急攻、白に六の好調を與ふ。次圖參照（悪手なり）。隅は劫なれど、黒外側の形好まず。加之、外部の白に二十の一勢力加はる。讀者、前圖と比較あれ。（三）劫トル

〔二一八七〕
黒善し

同じく隅は劫なれど、黒五がイにある前圖に比し、其形雲泥の相違あり。

〔二一八八〕
黒軍覆滅の圖

黒五に一顧、白忽ち乘ず。黒十一、更に拍車をかけて自ら破滅の淵に飛込み畢ぬ。黒十一はイの外無し。

六ノ處打カウ　一目トル　四目ヅグ

〔二一八九〕 互角の分れ

黒三の手もあれど、四より約へて白を隅に活かす方多く、五に至り、白は隼の場合確なり。黒は単に六の如き敏捷を以て可の好機を捉ふ、可なり。

〔二一九〇〕 黒七に嵌る

嗟乎、黒軍恨は深し七の一豚！十二に至つては四面皆な敵、戰遂に黒に利あらず！燭は暗し數行虞氏の涙、夜は深し四面楚歌の聲。

〔二一九一〕 分れ黒稍有利

白六に附ければ、黒は七に綽出すべし。六はイに綽ぬる筋なり。

〔二一九二〕 白の形悪し

白六、悪し。黒七、九の要領宜し。黒七、白八を九ならば、黒イ、白ハ、黒ロ、白ハイ、黒十。

〔二一九三〕 互角の形勢

黒五、そして白六の時、七と附ける手確なり。白十二をイに綽けば、黒ニと打つ形なり。

〔二一九四〕 要點約言（上）

（第二八型ロの二）

黒一、白二の時、黒にイとロの應けあり。ロに打て結ばば、白ロの筋あり。黒一をロは、隅確なれど稍緩し。

〔二一九五〕 白の形悪し

白二と打込む筋は、多く好まず。黒十一は佳手。險要を掘して攻む。黒の陣形整然として旗鮮かなり。

〔二一九六〕 黒の形悪し

黒一好まず、白二と附けて、變化は略圖と同じけれど、前圖の形悪し。又、黒一をイには、白ロの筋あり。黒一をロは、隅確なれど稍緩し。

〔二一九七〕 定石

黒八の切は、手強く打たんとする場合、または、白を持ちて星に打ちたる場合、此手厳しくして善し。

〔二一九八〕 場合による

白六、黒七、以下變化多岐に渉る。固より黒一の切は強硬手段なれば、却て黒の望む處なり。

〔二一九九〕 黒利勢なり

黒一と切つて戰端を開き、密に白の反撃を期す。而も白は戰を交へずして二、四に退き守る形なる。稍窟したる白緩し。

〔二二〇〇〕 角の形勢

（白ロのある時）

白ロのある場合、實戰に屢見る形なり。白ロにある黒は一に切る手あり。

〔二一〇一〕 至難の形勢

黒一、三とある此形に於て、黒五、白六の手筋共に妙。黒七を十三にても、白は八。以下黒十九となりて紛らはれど、黒一に因る當然の歸趨なり。

〔二一〇二〕 黒善し

黒五の猛撃に遭つて、白は膽を消し倉皇として凡六に應ず。六は悪手なり。（前圖參照）

〔二一〇三〕 黒堅實、善し

白六を八と打つも、黒九に突出して圖の變化と同じ。又圖の結果は、白二、四等、前は黒の堅壁に接着し、後に攻め來り纏かず。白は悪し。

〔二一〇四〕 黒の手段面白し

白□の在る狭く二間に場合黒一と切り、白二の時黒三に飛んで白四を誘ひ、而して黒五の大場に先着す。黒一を犠牲とする手段輕妙なり。

〔二一〇五〕 黒稍凝形なり

黒三の切を打たず、單に一と飛べば、白鋒を旋して二に迫る。茲に至つて黒三と切るも四（前圖參照）白六以下の手順を採る。黒稍凝形なり。

〔二一〇六〕 黒利勢なり

一黒一の切に、白二及び四と運べば、黒七の拓となり有利の形なり。白をイは、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘに守りて黒善し。

〔二一〇七〕 要點約言（下）

（第二八型ロの二）

白七には、黒はイ或はロに守る手と、ハに切つて戰ふ手との二法あり。可否は形勢の如何にも又可なり。

〔二一〇八〕 基本圖

（第二八型ロの三）

白七に掛粘く手あれど、黒にイと切らるゝ筋あり。故に、多くはロを通形とす。

〔二一〇九〕 定石

黒八に白九と引けば黒は七に當て、白十に征す。黒十四をイに逃げ出す手あり。

〔二一一〇〕 黒優れり

白四に粘げば、二の愚化する故、白は急く筋無きに知べし。七に至つては、黒に根據あり、且つ外勢も黒優れり。

〔二一一一〕 黒利勢なり

白二と綽れば、黒は直ちに三を肝要とは、白八を九に引せば、黒八に押して四の白敵陣に重圍を陷る。黒は十一を打て四に稍緩なれど、稍緩し。

〔二一一二〕 白敗

白六強引を極む、黒一、打過なり。黒七を征取られる、場合は、次の如く打つべし。

〔二二一三〕
黒攻合勝

此形、黒十一、十三となりて後は如何に變化するも黒勝なり。猶始に、白二を六にても、黒三、白四の時黒七となり圖の變化と同じ。

〔二二一四〕
要點約言
（第二八型ロの三）

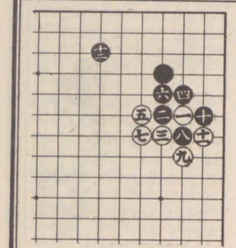
白七に掛粘げば、黒に八と切られ、次にイ或はロ、孰れかの當てを利かせられる形となり、白面白からず。

〔二二一五〕
基本圖
（第二八型ロの四）

白七に粘ぐ手あり。黒に七と切られて惡しき場合、又は中邊の形勢を主とする場合面白し。

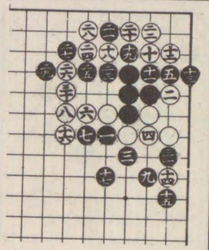
〔二二一六〕
定石

黒八、十に切提り、次に十二に拓けば、黒有利の形なり。猶右邊の劫は、次圖の如き意味にて着手すべし。



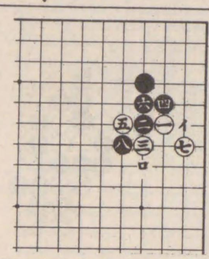
〔二二一七〕
黒善し

黒二、四と他の好點に連打せし形。尤も白三の時黒劫に勝ち大利なれば強く劫爭すべし。但し、假令劫敗となるも、黒六に應けて惡しからず。



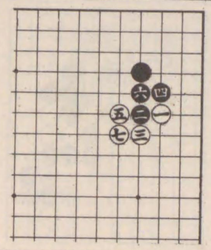
〔二二一八〕
黒打易き形

白四、多くの場合宜しからず。黒五の綺となりては、黒確にして甚だ打易し。



〔二二一九〕
場合による

黒一は手筋なれど、低き手なれば普通好まず。黒三はイに切るも宜し。

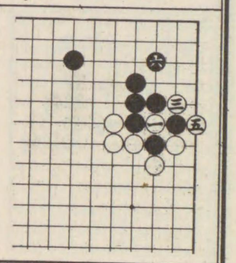


〔二二二〇〕
黒利勢なり

黒一、三と白二、四との交換を白に必要なる形勢なりとすれば、黒一好手なり。白四形なし。

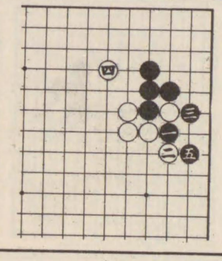
〔二二二一〕
黒の形好まず

黒一、面白からず。白二の下りとなりては、白善し。黒三打過ぎ。白四、六の手筋に出れば、黒七の綺肝要。（次圖）



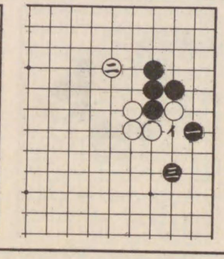
〔二二二二〕
黒進退谷まる

黒七は、手順を誤る（前圖參照）惡手なり。白十、十二に至つて黒は、窮地に陷る。



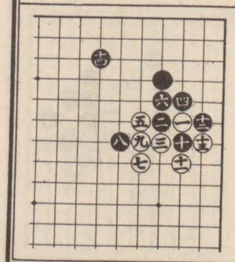
〔二二二三〕
黒打過の形

圖の如く眼無しの石が中央に行出す形は、置碁の黒として好まざる形なり。



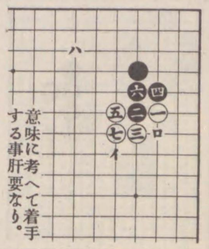
〔二二二四〕
黒利勢なり

白七と掛粘げば、黒は八と覗き、後は前の變化の如く打つべし。



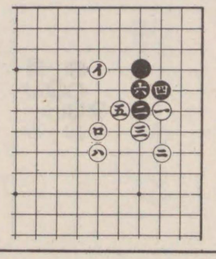
〔二二二五〕
要點約言
（第二八型ロの四）

白七或はイと上を粘げば、黒ロに切り取りハに拓くべし。然して、右邊の劫は二二七圖の如く極めて輕き意味に考へて着手する事肝要なり。



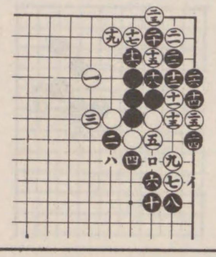
〔二二二六〕
基本圖
（第二八型ロの五）

白七は前變化の外に、④、ロ、ハ或は㊀などに打つ手あれど、これらは何れも白惡し。



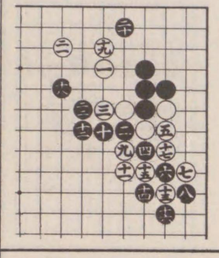
〔二二二七〕
白敗

黒二、善し。黒六は、形なり。白十五の時、黒十六肝要なり。此手を單に十八に粘げば白、黒イ、白ロ、黒ハ白十六にて反對に黒攻合敗なり。



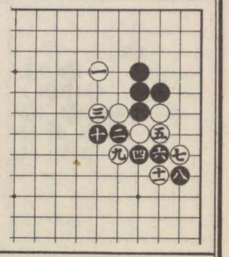
〔二二二八〕
白甚だ惡し

白九と切つて十三以下十七に血路を開く。而かも前門の虎未だ覺れざるに、既に後門の狼迫る。十八となりては、黒優勢なり。



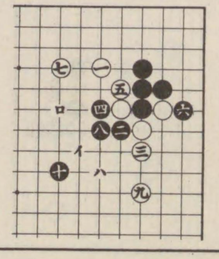
〔二二二九〕
征如何による

征惡しき場合は、黒六惡し。此形、黒は前變化の如く六を十一に打ちて、白に好手段無し。



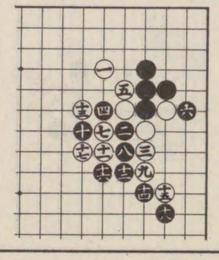
〔二二三〇〕
黒の形勢善し

白三に引けば、黒四と當て次に六と綰ぬる筋なり。黒十は、手筋。此形、次に白イならば、黒ロ。また白ロをならば、黒ハイにて善し。



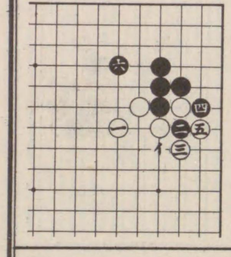
〔二二三一〕
白潰滅に類す

此形も種々變化あれど孰れの結果も白惡し。



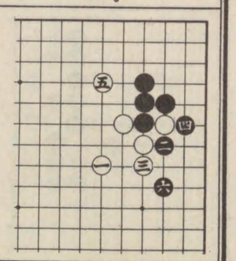
〔二二三二〕
黒善し

白一と掛粘げば、黒は必ず二に切るべし。此形に切つて劫となりイに切つて劫となれば、白黒共にその含みにて打つことが肝要なり。



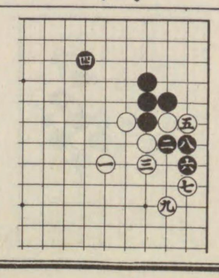
〔二二三三〕
黒堅實、有利

白一も、黒に二と切られて、損なり。白三と行びし時黒四の打抜は、本手なり。



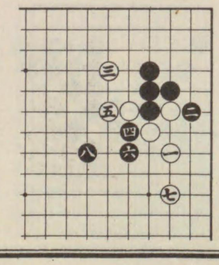
〔二二三四〕
黒有利の形

黒四と打つも善し。黒六は常に見る手筋。白九、形なり。



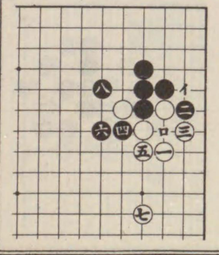
〔二二三五〕
白無理形なり

白一、惡し。黒二、肝要なり。白三と打てば黒四に切るのみ。黒八に至つては、上下の白孰れか、黒の攻撃を免れず。



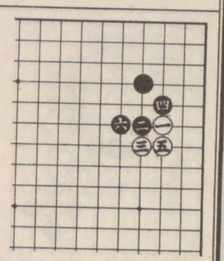
〔二二三六〕
黒の形優れり

白三には、黒四善し。白五、黒ロ、白五を打てば、黒は劫を粘きて善し。又圖の形より劫を挑めば、黒二一七圖によるべし。



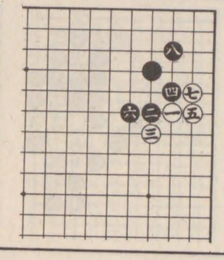
【二二三七】
參考圖

白五、黒六となり以下の變化は**二一二圖**及び**二一三八圖**と同じ。



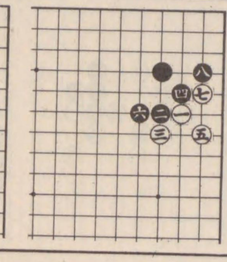
【二二三八】
參考圖

白七、黒八となり以下の變化は**二〇八〇圖**と同じ。



【二二三九】
參考圖

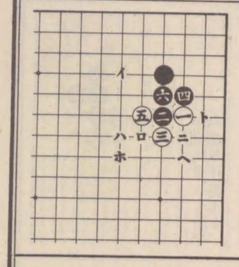
白七、黒八となり以下の變化は**二〇七〇圖**と同じ。



【二二四〇】
要點約言

（第二八型ロの五）

白七にて一**イ**に打てば黒**ロ**の切。**ハ**または**ホ**ならば、黒**ニ**の切。また白**ヘ**には黒**ト**の綽何れも白悪し。



【二二四一】
基本圖

（第二八型）

黒四の切は普通損なれど、場合により面白し。白五では、**イ**、**ロ**、**ハ**、**ニ**、及び**ホ**の手あり。此中、白**イ**手筋にして面白し。

【二二四二】
基本圖

（第二八型**ハ**の一）

白五、此形の最善の應答なり。

【二二四三】
參考圖

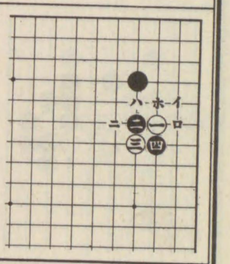
白**ロ**のある時は、邊に白ある場合、白凝形となり黒悪しからず。屢實戰に見る所なり。

【二二四四】
附切の常形

白四而して白六、手段の前後間然する所なし。若し白六を先にすれば、次に四は利き難し。

【二二四五】
白面白からず

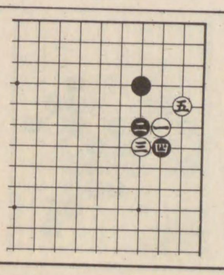
白四の手順悪し。此綽を先にすれば、次に白十二と覗くも、黒は十三、十五と打ちて善し。



【二二四六】
互角の形勢

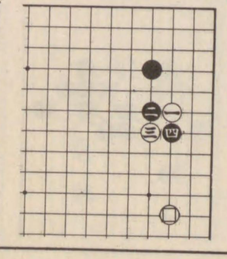
白十に打抜けば、黒は十一に當てつける形なり。

㊀劫トル
㊁劫粘



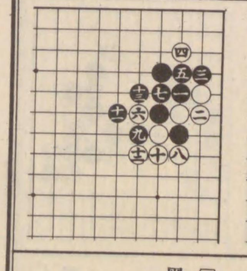
【二二四七】
白利勢なり

外の厚みを主とする場合、黒は斯く一、三と打つ手あれど、普通は黒損なり。白四を**イ**に取れば、黒七、白五、黒四となりて黒の形好し。



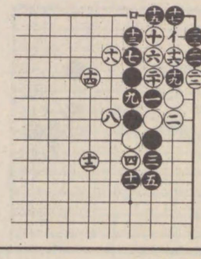
【二二四八】
黒時に面白し

黒三、無理形なれど、斯く打つ手、時に面白し。黒十一、要點なり。



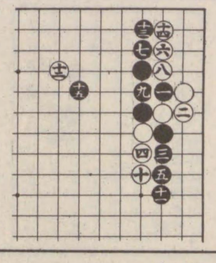
【二二四九】
白十四に敗る

白十四と強襲せしは、無理なり。黒十五、無理七、善し。白十六を十七に打たば、黒**イ**、白**ロ**、黒十六にて、白首足處を異にす。



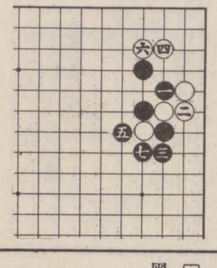
【二二五〇】
黒悪しからず

白十と押して、次に十二に迫る。白又は閃きぬ。光芒燦たり。風雲漸く急にして近く亂闘を思はしむれど、黒も悪しからず。



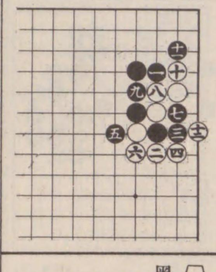
【二二五一】
互　角

白先に四に走れば、黒五に征に取りて善し。尤も、征悪しき場合は黒は前變化の如く打つの外無し。



【二二五二】
黒打てる形

黒一は、面白き手なり。元來附切る手は黒損なれば、此分れとなるも黒不利なれど、斯なれば外を厚くする形と黒の豫定の計畫と云ふべし。



【二二五三】
互角の分れ

黒三、手筋なり。黒五の時に白若し**イ**と劫に來れば、黒劫提、次に何の劫拋もキカズ八に打抜くべし。

㊐劫トル

【二二五四】
白嵌穿に落つ

白四は鈍重、悪手なり。白十二も悪し。尤も此手は**イ**と押す位のものなれど、さすれば黒十二、白**ロ**の時、黒**ハ**と行びて黒優る。

【二二五五】
黒優れり

十九に至つては、上下の黒ともに根據あり。反之、十八までの白三子は、進退攝を失ふ。黒の優勢、天日と共に明かなり。

【二二五六】
黒凝形となる

黒三に粘いで、一の黒痼形に化す。一三は悪手なり。

㊂三目粘

【二二五七】
白稍利勢なり

黒一に打つ手あり。

㊂三目トル

【二二五八】
黒凝形なり

黒十一と粘くも、同じく形面白からず。

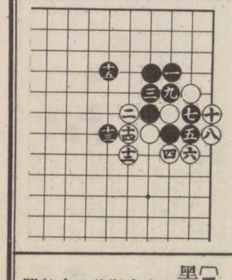
㊂三目粘

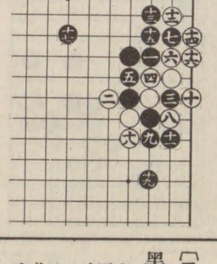
【二二五九】
黒が所期の形

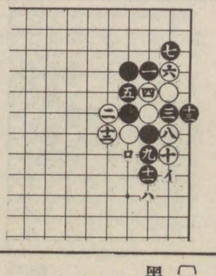
白八、悪し。圖は互角の分れなるも、十三に至つて、黒は最初附切に出たる目的を貫徹す。此圖は二二五二圖よりも黒善し。

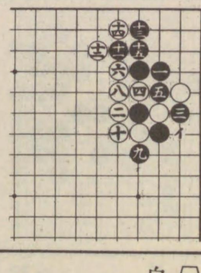
【二二六〇】
黒善し

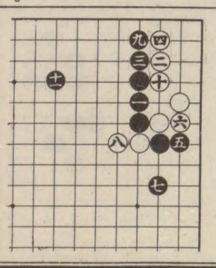
白二、四、悪し。十一に至つて、無拔孤立の白二子、是より後の戰は、多く黒せり。中を打つ形となる故、黒の有利に展開する事勿論なり。

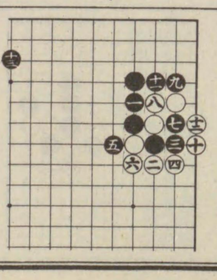


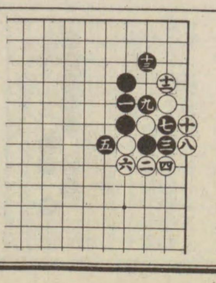


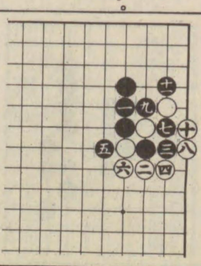






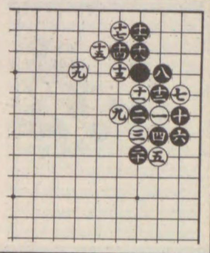






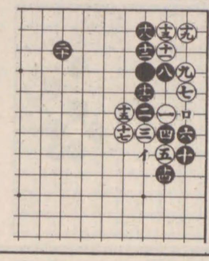
〔二二六一〕
黒利勢なり

白五の綽を打ち、次に七に尖む手あり。此形には黒八の手最も善し。白九悪し。黒二十の切りに、白驚駭す。



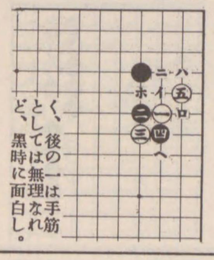
〔二二六二〕
黒打易き形

白九、悪し。また九を十に打てば、黒十七、白イ、黒ロにて、二二五二圖と同形なり。



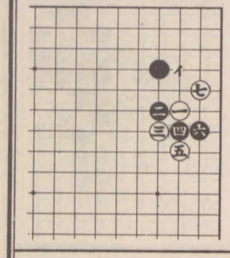
〔二二六三〕
要點約言（上）
（第二八型ハの一）

白五の時ー黒イ、白ロ、黒ハ。黒イをニ。イをホ。及び、黒イ白ロ黒ヘの變化とあり。前三つは結果略同じ



〔二二六四〕
要點約言（下）
（第二八型ハの二）

一次に、白五より當りとし、黒六、白七と尖みし場合は、黒はイと下るも一手なり。斯くなりて黒悪しからず。



〔二二六五〕
基本圖
（第二八型ハの二）

白は單に五に下る手と、白イ黒ロの後五に約へる手とあり。若し征宜しき場合は、白はイより打つ手變化廣く、後の一は手筋としては無理なれど、黒時に面白し。

〔二二六六〕
互角の形勢

此形黒一の應け最も善し。白二、四、確なり。白六をイに打てば黒ロにカケて宜し。

〔二二六七〕
黒が所期の形

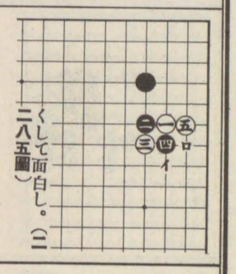
白四に粘げば、黒五と打つべし。之は後に黒イの綽の手利きなれば、隅の變化に相違あり、前圖よりは黒打易し。

〔二二六八〕
白潰滅に近し

白二に長飛す、悪手なり。黒三、五、七の利匕首に、白は苦悶血を吐くの思をなす。

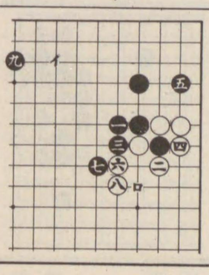
〔二二六九〕
黒優勢なり

征悪しき場合は、九はイに行びて宜し。



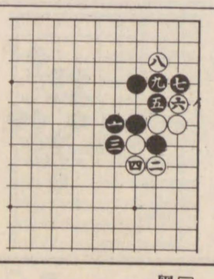
〔二二七〇〕
互角の形勢

黒一、奇手にして之も一手段なり。白四をイに抜けば、黒五はロに飛ぶ形なり。



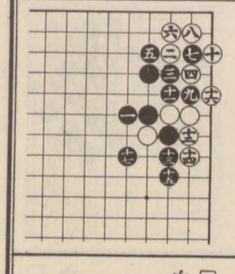
〔二二七一〕
黒優れり

白二は、眼、大局を見るの明なく、敢て低地を馳す。白四を打過なり。白四をイに打てば、黒イと征にカケて黒善し。又四をイと行びれば、黒八に打ちて宜し。



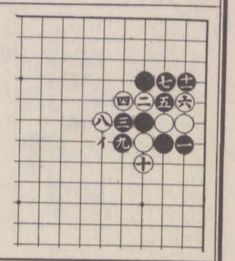
〔二二七二〕
白、罠に落つ

白十、悪し。黒を包圍せんとして、網忽ち敵の破る所となる。黒十一に、十三、十五の妙技を揮ふ。出撃し、更に近頃の壮觀なり。



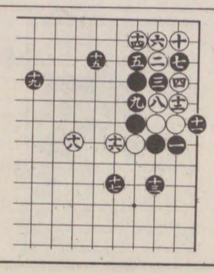
〔二二七三〕
征如何による

黒一と力戰に出づ、強手なり。尤も此手は、白二、四以下の、征の如何によりて、征悪しき場合は、黒十一はイに打つべし。（二二八七圖以下參照）



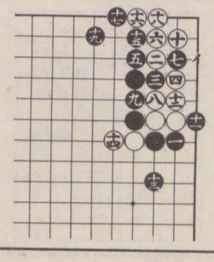
〔二二七四〕
黒悪しからず

黒七の切り、正に時を得たり。以下白に兩斷せられしも、黒は上下に根據一此形黒悪しからず。



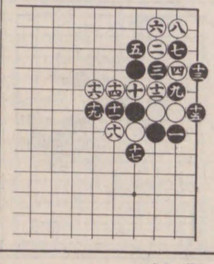
〔二二七五〕
黒優勢なり

白十四に行びれば、黒は十五の約へ先手利きなり。白十六を、若し手抜せば、黒イにて白死。



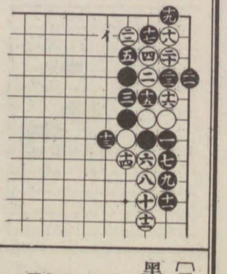
〔二二七六〕
白嵌手に陥る

黒七の切りは、奇謀を伏す。然るに白漫然八と應じて、黒九の痛撃に遭ふ。十九に至つて、白の石分裂す、甚だ悪し。



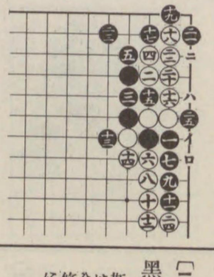
〔二二七七〕
白軍敗滅の圖

白二と打てば、黒三に粘いで宜し。白六、悪し。二二に納ね、黒イ、白十七、黒八となる位のものなり。黒十九、妙。



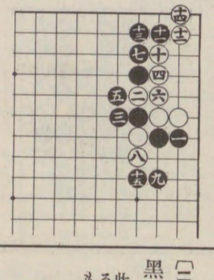
〔二二七八〕
白悪し

白イに打候き、黒ロ、白ハに打てば、白劫なれど、黒ニ、白劫提の時、手を抜くも猶劫。則ち白の寄劫なり。



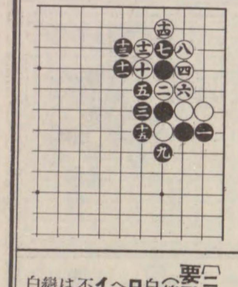
〔二二七九〕
黒大いに優れり

白二と綽ね、次に四と引く手も、悪し。



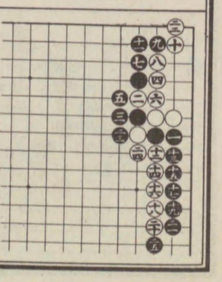
〔二二八〇〕
黒優れり

白八を先にすれば、黒九に征に取るへし。（征悪しき場合は、次圖）



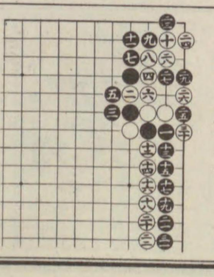
〔二二八一〕
黒少しく善し

征悪しき場合は、黒は圖の如く打つの外無し。白十二に下れば、黒十四に打つて二二七九圖と同じ。



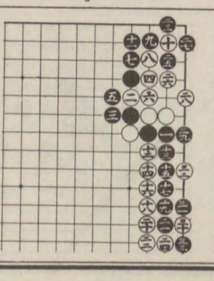
〔二二八二〕
黒勝

斯く下邊を這ふ手は、普通甚だ悪しきも、隅の白は無條件の死となる故に、此分れ黒善し。



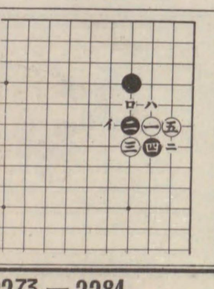
〔二二八三〕
黒善し

此攻合は黒勝となるか、或は悪しくも劫付きの持なり。



〔二二八四〕
要點約言
（第二八型ハの二）

白五に、黒はイ、ロ、ハ或はニと約へる手あり。此中イ、ロ、ハは、結果不充分なれど、手強く、多少の變化あれども黒面白し。



〔二二八五〕
〔基本圖〕
（第二八型ハの三）
白五に當りとし、黒六の時、白七に約へる手あり。

〔二二八六〕
白利勢なり
黒一に綽ねれば、白二、黒三と約へれば、變化は簡單なれど、結果黒損なり。

〔二二八七〕
白四子活無し
白□を先にせば、黒は一を可とす。黒十は一を征悪しき場合の一手、善き場合は十一を十三に約して勝。黒十九以下の變化は、出切の形一八一七圖參照。

〔二二八八〕
黒優れり
白十二に這へば、黒十三に綽上げ、黒十九、二一と振替りし手段、簡明にして黒優れり。

〔二二八九〕
黒攻合勝
白十六と打てば、黒十七にて勝。白十八をイにツケルも、黒十八と打ちて同じく勝なり。

〔二二九〇〕
黒勝
黒二五はイに切り、白ロ、黒二八と行びるも、黒善し。

〔二二九一〕
黒優れり
白四と打ちし以下の變化は、二二七九圖以下參照。

〔二二九二〕
參考圖
其外白二をイ或はロに打つ變化は、二二七四圖より二二七八圖參照。

〔二二九三〕
要點約言
（第二八型ハの三）
白五に當り、黒六、白七と約へる手は、黒にイと打たれて、結果は、何れも面白からず。

〔二二九四〕
〔基本圖〕
（第二八型ハの四）
白五に綽込み、黒六、白七、黒八と進める形あり。之は前圖よりも變化簡單なり。

〔二二九五〕
定石
定石なれど、通常の形勢にては此分れの白に利あり。黒八、肝要。八にて單に十に掛げれば、白イ、黒ロとなりて、隅の味黒悪し。

〔二二九六〕
黒も打てる形
黒が十一の當てを打たず單に十と拓きしは、後にイの切味を含む打方。黒十二の綽、肝要。此形、白利勢の如きも、黒も亦打てる形なり。

〔二二九七〕
分れ白稍有利
斯くキマリツケルは、白イの覗が厳しくなるなど却て黒地に打込を招く、黒は前圖の如く打つ方優れり。

〔二二九八〕
互角の分れ
黒十は、イと白の背面より襲ふ手も有り（次圖）。十二に至つては、黒十味宜しく先づ互角の分れなり。

〔二二九九〕
白嵌手に嵌る
白十一は十五に取るべし。十一に約へたしめ、黒十四、白十五に次で黒十六の妙手を打つ。十八に至つては、黒連絡して些の不安も無し。

〔二三〇〇〕
白嵌手に陥る
白十七、悪しくては、黒に十六の捕物を一層大きくして與へ、白大敗の形となれり。

〔二三〇一〕
黒優勢なり
白十五の行びも、悪し。なだ、十五を十七に結ぐ手も、黒二十と打つて前圖と同じ。

〔二三〇二〕
白無理形なり
白十一に取る手あるも、之も白面白からず。黒十八、二十と打つて二二に行びる手、善し。

〔二三〇三〕
右邊の黒好形
白二五は、黒がイの好點に來るを妨ぎし要點なり。

〔二三〇四〕
黒優勢なり
（白イの綽を打たぬ形の變化）
此場合も黒八と打つ手善し。若し征悪しき場合は、黒十二をイ、白十三、黒ロと打つべし。

〔二三〇五〕
黒大に優れり
白十七にては、の石を逃出すも、あれど、黒は後にイに打つ筋厳しき故に、斯く逃出すは無理なり。

〔二三〇六〕
白大敗の形
白七、無理なり。黒八の曲りを喫して、上下の白進退兩難に陥る。白九は勿論イにては粘げば、黒十に粘げて善し。

〔二三〇七〕
黒の形勢厚壮
白三、五と打つ手も、黒に完全に圍はるゝ形となる故、白悪し。黒十四より至り、十八に至つて二十、二二と轉じて守る。黒厚壮、百戦不敗の勢なり。

〔二三〇八〕
要點約言
（第二八型ハの四）
此形、白はイ黒ロ、白ハと打つて二子を取るの外なく其他の變化は多く白好ず。

〔二三〇九〕 **基本圖**（第二八型ニ）

黒四に二段綽する手あり。之は六子以上の置碁に打つ手段にして、五子以下の局にては無理なり。

〔二三一〇〕 **白優勢なり**

白九、十一手順善し。黒二四を三二なれば、白二八黒イ白二六にて白善し。

〔二三一一〕 **白の形勢善し**

白二五にて黒先手となるも、隅の白四子には、猶多少の意味あり。黒悪し。

〔二三一二〕 **白大に善し**

圖の形に於ては、黒の中の置石(■)結果に非常の相違あり。(■)に石のあるのは六子以上、置碁の場合なり。

〔二三一三〕 **白有利の分れ**

此形、白黒共各九手を費せるも、白の方大なり。

〔二三一四〕 **要點約言**（第二八型ハ全部）

黒二、四の附切は、石を乗てゝ外勢を張らんとする時、或は白の形を凝らさんとする場合打つことあれど、形としては黒好まず。

〔二三一五〕 **基本圖**（第二九型）

白三と綽込む手あり。場合の手段、時に面白し。

〔二三一六〕 **基本圖**（第二九型イ）

白三に、黒はイと四に切る手とあり。四は嚴しく、イは穩かにして、何れも、結果黒悪しかるべからず。

〔二三一七〕 **定石**

黒四は、白三をイと掛けるに對する征の可否によるべし。變化は二三一九圖以下及び參照。二三一〇圖

〔二三一八〕 **黒味善し**

黒六に綽ねるや、白は未だ危險身に迫らざるに周章七に退く。富士川章の水禽に驚きて逃げたる公子の蹌踉たるも擬せんか。白七以下前圖を可とす。

〔二三一九〕 **白の勢善し**

征にカケラれる場合は、黒二の手悪し。

〔二三二〇〕 **互角**

前圖の如く征に取られる場合は、黒は二より當てるべし。白一に至り、兩軍の形勢互角なれど黒の陣容は鹹に類す。

〔二三二一〕 **黒劫勝**

白七、味悪し。夫れ戰の機は、瞬の速を尚ぶ。黒は飛ぶ電の如く八に襲ぬ。八は可。白九を十に行けば、黒九にて善し。

〔二三二二〕 **白殄滅す**

白十五と約ゆ。白十九、二一は手筋なれど、黒イの先手利きを脫み二四を下すに及んで、白遂に起たず。白の伏屍累々、野を蔽へり。

〔二三二三〕 **黒攻合勝**

白十九と約ゆ。二九に至つて、黒三十は要點なり。嗟乎、一步を誤れば千仭の谷！須らく兵は大膽にして且つ細心なるべし。

〔二三二四〕 **白の雄圖空し**

白十七と強襲し來りぬ。更に十九と約へたり。黒は傳家の寶刀を拂つて二十に切る。劍閃花と散つて二六に至る。白軍の雄圖遂に成らず。

〔二三二五〕 **黒攻合勝**

白イの當を打たず單に五と行びる手あり。變化は前と略同じ。黒十八を二一ならば、白十二八に綽出す手あり。（二三二二圖比較）

〔二三二六〕 **黒好味打易し**

白イに當てずして直ちに五に當つて、甚だ意氣に乏し。黒六、八に好調を得たり。

〔二三二七〕 **黒利勢味好し**

白三に行びれば、黒は四に粘さて善し。

〔二三二八〕 **白軍落日の嘆**

白五悪手なり。黒六に至つて、白軍は落日の觀あり。六以下如何に變化するも白に手段無し。

〔二三二九〕 **白、支離滅裂**

白十五より變化す。而かも白の形勢依然として芳しからず。

〔二三三〇〕 **黒形大に優る**

十六に打拔くも、黒の形勢良し。白二三を二四に下れば、黒イにて勝なり。

〔二三三一〕 **白大敗**

白二三に盤るも、圖の如くなりて、白惡し。

〔二三三二〕 **黒優れり**

白は七以下十七まで低地を這つて、黒に厚富を與ふ。而かも白は之に代るべき有利の點無し。白甚だ振はず。

〔二三三三〕**要點約言**

（第二九型イ）

白三に、黒は四と下より切り、白五の次に、黒はイとロとの二あり。これは征の如くによるも黒善し。

〔二三三四〕**基本圖**

（第二九型ロ）

黒四と約へる手あり。此應答も黒確なり。

〔二三三五〕**定石**

黒六確にして良し。之を九に約れば白六に切る手あり、黒好まず。（二三四圖以下參照）黒八、十二の二段綿、十筋にして面白し。

〔二三三六〕**黒優れり**

黒十四の時、白は軍を旋して五向ふ。夫れ機會は前に掲ふべし。黒乃ち十一瞬を以て捉へず、白の牙城を迫り、黒面白し。

〔二三三七〕**黒優れり**

白十一と綽ぬる手も場合によれど、多くは白無理なり。黒利は又を振つて十二に切る。此形、黒根據あり、兩斷さるゝも黒優れり。

〔二三三八〕**黒優れり**

白二三に行びたり。黒二四の一七能く白の命を絶つ。黒二六に至つては、白に萬策盡きたり。

〔二三三九〕**白無理形なり**

白は二七にて一見攻勢に出でたる如くなれど、其形理を免れず。果然無生ず、上下に弱石を上、白甚だ打惡し。

〔二三四〇〕**互角の勢**

白九輕し。又、白七との綽を打たず黒九に掛ぐるも亦互角なり。此場合は、黒七に下るべし。

〔二三四一〕**黒優勢なり**

白五、黒六、八の猛撃に、白は色を失ふ。蓋し黒六、十八は可、十六、十八は、征、黒十二に宜しき場合の手なり。惡しき場合は次の二圖に。

〔二三四二〕**場合による**

征惡しき場合、白十五に行れば、黒は十六、十八の外無し（猶次圖參照）白二一を二四に打てば、黒イにて攻合勝なり。

〔二三四三〕**黒利勢なり**

征惡しき場合黒は六を堅實とす。黒七、白九、黒十三にて三形。二三五圖六は、同形。又十三を十一に至つて、白軍の勝機遂に去れり。

〔二三四四〕**黒優れり**

白五なれば、黒六、次に八と切る手よし。黒十と行び以下十四に曲る手は、征の如何により可なり。否あり（二六二圖參照）。

〔二三四五〕**黒利勢なり**

黒征惡しき場合、圖の如く十と切つて宜し。（前圖參照）

〔二三四六〕**場合の手段**

（白◎のある時）

二子番

本院坊秀哉名人 勝 宮坂家二六段

兩氏の打掛にあり。白此通常無理なれど、白◎にある一を利し黒を攻撃せんとす。蓋し場合の良着なり。

〔二三四七〕**白有利の形**

（黒◎のある時）

本因坊秀哉名人 エフ・デュバル（獨逸本因坊）

兩氏の打掛にあり。黒六は、イに綽ねて先づ隅を爭ふべし。

〔二三四八〕**黒として不好**

黒二に約へれば、白に三と切られ難しき變化となる。形勢は互角なれど、黒としては好まず。

〔二三四九〕**黒幾分無理形**

黒十六は、イ一ロ及び其他の手段あり（互先大斜定石の部參照）。

〔二三五〇〕**黒多く好まず**

黒四に粘く手あり。白蹈躍して五に下る。十一に至つて互角の形勢なれど、局勢前途の波瀾を思はしむ。此形も黒として好まず。

〔二三五一〕**黒陷穽に陷る**

黒六の一聚に、敗兆現はる。白七と出、次に九へ出、可なり。黒十を約へる。白十九、黒十一に粘げ、白十三、黒十四に粘いで、白十五に粘いで、同じく白勝なり。

〔二三五二〕**黒好まず**

黒十二と行びれば、白十三、十五次に十七と眼を作る手、皆善し。黒十八を、白イに打てば、十九に切取つて攻合勝。

〔二三五三〕**白十七に潰ゆ**

白十七、惡し。爲に黒より十八と十九との交換を强ひられ、二十に至つて、白軍の勝機遂に去れり。

〔二三五四〕**白勝機を逸す**

白は、單に七と約へて勝機を逸す。此形、七は惡し。隅は白先死、黒を取れど、白が此黒を中に厚くせば、黒は却て白惡し。（次圖）

〔二三五五〕**白潰滅に近し**

（前圖參照）白十七をイに打てば攻合勝なれど、さすれば、黒ロのシメツケを先手に利かされること、となり、白大いに惡し。

〔二三五六〕**黒稍可なり**

白五に行びる手惡し。黒六、八善し。

〔二三五七〕
要點約言
（第二九型ロ）
黒四、白五となりし時は、黒にイとロの二途あり。イは確にして結果黒宜、ロは難しき場合の手なり。

〔二三五八〕
基本圖
（第三十型）
白三を㋑或は㋺、㋩等に打つ手あり。尤も是等は特殊の形勢に於ける手段にして、普通の場合は盡く悪し。

〔二三五九〕
黒可なり
白九をイに掛ければ、黒には九の切取れる故、十は他に打つも隅の黒確なり。

〔二三六〇〕
黒厚壮なり
黒六の時、白七に赴きぬ。悪手なり。黒は機を逸して八と到りたる常用の手筋に出づ。十四に至つては、黒の外側厚くして壮なり。

〔二三六一〕
黒甚だ優勢
白の五に黒少しも慌てず、六に當てロに下る。白九の救助を出せば、黒十四の險要を掘す。黒十四の好形より延いて二十に至る。

〔二三六二〕
黒勝れり
黒六の攻防に遭つて、白九に守る。黒乃ち十に叩き十四に扳し、十四は本手なり。黒の威風中原を壓す。

〔二三六三〕
黒悪しからず
白五には、黒六と切つて充分戰ひ得べし。白五を六ならば、黒九に粘るべし。此形、黒兩上共に確なれば悪しからず。

〔二三六四〕
黒厚き形なり
白九を先にすれば、黒は十二と扳に取るべし。黒十六、若し白より十一キビシキ征當たり無れば、イに打つも善し。

〔二三六五〕
黒勝れり
白十九を二十に行びれば、黒は恐れずイに當て、若し白十九ならば、黒は封を爭ふべし。假に封に敗けも黒ロと飛ぶ位にても、此當には打たざるに如かず。

〔二三六六〕
互角の形勢
（白㋑のある時）
白㋑のある場合は白一の行び、悪しからず。

〔二三六七〕
場合の手段
呉清源當時四段
先番鈴木秀子三段
兩氏の對局にあり。三一までの結果は、互角の分れなり。

〔二三六八〕
要點約言（上）
（第三十型）
白三と行びる手は、黒四、白五、黒六となりて、普通の形勢に於ては、白必ず悪し。

〔二三六九〕
黒の外勢善し
白一低し、好まず。黒二、隅の小利を捨て、中原厚壮の大利に就く、可なり。また、黒二を、イ、白ロ、黒ハと打てば、白二、黒ハ、二〇八一圖以下と同じ。

〔二三七〇〕
黒堅實打易し
黒六、要點なり。

〔二三七一〕
白低く黒整ふ
白三も、一面白からず。

〔二三七二〕
黒優勢なり
白一の斜走、悪し。黒二、四、六は、十まで手筋なり。變化簡單、黒打易し。

〔二三七三〕
白潰滅に近し
白三の下り、悪し。十四に至る。白は黒の重壓に堪えかねて呻吟す。

〔二三七四〕
白低く好まず
白一普通は、隅偏して、好まず。黒十は手抜するも宜しく、また白イの邊に打つも宜し。（此變化は二〇九六圖參照）

〔二三七五〕
黒の形甚だ善し
白七に粘げば黒八に掛け、次に白九を手抜せば、黒十一に引きて、白大いに悪し。

〔二三七六〕
黒優れり
白三と押す手あり。此場合黒四と打てば確なり。白十七を十八ならば、黒十七、白イ、黒ロと打つべし（その論は、勿論黒ハイにて白死）。

〔二三七七〕
分れ黒稍有利
白五は、斯かる形に於ける常用の手筋なり。黒六、決して到る、手強し。黒八以下の手順、肝要。此形白イに約へるも、黒イに約へて猶勝なり。

〔二三七八〕
黒に稍利あり
此形、白イに約へるも黒手抜しき悪しからず。次に白無理劫を仕掛けて結果白悪し（次圖）。

〔二三七九〕
白無理劫悪し
（前圖參照）
斯く打てば劫なれど、次に黒イと打抜かれ（何の劫も抛もキカズ）ては、白悪し。

〔二三八〇〕
振替得失無し
黒六に粘げば分り易く、結果も亦、黒悪しからず。但し征悪しき場合は、黒は次の如く打つべし。

〔二三八一〕
五角の形勢

白九を十に粘げば、黒九に打ちて宜し。隅の白には、黒イにて、猶死殘れり。

〔二三八二〕
黒優勢なり

前圖までの如く黒五、白四にて黒の面白から㋑ぬ場合は、黒は圖の如く打つ手もあり。（二一〇二圖以下參照）

〔二三八三〕
白の手段無理

白九は、窮して亂打する小人の喞りを免れず、無理なり。黒十、十二と攻め、十四に至り背後を襲ふ。白遂に起たず。

〔二三八四〕
黒の勢善し

白十五に約へ、十七に至る。白十七、手順妙なり。此手を十九に當てれば黒二十に粘ぎ、白二黒十七。

〔二三八五〕
黒確なり

黒一と打つ手もあり。これも、黒惡しからず。黒八、次に十と掛ける手善し。

〔二三八六〕
場合による

黒四と行ぴる手もあり。白五イならば、黒ロ、白九、黒ハと何處までも厚く行ぴて黒優れり。

〔二三八七〕
黒厚壯、善し

安井知得（八段）**林鐵元**（初段）
兩氏三子局（黒勝）にあり。黒㊀のある場合は、黒四と約へて宜し。尤も、此形場合によるべし。

〔二三八八〕
分れ黒稍有利

黒十まで、形としては黒好まざれど、白一と黒二との交換あるだけ、黒有利なり。

〔二三八九〕
黒有利の分れ

黒八と、堅守す。斯く打つも猶隅には多少の手段殘りに居れど、此處に手を施さんとするは白無理なり（次圖）。

〔二三九〇〕
黒優れり

（前圖參照）白一と絆ねて隅に手あり。但し時機に早ければ、假令活きるも圖の如くなりて白惡し。又、黒は二を四、白十二、黒ハと何處までも厚く行ぴて黒優れり。

〔二三九一〕
要點約言（下）

（第三十型）
白三の變則手段としては、前述㋑の外㋺、㋩に㋥等あれど、㋺には黒㋑、白㋺、㋩には黒ホ白ヘ黒ト。

〔二三九二〕
附定石の總評

（自二八型至三十型）
黒二と附ける着意は、直接白とアタリに彼我接戰の間自然に形を定めんとする最も確實なる手段なり。

〔二三九三〕
基本原圖
白小斜走懸りに對する
黒一間應け

黒二の應けは、攻めを主とし守りを從とする最善の形にして、近來の實戰には毎局現はれざること無し。

〔二三九四〕
基本圖

（第三一型）
白三は、黒一に對する最も普通の應手なり。猶三では此外㋑、㋺、㋩、ニ、ホ、ヘ等あり。

〔二三九五〕
基本圖

（第三一型㋑）
黒四は、白三に對する定型。猶此手は、㋑、㋺、或はハと打つこともあり。

〔二三九六〕
基本圖

（第三一型㋑の一）
白五は、最も穩健の手段なり。

〔二三九七〕
定石

白七の尖には、黒八よりの尖附け最も善し。

〔二三九八〕
白無理形

白四は黒を厚くして惡し。黒五では㋑或は㋺も此場合此下り最も善し。隅は黒ハ、白ニ、黒ホと綽ねへの下りを利かす手あり。

〔二三九九〕
黒堅實、善し

白八を㋑は、黒㋺に、前圖よりも白惡し。黒九を以て㋑或は㋺等の凡庸に出でゝ◎の白と刃を摩し、つゝ、右十と左十一とを兩睨みにす。

〔二四〇〇〕
白惡し

黒九は、十二に粘げば確なり（次圖）。二一に至つて白は上下共に形を損ず。

〔二四〇一〕
互角の形勢

白十四、手筋なり。白二六、善し。（變化一間高掛り四四三圖以下參照）

〔二四〇二〕
互　角

黒五に打てば變化分り易し。

〔二四〇三〕
黒の形勝れり

白四は、時機を見て打込むべき手なり。早き時は、却て白の形を損ず。黒十三、十五、手順なり。

〔二四〇四〕
白無理形なり

黒十一の綽に、白十二と打つ。敵愾の意氣眉宇に漲るも而かも時利あらず。九ばゝ、項羽も敗れんザーも斃る。十九に至つては、黒の威風凛たり。

〔二四〇五〕
白甚だ惡し

白十二、十六共に、唯々として黒の頤指に甘んず。十二は前圖變化の如く、十七と打つべし。白十八を十二と四なれば白死なり。

〔二四〇六〕
黒堅實、善し

白四とハザマを打て黒の切れ目を狙ひ、以て奇襲を企つ。而かも奇襲も無理なるを免れず。黒は十一に至つて此に㊀に逢ひ金城鐵壁、局面を壓す。

〔二四〇七〕
白窮地に陷る

白四、六以下、大いに無理。二五に至つて、遂に大敗の形となれり。㊀ッグ

〔二四〇八〕
黒甚だ優勢也

白十八を二四に掛けて粘るも、黒は二二。次に白㋑なれば、黒㋺にて、黒拔勝なり。㊀三目ッグ

〔二四〇九〕
黒の形善し

黒十一に守る、堅實なり。嵐の前の靜けさよ！上下の白と烈戰の機、近し。

〔二四一〇〕
白全滅

白四以下、十、十一と駄目詰よりの不利を冒して切る。暴虎馮河の勇なり。二九に至つて白は悲號するとも遂に及ばず。㊀二三ノ處ッグ

〔二四一一〕
黒劫勝

白、二十を二一ならば、白㋑の時黒二五にて善し。圖は劫なれど、黒先に劫提べき劫之に代る劫無きを通形とす。

〔二四一二〕
要點約言
（第三一型㋑の一）

此形白より、隅の㋑或は㋺打込、或はハに覗いて切を狙ふ手段あれど、何れも無理なり。

〔二四一三〕
定　石

白四を㋑に打てば、黒四と打つべし。其他の中央への發展の手段は、黒は通常の形によりて宜し。

〔二四一四〕
黒確なり

白二と狹く拓けば、黒は五、次に七、九と綽ぎ、白を凝形とする手段善し。

〔二四一五〕
定　石

白二と三間に拓けば黒は五に守り次に㋑の打込を狙ふべし。（打込の變化は五六四五圖參照）

〔二四一六〕
基本圖
（第三一型㋑の二）

白五、嚴しくして而も堅し。黒六は、白に打つに、黒ハ。黒㋑、強く戰ふには、黒ホ、黒ニ、白ヘ。

〔二四一七〕
黒手厚く善し

黒一、三は手段にして一時は難しきも、共變化となるも、以下一段落すれば、黒七、却て打易し。白九、手順善し。

〔二四一八〕
黒厚く、善し

黒五の時白六に拓けば、黒は七に押し白八を導いて九と打拔く、次いで大に駐し、宛ら順手の行兵を思はしむ。

〔二四一九〕
白慘敗の圖

白六と道窟を企つ、惡手なり。黒十七は佳手。白二、二を黒二三に突出して打てば、二二の子を取る故、右の黒打易し。㊀五ノ處ッグ

〔二四二〇〕
黒利勢なり

白十八に切る。二十まで必然。黒二一に多忙なり。白左右に至つて、中央五に至つて、互の勢、邊と隅に黒は地あり。㊀五ノ處ッグ

〔二四二一〕
黒優れり

白十八に行びゝ、黒十九に粘ぐべし。尋いで白二十に備へゝば、黒二一に飛んで形勢優る。㊀ッグ

〔二四二二〕
白の形薄し

白四に引けば、黒も五に引くべし。白六は、次に白イ、黒七は、白ロ、黒ハ、白ニの狙あり。則ち、黒七は緊要なに陥る。子は厳の重圍。

〔二四二三〕
白低く中薄し

白十二にて十四に実めば、黒十二にて十四に下るべし。二三に至つては、上邊の白低く、また中央の白形薄し。

〔二四二四〕
白 敗

白十二に切る。蓋に極つて潰滅の因を作す。黒十三、尋いで白十四に、黒イの防ぎしも、遂に敗亡を免れず。

〔二四二五〕
黒優勢なり

白四、六と運べば、黒は七に一喝を加へ、白の八と佞むに乗じて九に切断す。佳手なり、厳しさや秋霜烈日を偲ばしむ。

〔二四二六〕
黒優勢なり

白二四を二五に打てば、黒イに白ロと打つて宣し。此形若しなければ、黒ハの手入れに綿ねて白死なり。

〔二四二七〕
黒 勝

此關係は、白イの征に黒に不利の場合に打つべし。一を口に答し征

〔二四二八〕
黒有利の分れ

白八、黒九、共に手筋なり。白十を十六に約へば、黒左右の白孰れか窮命を免れず。

〔二四二九〕
要點約言（上）
（第二一型イの二）

白五のカケに對する黒六の應手の中、黒の八の出切りは、嚴しき手にして、之には種々變化あれど、共結果は何れも黒面白し。

〔二四三〇〕
定 石

黒六の附行、確かなる應手なり。隅の黒は、黒イ、白ロ、黒ハと打てば活あり。

〔二四三一〕
互 角

黒十一の手筋奇想天涯より來るか？十二を導いて黒十三、十四を誘つて黒十五。嗚呼、黒が用兵の妙茲に極まれり。

〔二四三二〕
黒勝れり

白十二には黒は十三。白十四を十七にて宜し。尋いで黒は白ロなれば釜中の魚か、籠中の鳥か、白の二子重圍に泣かん。

〔二四三三〕
黒優勢なり

白十二に猶白十三をイなれば、黒十四、黒十五。又白イを十二。何れも黒善し。

〔二四三四〕
要點約言（中）
（第二一型イの二）

黒一、以下五と打てば、白六は段の餘地無し。猶白六掛げしを若しイに掛ければ、ニ〇七〇圖となればニ〇八〇圖。ハなれば二〇九圖以下と同じ。

〔二四三五〕
黒堅實、善し

白四に附ければ、黒五、次に七に掛ぐ手宜し。又黒五を六に綿込めば前の變化と同じ。

〔二四三六〕
白打過の形

白八、十、十二の手段無理なり。若しら、黒は十九を二六に粘つて善し。三一に至つては、白薄く甚だ惡し。

〔二四三七〕
白 敗

白十四に下らば、黒十五に粘ぎ、次に黒十七に切るべし。此形、十二までの白、氣息奄々たり。

〔二四三八〕
黒有利の分れ

白八、十と扳を先にして、以下白十四に突出せば、黒は振替り黒十五に粘いで此。また黒十一は黒イに戰ふに行びて惡しからず。

〔二四三九〕
定 石

白十一なれば、黒十二へ粘。確なり。（二〇五八圖以下と略々同じく共圖よりも黒善し。）

〔二四四〇〕
黒堅實、優勢

黒七同じく手筋なり。（斯く附せしは以下の變化は二四三一圖以下參照）

〔二四四一〕
定 石

黒一、手筋なれど、時に凝り形となる虞あり。白四の尖付、確なり。此白十に打ちては、黒五に切り、白十二まで、黒イに打込めば、黒ロに尖む形なり。（次圖）

〔二四四二〕
黒堅實打易し

白一の秋に當りては、左右の白、形浮り。而かも進退據を失へば、黒騎虎に入る。と單に至つて、白の形益〻薄し。

〔二四四三〕
白大敗

黒四、手順善し。白七を九に打たば、黒は必ずイに先づ三を待つて二に粘ぐ手。白肝要の一着。順序、後先、時に不着の恨を招くべし。

〔二四四四〕
黒確なり

白六に斜走せば、黒は七に攻め九に守るべし。黒十三、堅きに過ぎる嫌ひなれど、眼の關係上、此手最善し。

〔二四四五〕
黒堅實、優る

黒十三は、獨語すらく、我が敵は正に能一寺に在り。本寺に在りと。則ち、白十四。黒イを十五に打ちたば、鞭聲肅々夜河を渡つて彼岸に盤つて黒優る。

〔二四五六〕
黒打易し

白四に左を守らば黒五に備へて次にイのハザマを狙ふべし。九に至つて白ロ黒ハと、分れ互角なれば、此黒は隅の活ありて打易き形なり。

〔二四五七〕
黒優れり

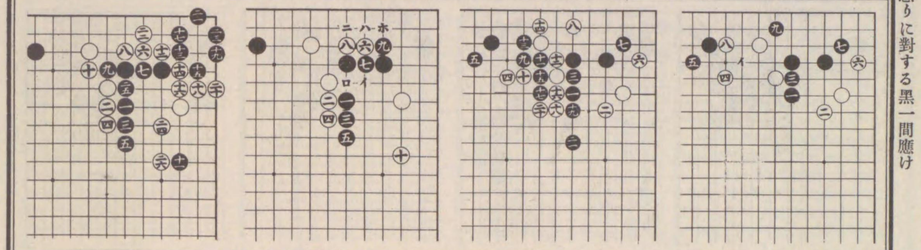
白八、打過なり。好機逸すべからずと、黒は隼の如く、白の虚を衝きたり。左右の白二一に至り、左の白危機に瀕す。

〔二四五八〕
白面白し

白二と押す手面白し。黒三、常形なれども、この場合好まず。（二四五〇圖）黒七を九なら、白イ、黒ロ、白七、黒八、白ホとなりて黒不利なり。

〔二四五九〕
黒崩れ形なり

黒十一は惡し。十三は十四に下るべきなり。下れば白十三に約へても白利勢となつては、黒の陣容崩る。



〔二四六〇〕
黒有利の分れ

黒三、手筋甚だ面白し。黒九は、白十二を十三ならば黒イ白ロ黒ハと、白の四を征に取り得る場合に限る。征惡しき場合は、

〔二四五一〕
黒厚壯なり

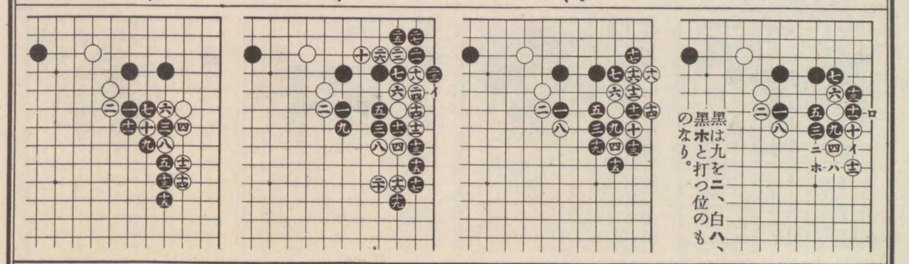
白十二より變化す。黒十五と征に取り、更に十七に白を屈服せしめて十九の打抜きに至る。（前圖黒の厚壯なり。）（前圖說明參照）

〔二四五二〕
白十四に敗る

白八と押せば、黒九、白十の時、黒十一、十三、十四、惡しし。十四は十五に取つても、白二子を捨てる位のものなり。

〔二四五三〕
黒大に優れり

黒五、輕妙。黒七、常に見る手筋なり、面白し。



〔二四五四〕
白無理形なり

斯く打つも、黒は惡しからざれど種々し變化ありて紛らはし。故に若し征宜しき場合は、黒は次の圖の如く打つべし。

黒は九を二、白八、黒ホと打つ位のものなり。

〔二四五五〕
白嵌手に陷る

征の工合にて黒は只十三に粘り手善しに、白十四を十五に綿れば、黒十四を十五と略同じ。（大）三ノ處ツグ

〔二四五六〕
黒の形輕妙

黒七は剛毅にして、佳手なり。白十六をイならば、黒ロにて白好手段、無し。次に黒二ならば、白イ、黒ホ。

〔二四五七〕
白の形惡し

白八以下、手段を凝らして十四に出でも、其甚だ面白からず。此形、粘り次に黒は、白ロ、黒ハに切り單に五方面の石を堅くするも良し。

〔二四五八〕
黒の形優れり

白六を先にせば、黒七にて宜し。此形は、猶他に變化あれども、要するに輕妙なる黒五の意と、繼いで着手せば、執れの變化も黒面白し。

〔二四五九〕
黒厚く、善し

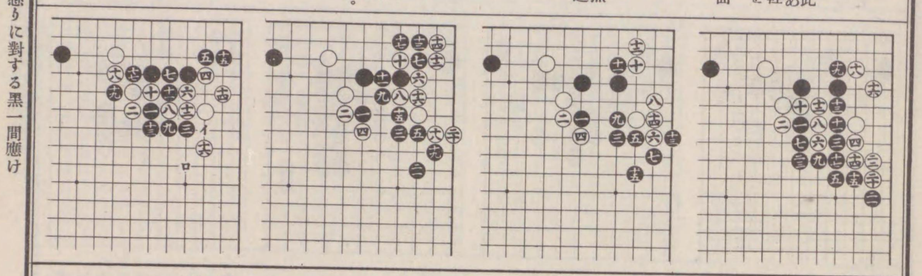
白四と綿れば、黒は强く五に約へ込むべし。

〔二四六〇〕
黒甚だ優れり

黒九、普通は惡しき筋なれど、此場合は特に好手なり。

〔二四六一〕
白潰裂の慘

白八をイならば黒ロ、又八をロならば黒八。何れも黒善し。白十を十三より切れば白は十二より當てる形なり。黒十一、辛辣、白潰裂の形。



〔二四六二〕
白の形働あり

イ或はロに白のある場合には、白に二と押される圖の如く棒右となるなり。斯る場合黒一の飛惡し。（次圖）黒三を六に打つも、白ロと押されて黒惡し。

〔二四六三〕
白凝形なり

若し白□にある場合は、黒は一に附ける定石によるべし。白四と附けるも黒五と綿り込みて、以下圖の如くなりて、白□の一着却て重複の觀あり。

〔二四六四〕
黒勢善し

白六を七に押せば、黒は六にかけて前變化の如く打つべし。黒十三と堅を持して隅を固めるも、百尺竿頭一歩を進めてイに要撃するも善し。

〔二四六五〕
互角の分れ

黒五に覗き、白を六に粘がしめて之を重くし、而して七に繋ぐ。黒の手順、十一に尖めば確なり。

〔二四六六〕
黒の形弛め

黒一はツツ手なり、イ或はロを本手とす。白二、四と要に打つ、次に六を占め、形となりては白面白し。

〔二四六七〕
白利勢なり

白八に打ち、黒九、白十、黒十一、白十二と行て下に優勢線（第四圖）の地を作る白の手順、甚だ可なり。

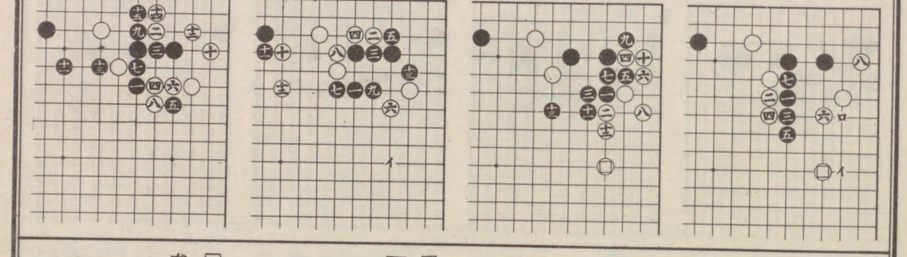
〔二四六八〕
要點約言（中）

（第三一型イの二）

黒六には、白にイ、及びロの手あり。イには黒ハの手あり。ロには黒イ。又ハにはホ（二四六六圖）にて善し。

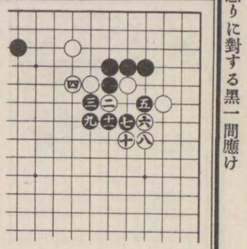
〔二四六九〕
參考圖

白五、七實戰によく見る手なれど、無理筋にして本手に非ず。



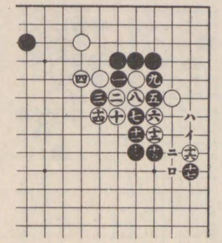
〔二四七〇〕 黒手筋を往く

黒三の後、五、七、に出撃す。手筋の上乗なるものなり。



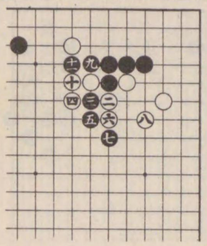
〔二四七一〕 白嵌手に陥る

白八重き筋なり。黒十七に至つて、白は西天落日の悲運。既に用武の途無し。若し此時に白イなれば、黒ロ。又白イをハなれば、黒ニと打つて善し。



〔二四七二〕 黒利勢なり

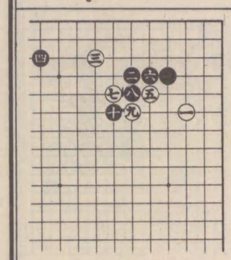
白四、六も矢張り無理筋なり。征宜しき場合は、黒七を直に九、十一と突出して宜し。



〔二四七三〕 要點約言（下）

（第三一型イの二）

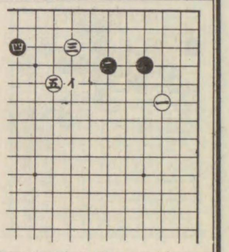
白五、七とカケシ時は、黒は強く、八、十と切る。結果は如何に變化するも黒善し。



〔二四七四〕 基本圖

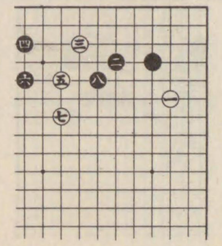
（第三一型イの三）

白五は、三の石を中央に發展する手段の一なれど、飛に比して、其イ形白好まず。



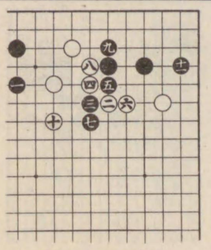
〔二四七五〕 定石

黒は八により、自らを堅くし且つ鋭を擬して迫る。八、要點なり。



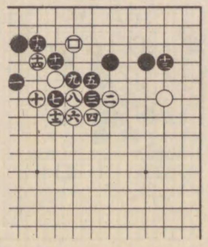
〔二四七六〕 黒の形完し

白二を六ならば、黒は四に尖みて善し。黒三手強し。猶黒は十一と隅に地を作りし形なれば、場合によりては三、七の二子を棄つるも悪しからず。



〔二四七七〕 黒利勢なり

此分れ黒は□を取りて地を作り、白は七を打抜いて中央を厚くしたる形にて互に一得一失。黒とてあれど、隅邊の確定したる丈に打易し。



〔二四七八〕 黒有利の分れ

黒五、七に替る手段も前形と略同じく黒有利なり。又初めの白二を六に打てば、黒イに打て二四、三〇圖以下に依るべし。

〔二四七九〕 黒は虚に乗ず

黒三は、五の附越を狙ふ、面白し。圖の結果となりては、白甚だ窮せり。

〔二四八〇〕 要點約言

（第三一型イの三）

以上の如くにして、白五の斜走には、黒はイに尖み、次にロの附越を狙ふ。手段最も面白し。

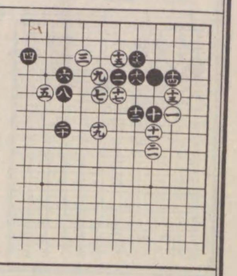
〔二四八一〕 基本圖

（第三一型イの四）

白五は變化ある手段なり、手筋なれども、稍無理なり。

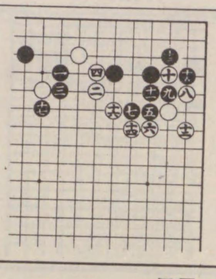
〔二四八二〕 定石

此形にては、黒六と手強く打つて宜し（互先二間夾の部參照）。黒十は攻守兩樣の好手段なり。



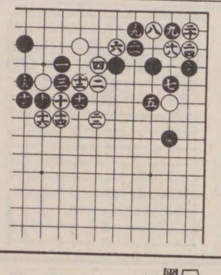
〔二四八三〕 形勢互角

白八なれば黒は九以下の定石によりて良し。



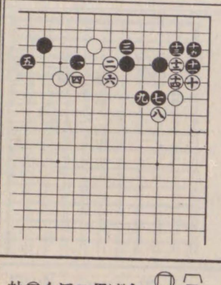
〔二四八四〕 黒堅く、優勢

黒七は二一もあり、然し斯く振替るも面白し。黒九、此場合善し。白十の時、黒は圖の如く左邊を厚くする手段最も可なり。



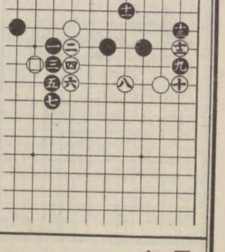
〔二四八五〕 黒形申分無し

白二、面白き手筋なり。黒七、九の着意は、前圖に同じ。此場合黒三とあるに、夫に黒十一は、故に、斯く打て隅を堅くする手宜し。



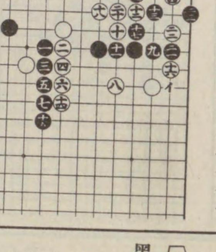
〔二四八六〕 黒確なり

白二、四に押す手は白□穴着となる。故に悪し。黒九、十一臨機の好手、甚だ確なり。



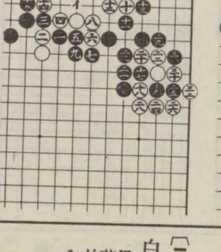
〔二四八七〕 黒自ら斃る

夫れ兵は活術にして死學にはあらず。然るに黒は九と常形に泥む、機變に乏し。前圖（機變に五も悪し、イに黒十は活を圖る位の悪手なり。黒遂に死す。



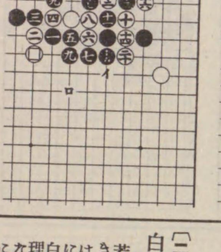
〔二四八八〕 黒優勢なり

白二、四、打過なり。白十二を十三に鎧袖一觸白ら倒るべし。黒十七、十九は、機宜の好手なり。此形黒着手はイと附けて劫とする手あり。



〔二四八九〕 □二の白腐る

白十を十一に打て黒十一、白十五、黒□にて上邊の白イ活なし。又圖の如くなるも、白二、劫の□の二子は全く無劫の石となれり。



〔二四九〇〕 白の形崩る

戰に臨んで備を密にするは、敵を待つの禮なり。黒乃ち堅守して、白十二、三に過なり。

〔二四九一〕 黒厚く打易し

白四に打てば、黒五より約へて宜し。白十四をイに打抜く時は黒は十六に下るもあり。又強く十四と劫にする手もあり（次圖）。

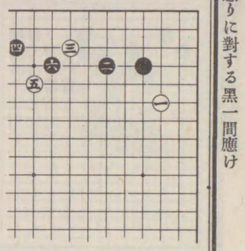
〔二四九二〕 白無理形なり

黒十五と當てし時、若し白イと切つて劫とすれば、黒劫を劫へ（次圖）断然十を提ぎて善し。

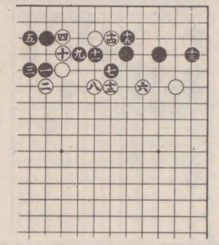
〔二四九三〕 白嵌手に陥る

若し白に極めて大き劫ある場合は、圖の如く十五に下る手も有り。白十六以下甚だ無理。白十八、黒は十二六に粘ぎて善し。

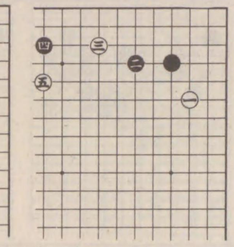
〔二四九四〕
要點約言
（第三一型イの四）
白五と打ちし時には、黒は六にハザマを衝いて白を隔て戰ふ手段善し。



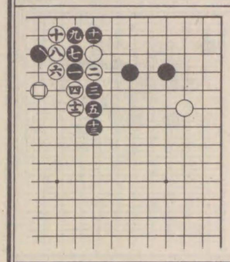
〔二四九五〕
白稍優れり
木谷實五段
六子鈴木憲章兩氏の局にあり。黒は一、三と打つも惡しからざれど、前の變化の如く九に強襲する方、早くキマリツケル意味ありて善し。



〔二四九六〕
基本圖
（第三一型イの五）
白五も變化に富める手段なれど、矢張り無理筋たるを免れず。



〔二四九七〕
黒利勢なり
白□に白攻を斷して黒を虐喝す。黒秋峯も屈せず、網に敵を擊滅せんと陣を張つて一擧す。黒一、三、銳烈、最も可なり。



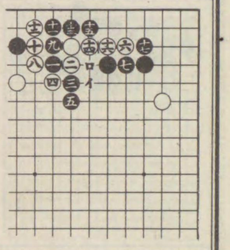
〔二四九八〕
白　敗
白二をイに打てば、黒はロに切りて圖の形より良し。白六に前衛を放つて而る後十四に遁走を企つるも、黒十七に至つて白色の長蛇遂に死す。

〔二四九九〕
定　石
白十三なれば、黒は十四に打つべし。

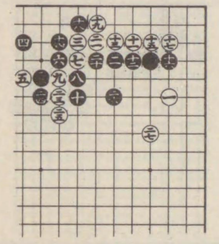
〔二五〇〇〕
白低く、惡し
白六に走らば、黒は七、次に九と打つべし。斯くて、天下の大勢翕然として黒に歸す。

〔二五〇一〕
黒優勢なり
白六と低地を這ひ、黒堅厚を期して上より壓す。中原の鹿また白ら黒の手に歸せり。

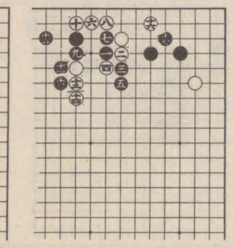
〔二五〇二〕
白□冗化せり
白六にて八を先にすれば、黒イに突當るべし。圖は□の白全く冗着と化し終れり。



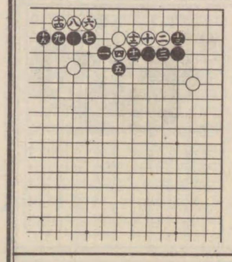
〔二五〇三〕
要點約言
（第三一型イの五）
白五と嘘喝せば黒同じく六と隔て戰ふ手段善し。



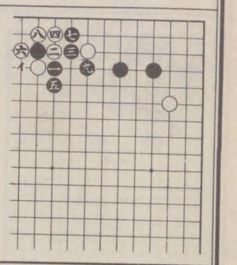
〔二五〇四〕
基本圖
（第三一型イの六）
白五、變化を弄する奇手なり。若し黒の應手に誤なければ、結局白惡し。



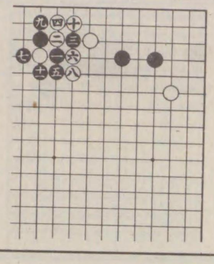
〔二五〇五〕
參考圖
此形にはイとロとの應けあり、征のあれども、何れも正着なり。（互先二間夾の部參照）



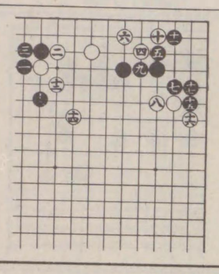
〔二五〇六〕
黒、確實有利
白六を七に打てば、黒イと征にカケテ宜し。黒若し征惡しき場合は、一と綽出す手成立せず。



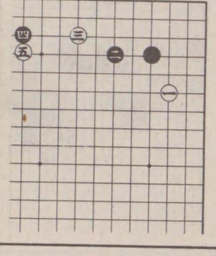
〔二五〇七〕
黒稍優れり
黒二以下十一までの形は、白黒一目づゝ打拔同形なれど、只黒は中に向て打拔き、白は下邊に打拔く、共に得失は同白の論に非ず。白惡し。



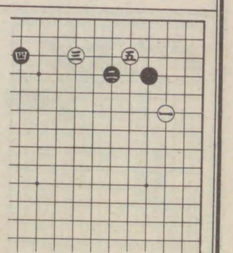
〔二五〇八〕
白の形好まず
黒一、三は白の附に對する常形にして、圖の如くなるも黒宜し。黒五、七良し。白は形散漫にして好まず。



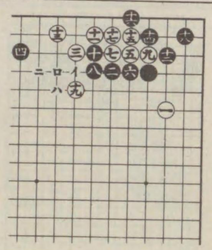
〔二五〇九〕
要點約言
（第三一型イの六）
略以上の如くなれど、此變化には、猶種々あり。詳細は互先二間夾の部參照。



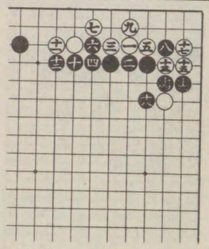
〔二五一〇〕
基本圖
（第三一型イの七）
定法
白五、常形にして常に實戰に見る手段なり。



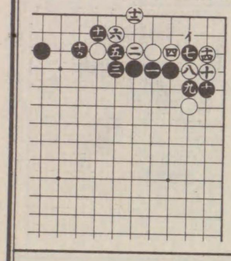
〔二五一一〕
定　石
黒六、確なり。黒八、要點。黒十、十二の手順善し。白十九、手筋なり。此時黒イに出れば、白ロ、黒ハ、白ニにて白善し。



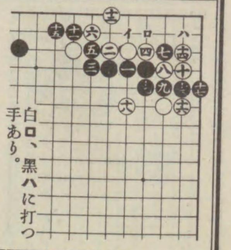
〔二五一二〕
黒優れり
黒十、十二厚くして宜し。白十三、得なれども、黒を堅くする故に此切は一得一失あり。圖は、白の地に比し黒の外勢優れり。



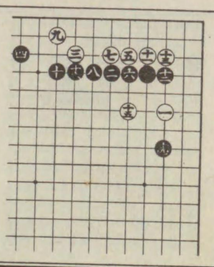
〔二五一三〕
黒厚壯なり
白八をイに打つも、黒は十一に切るべし。黒十五、征による手なり（次圖）。



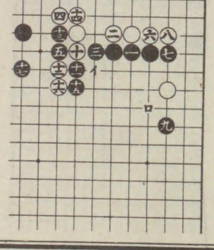
〔二五一四〕
白無理形なり
黒征惡し（前圖參照）き場合は、十五に打つ。白十六打過ぎ。白に征に切られては、黒に征に十九に取れぬ場合は、黒は十七の外無し。此形隅は黒イ、白ロ、黒ハに打つ手あり。



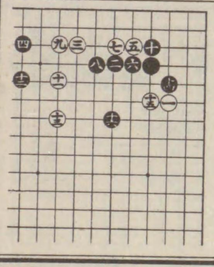
〔二五一五〕
定　石
黒十、手筋なり。黒十四に攻め、白十五、黒十六に粘く手順宜し。



〔二五一六〕
黒優れり
黒十三の手順宜し。白十四を十五に綽れば、黒イ、白十四、黒十七、白十六、黒ロにて其形確なり。



〔二五一七〕
定　石
白九に打てば、黒十の約、肝要なり。黒は十四と隅を固め、白十五を俟つて十六に出動す。黒の進退法に適へり。



〔二五一八〕
白の手順無理
白八、無理なり。黒九手強くしてよし。次に白十を十一に打てば、黒十、黒イ、白ロの時、黒はハに掩襲すべし。

〔二五一九〕
黒の形好し
前圖の征悪しき場合は、黒はイの出切りを打たず十一に斜と走る形。黒十五と先づ形を整へ、次に十七に攻めし手宜し。

〔二五二〇〕
黒確實、宜し
白四の應け、堅きに過ぐ。黒五の點は、日露の役に於ける旅順か世界大戰に於ける ヴェルダンか兩軍必爭の要點なり。

〔二五二一〕
黒優勢なり
白四と押せば、黒五と綿ねて善し。白、黒二六を十九なれば、黒二六、白ロ、黒二三にて、黒の勢厚壯なり。

〔二五二二〕
黒利勢なり
白六を八と綿ねれば、黒は九に出て白十の白、中有に迷はん。

〔二五二三〕
黒厚壯なり
黒五、七は、斯かる形の常用手段にして、變化は簡單なるも黒は厚く善し。黒は大いに善し。黒十三、確なり。

〔二五二四〕
黒甚だ打易し
白六、惡し。黒は、連繫して厚く、百戰敗せざるの勢なり。

〔二五二五〕
黒優れり
白四、無理なり。又初めの白二の尖を十三に尖むも、黒は前の變化と同じ。黒十一にて四に下るべし。

〔二五二六〕
黒確なり
白四を六に打てば二五と行びて二一圖に以下同じ。又此手を九に切れば、白五、次に黒イ、白ロと行びかて孰れか黒の上下に歸す。

〔二五二七〕
定石
黒六は、隅に確に治まらんとする場合打つ手なれど、結果白に十一と綿るゝ形となる故に比して逐色あり。

〔二五二八〕
常形なり
白二と出て四に引くも、黒は同じく五に尖附けて善し。

〔二五二九〕
常形なり
白二に尖むも、同じく黒は三、五と打つべし。此形は後に白イに附けるとも、黒ロと劫なれば、手あり。然して善しとして綿ぬ綿を忘るべからず。

〔二五三〇〕
場合の手段
加藤信七段 先 前田陳爾五段
兩氏の局にあり。此形は白を持ちて星に打ちたる變化にして、イに白無き點前圖と異る。

〔二五三一〕
要點約言（第三一型イの七）
白五と打ちし時は、黒六に粘き、白七、黒八に行びるを形とす。六をイに約へる手は、確なれど稍緩し。

〔二五三二〕
基本圖（第三一型イの八）
白五は前の變化の外、ロ、ハ、ニなどに打つ等あり。然して黒を堅くして好まず。

〔二五三三〕
黒善し
黒二、四、常形なり。白五に二拓すれば、黒は六と尖附けて宜し。黒十、此形、黒十一、且つ白への守堅く、且つ隅への攻を含む。

〔二五三四〕
白形無理なり
白五と廣く拓けば、黒直に六と打込むべし。黒六は、白の動きに從ひ自然にして、面白し。黒を固むる手段、白十五、時機早し。

〔二五三五〕
黒利勢なり
白十一、十三と損を先によれば、黒二十以下二六に突出し、次に二八と隅を固めて宜し。

〔二五三六〕
黒の勢優れり
白五は無理なれど、イ或はロに覗き切りの厳しき意味を含む。黒は之に對して周到なる注意を要す。

〔二五三七〕
互角
白十一、十三と打てば、黒は十四に突出し隅と振替るべし。

〔二五三八〕
黒面白からず
黒十、面白からず。白に十一の尖生すれば、黒は十三にて覗き切るゝ手あり。圖の結果となりては、四、十二の二着、無駄手となれり。

〔二五三九〕
黒利勢なり
白七に打てば、黒八に突當りて、イの切に備ふべし。又、始に白三をロに打けて、黒はハに打てば筋なり。（變化は二四三〇圖以下參照）

〔二五四〇〕
要點約言（上）（第三一型イの八）
白五に走れば、黒六、白七、黒八を常形とすれど、此形には白イ、或はロに切るゝ手あり。故に此手を豫め防ぎ置くを肝要なり。

〔二五四一〕
黒優れり
白一と奇兵を放つ。時に面白し。黒二に雌伏して次にイを窺ふ、可なり。五と至りて、黒六と壓せば、佳し。黒優れり。

〔二五五二〕
黒優れり
白十一をイならば、黒十一をイに切る手あり。黒は十六に至つて威い大いに振ふ。以下種々變化あれど、黒は斯く攻撃して適當の時機に引上げる要領、最も肝要なり。

〔二五五三〕
黒の形整へり
斯かる變化は形散漫にして黒あとしては打難き嫌あれど、既に斯かる形となれば、黒は形を整へ、且つ中に發展する手段を選ぶを、最も肝要とす。

〔二五五四〕
白死
白一、奇に過きて惡手なり。黒二の應け、最も善し。白十一にて守れば、黒は十八にて黒優れり。白九をイに盤れば、黒ロ。
(六)打カウ 十二ノ處

〔二五五五〕
黒確なり
白三をイに附ければ、黒四、白ロなれば、黒三白ハ黒ニにて、白大に惡し。

〔二五五六〕
黒堅實打易し
白三、低き手なり。斯かる姿は、如何なる場合も面白からずと知るべし。

〔二五五七〕
要點約言（中）
（第三一型イの八）
白五或はイは、奇に過きて形を失ふ。即ち、白五の時は、黒ロ。又イなれば、黒ハの尖にて、何れも白面白からず。

〔二五五八〕
黒優勢なり
白一、白◎のある場合は惡し。黒八善し。白九をイならば、黒はロ、或は手抜して他に打つ。白十一をならば、黒は十二。

〔二五五九〕
白低く好まず
白九と尖み付けなば、黒は十と行き、時に十二と拓きて善し。白十一にて十二の方面に打たば、黒十一に押してよし。

〔二五六〇〕
白無理、惡し
白五、及び十三と強ひて黒の眼を取る手は、無理なり。黒十二を十三に打てば確なり。黒十三、十六と、圍を衝いて出る手段、佳し。

〔二五六一〕
黒優勢なり
白十九に打つて上邊に活を圖るは、黒を厚くして惡し。黒二四の時、白はイに取るを得ず不甘の恨を呑む。

〔二五六二〕
互角
白二一と行出して、以上必至の棋移を迫り、白二七に守る。黒二八はイに逃出す手もあり。

〔二五六三〕
白七に蹶く
白七、惡手なり。斯くて黒二十に至るに、此形次に白イに打込めば、劫となるも、黒ロに劫とすれば、黒次に劫となりて、白には之に代る劫無きを遺憾とす。

〔二五六四〕
黒厚く必勝勢
白十七を十八に下れば、黒イと下る。次に白十七は黒ハに打てば、筋ありて白死に置く筋なり。

〔二五六五〕
常形なり
黒六と打てば確なれども、之は手を抜くも宜し。（二五五圖より二五六四圖まで參照）

〔二五五〇〕
白低く味惡し
白五に掛け粘げば、黒先づ六と粘ね八に粘くべし。後、時機を見て黒よりイと附ける筋あり（次圖）。此形、白は低きのみならず味も惡し。

〔二五五一〕
黒勝
（前圖參照）黒一に附ける手は、圖の如くにして、白の生じたる後でなくば無理なり。白十二、十四、惡し。

〔二五五二〕
白嵌手に陷る
白十三以下の手段惡し。圖の如くにては、益〻黒を堅くする結果となり、白甚だ惡し。
(三)三目ツグ

〔二五五三〕
參考圖
白一と附ける手あり。（變化は二六六圖より二六八圖まで參照）

〔二五五四〕
要點約言（下）
（第三一型イの八）
白三、黒四までの形に於て、白五と打込む手は、三と白との照應宜しきを缺き、結果白惡し。

〔二五五五〕
基本圖
（第三一型ロ）
黒四と一間に攻むる手あり。前の二間夾よりも急なれば、それだけ形勢を急迫ならしむる傾あり。可否は周圍の狀勢による。

〔二五五六〕
定石
黒四の一間夾返しには、黒六の飛び肝要なり。

〔二五五七〕
黒確なり
此形は、黒よりは白の缺點を狙ふ種々なる手段ありて善し。黒十二は、形なり。

〔二五五八〕
黒確なり
白十三を十四に切れば、黒二十に約へて振替るべし。白十五を打たば、黒よりイと打つ筋あり（次圖）。

〔二五五九〕
互角の形勢
黒十六、十八の筋甚だ面白し。用兵の妙、兵聖孫呉の賞讃を博する足る。尤も、この手段は、時機を見べし、早き時は、左の黒を損じ、黒却て惡し。

〔二五六〇〕
黒優勢なり
白十九に打つて上邊に活を圖るは、黒を厚くして惡し。黒二四の時、白はイに取るを得ず不甘の恨を呑む。

〔二五六一〕
白無理、惡し
白五、及び十三と強ひて黒の眼を取る手は、無理なり。黒十二を十三に打てば確なり。黒十三と、十八と、圍を衝いて出る手段、佳し。

〔二五六二〕
互角
白二一と行出して、以上必至の棋移を迫り、白二七に守る。黒二八はイに逃出す手もあり。

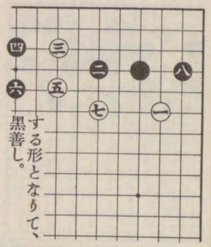
〔二五六三〕
白七に蹶く
白七、惡手なり。斯くて黒二十に至るに、此形次に白イに打込めば、劫となるも、黒ロに劫とすれば、黒次に劫となりて、白には之に代る劫無きを遺憾とす。

〔二五六四〕
黒厚く必勝勢
白十七を十八に下れば、黒イと下る。次に白十七は黒ハに打てば、筋ありて白死に置く筋なり。

〔二五六五〕
常形なり
黒六と打てば確なれども、之は手を抜くも宜し。（二五五圖より二五六四圖まで參照）

〔二五六六〕
要點約言（上）
（第三一型ロ）

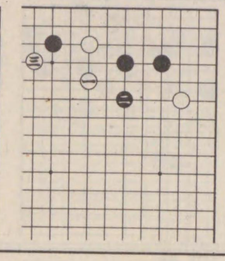
黒八となりし時白直に隅に着手すれば、白は外に缺點を生じ。又白外を守れば、黒は隅に今一着を補ひ地と



する形となりて、黒善し。

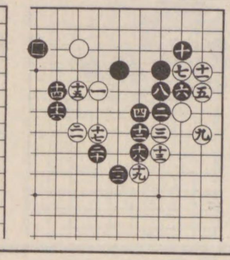
〔二五六七〕
變化多き形

黒二に飛べば、白三とカケル手嚴しき手段なり。（此變化は互先一間夾の部參照）



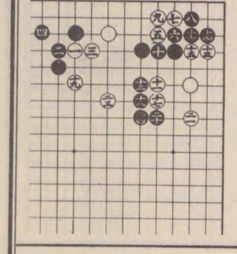
〔二五六八〕
黒の勢優れり

黒㊀にある場合白一に掛ければ、黒二の附善し。（變化は二四三〇圖以下參照）



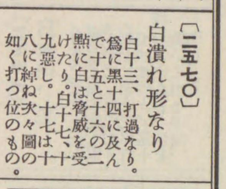
〔二五六九〕
黒の形善し

白一、三の附引を打つて後に五に覗けば、黒は六に手段になり。（此變化は互先一間夾の部參照）



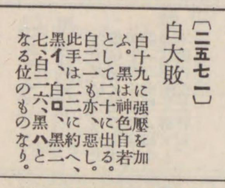
〔二五七〇〕
白潰れ形なり

白十三、打過なり。爲に黒十四に及んで十五と十六の二點に白は脅威を受けたり。白十七、十九悪し。十七は十八に綿ね次々圖の如く打つ位のもの。



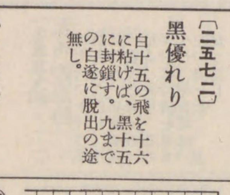
〔二五七一〕
白大敗

白十九に強壓を加ふ。黒は神色自若として二十に出る。白二一も亦十に悪し。此手は二二に約へ、黒イ、白ロ、黒ハと七、白二六、黒二となる位のものなり。



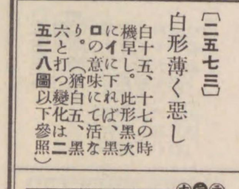
〔二五七二〕
黒優れり

白十五の飛を十六に粘げば、黒十五に封鎖す。九まで白の途無し。



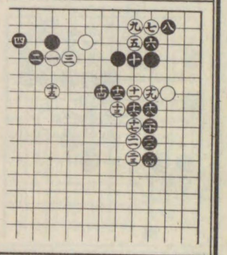
〔二五七三〕
白形薄く悪し

白十九、十七の時機早し。此形黒次にイの意味にて活なり。（猶白五、黒六と打つ變化は二黒五二八圖以下參照）



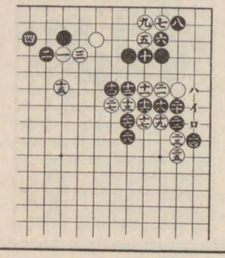
〔二五七四〕
黒有利の分れ

白いま一、左に三、黒二の後、五と附引く。夫れに手あり打てば右と知るべし。と。黒乃ち六へ、而して八と抱へたり。善し。



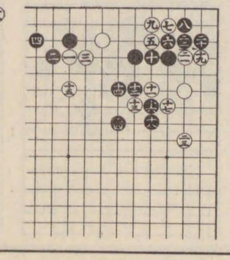
〔二五七五〕
黒優勢なり

此變化は二五二一圖以下二間夾返しの中にあり。形は多少異れど、意味は略同じ。白五な れば、黒直に六、八と切る手宜し。



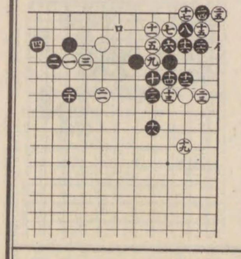
〔二五七六〕
白薄く、悪し

黒十八とカケシ以下の變化は二五四一圖以下參照。



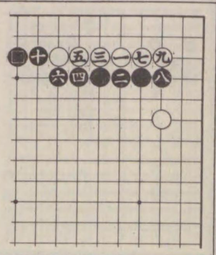
〔二五七七〕
黒稍優れり

白七、輕しの手順宜し。此手を十二に打てば、白イに約へて綽々たり。此圖の形より白少しく善し。此圖は二五二圖より黒の厚み稍優る。



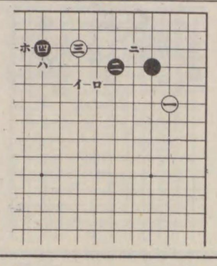
〔二五七八〕
黒厚壯なり

白五なれば、黒は㊀にある一間夾を利し直に黒六と約へて宜し。總て白一、黒二、白三、黒四となりし形は、前の二間夾返しの時よりも黒打易し。



〔二五七九〕
要點約言（下）
（第三一型ロ）

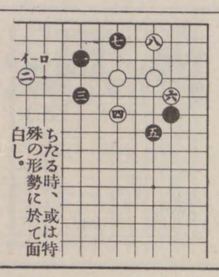
白五では、イ、ロ、ハ、或は直ちにニと打つ手段あり。黒四の意味は前掲ホと略同じけれど、急攻の際は面白し。



〔二五八〇〕
場合の手段

勝宮坂栄二六段
先小杉丁四段

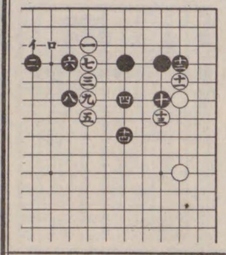
兩氏の局にあり。白二と二間に高く夾返すは、イ或はロより手廣き意味ありて、白を持ちたる時、或は特殊の形勢に於て面白し。



〔二五八一〕
場合の手段

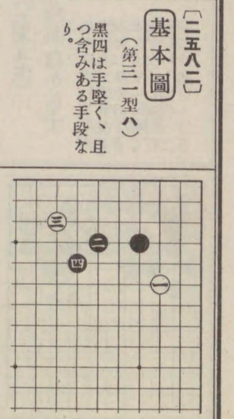
先番久保松勝喜代
互先林有太郎

兩六段の局にあり。此形も黒二と二間に高く夾、白五の飛より變化異れり。



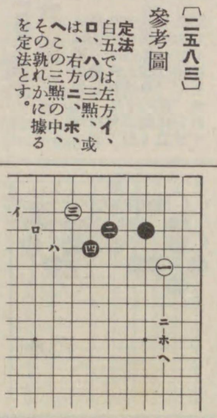
〔二五八二〕
基本圖
（第三一型ハ）

黒四は手堅く、且つ含みある手段なり。



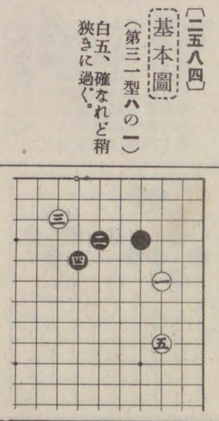
〔二五八三〕
參考圖

定法
白五では左方イ、ロ、ハの三點、或は、右方ニ、ホ、へこの三點の中、その孰れかに據るを定法とす。



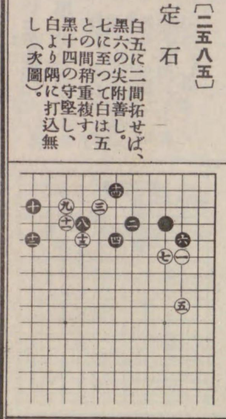
〔二五八四〕
基本圖
（第三一型ハの一）

白五、確なれど稍狹きに過ぐ。



〔二五八五〕
定石

白五に二間拓せば、黒六の尖附善し。七に至て白は五に至て白十四の守堅し、打込無し（次圖）。



〔二五八六〕
白大敗の形

白十以下無理なり。白三十となりて隅は活なれども、其代りに左邊の白は遂に全滅の悲運に遭へり。

㊀十九ノ處打カウ

〔二五八七〕
白劫なり

白二、を㊀に約へれば、黒三、白四、黒五にて死。又此手を二に五に綽ねれば、前變化と同じ。

㊁十九ノ處打カウ

〔二五八八〕
黒厚く善し

白十六に打てば活なるも、外を厚くせらるゝ故に、結は悪し。黒は矢張り白二に置けば、白二一にて活路を失へり。白十六、イに打てば、黒二一、白二十にて死なり。

〔二五八九〕
白嵌手に陷る

白十二、悪し。黒十三と打たれて白十六、イに打てば、黒二十にて白

〔二五九〇〕
定　石

黒四のある時白十五に尖めば、黒はまづ十六に打ち、白十七の次に十八と打つを手順とす。

〔二五九一〕
常形黒確なり

白四をイに打てば、黒ロに飛ぶ形なり（二四五三圖以下參照）白十四の時黒はまづ十五、然る後、十七の手順宜し。黒十一は、十五を先手利きならしめたる佳手なり。

〔二五九二〕
黒幾分損の形

黒九を手抜せば、白十に打込む手あり。

〔二五九三〕
黒嵌手に陷る

黒十一、惡し。十四に至つて、黒は眼無しの形。嗟乎、もの、衰れは、實に落人の姿そのまゝ。平家の昔、永の都落ちも、かくや。

〔二五九四〕
黒打易き形

白六、手筋に面白し。此變化互に先尖の部參照。黒七、九善し。此形、黒確にして打易し。（次圖）

〔二五九五〕
參考圖

白一（前圖參照）直の打込も斯く打込みし時は、黒には二つの應けあり。イと二の應は、（前圖）本圖以下は二に尖し、イ宜しく、善し。

〔二五九六〕
白　死

黒（前圖の變化）四善し。白五を十三に打ちて次に六黒十二白五黒イ白六黒十二白イと掛けて、黒は之を六に防ぐ。黒は同じく死を免れず。

〔二五九七〕
白面白からず

黒六は佳し、危き淵を通り過ぎたり。次を七に打てば、黒六にて、白盤上、此形黒不利なり。

〔二五九八〕
黒勝なり

白三に押すも、黒は四に打ちて宜し。

〔二五九九〕
白潰滅の形

白三ならば黒四にて善し、また白九を十二に約へれば、黒は十一、所詮白は悲運、今に至りて呼び返へさん術も無し。

〔二六〇〇〕
白少し不利

白は九に至りて、遂にも活きぬ。然れども外には黒十の嚴しき綿上げの形をなり。白不利なり。白ロの形をイに打れば、黒敗。

〔二六〇一〕
黒嵌手に陷る

黒は十一に、長き恨を遺しぬ。思ひざりき、白十二の行び出し。斯くて黒は進みぬ、勝敗。今目の黒は返す。誰か前にあり。此悲しまざらん。

〔二六〇二〕
白好まず

白二、四と先手を取り、次に六と拓く手あり、されど、秋風吹いて葛の薄きを知るが如く、黒七を見て白は自らの形薄きを覺ゆ。

〔二六〇三〕
黒勝なり

白二、四重き手なり。黒十一、善し。此形も、隅は二五圖以下と同じく白に手段無し。

〔二六〇四〕
黒嵌手に陷る

白十二、手筋なり。十四に至つて白に凱歌上り、黒軍多日の經營一朝に十三は、十四の外無し。（七）十二ノ處

〔二六〇五〕
定　石

白五、七と打ち、九に拓く手あり。

〔二六〇六〕
常形なり

黒六はイに打つも宜し（二五八五圖以下參照）。黒十四確なり。

〔二六〇七〕
要點約言（第三一型ハの一）

黒四の尖みに、白五と二間に拓け、黒はイと掛けるの攻め、或は、白ロと尖附け次に黒ハに斜走する隅の圍みを、最も善しとす。

〔二六〇八〕
參考圖

白五と三間に拓けば黒はイの尖附を打たず、先づ六と打込む手宜し。又白五をロに拓く場合も略ゝ同じ。（變化五六部之圖）五六四三圖以下參照）

〔二六〇九〕
參考圖

白五と猶廣く拓けば黒は無論六にイと打込むべし。又五はロに拓けば、黒は打込む筋なり。（變化五六六〇圖五七一六圖以下參照）

〔二六一〇〕
基本圖（第三一型ハの二）

白五に附ける手あり。可否は場合による。又、白五をイに打込む變化は、黒四の一層白惡し。

〔二六一一〕
白面白し

黒三は、堅き應けなれども稍緩し。

〔二六一二〕
黒優勢なり

黒（圖）を利して、三、五と打つて出でたり。目覺しき武者振ひかな。九に至りて、黒の（圖）效果正に百パーセントなり。

〔二六一三〕
黒優勢なり

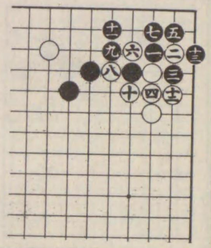
白六に切れば、黒七と打つて善し。（猶此變化は二六四九圖以下參照）

〔二六一四〕
場合の手段

此形、普通は黒低くして面白からぬど、強ひて白の眼を取り攻めんとする場合には面白し。

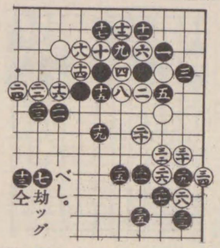
〔二六一五〕
黒必勝の勢

白二は劫含みの手段なれど、結果は白多く不利なり。黒三の綿、勇ましとも勇し、可なり。白十二の時、黒若し劫拋多ければ、十三を十八に打つ



〔二六一六〕
黒善し

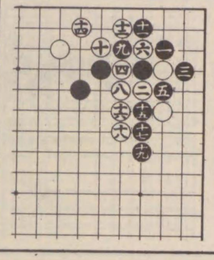
黒十九の攻は、厳しき手なり。斯くて白は勢振は、ず、黒は我が世の春を謳歌せり。黒十九はカケシ形の變化にて、一四七一圖參照。



〔二六一七〕
黒甚だ利勢

白十四に粘ぎしは、不覺なり。黒より十五と切られ、白に沒落の悲運忽ち到りぬ。

七 粘
十 仝



〔二六一八〕
白無理形なり

此形、多くは白無理なり。尤も白に劫拋の非常に多き場合は格別なれど、斯かる場合は殆ど稀なり。

〔二六一九〕
要點約言

（第三一型ハの二）

白七では、イとロとあれど、イなれば黒ハ、白ニ、黒ホと打ち、又白ロの時は強く黒ニと綿ねて善し。

〔二六二〇〕
黒甚だ優れり

白一と打込む手、黒■にある場合は、惡し。見るべし。黒十四に至りて、白は一隅に蹲踞する側に反し、黒は外に厚壯を極めたり。

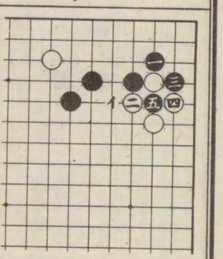
〔二六二一〕
基本圖

（第三一型ハの三）

白五と二間拓する手あり。又此手はイ或はロと打つことも略五の拓と同じ。

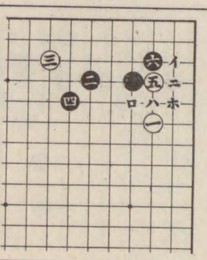
〔二六二二〕
定　石

黒四、白五と替り、時は、黒は先づ六に尖附け、次に八に三間夾する手定石なり。



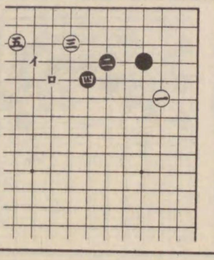
〔二六二三〕
黒確實打易し

白四をイ及びロに打つ變化又は圖の變化については、互先三間夾の部參照。黒は二一と、昇る旭の勢見せて白を攻めつゝ形勢を張る。可なり。



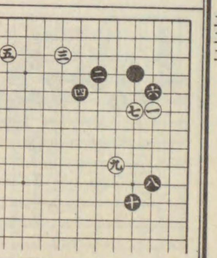
〔二六二四〕
黒稍優れり

黒十三の時白も勢十四と行び善し、黒十五平な十七、十九、豫定なり。



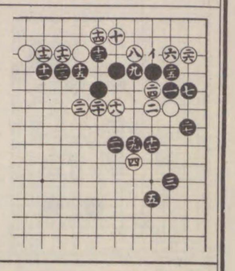
〔二六二五〕
互角の形勢

白十と打つ手あり。黒十七、十九善し。此手は、後に黒がイに裏撃せんとする伏線なり。（其時、白ロならば黒ハ）。



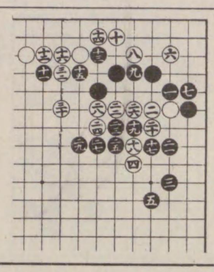
〔二六二六〕
黒優れり

黒七善し。然し若し、黒確に隅で活きんとする場合は圖の如く打つべし。



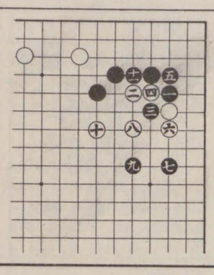
〔二六二七〕
黒優勢なり

白十八、二十、無理なり。黒三一打てば確なれど、此手は三二に粘ぎ更に白への攻撃を續ける手段もあり。



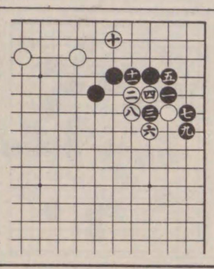
〔二六二八〕
黒打易し

白二に覗く筋は多く好まず。黒三に續出す手あり、また此手は十一に粘ぐも堅くして宜し。



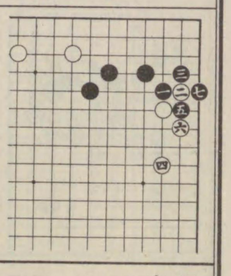
〔二六二九〕
白浮形、惡し

征宜しき場合は、黒七は八と逃出すも宜し。白は八と一目打抜の形なれど、黒は七、九と白の脚下を掏つて其根據を奪へり。八迄の白や、寄邊定めぬ浮草の如し。



〔二六三〇〕
黒堅く白薄し

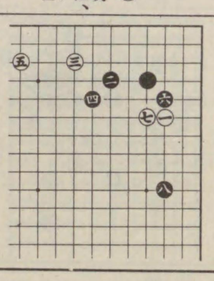
白二、四、輕き手なれど、黒に五、七と打抜かれては黒は堅を加へしに反し。白六までの三子は秋風に散りの葉に異らず。白不可なり。



〔二六三一〕
要點約言

（第三一型ハの三）

黒六、次に八と攻める形となりては、四の一着も活動することゝなり黒甚だ打易し。

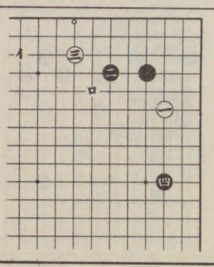


〔二六三二〕
基本圖

（第三一型ニ）

定法

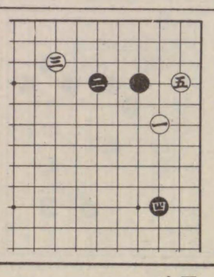
黒四と三間に夾む手は、イ及びロと共に、黒一間應けの形の最善の手段なり。



〔二六三三〕
基本圖

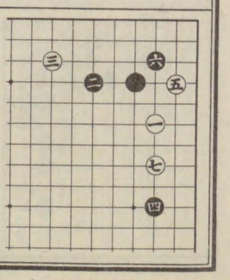
（第三一型ニの一）

白五の斜走、最も穩健なり。



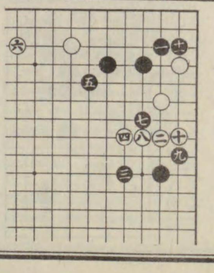
〔二六三四〕
定　石

圖は、實戰に最も多く見る形なり。



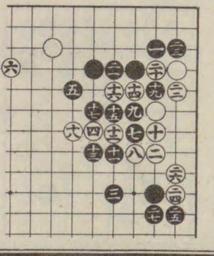
〔二六三五〕
常形黒確なり

白二の時、黒は三に一間飛ぶ手と、六に夾む手とあり。黒一一、双方の眼形に影響す、必爭の要點なり。



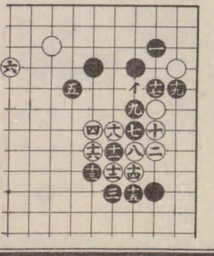
〔二六三六〕
黒稍優れり

白四なれば、黒五に打ちて七の筋を狙ふ。白十八を十九に打抜いて黒の形厚壯なり。



〔二六三七〕
白十六に蹲く

白は十六に切つて、黒十八に粘げばイに愚策なれど、黒の形を綿せんと圖りしも、黒は敏なる機を察して十七、十九と外せり。十之に至つては白の八に至つては白の勢振はず。



〔二六三八〕
黒有利且堅實
白六を**イ**の方面に打てば、黒**ロ**と掛け**二五八五圖**以下の如く黒善し。白以下には、黒十一以下の運びを可とす。即ち、黒は形確となり且つ地あり。

〔二六三九〕
黒厚く、善し
白十二を**イ**に綿出せば、黒**ロ**にて圖の形と略同じ。

〔二六四〇〕
黒厚く、善し
白十六を十七ならば、黒**イ**、白十六、黒**ロ**にて、黒の形最も堅固なり。

〔二六四一〕
黒確なり
白四には、黒五の手善し。白六を若し**イ**なれば、黒は**ロ**、白**ハ**、黒**ニ**、白**ホ**、黒六と切る狙あり。黒九、此場合白が八と狭くある故、斯く打ちて善し。

〔二六四二〕
要點約言（第三一型**ニ**の一）
白五、七と打ち形には、黒は八、十と打て**イ**のノゾキを狙ふ筋最も面白し。

〔二六四三〕
定　石
黒八は、前の變化の如く**イ**に飛ぶ手穏かなれど、時に斯く夾むも面白し。

〔二六四四〕
黒弛み形なり
小杉四段子勝阿部彌三郎丁四段兩氏の局にあり。白二ならば黒直に五、白七、黒**イ**と打つ形なり。黒七は**ロ**に附ける方、形優れり。

〔二六四五〕
基本圖（第三一型**ニ**の二）
白五に打つ手あり。之は黒四と三間夾の場合實戰に最も多く見る手なり。

〔二六四六〕
定　石
白五、七と二段に綰ぬる手あり。黒八、手筋なれど、稍ヌルキ意味あり。

〔二六四七〕
黒悔手に陷る
黒七、九と綰れば白十に、置く筋あり。白十一は、これ故なり。白〇にある故なり。白十四に黒の十五を強ひられし口惜しさ心も言葉も及ぶ所にあらず。

〔二六四八〕
黒利勢なり
白四以下、打過なり。

〔二六四九〕
定　石
黒四の三間夾の場合には、黒六、八と打つ手あり、手甚だ善し。白の三に強く出れば、黒二十と交へつゝ、白の三に戻して十五までの白を遮断し四子を取むも、手筋にして可なり。

〔二六五〇〕
黒優れり
白十六、十八、白としては稍緩き感あれど、本手なり。

〔二六五一〕
黒確なり
白十四を**イ**なれば黒**ロ**、其**イ**を**ハ**なれば黒**イ**が先手利き。何れも白惡し。黒十九と四子を取りし形、確なり。

〔二六五二〕
白の前途多難
白十八、稍無理筋なれど、他に適當なる手段無し。二九に至つて白は上下に弱石を負へり。而かも黒の陣容や、堅且つ牢。

〔二六五三〕
黒必勝の勢
吳清源常時四段　塚越某勝子
兩氏の局にあり。黒十九まで以下三三に至り、息を吐かせず白を揃め取る。黒の手段鮮かなり。

〔二六五四〕
白大敗
（前圖の變化）
白二二と行れば、黒は只二三とカル手宜し。白二八を**イ**にツケレバ黒二八に打つべし。

〔二六五五〕
白攻合敗
（前圖變化）
白二四と打つも、黒には同じく二九と綽込む筋あり。黒に十九を打たれては、白の運命や、所詮散り行く秋の紅葉に異らず。

〔二六五六〕
定　石
白十七に綽込みし以下の變化は、圖の結果となるを普通とす。

〔二六五七〕
黒悔手に陷る
黒十七、思慮淺し。白十八は、黒の意表に出でて能く敵失に乘じ、白の勝因を作せり、可。

〔二六五八〕
白先劫
黒若しせば、黒の鵜ノ根を拔き、此處に胚胎せん。蓋し白二以下の妙機を伏すればなり。黒三を二四にて劫なら、白**イ**にて劫手拔

〔二六五九〕
黒少し善し
白十、打過ぎ。黒に十一、十三と兩斷さるゝ形となりては、白惡し。此形、外勢互角なるも、隅に地あるだけ黒善し。

〔二六六〇〕
黒利勢なり
黒二七と攻める手もあり。此手段も黒面白し。

〔二六六一〕
黒打易き形
白八に行ひれば、黒九にて善し。十、三勢を得たりて、白十四にて十五に逃げ出せば、黒**イ**の筋にて、白惡し。

〔二六六二〕
黒形好し
白六に切れば、黒は七に結ぐべし。黒十一をイに約へる手は、後に白ロの出切りを生じて危険なり（次圖）。

〔二六六三〕
黒嵌手に陥る
黒十一、無理なり。果然、十六に至つて、黒の破綻を見る。延いて白二四に至り、黒が悔恨の情轉た切なるものあり。

〔二六六四〕
黒堅實打易し
黒三、五と打てば變化簡明、結果も亦悪しからず。

〔二六六五〕
黒力戰すべし
白十を十一ならば黒十、白十二を十三ならば黒十二、また、白十四を黒十五に打つべし。假令、五に至り、黒が悔恨の情轉た切なるものあり。黒十一ならば黒十、白十二を十三ならば黒十二、また、白十四を黒十五に打つべし。假令、五に至り、黒が悔恨の情轉た切なるものあり。黒力戰して可なり。

〔二六六六〕
黒厚壯なり
黒十一、十三と、嚴しき壓迫を加へ、尋いで十七に堅守せり。堅陣既に成る、今や黒が果敢の攻撃を爲さんとするは何れの點ぞ。

〔二六六七〕
黒十九の好捕
唯見る右邊の一角、自殺同然なるも、白六、十六、白十八と思ふ間もなく、白十六に切りぬ。嗟乎、白十六、白十八と、隣、び、大事、されど、黒十六の竪子、を誤れり。黒十九を誤つて、白の雄圖遂に成らず。

〔二六六八〕
要點約言
（第二一型ニの二）
白七に、黒イは堅く。黒イを、白ロ、白ハ、黒ニは、手強く。また、白七に、黒ロ、白ハ、黒ホは、中央を厚く打つ手段なり。

〔二六六九〕
基本圖
（第二一型ニの三）
以上の外、白イ、（一）、白ロ、（二）、白ハ、（三）、黒ニ、白ホ等の手段あれど、何れも白好まず。

〔二六七〇〕
黒堅固攻あり
黒三間夾にある場合、白一とカケし時は、黒二、及び六の手善し。黒六を九に打つ定石は、白七、黒イ、白ロ、黒八、白六、黒十一と打つ手あり。猶ロなどに打つ變化は二三一圖及び二五一圖以下參照。黒二は此形に於ける最好の黒なり。

〔二六七一〕
黒確なり
黒三間夾にある此形に於ては、白三の時、黒四の掛け善し。（二四四一圖以下比較參照）

〔二六七二〕
白浮薄、悪し
白一と打つ手あり。猶ロなどに打つ變化は二三一圖及び二五一圖以下參照。黒二は此形に於ける最好の黒なり。

〔二六七三〕
互角の形勢
二子 瀬越憲作七段
三番 鈴木秀子三段
兩氏の局に出づ
（三）手抜き
黒四の時白五と夾返す手あり場合の手段なり。黒八は強くイに下る手もあり。（一六二六圖參照）

〔二六七四〕
基本圖
（第二一型ニの四）
黒三間に夾みたる時、白は手を抜く場合あり。此場合は黒は無論イに尖つべし。

〔二六七五〕
定石
（五）手抜
白九は、白の態度として稍其面目すぎる手段なれど、さりとて他に適當の手段も無し。

〔二六七六〕
白死なり
黒十一と打置けば隅に手段なし。尤も黒一、十一と隅を堅くする手は、必ずしも此場合に限らず、斯かる形は實戦に甚だ多し。黒十七、手筋。

〔二六七七〕
白形甚だ悪し
（前圖變化）
黒十二は、一應十八に捉るべし。

〔二六七八〕
黒嵌手に陥る
黒六、悪し。なほ悪毫千里の差を生ず。黒の一手と、白七、九と活きたり。黒は前圖の如く打つべし。

〔二六七九〕
白死
白五を十一に打つも黒は五にて、前變化と同じ。

〔二六八〇〕
黒確なり
白一、二の手筋、面白し。七にて白活なり。さり乍ら八に至つて同顧すれば、黒の陣營堅をる中央一帯の平原、擧げて黒の龜斷に委せんとす。

〔二六八一〕
白無理劫悪し
白七に約へれば、黒は八、十にて良し。

〔二六八二〕
白嵌手に陥る
白一に打込めば、黒二、四と打つて、黒は十五に至つて勝なり。十六の危き處を脱ぬ。十六は攻合に於て常に見る手筋なり。

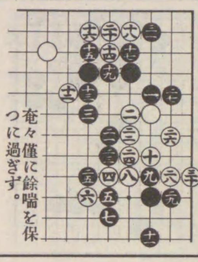
〔二六八三〕
白に手段無し
白三、五悪しの形、白は隅に活路なし。

〔二六八四〕
黒確なり
黒十一に堅守せば、隅は最も堅固なり。夫れより今日の雌伏は他日の雄飛を意味す。知らず、黒何處に鵬翼を伸ばさんとはする！

〔二六八五〕
白潰れ形なり
白四に走る手あり。黒五は、イもあり、參照。先十四は無部理、ロに掛く位のなり。黒二三にて白ハの盤を防ぎ忽ち一二五に切る。舊敏、神の如し。

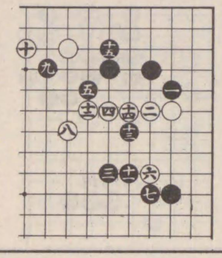
〔二六八六〕
黒外勢優れり

然り、白二二と打てば活はあるべし。されど黒に先手で二五と切られ、更に二七、二九と利かせらるゝに至つては、白たるもの奮々僅に餘端を保つに過ぎず。



〔二六八七〕
黒攻守、適法

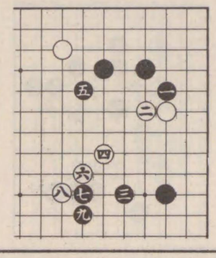
黒三と攻める手あり。場合により妙あり。黒十一、十三と攻め、次に攻守四に守る手、攻守共に法に適へり。



〔二六八八〕
場合の手段

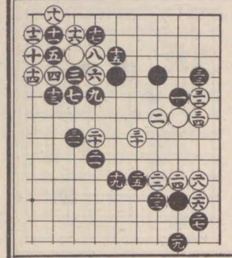
先番　勝
小島春一段四段
高橋重行三段

兩氏の對局にあり。白四、手筋なり。



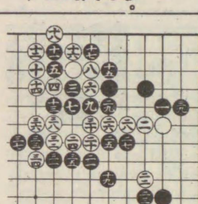
〔二六八九〕
黒善し

黒三、五の附切、普通損なり。三、五の附切は一圖參照。此形附切の部分を先にすれば、黒損後結果は黒善し。



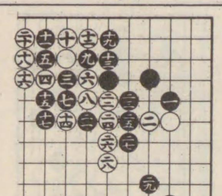
〔二六九〇〕
黒優れり

黒二七、二九善し。三九に至つて見るに、黒の三七までと換り、白三八まででは、二九までの黒の鐵壁に接して些の効果無く悉く駄着となれり。



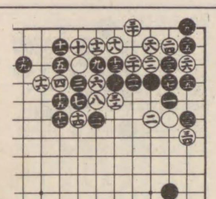
〔二六九一〕
黒有利の分れ

白八に行び出せば、黒九に切つて善し。



〔二六九二〕
白潰れ形なり

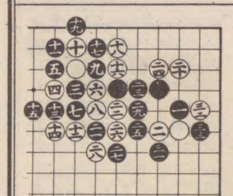
征宜しき場合は、黒は十七を、十八に打て勝なり。白二十を二八に打てば黒二二。又白二二に附ければ、黒二十にて、何れも黒善し。



〔二六九三〕
白十六に敗る

白十六より切るは黒に二目を打抜かれて、白甚だ惡し。黒三、手筋なり。

(手)二ノ一ノ處ツグ



〔二六九四〕
要點約言
（第三一型ニの四）

黒四と三間に夾み、時に白若し手を抜けば黒イ、白ロとなりて、次に黒ニ又は（黒ホ白ヘ黒ト）と攻める三手段あり。

〔二六九五〕
黒鋭烈、善し

林有太郎六段
高橋重行當時三段兩氏の二子番（黒勝）にあり。黒一に吐かせず攻立つ。鋭烈果敢なり。

〔二六九六〕
基本圖
（第三一型ホ）

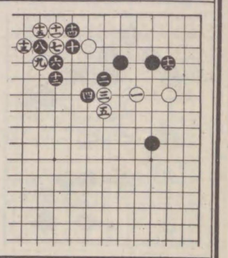
イの三間夾について實戰に最も多く用ゐる夾は、四の他の二間夾なり。四の夾みとしては、ロ、ハ、及びニとあれど、之等は場合の手段なり。

〔二六九七〕
黒利勢なり

黒の二間高夾に對する白の應けは一、或はイ部一五先二間高夾の走りを狙ふ。此三ツ善し。

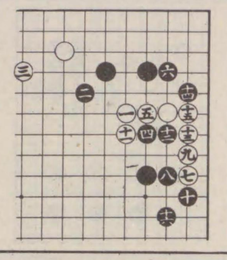
〔二六九八〕
黒稍利勢なり

白七、九と附し形には、種々なる變化あり（二五〇六圖以下參照）。



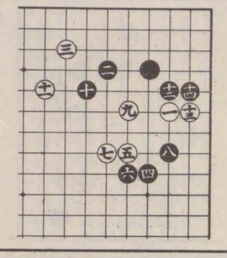
〔二六九九〕
黒形甚だ佳し

黒四とノゾイて白を重くし、次に六に締つて隅を守ると同時に五で白を攻むる攻防宜しきを得たり。



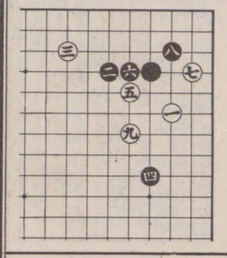
〔二七〇〇〕
定　石

白五、輕くして手筋なり。黒六を若しイに打てば、白ロに突出し、一と四と替りて善し。



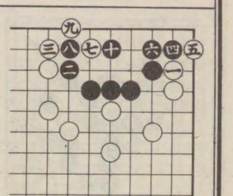
〔二七〇一〕
定　石

白五、七、九と打つ四の一目を堅くするも宜しく又手を拔いて他に打つも宜し。隅の黒は外側の白堅くなるも、容易に死せず。（次圖）



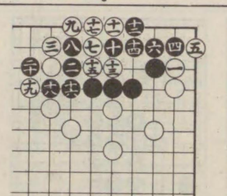
〔二七〇二〕
白先黒活

（前圖參照）黒二の手順、肝要なり。



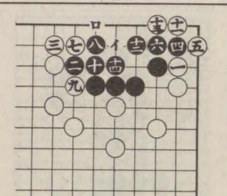
〔二七〇三〕
白ツブレなり

白十一以下、甚だ無理なり。夫れ兵は驕る者は滅す、と。殷鑑遠からず、二に至つて、白覆滅せり、黒十四は、無論十七に取つて劫を爭ふべし。



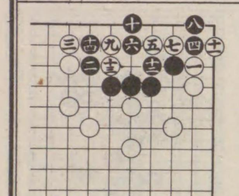
〔二七〇四〕
白先黒活

白九をイに附けれぱ、黒ロ、白十二、黒十一と打つて活。又白十三に打てば、黒十三にて活なり。



〔二七〇五〕
白先黒活

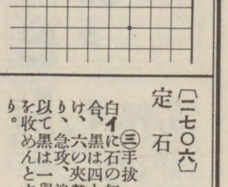
黒六、八常に用ゆる手筋なり。黒十四に突出す形となりて、黒は外面に白の缺點あり（二七〇三圖）の如く切て宜し。



〔二七〇六〕
定　石

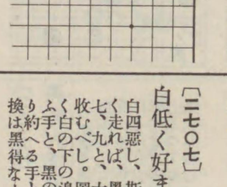
白イに黒は四と尖附け、六の夾撃可なり、急攻、追撃、以て黒は一塊に勝を收めんとするなり。

（三）手抜イの無い場合。



〔二七〇七〕
白低く好まず

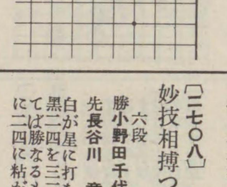
白四惡し、斯く低く走れば、黒は五、七、九と、大勢を如く牧むべし。圖の下の邊を這ふ手と、黒の上よりの交換へる手との約は黒得なり。



〔二七〇八〕
妙技相搏つ

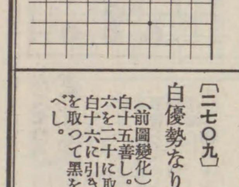
六段
勝小野田千代太郎當時
先長谷川　章四段

白が星に打ち圖黒二四を三三に打てば勝なるも、白に二四に粘がれては白の外壁厚くなり黒惡し。



〔二七〇九〕
白優勢なり

（前圖變化）白十五善し。黒十六に取れば、白十二に引き、眼を取つて黒を攻むべし。



〔二七一〇〕
黒好まず
黒一の二間夾みは、前の三間夾（二三圖以下）及び二間高夾（二六圖以下）に略ゝ同じ。又イの一間夾みは白にロと飛ばれ、ハとニのカケを狙はれる。

〔二七一一〕
基本圖
（第三一型ホ）
黒■とある場合。之は實戰二手局に最もよく出來る形にして、黒は此形二、四の手善し。

〔二七一二〕
定石
白七、九、正着なり。黒十二は十三に下る手と、圖の如く打つ手とあり。

〔二七一三〕
黒の攻、嚴し
白一は、外にイ、ロ或は他に打つもあり。黒五は前のハの約へと比較して、攻には五にあれど、下るべし。

〔二七一四〕
互角
(二)手抜場合により白二は手を抜くも善し。黒三手筋なり。白八以下の手順流麗なり。なほ清水の澁滞としての些の瀉み無きに似たり。

〔二七一五〕
白稍優れり
黒十七惡し。之は二十に切るべし。(二)手抜

〔二七一六〕
白重圍に陷る
白十二、十四の手順惡し。二三に至つて、白は遂に、百戰一勝をも期すべからず。隅邊に纏然たる黒の偉觀を見よ！(二)手抜

〔二七一七〕
黒優れり
白に抜かれし形に黒損なれど、白は遂に二二と後手を引き、黒乃ち二三に白の脚下をふむ、黒の勢壯なり。(二)手抜四ツ目

〔二七一八〕
黒甚だ厚し
此形、右邊は黒損なれど、黒外側に形勢を得んと場合は、斯く打つ手而し。(二)手抜士劫トル

〔二七一九〕
黒利勢なり
黒前圖と反對に下邊の實利を得んとする場合は、五に附けて右邊の一子を取り、白の眼を取つて攻立つべし。(二)手抜

〔二七二〇〕
黒勢大に善し
白四と打てば、黒先づ五に押し、次に七に打つべし。二一までの振替りとなつては、黒の勢大に善し。(二)手抜

〔二七二一〕
要點約言
（第三一型ホ）
黒■にある場合、白は五と二間拓するの外無く、黒六、白イと手抜せば、黒ロを通形となるを若し白カケテ急攻すべし。

〔二七二二〕
場合の手段
本因坊秀哉名人
二子番
林有太郎六段
兩氏の打掛にあり。黒●、白○にある此場合に於て白六、八の手段面白し。

〔二七二三〕
黒アマリ形
アマリとは打過ぎて其形を損したる形を云ふ。黒十、十二と下すに至つては大魚遂に網を破つて出づ。
黒九に約へれば、白十に約へれば、黒イに約へれば、白二、三、黒二六と打つて善し。

〔二七二四〕
妙技双絶
本因坊秀哉名人
二子
篠原正美五段
兩氏の打掛にあり。白二六を二七に約へれば、黒イに約へれば、白二六と打つて善し。

〔二七二五〕
白善し
白十二を十三に約へれば、黒イ、白ロ、黒ニに打つ。白ハ、秋には月、戰に望ましきは勝利にこそ。然るに、黒は十五の一失に敗戰の苦杯を嘗めぬ。

〔二七二六〕
基本圖
（第三一型ヘ）
白三とカ、もし次の黒ロの應手にて實戰によく見る形にて然も打つべからざる俗手、三及びハ、イ、ロ、即ち之なり。

〔二七二七〕
黒凝形、惡し
黒一、俗筋なり、惡し。十六までの形となりて、右邊の白には餘裕綽々として活あり。且つ上邊にも、白は形勢を逃にせり。

〔二七二八〕
黒凝形なり
黒一の附行は、前掲の附定石と異り、結局白に六、八十の要點を盡く打たる。黒惡し。

〔二七二九〕
黒凝形なり
黒一に尖附、又三に尖附ける手は、徒に白を堅くせしむるのみ、俗手なり。

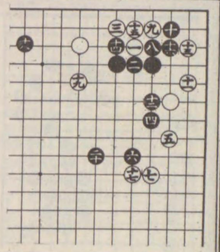
〔二七三〇〕
黒虚に潰ゆ
黒七、貪に過ぎて隙を生ず。白は即ち八と黒の衝き、尋で十の下を以て黒肺腑を扶る能はず。黒潰滅に近し。黒九を十二に打つ。白は、白九にて白優る。

〔二七三一〕
要點約言
（第三一型ヘ）
以上の如くにして、此形黒イ、ロ或はハと尖附ける手は、何れも黒惡し。

〔二七三二〕
基本圖
（第三一型ト）
黒四手抜の場合白一、三と打ちし時、黒は手を抜く場合もあり。此場合に白より種々手段あれど略ゝ前の變化と同形なれば、只其中に多少異れる形を二、三掲載す。

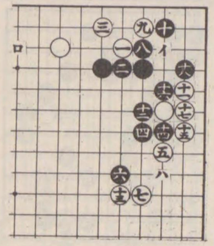
〔二七三三〕
定石
今や、太陽東天に昇りて、曉風戎衣に薫ず。武夫の心に勇む、戰近きに在り。突如！白五の輕騎を放つて攻む。殺しくして善し。黒八、十、手筋なり。(四)手抜

〔二七三四〕
黒の形善し



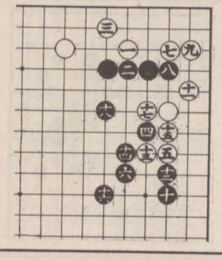
此變化は**一五一二**圖以下にあり。只十八の處に黒石の有無によりて、其手段を異にす。圖は此形に於ける最善の變化なり。

〔二七三五〕
黒確なり



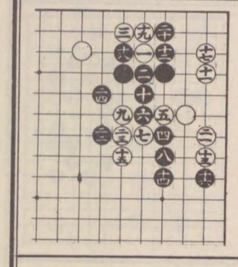
白十三を**イ**に切れば、黒十四と打つて宜し。此形は黒よりは**ロ**の攻、及び**ハ**に附しの狙ひあり。

〔二七三六〕
黒厚く、善し



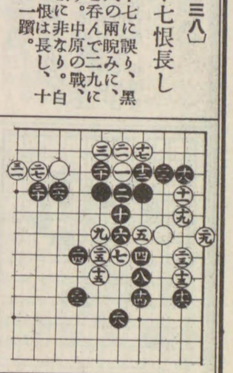
白七、九、十一と偶ま手を打つ。白若し得々たらんか、予は白の凡庸を憐まざるを得ず。若し事志と違ひて、此處に至らしなら、予は自の爲んか掏同の情無きを得ず。

〔二七三七〕
白無理なり



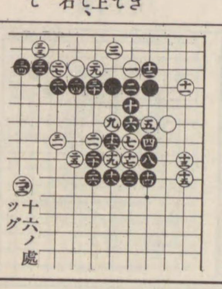
白五、七と出切る手には、變化種々あれど、白の此筋無理なれば結果は何れも白惡し。

〔二七三八〕
白十七恨長し



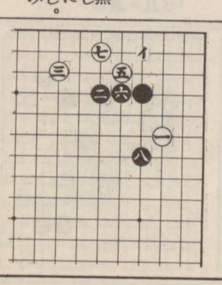
白十七に誤り、黒二八の兩睨みに、黒涙を呑んで二九に屈す。中原の一戰、白願に非なり。白七の一躍。恨は長し、十

〔二七三九〕
白勢振はず



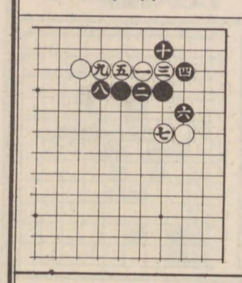
黒十八、征惡しき場合は斯く打ちて善し。此圖、黒上下に竪壁を擁して、七以下中央の弱石に迫る。戰の數、又言を須ひずして明かなり。

〔二七四〇〕
要點約言（上）
（第三一型ト）



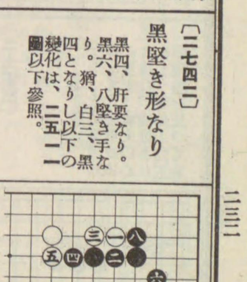
黒四手抜、白五、黒六、白七となりし形には、黒は八にカケル手最も善し。猶白七を**イ**と尖みし變化も略同じ。

〔二七四一〕
黒の形確なり



白三と打てば黒四に結ねて黒善し。（二五一二圖以下參照）

〔二七四二〕
黒堅き形なり

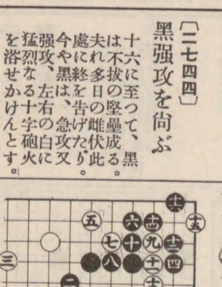


黒四、肝要なり。黒六、八堅き手なり。猶、白三、黒四となりし以下の變化は、二五一一圖以下參照。

〔二七四三〕
黒堅實打易し

白一なれば、黒二必然の應手なり。猶、白一を二、或は**イ**などに打ちし變化は二四三〇圖及び二三九六圖以下參照。

〔二七四四〕
黒強攻を尚ぶ

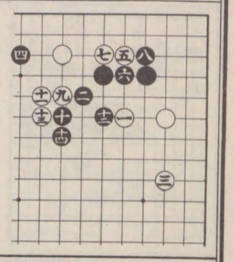


十六に至つて、黒は不抜の堅壘成る。夫れ多日の雌伏此に終を告げたり。今や黒、左右急攻又強攻、猛烈なる十字砲火を浴せかけんとす。

〔二七四五〕
黒確なり

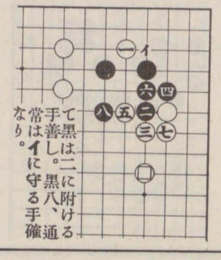
白五にノゾケば、黒六、以下十と一目を提るべし。此形、互角の分れ。黒の形確なれど、

〔二七四六〕
場合の手段



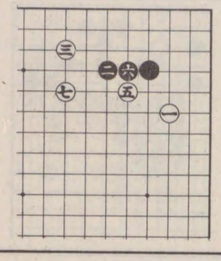
中川龜三郎八段
二子番勝
岩本　薫五段
當時
兩氏の局にあり。白三、黒四共に場合の手段なり。

〔二七四七〕
場合の手段



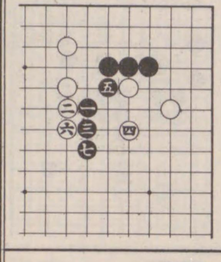
瀬越憲作七段
二子番勝
村島義勝四段
當時
兩氏の對局にあり、白○にある場合は、之を凝らす意味にて黒は二に附ける手善し。黒八、通常は**イ**に守る手確なり。

〔二七四八〕
參考圖



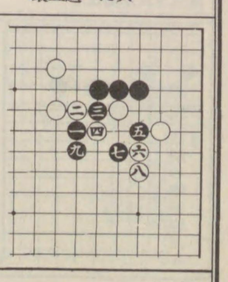
白五、七は、專ら中央の經營を、策する手段なり。

〔二七四九〕
五　角



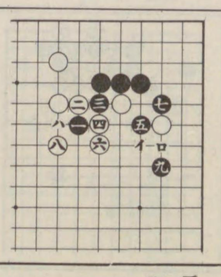
黒一以下の手筋、暢達にして善し。

〔二七五〇〕
黒大に善し



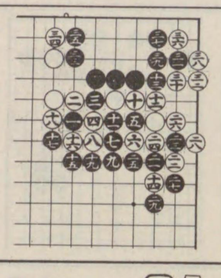
夫れ人に人倫、兵に兵法、碁にも碁の法あり。碁は盖し法に適へりや。而して黒五に至つては利又最も能く白を破る。

〔二七五一〕
黒利勢なり



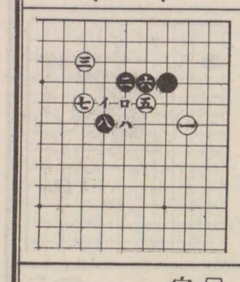
黒七、確なり。白八を**イ**に打てば、黒**ロ**。又白**イ**に打てば、黒は強く**ハ**に打ちて善し。

〔二七五二〕
黒優勢なり



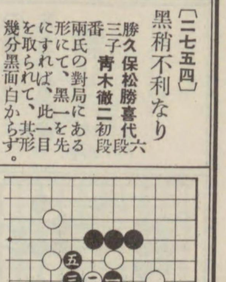
圖は黒の征の惡しき場合を假定したる變化にして、若し征宜しき場合は黒十五を十六にて、白ツブレなり。（手）粘

〔二七五三〕
要點約言（下）
（第三一型ト）



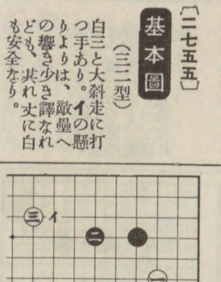
黒四を手抜、白五、黒六、白七と打ちし形には、黒八に斜走善し。又白七を**イ**に打てば黒**ロ**、白八と切つて**二七五〇**圖以下の變化と同じ。

〔二七五四〕
黒稍不利なり



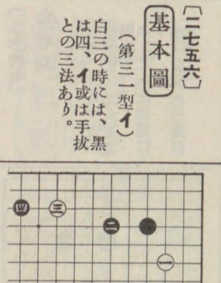
勝久保松勝喜代六段
三子青木徹二初段
番兩氏の對局にある形にて、黒一を先にすれば、此一目を取られて、其形幾分黒白から不ず。

〔二七五五〕
基本圖
（三二型）



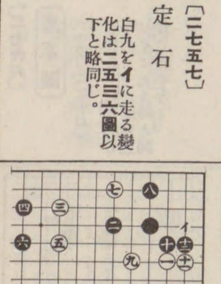
白三と大斜走に打つ手あり。**イ**の懸り敵壘へより、の攻撃少き譯なれども、共れも丈に白も安全なり。

〔二七五六〕
基本圖
（第三一型**イ**）



白三の時には、黒四、**イ**或は手抜との三法あり。

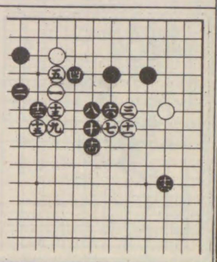
〔二七五七〕
定　石



白九を**イ**に走る變化は**二三六**圖以下と略同じ。

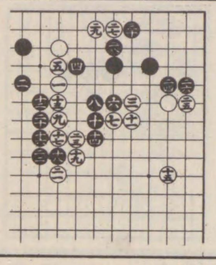
〔二七五八〕
黒の勢優れり

白三及び七は却て黒に調子を與へて惡し。黒十は十一と切る手もあり。黒惡しからず。



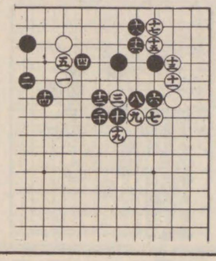
〔二七五九〕
黒堅實、優勢

黒十四白十五。敵の虚に乘ずべしと雖、黒は十六以下ひたすら押しして攻め、白をして應酬に暇なからしむ。二三に兵塵漸く鎮まるを待つて、黒乃ち隅を守る。善し。



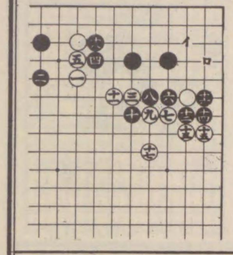
〔二七六〇〕
黒利勢なり

白三と虚喝す。夫れ武人は死して榮とも、生きて辱を受くることなし。黒如何でか、白の虚喝に屈せん。白六以下二十まで、黒の勇略賞すべし。



〔二七六一〕
黒利勢なり

すでにして、黒十一に至る。白、若し黒イに至れば、黒ロ。又白イと打ち、黒ロなれば、黒は手段なし。

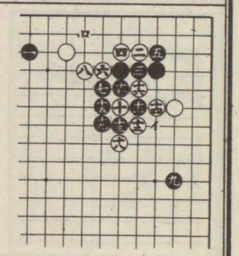


〔二七六二〕
黒の勢確なり

白四を五なれば二、以下の如く打ちて黒善し。白十四を十五に打てば黒イに續出す筋あり。此形後に黒ロに置く手あり。（次圖）

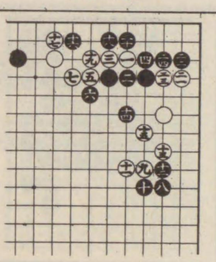
〔二七六三〕
黒手筋に榮ゆ

黒十六！猛鷲の羽撃して疲鳥を襲ふが如し。黒が手筋の冴え、恐しとも怖し。



〔二七六四〕
黒必勝の勢

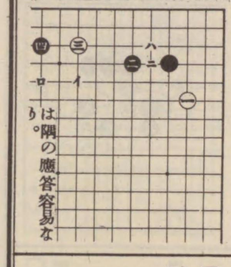
白五及び九、惡し。手を拔く位のもの。九は五はイの絶なり。十六に至つては、黒厚く鐵桶の備に類す。白甚だ惡し。



〔二七六五〕
要點約言

（第三二型イ）

白三と大斜走掛り、黒四と夾みしが若し白イとせば、黒は直にロと飛ぶ形。又白イを黒ニに來れば、黒ハと粘つて善し。即ち、白三の石が遠き丈に黒は隅の應答容易なり。



〔二七六六〕
基本圖

（第三二型ロ）

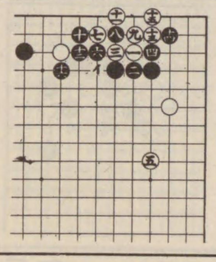
黒四と三間に夾むが如し。之は白三が黒イにある時と同樣、好手なり。

〔二七六七〕
參考圖

白一にて黒ロ、白ハの變化は二六五圖以下。黒ニは二六三四圖以下。本は二五三三圖以下。

〔二七六八〕
定石

白三にある時は、黒六、八佳し。黒は圖の如く三の肩に迫り、此處に接觸し、同時に一、五の白に迫るなり。

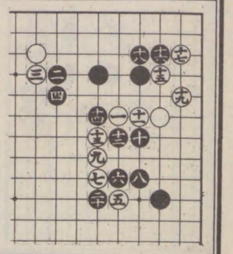


〔二七六九〕
互角、黒堅實

黒十四、及び十八確なり。

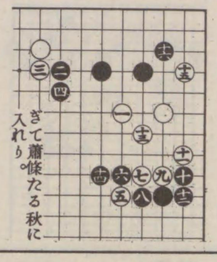
〔二七七〇〕
白軍敗亂の形

白五の帽子に對しては黒には種々の應あり（互先三參照）其中六と内より附け方にして面白し。



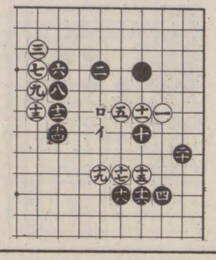
〔二七七一〕
白惡し

白七、強に過ぐ、無理なり。黒十綿粘、何ぞ切なる！白十三、已むなきに至つては、白軍の運命や、既に春の驪りを過ぎて蕭條たる秋に入れり。



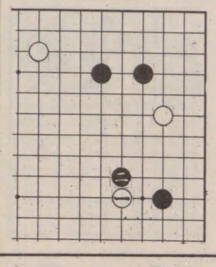
〔二七七二〕
定　石

白九、次に十三に押せば、黒も十六、十八と押す形となり。此戰ひ互角なり。猶白五をイ及びロに打ちし時も黒は六と打ちて宜し。



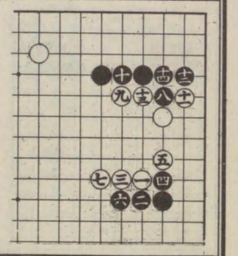
〔二七七三〕
黒二、手強し

白一なれば、黒二と附ける手強し。（互先三間夾の部參照）



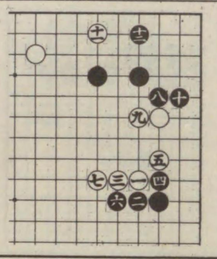
〔二七七四〕
黒打易き形

此形、黒八の尖附最善し。白九以下、黒を堅くして面白からざれど、此場合他に適當の手段も無し。



〔二七七五〕
黒確なり

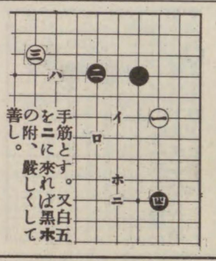
黒十は、無論隅の守りに打ち手なれども、同時に白の眼を取る意味もあり、佳手なり。



〔二七七六〕
要點約言

（第三二型ロ）

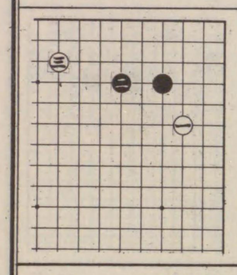
黒四と三間に夾みし變化は略二六三二圖以下三間夾と同樣なれども、白イ或はロなどに飛びし時は、黒ハを、手筋とす。又白五來れば黒ホを附、嚴しくして善し。



〔二七七七〕
基本圖

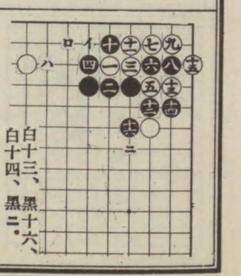
（第三二型ハ）

白三と一路遠き形は、前の小斜走掛りより隅に影響少き故、黒は手を拔くも善し。



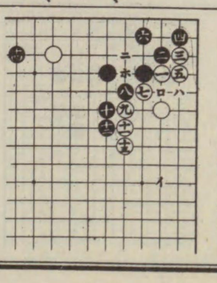
〔二七七八〕
黒大に優れり

白三を四は、黒三（二七六二圖以下參照）ぞ。又白五を、黒イに綽れば、白ロ、黒ハ、白十、黒ロ、白十一、黒ハ、白五の時黒は痛烈なる六の切で白八、黒十二、白十三、黒十六、白十四、黒ニ。



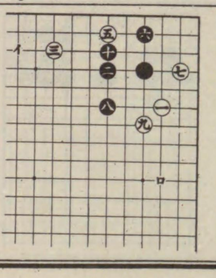
〔二七七九〕
黒好形なり

黒四、手筋なり。イに黒石無き場合、四をロに綽込み、合、白五、黒ハと突出す手は惡し。（二六四九圖以下）此形、白ニに置くも、黒ホの粘にて善し。



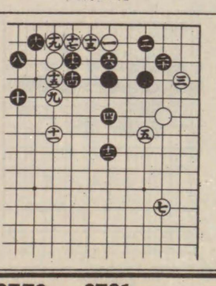
〔二七八〇〕
定　石

黒がイ手拔又はロに石無き形に於て白五に走れば、黒六に應じ、白七なれば、黒は八と飛び二五と三四圖以下と同じ。

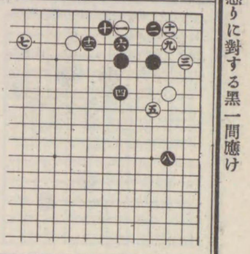


〔二七八一〕
黒の形整へり

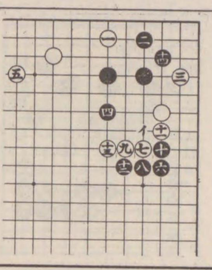
白十三を二十に覗けば、黒十三に取つて矢張黒には眼の形あり。黒二十確なり。



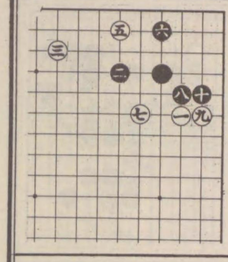
〔二七八二〕
互角、黒堅實
白七に拓けば、黒八に夾攻すべし。



〔二七八三〕
黒の形善し
白五に守りぬ。黒は恰も水の低きに就くが如く、自らと白の虚を衝いて六と攻む。白九に至つて、黒は十二と、巧に攻防の中道を歩む。



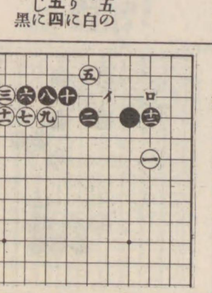
〔二七八四〕
常形なり
今や、白五に備へぬ。右邊の白軍手薄なり。乃ち黒六に襲ふ。白七をイに尖めば、黒九に完封して、凱歌黒に揚がる。



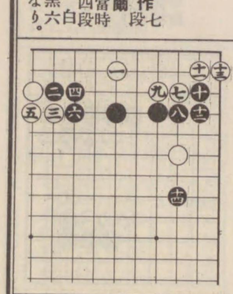
〔二七八五〕
定石
四手抜
白七、正着。此時、黒は八、十に守る確實なり。

〔二七八六〕
基本圖
（第三三型）
白三と大々斜走に打つ手は、黒二との間、雲か霞か相距る餘りに遠くしては、懸りとしては二の黒に影響少し。

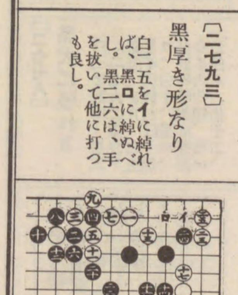
〔二七八七〕
基本圖
（第三三型イ）
黒手抜の變化
白○に大々斜走にあれば、黒は手を抜くを普通とす。其他の黒イまたはロなどに夾む變化



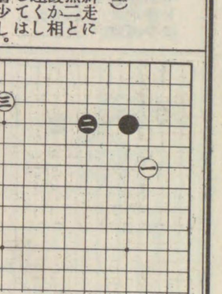
〔二七八八〕
定石
四手抜
此形には、白五の走り最も好し。白の過ぎ、ロは深入りに五四イは二五四八圖以下と同じにして白好まず。黒六手筋なり。



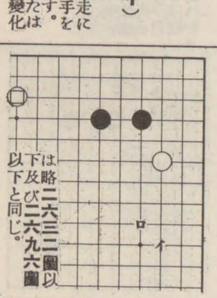
〔二七八九〕
常形なり
瀬越憲作七段
二子 前田陳爾 常時四段
番 勝
の打棋にあり。白五に粘けば、黒六の曲り、肝要なり。



〔二七九〇〕
黒好まず
白五に粘ぎ、虎視眈々として機を待ちたるを、逆命の神は今や、白に徹笑を投げかけぬ。黒六は、前圖の如く八に打つべし。



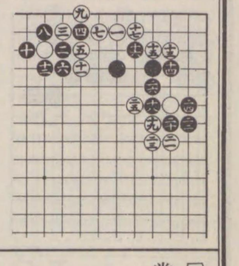
〔二七九一〕
黒確なり
白九の綽を先にすれば、黒は十に約へて宜し。



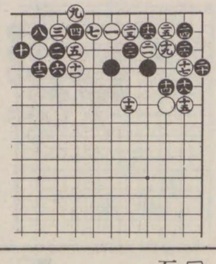
〔二七九二〕
黒の勢優れり
白三に綽れば、黒は四と打つ筋なり。黒は十、征の善き場合に限る。（二七九圖參照。）黒十八は筋違ひの手なれば、此場合の綽を含みし佳手なり。

〔二七九三〕
黒厚き形なり
白二五をイに綽れば、黒ロに綽ぬれし。黒二六には、手を抜いて他に打つも良し。

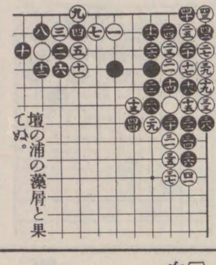
〔二七九四〕
互角、黒堅實
白十三に侵せば、黒は十四、十六と打つて、十七に至つて、人或は、此黒に、纏を解かれ、捨小舟の如き不安を感ぜん。然も、黒は悠々として十八以下の活を圖る。



〔二七九五〕
互　角
白十三なれば、黒は十四、十六と先づべし。白十七を十九に打つも黒十八に約へて圖の變化と同じ。

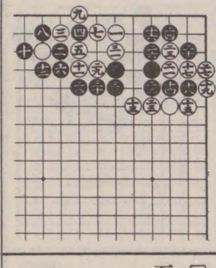


〔二七九六〕
白驕りて滅す
白二一以下二七まで、一人も無げなる振舞、正に打過ぎなり。あゝ驕者は久しからず、諺永の昔、平家の没落を思はずや。四に至つて、白は

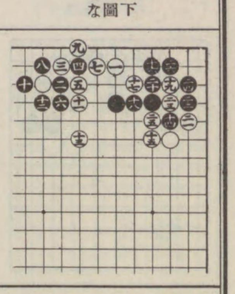


境の浦の藻屑と果てぬ。

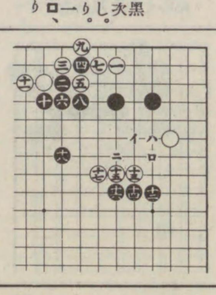
〔二七九七〕
黒勢大に優る
白二九を三十に綽出せば、黒二九、白三一を三二に切れば、黒一二に打つて、何れも攻合黒勝なり。



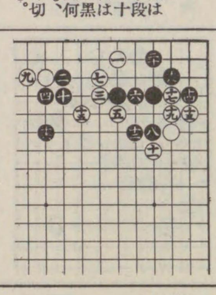
〔二七九八〕
常形なり
黒十八は二一に下るも宜し。隅は圖の如く黒二六となりて活あり。



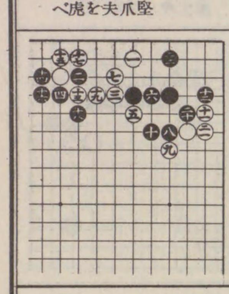
〔二七九九〕
互　角
征悪しき場合、黒は八、十と打ち次に十二に攻むべし。白は十一に攻むべし。若し此手一手筋なり。白ハ、黒ニとなりて白苦戦なり。



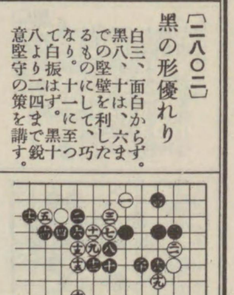
〔二八〇〇〕
白無理形なり
白三なれば、黒は四の振替りの手段に出づべし。二十までの結果、白は形三分せられ、黒は二分さるゝも切なる場合にて多く切戦の後石を取られし方、悪し。



〔二八〇一〕
互角の形勢
此形、兩軍共に堅牙を持して密に爪曇を磨く。若し夫れ一たび急を告げ風雲一變、龍爪虎牙の烈戦を見るべきか。

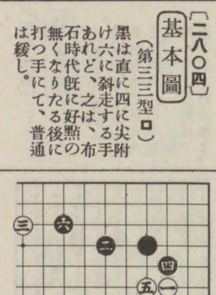


〔二八〇二〕
黒の形優れり
白三、面白からず。黒八、十は、六と黒の堅壁を利したるものにして、巧なり。十一に至つて白振はず。黒十二は四まで鋭意堅守の策を講ず。



〔二八〇三〕
要點約言
（第三三型イ）
黒四、手抜の場合。白五と走りし時は、黒六手筋にして面白し。之には種々變化あれど、何れも黒悪しからず。

〔二八〇四〕
基本圖
（第三三型ロ）
黒は直に四に尖附けて六に斜走する手あれど、之は、布石時代既に好點の石なりたる後に無くなつて、普通は緩し。



〔二八〇五〕
定　石
此形、黒は專ら堅く守らんとする場合、用ゆる定石にして黒堅實なり。

【二八〇六】
白大敗
白五と打つて黒地を蹂躙せんと圖りしは、以て貪に過ぐ。黒六以下二二に至つて、一以下の白七子、遂に活路なし。

【二八〇七】
黒大に優れり
黒十は、十一に棹も此手は、次に白イ、黒ロ、白十三、時に黒ハ、白ニの劫爭に勝ち得る成算ある場合の手なり。

【二八〇八】
黒四罠に落つ
黒四、悪し。白五は黒時勿滅を期して六に殺陣を進めしも、四の果今にして黒に及び白七、九に爲撃滅せられ畢りぬ。

【二八〇九】
互角
白直に一と打込めば黒手を六に約へるは緩し。此手を六に約へるは緩し。

【二八一〇】
黒善し
白九と打てば、白十五まで必然。此時、黒は四まで十六に馬を歩む。十六の白二子、今や戦ふに地利を得ず、退くに途絶えたり。

【二八一一】
黒善し
白五に極めて附け、黒は六に打てば、尋いで八と守る。然れども、白九に活を圖る時は、乃ち黒十に迫る。揚げて黒軍や旗鼓堂々たり。

【二八一二】
黒優れり
白三、悪し。十七に至つて白先手活。黒の外壁堅し。加之、最後の黒十八は左右を望み見て攻守兼ね備はり、黒の旗幟中空に翻翻たり。

【二八一三】
互角。黒堅實
白一を先にして三に打てば、黒は四に替りて善し。

【二八一四】
要點約言（第三三型ロ之は時機）
黒四、六緩し。十五まで打つなり。黒は斯く打つも、猶白より隅に打込む手あり。堅實を主とする場合、時に黒は斯く打つべし。

【二八一五】
基本圖
（第三三型ハ）
黒四と尖附け、白五に立つを見て六と三間夾にむ手あり。前の「三三型、ロ」とは反對に、黒手強き打方なり。

【二八一六】
定石
白七なれば、此場合黒は八に應け置くべし。十八まで形、黒は稍凝りなれど、隅に黒以下黒は打易し。

【二八一七】
黒打易き形
黒二は、十三に尖むも宜し。斯くても白十三に尖みぬ。黒十四と追つて白の十六より乃ち十四を誘ひ、十六まで二十と何處までも、ひた押しに、白を押しつけて宜し。

（二六二圖以下參照）

【二八一八】
白先黒活
（前圖の變化）此形後に黒イ、次に黒ロに押しつぶすとすれば、活なり。若し黒ロを八に取れば白一に取れば黒死なり。
（三）一目提返ス

【二八一九】
黒有利の分れ
白十三をイなれば、黒ロと打て二六七、五圖以下と同じく。又圖の如く打てば二六二圖以下の變化と同じ。黒十六、善し。

【二八二〇】
白軍潰敗の圖
白十九に一歩を誤り、二三に再蹲す。十九は二十に二十一は四十に三つべし。黒二四に至つては、伏虎野に奮ひて起つて咆哮あり。白軍の慣伏して振はず。

【二八二一】
黒優れり
黒二十、左は○の白に接し右は白四子の包殺を諷す。佳し。白二一を二二、黒二一、六は白二一、黒二一尋で三に善し。黒は、隅は活、外勢厚し。

【二八二二】
白面白し
黒八と尖む手あれど、白九と打たれては、白活形を得て、黒は□の威力著減す。故に面白から打てば、白九を二に打てば、黒十を二にて善し。

【二八二三】
白、逆に斂る
白三、手順悪し。白五、七は、無理なり。黒七に征宜しく、直に十六と打つべし。征へば、黒十六、白十七、黒十八と打てば、白イ、黒十、白ロ、黒八、白十三。

【二八二四】
白大敗
白いま十五に守る。黒十六、十八は一手に制して白の死命を制して宜し。黒二に至つては、天澤海の術ならざる限り白活きるを得ず。

【二八二五】
要點約言（上）（第三三型ハ）
白七の輕き走りに對しては、黒八にて應け、結果も悪しからず。

【二八二六】
黒善し
黒イに應けず尖手あり、之も面白き手筋なり。白九は遅疑せず直に打て、白は遅せば、黒ロは切る。次に白ハは黒ニとなり、黒ニと相呼應して陣容全し。

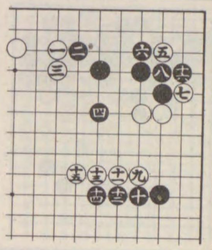
【二八二七】
黒俟手に陷る
夫れ敵を知り己を知れば百戦殆からずと。然るに黒六、八は、白一の大悪なり。

【二八二八】
白悪し
白五と枠ね、以下十一まで、連延として低地を這ふ、白必敗の形なり。黒乃ち十二と爛尋いで、十二、二と相應じて攻む。

【二八二九】
黒甚だ善し
白三甚だ悪し。四以下四まで壓迫され、大に十六の好點を先に擬す。圖を日本海戦に於ける東郷大將の策戦悉く中れり。黒軍提

〔二八三〇〕
黒申分無き形

白一と狭く拓けば、黒は先づ二に尖附け、次に四に飛ぶべし。黒十六と堅守し、密に十五すでの白に對して双を磨く。蓋し沈着の佳手なり。



〔二八三一〕
參考圖

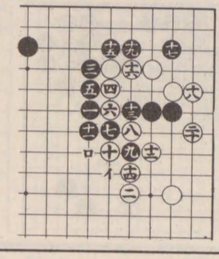
場合の手段なり

先番 木谷實五段
勝本 宇太郎四段

兩氏の對局にあり。此形黒厚く可なり。

〔二八三二〕
黒稍有利なり

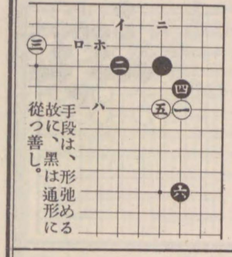
黒九の二段綽手筋なり。白十二を十三に粘げば、黒イ、白十二、黒ロと一目を打抜くべし。此形、黒先手となれるだけ、稍有利なり。



〔二八三三〕
要點約言（下）

（第三三型ハ）

白七では、イロハ或は其他の手段あり。白イには、黒ニ又はホ。白ロには、黒ホにて打易し。其他の白の手段は、形勢めるに故に、黒は通形に從つて善し。



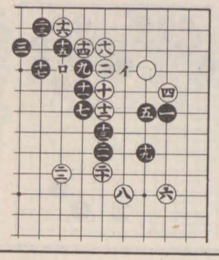
〔二八三四〕
基本圖

（第三四型）

一の白より中に飛ぶには、白④を正着とすれども、猶其他に㋺、㋩、㋥の飛あり。之等は皆場合の手段、得失處によりて異るなり。

〔二八三五〕
定法

白一正着にして、之は種々なる場合に用ひらる。（二七四三圖及二七六八圖以下參照）



〔二八三六〕
場合の手段

白一は場合の手段にして、之は六子以上の置碁に面白し。

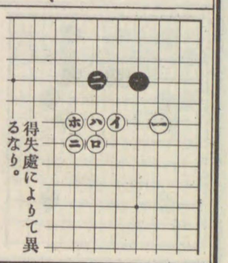
〔二八三七〕
定法

白一には、黒二の應け確にして善し。他に黒イ或はロと打つ手あり。此ロ二着は大にハの攻を含む。

〔二八三八〕
要點約言（天）

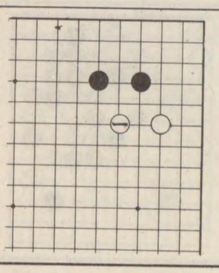
（第三四型）

此黒イ、ロ、ハの三つの應けは、只斯く應けるまでにて、以下には六ケ敷變化なし。



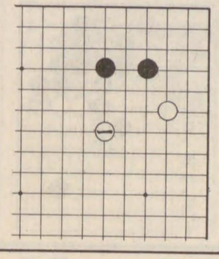
〔二八三九〕
白嵌手に陷る

黒二、四正着に非らざれど奇計手段にして、時に妙あり。白五、九共に惡し。白五は二八四一圖の如く打つべし。



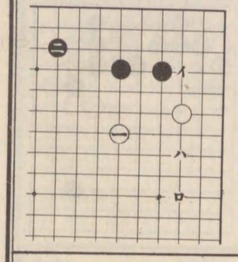
〔二八四〇〕
黒優れり

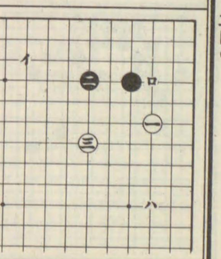
圖の如くなりても、白一は無駄手となれり。然し之は、隅の形、前圖より白稍有利なり。

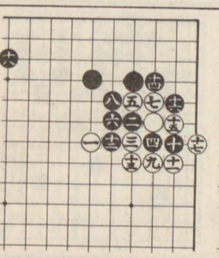


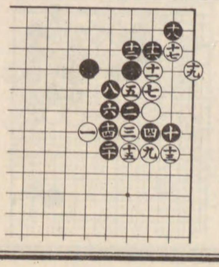
〔二八四一〕
黒嵌手に陷る

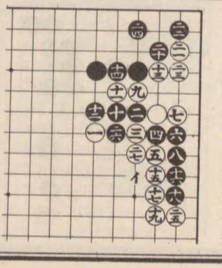
白五、七の約は、圖の如く白一の如き場合は好手なり。（白一無くば、黒六を二七、白二、黒八、黒イ。）





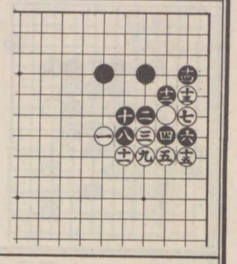






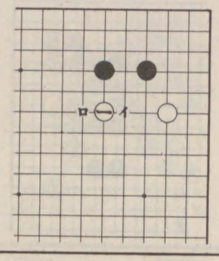
〔二八四二〕
白勢稍優れり

黒八、十、正着なり。白十一を十四に飛べば黒十一に突出して黒善し。



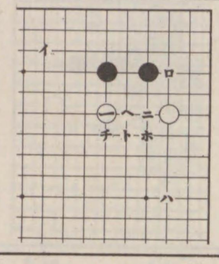
〔二八四三〕
場合の手段

前と同じく、白一の二間飛は、若し之を通形イと一間飛に從へば黒ロに約れて、或はロに約れざる時、面白からざる打つ變化の手段なり。



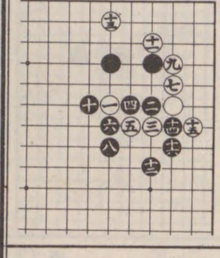
〔二八四四〕
黒の應け四種

此形も前型と同じく、黒はイ、ロ、ハの三つを通常の應けとすれども、外に黒ニに附け、白ホ、白ト、黒ヘと切る劇しき手段あり。



〔二八四五〕
黒の勢確なり

黒十九に約れば、白十八、黒八となりて一九七九圖と同じ。



〔二八四六〕
黒優れり

白十五、十七と打て三目を取る手は、却て黒を厚くして惡し。黒三、三四は俗筋にして好まぬ手なれど、此場合好し。

〔二八四七〕
黒優れり

黒十は、衆目の衆る所。黒十四と曲りて十六、而して十八、十一と運び守備を固うす。精巧なること、恰も名工の鑿を用ふるが如し。

〔二八四八〕
白軍四分五裂

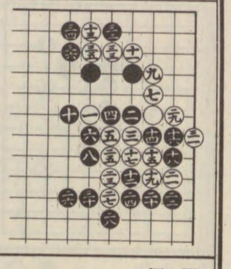
白十三、無理なり。黒十四、善し。白、二戰に利あらず。黒二の險要を扼す。中央に分裂の白、鰓呵不過を嘆く。

〔二八四九〕
白逆に嵌る

黒十八に、白十九と奇襲を行ふ。一見、黒敗の如きも、二十、二に白反撃に捕はれの身となるも、輕しむべき所以なり。

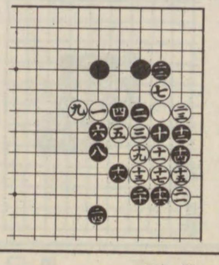
〔二八五〇〕
黒優勢なり

白七、手筋に似たれど此場合好まず。黒八は本手なり。白十三を十四に粘ぎて前圖と同じ。



〔二八五一〕
互角

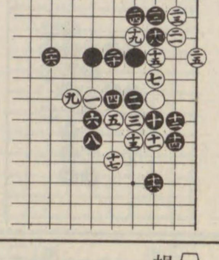
黒八と絡込めば、黒確にして、變化分り易し。又初めに白五を八に打ば、黒五、白イの時、黒七に約へて善し。



〔二八五二〕
場合の手段

二子番
勝 向井一男四段
著 七段

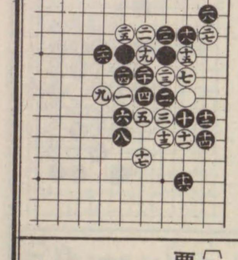
對局に出づ。白三は中央の形勢を主とし、十六に至つて黒の實利大なり。通常の形勢にては白損なり。



〔二八五三〕
要點約言（地）

（第三四型）

白三と二間に飛びし形には、黒はイ、ロ、ハの應け普通にして穩かなれども、直に黒二に附け、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チと切る手あり。手強くして面白し。



〔二八五四〕場合の手段

白一、奇手なり。斯かる手は只多數石を置かしたる場合、強ゐて變化を求めずとも、しくしくせんとする時に妙あり。

〔二八五五〕黒の應法四種

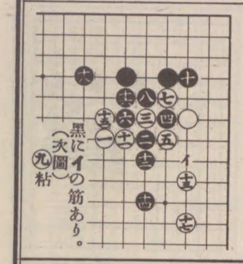
此形も矢張り前型と同じく、黒は手を抜くも宜しく又イ、ロ、ハと打つも善し。但し外に黒は二と戰ふ劇しき手段あり。

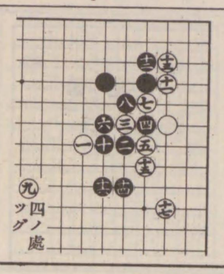
〔二八五六〕形勢相匹敵す

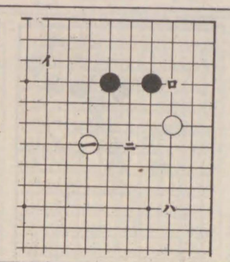
黒二と馬跳躍々、白軍の中間に衝いて入る。黒四に綽込む、手筋妙なり。黒十の粘は、確なれど、稍緩し。此形の地と外の厚味と相匹敵す。

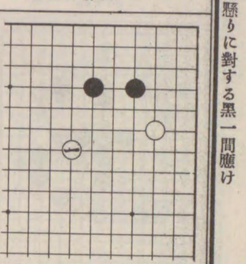
〔二八五七〕黒善し

白九に粘ぎぬ。黒は、籌を帷幄の中に運らし勝を千里の外に決せんとの意にて下ぬ、手強に進めば、七で十八に進めば、









〔二八五八〕黒優れり

白五より打てば、黒は六より當りとし、又前圖白七より打てば黒八より當りとすべし。結果は同じきも此間の手順肝要なり。

〔二八五九〕黒優れり

白九に綽れば、黒先づ劫を捉り、次に十二と綽ぬて善し。

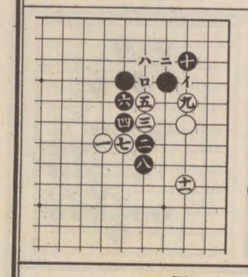
十劫トル
士同
十一同

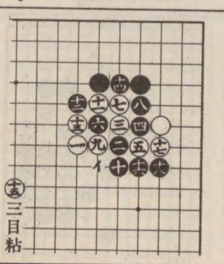
〔二八六〇〕白無學に亡ぶ

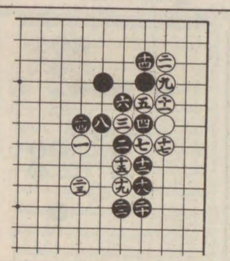
古の名將は、雁の亂れを見て兵法を學ばざれば則ち殆し、と云ひぬ。白は七と非法に反して慘敗せり。白は九を十、黒九、白イ位のもの。

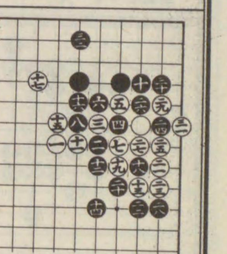
〔二八六一〕互角

黒四は通常の手筋なれど、此場合白に五、七と切られては物足らず。黒十を以て面白し。黒ハずれば、白ニの筋にて、黒ハ、白ロの交換にて、禍根を遺す。









〔二八六二〕白利勢なり

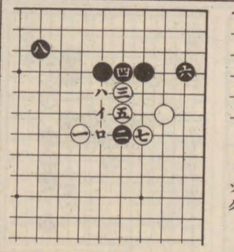
黒八手筋なれど、此形にては打過なり。白十五は形なり。即ち、黒十六を十七に守れば、白イにて十二までの黒撚殺さる。

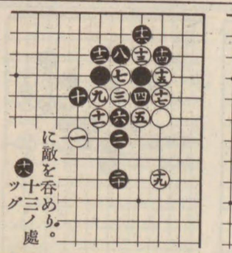
〔二八六三〕黒嵌手に陷る

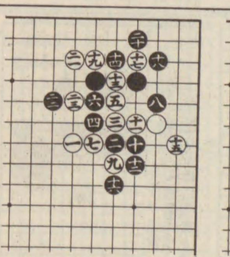
黒十八惡し。外の黒三目を提られては黒に用武の途無し。

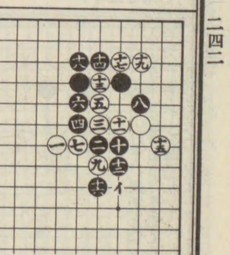
〔二八六四〕黒利勢なり

黒四、六手強し。白七を九に打てば、黒七となりて圖の形より一層黒善し。黒二十と、馬上か乘出す。英姿豐に颯爽として意氣旺







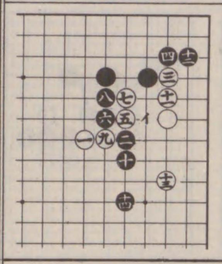


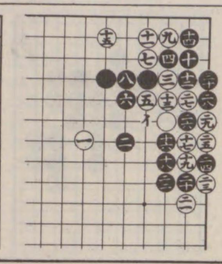
〔二八六五〕黒打易き形

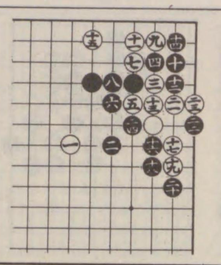
黒四、堅き手にして斯く打つも黒善し。白七、肝要之を忘れば、黒ハに打つ手あり。

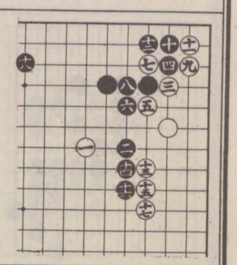
〔二八六六〕黒優れり

白九に粘ぎぬ。黒は、籌を帷幄の中に運らし勝を千里の外に決せんとの意にて下ぬ、手強に進めば、七で十八に進めば、









〔二八六七〕白全滅の形

白九、大に無理なり。此時黒少しも慌てず勝を千里の外に見拔いて悠々二四に白を屠る。（變化三二七五圖以下參照）

〔二八六八〕白死（追落）

黒イ、白二一を二六は、黒二三にて黒勝。この追落し平家一門が九郎判官が鄭越の坂落しと、靈犀相通ずる所ありやなしや。

〔二八六九〕黒の形優れり

白三の後に五と綽ぬれば、黒六と綽ぬべし。此場合イに割込むは二八五圖以下の形となりて此三、四の交換は幾分黒に不利に歸すべし。

〔二八七〇〕要點約言（玄）

（第三四型）

白三の時は、黒は手抜か、或はイ、ロ、穩なれと應けれくニと隔てて打つ手あり。種々變化あ

〔二八七一〕特殊場合手段

白一は特殊の場合の手なり。普通は遠くして好まず。黒の之に對する應けは前及び次圖の如くなれど、外に黒イ、白ロ、黒ハと打つ嚴しき手あり。

〔二八七二〕定法

白一の時は、黒二に應ずれば穩かなり。外にイ或はロと打つ手あり。此意味は全形略し、然し黒二を若し手を抜けば、白ホ。黒ニ、白ハ、

〔二八七三〕黒好まず

黒手を抜きたる時は白一、三との粘となりて白善し。

〔二八七四〕黒大に優れり

黒二、四の附行び而白し。白九、輕し。白五、打過なり。他の好所を選んで此一目の一目は捨つる手段を取るべし

〔二八七五〕白無理形なり

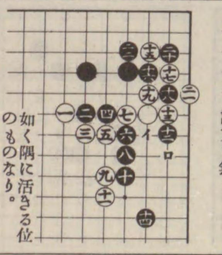
白九は前圖の九と異曲同上、打過なり。十以下二十まで段に、豪放なる黒の手段心なる黒而かも細の面目躍如たり。

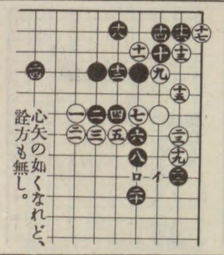
〔二八七六〕黒優れり

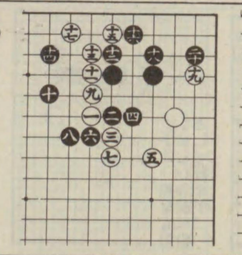
白五、惡し。黒六、手強し。此形、白イに粘出せば黒ロに粘いで二一の一手目は捨つるも、手割黒惡しから二四に至つて、黒二の白は歸中央分離

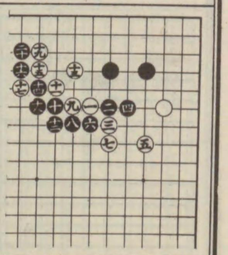
〔二八七七〕白捕虜となる

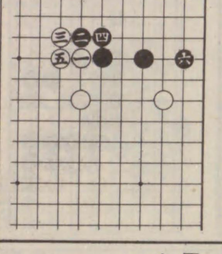
白九、打過なり。爲に白イに凌ぎ生じ、黒十二の一擊に白は永劫の恨を呑みぬ。此手は十五も惡し、白十六に附け切り、此手は十六に、前圖の

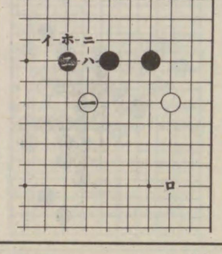


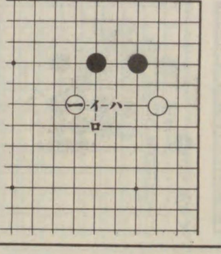


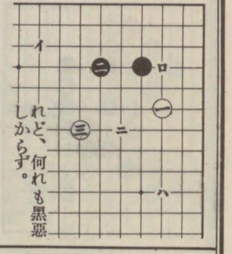












【二八七八】
黒利勢なり
白七、九と打てゐの一目を拾てゝは、白損なり。

【二八七九】
黒の形整へり
黒二、嚴しき手段なれど、一着を誤れば白のカルク廣あり。黒のハメ手に四の綿込最も好し。（二八五六圖參照）。
九四處ツグ

【二八八〇】
黒優れり
白九を十一に約れば、黒劫提り、白イ、黒十二、白二十五の時、黒二十に約へる手順となりて黒善し。白十七なれば、黒は十八に約へて宜し。
九粘

【二八八一】
白軍長恨の圖
白五より切れば、黒六に粘いで善し。黒八、白イ、黒ロ、白十に黒凝形。黒此一着に在り。興敗二十、二二、二四にて、黒攻合勝。

【二八八二】
黒、逆に死す
寸善尺魔！まことや、蹉躓の機の多き哉。黒二十惡し。白二一となりては黒合せ劫なりたは攻合敗なり。

【二八八三】
黒優れり
白十一をイならば、黒十一にて善し。白十一以下、十六までは必至、白十七より二一までの活は已むを得ず。黒に利あり。二二に至つて形勢

【二八八四】
黒嵌手に陷る
黒六は、私に白イを期せり。何ぞ圖らん、白より七とその裏を撮れぬ。十一に至つては、白の計畫通りなり。即ち結果に於ては大して得失なきも、

【二八八五】
白稍凝形なり
白三に四と結込みて、黒は戰の利を失へり。黒六を十二に打てば、白イと同じく、黒面白からず。

【二八八六】
黒好まず
黒二、筋違なり。白三善し、鼓に至つて白は地の利を占めたり。白三をイとは、黒ロ、白ハ、黒ニにて二八七四圖以下の變化と同じ。

【二八八七】
要點約言
（第三四型）
白三には、黒はイの應け穩かなり。此外、イをロ、白ハ、黒ニ、白ホの時、黒ヘと切つて出る手。黒ロをホに飛出して戰ふ手と

【二八八八】
基本圖
（第三五型）
白三と附ける手あり。劫の意味、又は一の白を堅くせんとする意味に於て、用ゆる好手段なり。然し斯く打

【二八八九】
參考圖
定法
白三、黒四となりし時、白にイ、ロ、ハの着手あり。イ、ロ、一の劫の意味に於て白を堅くするはロは急なれど却て前形と同じく、黒面白からず。
（二六四六圖以下合場）
ハは惡し。

【二八九〇】
基本圖
（第三五型イ）
黒六、確なれど稍ヌルシ。二六一五圖以下の如く打つ、多方手強くして、多くの場合働きあり。

【二八九一】
定石

【二八九二】
多くは黒善し
白三は、劫拋の數を計つて打つべし。尤も、黒は兎も角、黒は四、六と運び次に劫材の多少を考へて手段を廻すべし。此形は、多く黒劫粘にて黒優る。

【二八九三】
黒有利なり
夫れ兵の勝敗は、武器よりも寧ろ士氣の如何にあり。白三に安逸を貪りて、士氣の見るべきもの無し。四に至つて黒は堅陣益堅を加ふ。白三益惡手なり。

【二八九四】
定石
黒六の綿ぬ、手強くして必至。此一劫の拋あれば、一十六をイに善し。又征に宜しき場合は、十六にて次圖の如く打つべし。

【二八九五】
黒打易し有利

【二八九六】
黒必勝の勢
白七の粘、惡し。斯くて必至。黒は十六に至る。黒は地多く且つ勢も優れり。
六粘
七粘

【二八九七】
白必敗の形
白九、其だ無理なり。黒十は若し征一に宜しく約へて善し、（征一とは、黒ロ、白ハ、黒ニ、白イ、黒ホ、白十二）。

【二八九八】
白の手段無理
黒四は無論イに劫を取る所なれど、圖は白劫をなし、次に白提と假定して四打ちし變化なり。猶白三をイの惡手は論外の事にて、白は黒ロにて、白惡し。

【二八九九】
黒の形緩し
黒二には、初心者の實戰には、多く見る筋なれど、白〇を輕くし、且つ黒イの價値を減ず（次に黒ロに取るも黒の形稍重き感あり）。加之白三に踊躍す。

【二九〇〇】
要點約言
（三五型イ）
黒六ではイ、ロ及びハの應けあり。黒イは堅けれど、白に二の筋あり。ロは急なれど却て形治りて黒善し。

【二九〇一】
白有利なり
白一の時、黒は士氣沮喪して所謂一三の三なる三の要點を捉する勇氣無く、却て白に三の要點を奪はる。黒二は初心者も、打棋に往々見る、損甚し。

〔二九〇二〕
白に手段なし

前圖黒一に打ちし手は、此一の切りを恐れての着手なるも、若し白一に切れば、圖の如くなりて、變化は極めて簡單、且つ結果黒善し。

〔二九〇三〕
黒優勢なり

若し征惡しき場合は黒八を十に粘ぎ、白十一、黒劫提、白八、黒イとなつて、同じく黒優れり。

七 劫トル
丸 粘

〔二九〇四〕
基本圖
（三五型ロ）

白三、次に五と二段に綿ねる手あり。之は專ら白一を守る手段にして、多く緩し。

〔二九〇五〕
定石

黒六、八と打ち次に十と掛ぐ手、簡明、黒善し。黒イ及びロに石を出す場合、八、九を突き出す手は無理（二六四九圖以下參照）。

〔二九〇六〕
黒形働きあり

白七と、五までの左方を顧ずして白を願ずして肉薄す。機を見るに敏なる黒は八、十、十二と攻勢を取つゝ自己の陣容を固む、可なり。

〔二九〇七〕
定石

黒六はヌルキ應けなれど、斯く先手を取り、次に八に拓く手も確にして善し。猶黒六はイに打つ手もあり（二六四六圖以下參照）。

〔二九〇八〕
要點約言
（第三五型ロ）

白三、五と二段綿せし時は、黒イ、及びロ（黒ホ）の三種の應けあり。而して黒ヘの尖或はトの夾みのある場合は黒

〔二九〇九〕
基本圖
（第三六型）

白三、或はロなどに打込、又は位低く、且つ奇に過ぎて惡し。

〔二九一〇〕
黒堅實打易し

白一には黒二の尖附最も善し。白三を五に打てば二九〇四圖以下と同じ。

〔二九一一〕
黒厚く、必勝

白一の時も、黒二の尖附最も善し。（變化五三一圖以下參照）

〔二九一二〕
黒の形勢善し

白一に對しては、黒は二と尖む手最も確なり。黒八は、六までの堅壁を利して夾攻に出づ。然し此手は可なり、然し此手は十五に掛ける手

〔二九一三〕
黒優れり

白七をイに拓けば、黒ロと尖附て善し。此形、後に黒ハに附越して上の目を取る手あり。（次圖）

〔二九一四〕
黒先得

黒一と打つて三目を提る手は、約十目の得、且つ此三目を取れば黒の形甚だ堅固なり。黒一、三、而して五、巧緻を極む、白六、を七には、黒イ。

〔二九一五〕
黒堅實、善し

黒八手筋なり。黒十四は普通イに行くべき筋なれど此形に於ては斯く粘く方宜し。十八に至つて、七までの白、甚だ薄弱なり。

〔二九一六〕
黒甚だ優れり

白十五打過なり。白十九、二一と眼を作る手も、黒を堅くして而も白、既に、白十五、黒十六と、なり以上、此二着已むを得ざるなり。

〔二九一七〕
黒外勢優れり

白三、面白からず、斯く打つ、一位なれば、一を直に三に打込む方優れり。此形、黒の外勢は、四四の定石に比して優れり。

〔二九一八〕
黒有利の分れ

白三の附、惡し。白五を六に下れば、黒に切れば黒六、白七、黒イと打つて二九〇二圖と同じ。

〔二九一九〕
黒確なり

白三善し。黒四、六は、堅過ぎる樣なれど、白一の一手ある故に、斯くして黒惡しからず。白七をイに打てば、黒ロ、白ハ、

〔二九二〇〕
定石

白三も奇手にして、只甚を紛はしくせんとするのみの着手。黒に正しく應けらるれば、此手段の效果無し。

〔二九二一〕
黒堅實、善し

白七をイに綿れば、黒は七に逆撃すべし。此手段勢の厚きを占めて、地の利を得る捷經なり。

〔二九二二〕
黒堅實打易し

白三に打てば、四、而して六に打つて此形、黒は前圖より一層善し。黒今やゝ薄を持して、次に黒右イ、左ロを擊せんとす。白軍の前には秋風うら淋し。

〔二九二三〕
黒優れり

白三と綿込めば、黒四佳し。白九に至つて、先手で隅を占領し、得たれど、打抜き、結果黒優る。此形、黒は次にイに迫つてロの狙を伏する筋あり。

〔二九二四〕
白一徒死す

黒八に至つて、白一は若し靈あらば、如何でか莞爾として瞑目する事を得ん。白三、宜しからず。

〔二九二五〕
定石

白三を先にし、黒四、白五と打つ手あり。手順の相違れども二七八〇圖以下と同じ。

〔二九二六〕
黒利勢なり

嗟乎、如何ぞ、七、九の打過をして、黒に痛なる十四の突出を許す。加之、此形、後に黒よりイの八ザマを働かるゝ後患を遺せり。

〔二九二七〕
黒確なり

白九に黒十六ならば、白十二、黒イ、白ロにて、大勢悉く白に歸す。黒乃ち白の謀を伐ちて十に綿込む。彼我の手段味盧々賞々の手段味ふべし。

〔二九二八〕
黒幾分利勢也

白に斯く中央を厚くせられて黒の惡しき場合は、黒は十二、十三、白十四、黒イ、白二、黒ロの運びを採るも宜し。

〔二九二九〕
定石

白五に走れば、黒六の飛、穩かなり。白九を他に打てば、黒九に尖み攻める。（猶此の變化については二七圖及び二八〇圖以下參照）

〔二九三〇〕
要點約言
（第三六型）

白三をイなれば黒ヘ。又ロに打つも黒ヘ、黒ト。又白ハなれば、黒ト。ニなれば、黒ハと應ける。白ホなれば、黒ハと應ける。何れも黒宜し。

〔二九三一〕
基本圖
（第三七型）

白二の時に白三の手を、㋑或は㋺、㋩と拓く筋は實戰に最も多く見る形なり。

〔二九三二〕
基本圖
（第三七型イ）

常法
白三の三間拓は、中邊の關係上打つ手にて、此手は黒よりイと打込まれる手あるも、之には

定法
黒一の拓、常形なり。又此手は直にイと打込む手、ハに走るに守る手、ロに守る手あり。

〔二九三三〕
參考圖

黒一は、中原に翼を伸ばして、模樣を張ると同時に、白を薄くする手段、時に面白し。（二九五二圖以下參照）

〔二九三四〕
參考圖

黒圖の既にある場合、白よりイに打込まれるのを嫌つて黒一と守ること、あれど、普通は緩し。

〔二九三五〕
定石

定石の中、之は實戰に最も多く出來る形なり。

〔二九三六〕
普通黒好まず

黒五と約へる手あれど、黒に一とある場合は、白十とあるて、此一の手、稍不利の黒に化す。白六善し。黒八ならば、白はイにまでより飛び得ず。

〔二九三七〕
參考圖
六一八七圖六二一二圖打込の部參照

黒一と大々斜走に置碁は最も多く出來る形なり。

白小斜走懸りに對する黒一間應け

〔二九三八〕
參考圖

變化は五六四三圖以下にあり。

〔二九三九〕
參考圖

林有太郎六段
先前田陳爾五段

兩氏の打掛あり。此碁は、黒に劫抛り。多局面と見へた。普通は、白三の提にて黒惡し。

〔二九四〇〕
參考圖

黒一は黒イ或はロの締る拓き無きに斯く開き手は、裏門を放して表門を守るが如くに、又黒て多くの好まず、一とある時は、次に黒ハと打込む手

殿しくして善し。（五六〇三圖參照）

〔二九四一〕
定石

白五をイに守るも、黒は同じく六に拓くべし。

〔二九四二〕
定法

黒一は、中原に翼を伸ばして、模樣を張ると同時に、白を薄くする手段、時に面白し。（二九五二圖以下參照）

〔二九四三〕
參考圖
双方の手段面白し

向井一男四段
先加藤三七一三段
勝

兩氏の打掛あり。白一は、黒を凝形に陷れんとし、黒

〔二九四四〕
機變の應酬

黒二（前圖の變化）なれば、白は又を返して三に切る。十に至つては、白の形善し。

〔二九四五〕
劫

黒八（前圖の變化）なれば、白忽ち九、十と打つて、夫に十一と五の約を利したる眼ロの掛けと、白が機を見ることの早き、實に射るが如し。

〔二九四六〕
白善し

黒二十を二五なれば、白イ、黒二、白ハ、黒ロ、白二十、黒ニの時、白ホにて攻合勝。又黒三を三に粘げば、白三二にて隅の黒死なり。

〔二九四七〕
黒大敗

黒二八以下無理なり。（猶此變化の詳細は二二四一圖附切の中にあり。）妓には只場合を異にする變化のみを掲ぐ。

〔二九四八〕
基本圖
（第三七型ロ）

白三と一路高く拓く手もあり、之は黒イなれば白はロに約へる手あれど、其代り三高き故に黒が下で活を打つ

〔二九四九〕
基本圖
（第三七型ハ）

白三の四間拓、定形にして實戰には此拓最も多し。

〔二九五〇〕黒の應法四種

此拓にも、黒にイ、ロ、ハ、ニの手段あり。此中イは〔六一、七二圖以下〕、ロは〔五六〇圖以下〕ニは〔五六二圖以下〕と同じ。五六ハの一變化は次圖以下）

〔二九五一〕參考圖

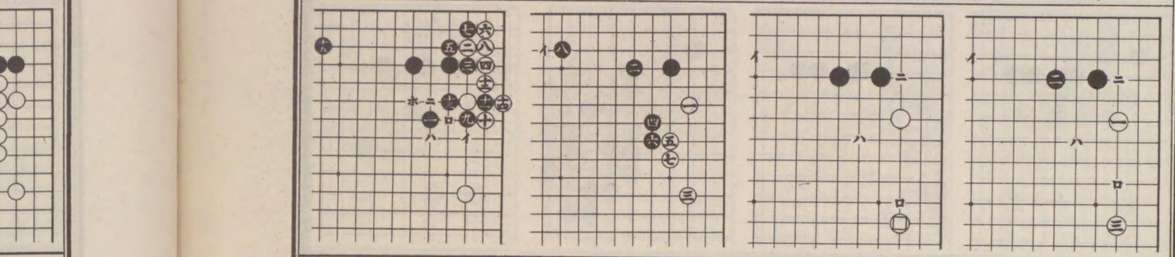
白○の無き場合！黒イは大場、ロは攻め、ハは中の模様を主とする場合、ニは只隅を守る時に打つ手なり。何れも場合に適すればこそ、佳手たるを失はず。

〔二九五二〕定石

白五の應け穩かなり。黒八は、四、六の厚味を利してイと廣く拓くも善し。

〔二九五三〕黒優れり

黒九、十一の手筋妙なり。黒十五、次に大場なり。猶、白イに綰れば、黒手抜、白ロ、黒ハ、白ニと打つて黒優れり。



〔二九五四〕參考圖

黒十五、前圖の如く輕くサバクも可なれども、又斯く十五と行びるも宜し。

〔二九五五〕黒優れり

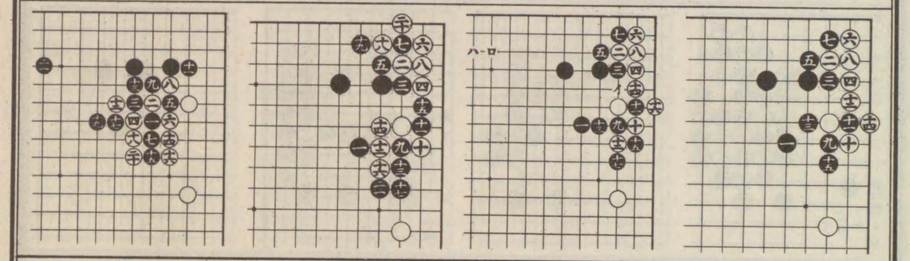
白十をイなれば、黒十三に粘べし。又若し征惡き場合は、黒は十五を打たず、只ロ或はハに拓いて善し。

〔二九五六〕白軍潰亂す

白十二、十四、惡しく、爲に黒より十五の攻守兼備に出られて、白は二十の後手活を强ひられ、黒一一に至つて、中央の白は浮き、泛の形、見るも痛さし。

〔二九五七〕黒利勢なり

黒七の氣鋭白の謀を挫く、可なり。白手を九に打てば、七にて黒候なり。黒二一の拓、此形に於ける最好點なり。（十五ノ處ッグ）



〔二九五八〕白甚だ惡し

白寄劫なり化（前圖の變）白一の打込、無理。黒十二を十三に切り、七、白イの時、黒十も他の大場に打つも確にして優れり。（三劫トル）

〔二九五九〕白大敗なり

白九に尖めば、黒十の下り善し。黒二をイは、無論白ロ。此二の一着に依より黒完全に窮地を脫し、以下圍中の白萬死に一生をも期し難し。

〔二九六〇〕白寄劫なり

白十一、十三の手順善し。白二一、手筋なり。此形、白は今一着を費して後本劫なれば、黒は一手用ゐて劫抛を外側に防ぎ置けば勝なり。

〔二九六一〕黒優れり

若し前圖の如く、劫となりて黒惡しき場合は、黒は十四に打てば確なり。

〔二九六二〕黒堅實打易し

黒二の時、白は四圍皆な敵の堅壘なるを見て三に斜走す。黒乃ち、白の寡兵なるを見て、四と强を用ゆ、可なり。十に至つて、黒の地確定せり。

〔二九六三〕黒利勢なり

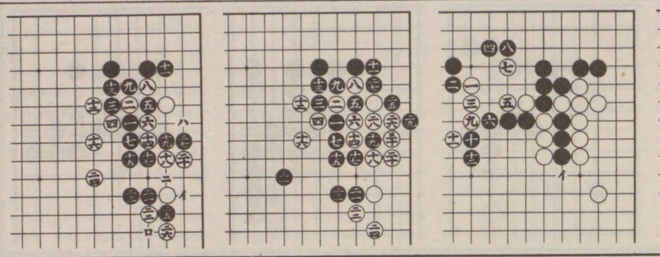
白一に打てば、黒二、四と應けて先づ下邊の地を固むる方針を可とす。黒は一以下の白に十二に至つて、共に衝むと、また封に逸出の機運も漸く熟し來らんとす。

〔二九六四〕黒利勢なり

黒十九と一着切りを入れて白の二十と換り、二一、二二と運び而して二九、尋いで三、五より二雄飛、三四以下の白進退擾を失へり。（十五ノ處ッグ）

〔二九六五〕白潰滅す

此一白二四惡し、勢頓に失に、白の形、傾く。白二六は惡し、此手はイに下るも、黒ロと黒二位なり。黒の一七深く、探る鮫鰐の淵！白窮す。（十五ノ處ッグ）



〔二九六六〕白損なり

白二十に應ず、黒は得たりと二一の附け、二三を緯て二五に尖む。黒の威風を見よ、左右の白成壓を受けて戰々兢々たり。（十粘）

〔二九六七〕白ハマリなり

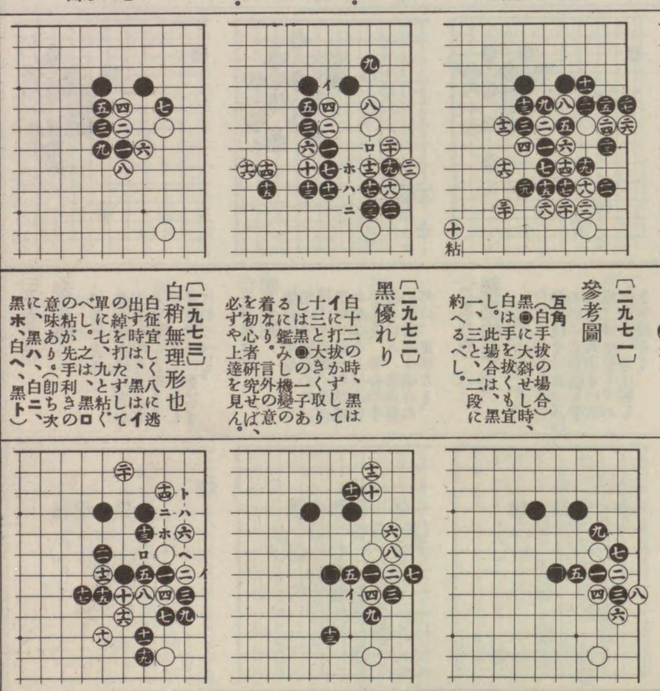
嗟乎、白二十の惡手に、十四までの白忽ち生氣を絶つ。二七までの黒の追撃に、白永久の恨縱令百世の恨を呑む。此に完封すとも、白の損失甚し。

〔二九六八〕黒優勢なり

白四、六打過なり。黒九は白イの備を兼ぬ。白二十を二三は、黒ロ。また白二、白ハ、黒二時、黒ホに切つて勝なり。

〔二九六九〕黒善し

白六に守る。黒七は形なり。黒八に至つては、黒の形勢厚く且つ隅堅固なれば善し。



〔二九七〇〕參考圖

黒堅實打易し、小野田千代太郎六段、二子高橋重行三段番勝

兩氏の打棋にあり。（八粘）

〔二九七一〕參考圖

互角

（白手拔の場合）黒●に大斜せし時、白は手を拔くも宜し。此場合は、黒一、三と、二段に約へるべし。

〔二九七二〕黒優れり

白十二の時、黒はイに打拔かずして十三と大きく取りしは黒●の一子あるに鑑みし機縱の着なり。言外の意を初心者研究せば、必ずや上達を見ん。

〔二九七三〕白稍無理形也

白征宜しく八に逃出す時は、黒はイにたゞしてロと粘ぐべし。之は、黒七、九と粘ぐの意味あり。（即ち次に、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト）

〔二九七四〕
白甚だ悪し

白四、六と、上下の黒の堅き狭隘の地を突出せしめんとす。白は、求めて難に赴かんとするに近し。此形白十四まで⑤の棒石、殆ど威力の認むべきなし。

〔二九七五〕
白は暴に敗る

白八、打過ぎなり。九、十一と白を包囲して、黒の勝算や歴々。白十二以下如何に策を廻すとも、大厦既に覆れり。

〔二九七六〕
互角

黒一に、白二、而して四、之は面白き手筋なり。此形、黒五は断び行くと堅を外無し。黒七と堅を持したるも之は八に一子を取る手もあり。

〔二九七七〕
黒面白し

黒七、九善し。又若し征宜しき場合は十九をイに打つて善し。

〔二九七八〕
黒堅實、優る

黒は英氣勃々、雄心磊々、白六に七と反撃す。隅は劫なれど、此形は結局黒十一に粘となる。㊀劫トル

〔二九七九〕
黒必勝の勢

白四、六、意氣盛なりと雖も、黒五、七の果敢なる逆襲に遭つては、白や旗を捲いて武運拙きを嘆ず。又、白六をイに綰れば、前圖と同じ。

〔二九八〇〕
黒必勝の勢

此圖は二九七八圖より善く黒甚だ打易き形となれり。㊉劫トル　㊆全　㊇全

〔二九八一〕
參考圖
場合による

外勢を主とする場合、黒は一、三、五と打つ手あり。

〔二九八二〕
參考圖
場合による

黒は隅の地を守り、先手を取らんとする場合一と締る手あり。白二を若し手抜せば、黒はイに打つべし。

〔二九八三〕
參考圖

場合の手段

黒は前の變化の外、單にイの飛、及び黒ロ、白ハの時黒ニ或はホと打つ込む手あり。場合の手段なれど、餘程黒の外勢厚き場合の外は、無理なり。

〔二九八四〕
要點約言
（第三七型ハ）

白三と拓きし時、黒にはイ、ロ、ハ、或はニと打込む手あり。此中イは大場、ロは堅く、ニは厳しき手段なり。

〔二九八五〕
基本圖
（第三七型ニ）

白三と五間に拓く手あり。此形無論黒にはイ、ロの打込あれど。白としては、此間に打込まして、變化の手段に出でんとす。

〔二九八六〕
黒の應法四種

此形にも、黒にイ、ロ、ハと二方面の打込と四つの手段あり。イは（二九三五圖）ロは（二九三六圖）ハは（二九五二圖）ニは（二九五六圖）以下にあり。

〔二九八七〕
定石

五間拓の前の三間或は、四間の拓と異る處は、黒が四と尖附けた白五の時、黒と打込み得る場に在り。（五七二五圖參照）六は又イに打込む變化もあり。

〔二九八八〕
基本圖
（第三八型）

白一、黒二と應け、白三を手抜も實戦には甚だ多し。

〔二九八九〕
定法

黒一の拓、大場なり。（打込の變化は六一七二圖以下參照）

〔二九九〇〕
定法

黒一、攻守兩様の好手なり。（二六三四圖以下三間夾の形參照）

〔二九九一〕
定石

白三手抜の場合には、黒は四に尖附けを打て、次に六と夾むも、手強しして時に面白し。

〔二九九二〕
定石

白九、十一と打つて十三とカレば、黒十四に守る手確なり。（白よりイの打込の變化は二六七六圖以下參照）

〔二九九三〕
定石

黒八の時、白十に追らば、黒は一を待つて十二に尖み、上の白を睨す。上下の白甚だ薄し。

〔二九九四〕
黒利勢なり

黒七に、白八と襲ひしは、打過ぎなり。白十六をイに打てば、黒ロ之は十六に切れを遣す故、白惡し。㊀劫トル

〔二九九五〕
黒有利の分れ

白三十を三五に切つれば、黒劫提となつて白に劫抛無し。白三八を三九と打てば黒三八と打て勝なり。㊁全　㊅全

〔二九九六〕
黒劫勝

白十八の切を打つて二十に突出せば、黒二一の當て、肝要なり。

〔二九九七〕
黒利勢なり

黒一に尖附け、三と三間に夾む形に詳しきは種々變化あり。詳しきは互先三間夾の部參照。

〔二九九八〕
黒面白し

黒五の附、手強し。此形、變化あれど、結果は黒善し。此變化は、互先三間夾の中、互先三けし形參照。

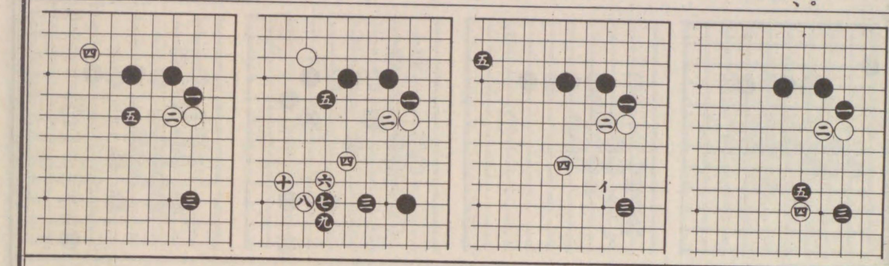
〔二九九九〕
場合の手段也

白四とハザマをアケテ打つ手あり。猶四をイに打つ變化は二六七五圖と同じ。

〔三〇〇〇〕
參考圖

常形
先小島春一四段
番高橋重行四段

兩氏の對局にあり。



〔三〇〇一〕
黒善し

此變化二六七五圖以下參照。黒五と打つて、白を攻めながら、黒の陣形を整ふる手段巧妙なり。

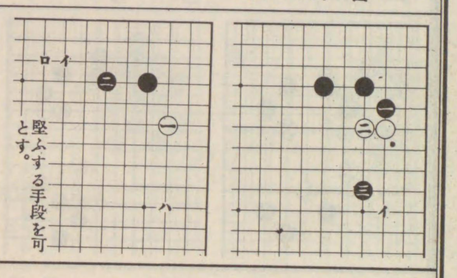
〔三〇〇二〕
黒三急攻手段

變化二七〇六圖以下參照。黒三と攻撃する手あり、イの三間夾に比して急迫す、攻むるには可なれども守るには不便なり。

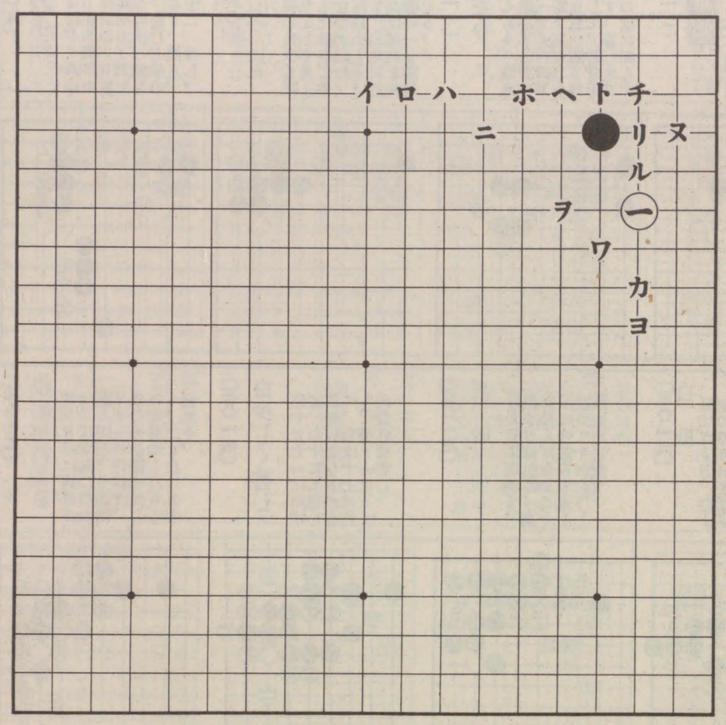
〔三〇〇三圖〕
一間應け總評

（自第三一型至第三八型）

黒二、次に白イロハなどの手段あれど、何れにしても先づ攻勢に出で、其間自然に我陣を堅ふする手段を可とす。



〔三〇〇四〕
基本原圖
白小斜走懸りに對する黒變則の應け



白一に對する黒の變則の應け方に、イ以下ヨまで總計十五種あり。此中イ、ロは稍緩、ハニは調子惡しく、ホヘトチリヌは堅きに過ぎ、ルと尖附ける手は白に上へ行かれて、此交換黒好まず。ヲは所謂ハシバの手、ワカヨは時に妙あれど、其手段急に過ぐ。以上十五種の應答は特殊の形勢にては佳手となる事あれども、通常は何れも前の三種の應答に及ばず。

〔三〇〇五〕
基本圖
（第三九型）

黒二は、同じく星下にあれど、イの三間夾みの攻めと異り、之は攻めの意味無ければ、稍緩し。

〔三〇〇六〕
白勝れり

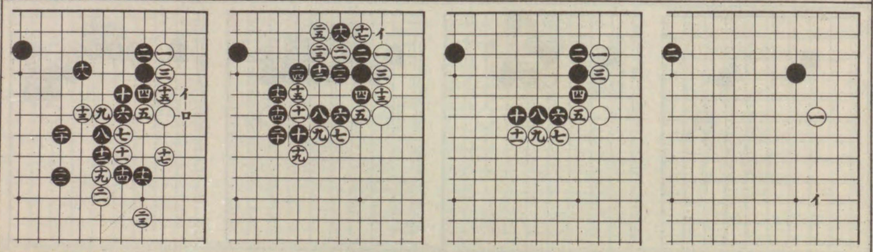
白一の打込善し。黒八と行びしは、悠悠風を樂しむの類か。輸贏を爭ふの秋、何ぞ。畢竟、長袖の態人の凡庸な、所にして稍緩し。

〔三〇〇七〕
黒嵌手に陷る

白九と連壓し、黒敵窶の意氣旺に十一と反撥す。白十の切り要。黒十一の切り肝。四はイに無ければ此手無位の一手。白十次に二一に切る筋あり。

〔三〇〇八〕
互角の分れ

黒八と二段に綰ね、あはよく黒十五と白イ黒ロと、寔刀の鞘を拂つて白を切らんとす。黒鋭くして面白し。白なら十三を十四ならば黒十三にて善し。



〔三〇〇九〕
互角の分れ

白五と黠は、粘ぐ。六の露は、露土戰争の日露役の順か、之をも取るもの旅か、輒つ。蓋しは必争の勝るもの。十二、黒八、厚し。

〔三〇一〇〕
白善し

地の利を失ひて戰に勝たんとするは、猶ほ木に縁りて魚を求むるが如し。黒二面白ら利を失ひて、白九に至り、黒は地を斯くて、白利を失ひて◎の一子閑看と化せり。

〔三〇一一〕
常形なり

白一もあり参照（四八三〇圖）以下、又白一を四五圖。又は四五九四圖。又なれば四九三〇圖と同形にして、皆常形等は白の爲に採らず。

〔三〇一二〕
基本圖
（第四十型）

黒二は、前の星下と略同意。の通形にあるは之も黒面白からず。

〔三〇一三〕
征如何による

黒二を三に約れば、白二にて三〇〇六圖と同形。又黒四を十に行けば、三〇一〇圖に行き、故に黒四と打ちても、之も白に九の筋あり。

〔三〇一四〕
白少しく善し

黒十を十一に粘げば、前圖征悪しき場合は、白は十五に打ちて、盤りとなりて、此分れ白善し。

〔三〇一五〕
黒敗

白十三に至つて、黒は右願の左所を知らず、周章措く所を知らず、遂に守備の本下を誤つて十四の本下し敗立所に決す。

〔三〇一六〕
白敗

思はざりき、白十五の時黒に手抜さは、十五、十六、以下二十、二となつて、白は腕を撫して慨するも、西天落日の悲運、如何ともし難し。

〔三〇一七〕
形勢互角

白九、緩怠極まれり。斯く黒十、十二の形となりては、互角の形勢となれなり。

〔三〇一八〕
黒優れり

白一の兩懸り、黒◎にある場合は好まず。黒二、善し。白九を十に行びて、黒イに行きて、其形厚し、（變化三五四八圖以下參照）

〔三〇一九〕
場合の變化也

黒二、手強し。白三をイまたは四ならば、黒ロと打ちて◎と左右呼應して攻撃を進む。黒二をロは三〇一一圖と同じ。

〔三〇二〇〕
基本圖
（第四一型）

時に黒二と拓く手あれど、之も調子悪しくして黒好まず。

〔三〇二一〕
分れ白稍有利

此形、白より打つとすれば一の打込か、或はイ、ロなどの二點なり。されど手は此を處は時機を見合すに妙あり。

〔三〇二二〕
場合による

黒六、八、善し。白九を十に約へれば、黒イに切り、白ロの時黒ハ白二、黒九にて、黒の勢、滿帆に順風を孕むが如し。

〔三〇二三〕
變化多岐なり

黒、四と約れば白九を切る手あり、黒十、善し。黒十、變化多し。次に白イなれば、白ロに打て、黒イ、白ハ、黒ニ（三〇一三圖とは變化異れり）

〔三〇二四〕
黒優れり

白十一は苟安を貪るもの、斯くて白が大勢を失ふに至るは、日月と共に明つかなり。黒十は至つては、寧ろ地無し。

〔三〇二五〕
黒稍優れり

此形一四一圖の定石に比して、黒の形稍勝れり。

〔三〇二六〕
黒利勢但不味

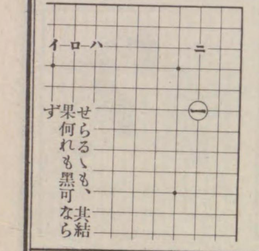
白一に打込めば黒二に附け、右邊接ぐの間白ら包圍を策す。白一賞の手段、賞すべし。（變化三四二一圖以下參照）

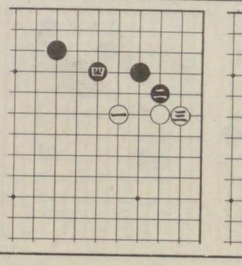
〔三〇二七〕
常形

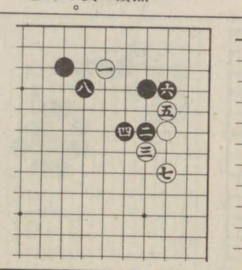
白一なれば、黒二、四と打つて宜し。

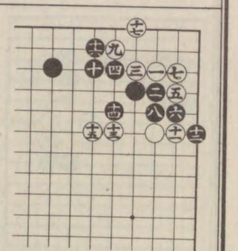
〔三〇二八〕
要點約言
（第三九型、四一型）

黒イ、ロ或はハの拓きは、何れも白一の應ひとして緊要の點を外さず。卽ち白ニと「三ノ三」の要所を占領せら









〔三〇二九〕
基本圖
（第四二型）

黒二も、矢張りマトマリのつきにくき手なり。

〔三〇三〇〕
常形

之も前の**イ**と同様、白は手を抜いて時機を見るに妙あり。若し打つとすれば、一、ロの二點なり。

〔三〇三一〕
黒堅實但凝形

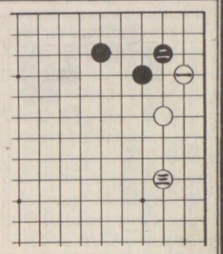
白一の時、黒は隅をマトメんとするには圖の如く打つの外なし。（之は一〇〇五圖に比し黒◎の石凝形なり）

〔三〇三二〕
基本圖
（第四三型）

黒二の小斜走應けは確なれども、堅きに過ぎて働きに乏し。

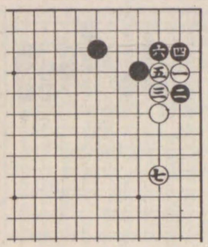
〔三〇三三〕
黒凝形

此形、白一と斜走する手。簡明且つ良着なり。黒二ヌルシ、之は三〇三六圖の如く打つ處ならん。



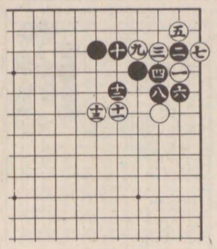
〔三〇三四〕
白利勢なり

一の時にはその形未だ全く抹殺には非ず、白は前途に不安なきに非ず。然するに黒二に至つて、四と下調を得、七となりて白の形確定す。



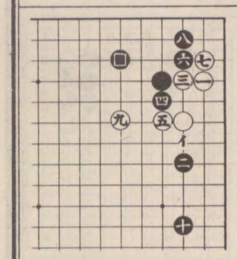
〔三〇三五〕
白善し

黒は二と附けて、私は白の退守に期したり。然るに、白よりは三と意表に出られて、黒の手中に落つ。黒損なり。



〔三〇三六〕
場合による

黒は●の一子もあり、攻は則ち守なりと、攻に二に夾攻せられり。此形、圖の外にあり。白三は、圖の手もあり。白一は突當り。（三〇四〇圖）

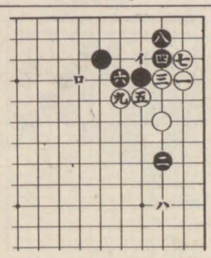


〔三〇三七〕
白利勢なり

黒六と白の頭邊を掘す。志、中原にに在らば、白八、黒九を狙ふ。黒イ、白ロとなりて、白は柔容蝟奏、聲高く春日イを調歌せん。

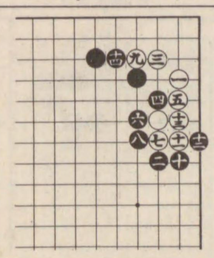
〔三〇三八〕
白善し

黒四をイに打つも、白は同じく五に綽ねて形好し。五は綽なり。此形の要點黒邊を上邊ハを狙ふ。黒厚き手なり。



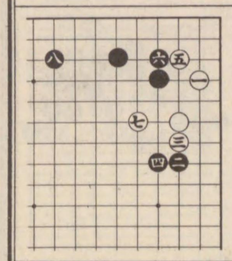
〔三〇三九〕
黒厚し

古の兵學も言はずや一人を致して人に致されずと。白三と常法に泥みし、好手ず。黒四以下、白は巧にしてやられたり。



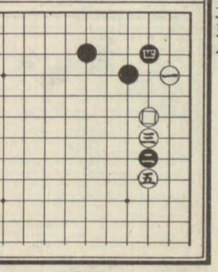
〔三〇四〇〕
形勢五角

圖は双方共に、形確定せり。



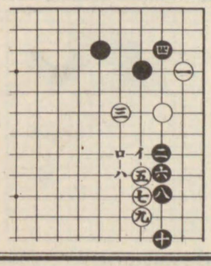
〔三〇四一〕
白善し

黒四なれば、白五と附くべし。此形、白○と五の二間拓に、黒二との白三の同じく交換あり。此交換は黒に歸す。此交換は黒に利あらず。



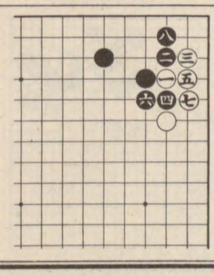
〔三〇四二〕
互角の分れ

白三に飛び、黒四の守りとなれば、黒の二の夾みは有効の一着となれり。黒六にはイ、白ロ、黒ハに切る手あり。（五先一間夾の部參照）



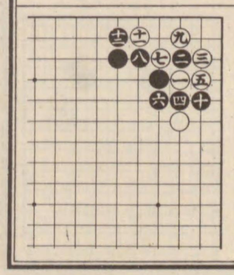
〔三〇四三〕
常形

白一、三との二段に綽せんとする手段なり。黒四、六と打つ手、簡單にして、形變化も黒好し。



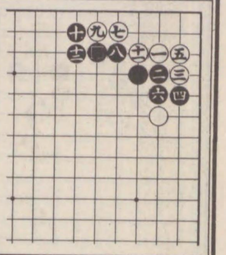
〔三〇四四〕
黒優れり

白七に切れば、黒は二の一目を捨てて後、十に突出して宜し。



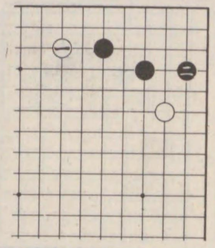
〔三〇四五〕
常形

夫れ兵法に「地、爭はざる所あり」と。小利の地を得るもその代りに失ふ所多き場合は、そのふの地を爭ふべからず。黒◉に狹き時、白の打込悪し。



〔三〇四六〕
黒確なり

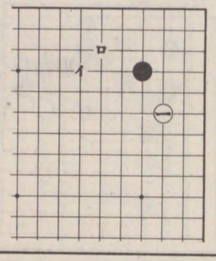
白一と搦手に迫る。黒乃ち二に締りぬ。黒の形確となれり。



〔三〇四七〕
要點約言

（四二型、四三型）

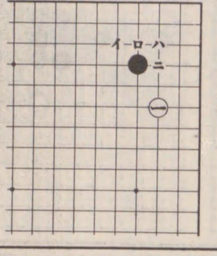
黒イと二間に應ける手は、高く且つ廣き處に過ぎ。又黒ロの應けは狹きに過ぐ。共に白一の懸けに對する適當の應けに非ず。



〔三〇四八〕
基本圖

（第四四型）

白一の小斜走懸りに對する黒イ、ロ、ハ、ニの應けは共に悪手なり。



〔三〇四九〕
白優れり

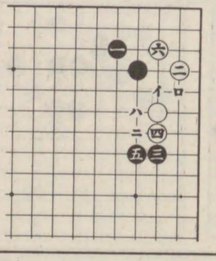
黒一の應けはあまりに狹過ぎる手にして如何なる場合にも悪形。此形白二の斜走、最も善し。

〔三〇五〇〕
白善し

黒三に附け、白よりれて、四、六と乗せられて、黒の牙城忽ち陥ちる。十に至つて、白の旗や鮮かに、黒の陣營には風悲しみ月愁よ。

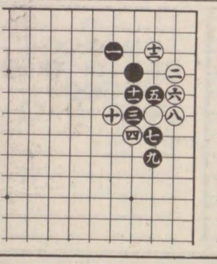
〔三〇五一〕
白善し

黒三に夾攻せば、白四肝要なり。四を六に打てば、黒イ、白ロ、黒ハ、白四、黒ニ。



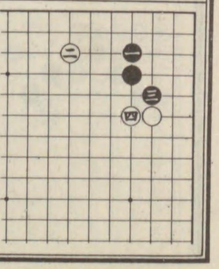
〔三〇五二〕
黒好まず

黒三、五、七、打過なり。斯く上下に二分せらるゝ形となりては、黒悪し。



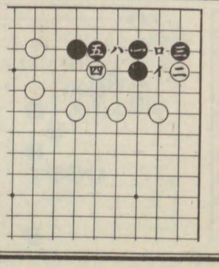
〔三〇五三〕
黒凝形、悪し

黒一悪し。これは次圖の如き場合に、稀に打つ事あり。



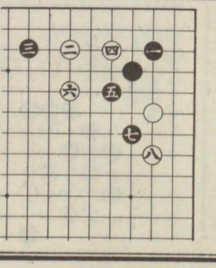
〔三〇五四〕
黒善し

斯く外の白の形を守るには、黒の堅きを守る手善し。若し之は常形イ或はロに守れば、白よハに打込まれて、忽ち一隅の和を修。羅と化すべし。



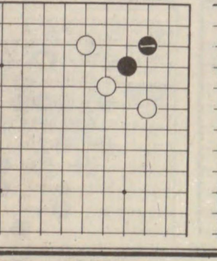
〔三〇五五〕
白善し

黒一の好き手となる場合は、稀なり。次圖の如き形には、黒一は止むを得ず、白二、四善し。



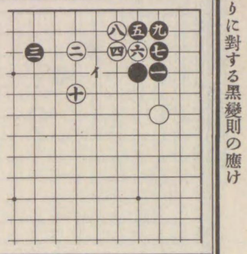
〔三〇五六〕
黒一に活あり

斯かる場合、黒は一の尖にて活なり。（一五九圖三手拔の定石參照）



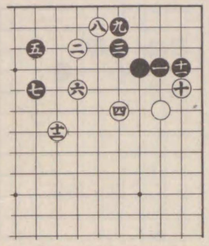
〔三〇五七〕
白善し

黒**イ**或は二の所に石なくして、一と下る手、悪し。即ち白に二と迫られて、黒凝形となる。白二、四、善し。



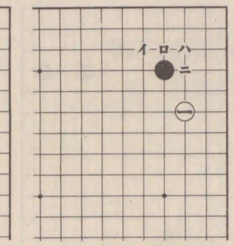
〔三〇五八〕
白大に優れり

黒一、三守るに汲汲として、闘なれば、寧ろ攻めんとする策戦に於て此手可なり。兵、必ず敗戦ふ。毎に以下、黒の打方は圖の如く白四以下、黒は大勢に後る。



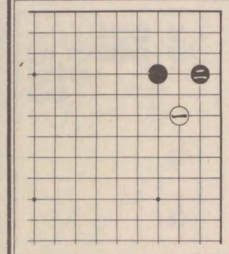
〔三〇五九〕
要點約言（第四四型）

以上の如く、黒**イ**、**ロ**、**ハ**、**ニ**の應け合の外は、前記、特別の場合は、何れも悪手なり。



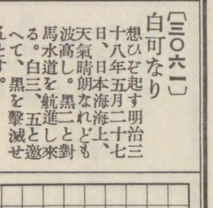
〔三〇六〇〕
基本圖（第四五型）

黒二は三〇六五圖以下の場合、それも強く攻めんとする策戦に於て此手可なり。



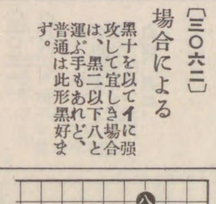
〔三〇六一〕
白可なり

想ひ起す明治三十八年五月二十七、八日、日本海上、天氣晴朗なれども波高し。黒二と對馬水道を航進して、白三と邀へて、黒を撃滅せんとす。



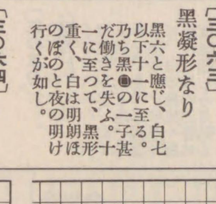
〔三〇六二〕
場合による

黒十を以て**イ**に強攻して宜しき場合は、黒二以下八と運ぶ手もあれど、普通は此形黒好ましからず。



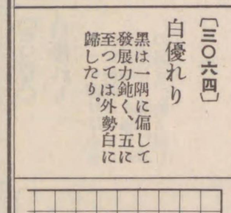
〔三〇六三〕
黒凝形なり

黒六と應じ、白七以下十一に至る。乃ち黒●の一子甚だ働きを失ふ。十一に至つて、黒形重く、白は明朗ほのぼのと夜の明け行くが如し。



〔三〇六四〕
白優れり

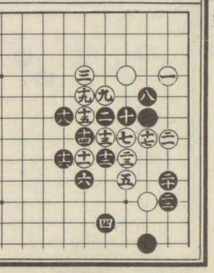
黒は一隅に偏して発展力鈍く、五に至つては外勢白に帰したり。



〔三〇六五〕
白面白し

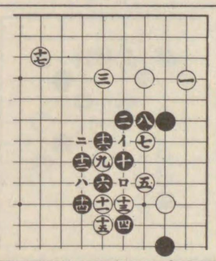
場合の手段
先番宮坂棊二六段
勝 木谷實五段

兩氏の打棋にあり（白星に打つ）。白は、周圍の優勢なる場合に、一と打つて攻勢に出ず。



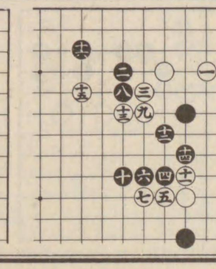
〔三〇六六〕
場合による（前圖の變化）

黒十を十二に綰れば、白十六にて白への形を整し、黒十六を若し手抜せば、白十、黒**ハ**、白**ニ**にて黒窮地に陥る。



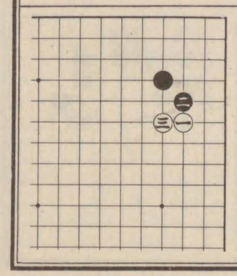
〔三〇六七〕
形勢逆睹難し（前圖の變化）

圖の如き形勢となりては、黒劣勢とな只四圍の形の如何によるものにして、若し大勢白優れる場合は白宜しく、又黒優勢の場合は黒善し。



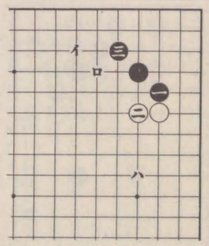
〔三〇六八〕
基本圖（第四六型）

黒二に尖附くるも強く之を防ぐ白手あり。場を攻めんとすれば場合、好着手なれど普通は黒打過なり。



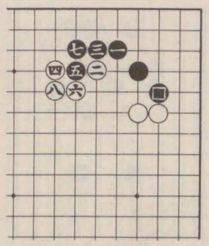
〔三〇六九〕
基本圖（第四六型イ）

黒一、白二となり、時黒には**イ**、**ロ**、三、**ハ**の手あり。**イ**は**ロ**は**ニ**一八〇九四圖。**ハ**は三〇八二圖以下にあり。



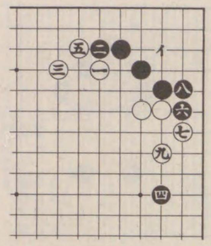
〔三〇七〇〕
白優れり

黒●に尖附、次に一手は、堅に貰も、普通は黒緩し。白二、最も善し。



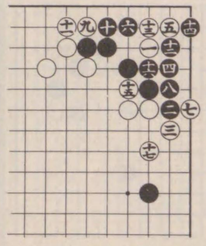
〔三〇七一〕
白優れり

白五に打て黒の六を誘ひ、打て七、九と整ふ。黒六は若しキ手なれば、手を抜けば、白**イ**に打込んで外を堅くする手あり。（次圖）



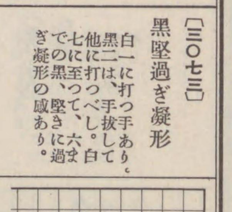
〔三〇七二〕
白優れり

黒手を抜けば、白は一と打込み、此石を捨石として外を堅くする手面白し。



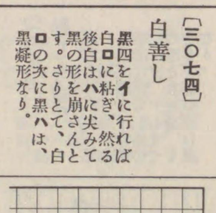
〔三〇七三〕
黒堅過ぎ凝形

白一に打つ手あり。黒二は如何に手抜しても、他に打つべし。白七に至つて、六を過ぎて黒の堅ぎ凝形の感あり。



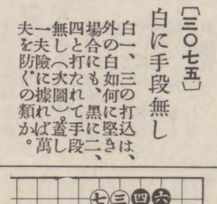
〔三〇七四〕
白善し

黒四を**イ**に行れば白**ロ**に粘ぎ、然る後白は**ハ**に尖みて黒の形を崩さんとす。さりとて、白**ロ**の次に黒**ハ**は、黒凝形なり。



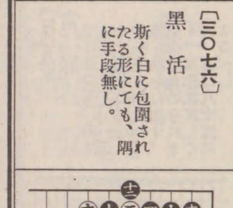
〔三〇七五〕
白に手段無し

白一、三の打込は、外の場合にも、黒に二、四と打たれて手段無し。（次圖）盞し據れば萬一夫を防ぐの類かな。



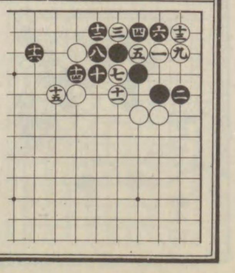
〔三〇七六〕
黒　活

斯く白に包圍されたる形にても、隅に手段無し。



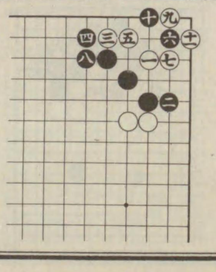
〔三〇七七〕
互　角

白七、而して九と行れば、黒は十、十二と宜しく變化し、振替りて兵聖も云へり一敵に因つて變化しても勝を取るもの之を神といふ」と。



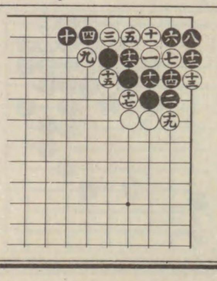
〔三〇七八〕
劫

夫れ、天の與ふるを取らざれば、却つてその咎を受くといはずや。黒四と五で、白を取らざるは悪し。黒六、八の、手順善し。



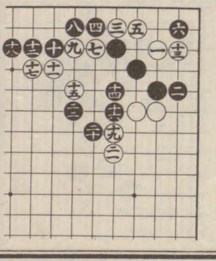
〔三〇七九〕
黒嵌手に陥る

あゝ、むかしを今になす由もがな。黒六は悪手を重ね、白に一隅を屠られる。舉げて白に轉たた荒涼たり。山川草木、



〔三〇八〇〕
白無理なり

白七に切るも、黒は八と行びて此戦黒善し。中央互角なるも、隅の白に活路無ければ苦戦を免れず。白



〔三〇八一〕
要點約言
（第四六型イ）
黒二、四と尖めば白より無く、最も堅固なる應けなるも。白にロと打たれて外を厚くせらるゝ。普通黒低く好まず。

〔三〇八二〕
基本圖
（第四六型ロ）
黒二、四は劇烈なる強行手段にして、此手は、白を持て星に打ちたる時、或は四圍の形勢非常に有利なる場合面白し。

〔三〇八三〕
基本圖
（第四六型ロの一）
黒四の時、白には、五、イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、などの手段あり。變化甚だ多し。

〔三〇八四〕
基本圖
（第四六型ロの一變化）
黒六の時、白七は、外にイとロとあり。何れも一理あり。何れを可とするは、手段に關係して可否は征關係及び外勢の如何による。

〔三〇八五〕
常形
五に至つて、一隅は黒損なれど、一目は、ボン抜きの形なり。
●の黒より外を包圍すつて能く先づ互角の分れなり。又黒征宜しくば、三〇八七圖によるべし。

〔三〇八六〕
互角の分れ
前圖の如く黒に中原を制せらるゝを嫌つて、白四と押す。此時、黒五と、白で、輕擊を與へ、九と、尋で七と厚堅を加へしは、手順宜し。

〔三〇八七〕
難しき變化
征宜しければ、一に粘ぐべし。抑も黒は始より急劇の手段には出でしも、十七までの形となれば、十七までの形となる事、もとより黒の望む處なり。

〔三〇八八〕
白善し
白に八と征に取られるは、黒一、悪し。

〔三〇八九〕
白勝
白二、惜しむべき好機を逸す。蝸牛のまなること、如し。三以下七に至つて、白の轗軻にせん。

〔三〇九〇〕
白稍優れり
征悪しき場合、五と當てゝ白のイを防ぐ手あれど、白も亦七に下らず。白六に反撃せん。黒二四に至つて、黒の己に我れには形勢に在らざるを覺ゆ。

〔三〇九一〕
白有利の分れ
白八にて、一までの三子は取り得れど、矢張り前圖の如くイに當ておくを宜しく、白十を手抜せば、隅に手あり。（次圖）

〔三〇九二〕
白　敗
（前圖の變化）
白六を七に弛めば、黒は一瞬に弛まず走るとは云ふ繼の翼よりも早く、斷切るゝに決せん。勝敗立所に白ロに打ちて

〔三〇九三〕
黒面白し
遠き慮なくば必ず近き憂あり、白六は短見憐むべし。見よ、十一手なり。十三に至つて、十三までの黒は●に相應じて中原に咆哮す。四までの白、腹背に虎狼の敵を受けたり。

〔三〇九四〕
黒緩し
夫れ地形善しとか必ずや古往古來、地利を失つて志を遂げし者あるを、聞かず。黒五、七、九は低く、白六、八となりて、黒地利を失ふ。

〔三〇九五〕
要點約言
（第四六型ロの一變化）
白五より七までの手は、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘと、なり後に、白は征に取り得るやに

〔三〇九六〕
基本圖
（第四六型ロの一變化）
白はイの常を打ずに、只七と二段に綽ある末段參照のこと）

〔三〇九七〕
定　石
白に十一、十三と打抜かれし形、黒も傷なれど、黒八、十と打つて、白を兩分す。黒十四、嚴し。尤も此手はイもあり。

〔三〇九八〕
場合による
黒一と粘ぐ手あり。黒七に切りしは、一狙なり。今は、●と相呼應して、ハンニバルの如く、天下を睥睨せんとす。

〔三〇九九〕
黒厚く、善し
白二と綽ねて黒のイを期待す。乃ち尋いで白ロ、黒ハ、白三と鴻圖を成さゞるも取ぬ理の笑ふべし、と皮算用過ぎ。黒三の痛撃。

〔三一〇〇〕
黒優れり
白は二、而して黒の之に應じて待つ。然るに黒に三と切られて白一葦漸く我が身には秋近きを覺えたり。

〔三一〇一〕
白堅實、優勢
黒三、好まず。白四に至つて、見よ！上邊より中原に亘る廣袤千里の曠野に、黒は止めず。白は雄大の勢威獨り之を壓す。

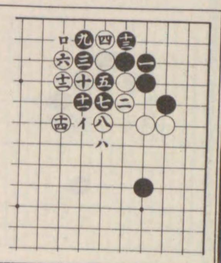
〔三一〇二〕
白の勢振ふ
黒三緩し、次圖に從へ。白六までの形。黒は前圖より勝れども、斯く白に全部を張られて完全の事、常に黒まず。

〔三一〇三〕
場合による
黒三、手筋。黒を持つては無理。此型は無筋なれど、ロに出では、白ニ、黒ホと、なり、白は征に取り得るやに

〔三一〇四〕
黒面白し
黒七と押す手もあり。白十、十二、白十八までの厚壁は二十迄の形、善し。白十二、十八までの形、黒四二の形勢は優勢に限り面白し。

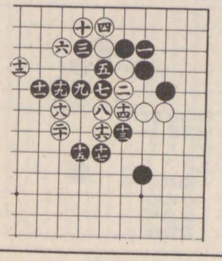
〔三一〇五〕
白厚き形なり

黒九及び十三、惡しく、九は前圖の如く、又十三は曲つて白ロ黒ハと打つては、其形白厚至つて壯なり。



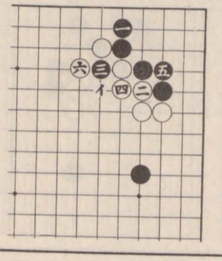
〔三一〇六〕
場合の手段

黒九と曲るも此型の最も一般の弱行手段なり。之を一貫せしものにして、初の乗りかけた船、騎虎の勢、事既に至りては無理と雖も止むを得ず。



〔三一〇七〕
征如何による

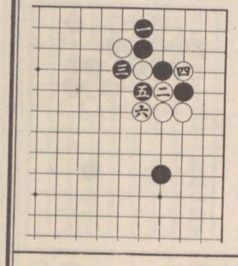
黒一と下るも手あれど、其形甚だ好ならず。尤も、白六の時黒イに征を逃出し得る場合は、此手段も亦面白し。



〔三一〇八〕
形勢互角

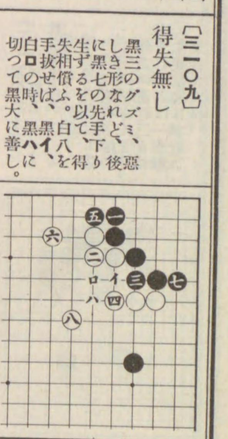
白四に切れば、五に打抜いて、互角の形勢なり。

黒



〔三一〇九〕
得失無し

黒三の グズミに黒七の先手を以て、後惡生ずるを得失相償ふ。白八を白ロと切つて黒大に善し。

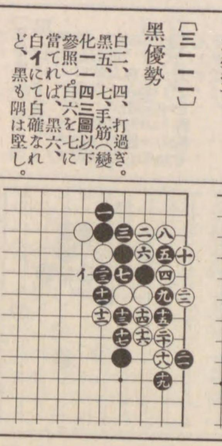


〔三一一〇〕
形勢互角

黒誤つて三を八に打てば、白五、白ロと、白又イ、ピタと身に迫り來る。斯くては白の形堅盛となり、黒は志挫折す。夾攻の初

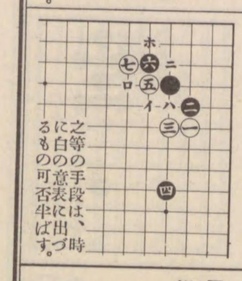
〔三一一一〕
黒優勢

白二、四、打過ぎ。七手筋、變化一一四三圖以下七を參照)ば、黒六、に當てれば白確なれど、黒も隅は堅し。



〔三一一二〕
要點約言
(第四六型ロの變化一)

白五、七に二段綿すれば、七に黒イ二段綿ロ黒ハとなるを常形とすれども、外にホに下るる手もあり。



〔三一一三〕
基本圖
(第四六型ロの變化一)

白五、次に七と行びる手あり。穩健にして良し。

〔三一一四〕
定石

白七の形には、次に八に黒十に打てば、白ロと、白又イ、白ロと身に迫り來る。斯くては白の形堅盛となり、黒は志挫折す。夾攻の初

〔三一一五〕
場合による

黒一、次に三と押すも手あり。白六に至つて、黒七、白九に爪牙を露はし、十一に至つて黒ロに應ず。中原漸く多事ならんとす。

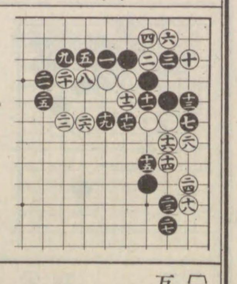
〔三一一六〕
場合による

黒五の綿へ白六の二段綿へは、手強に黒七へ白五、七に二段綿すれば、七に黒イ、白ロ黒ハとなるを常形とすれども、外にホに下るる手もあり。

之等の手段は、時に白の意表に出づるものの可否半ばす。

〔三一一七〕
互角の分れ
場合による

白二に約れば、黒三の粘き確なり。黒三十一に出切る手となりて、黒は、順に●に夾攻の素志を遂げたり。



〔三一一八〕
黒不利の分れ

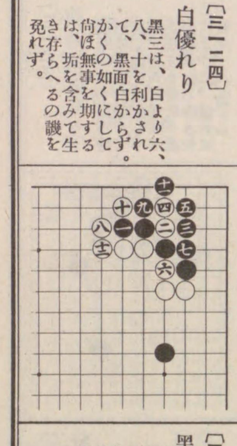
前圖とは黒二三よりの變化す。此形は、前と略似たれども、黒のシメツケの工合充分ならざれば、黒に利あらず。

〔三一一九〕
黒利勢

黒三を六に打てば、白二にて、三〇九、白七圖と同じ。白六を七なら、黒イ、白ロ、黒ハにて、二以下の白は光に無き苦悶のどん底に死す。

〔三一二〇〕
形勢互角

黒一なれば、白二、善し。白八次に十と絡ね、十三まで順善し。此形、黒は死なれど、黒イに下つてシメツケル手あり。形勢互角。



〔三一二一〕
白優れり

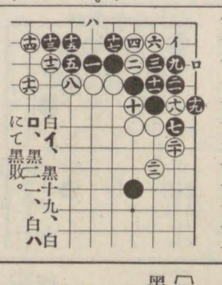
黒三は、白より六、八、十を利かされ、黒面白かからず。かく尚ほ無事を期にしては、ほんの含みで生るの讖を免れず。

〔三一二二〕
黒稍優れり

黒七に至り、正に熟して、戰機雲霧漠々野を罩む。戰觀者は、近く豫山血の壯觀河の如く然も戰に白、八と和平解決を圖る。

〔三一二三〕
黒悪し

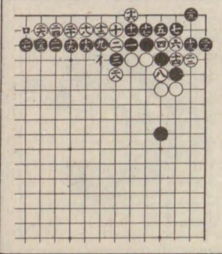
黒九と白の三子を取る、小利の爲に誤り、十二以下二武二功や赫至ナポレオンの盛時、黒十に擬す。黒十の九を二に行れば、



白イ、黒十九、白ハ、黒二一、白ロにて黒敗。

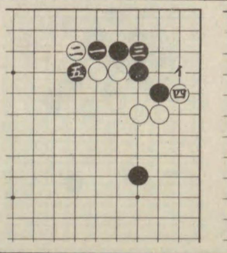
〔三一二四〕
黒不利の分れ

黒十三、十五の策も、面白からず。白二六にて二八では、黒イに尋で白ロに約す。



〔三一二五〕
黒善し

白四に捌綽ねて、黒イを騙せしは、黒爭ひ難きの應手。白五に切つて白の膽を奪ふ。



〔三一二六〕
黒不利の分れ

あゝ、奈何ぞや、黒三に閃いて、忽ち光を生ず。黒三ずの亂れの機。無理なり！黒三、無理なり。此分れ、黒白の取るも不利たるを免れず。

〔三一二七〕
黒好まず

戰機雲霧漠々野を罩む。

〔三一二九〕
場合の手段

黒十五の時、白十九に下らずして、六の二子を棄て十六に結ぬ上げる手あり。白却て此手段可なり。挑戦せんとする時、

〔三一三〇〕
要點約言
（第四六型ロの一）
（第三變化）

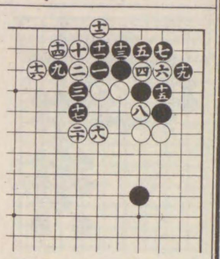
白五、次に七に行けば、黒イに粘ぐ手ロ、黒ハに確なり。若し黒、此粘を打ず、二に押せば、白ハに切

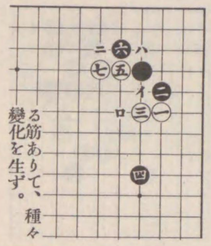
〔三一三一〕
基本圖
（第四六型ロの二）

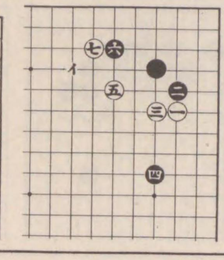
白五なれば、黒六、常形にして最も宜し。白七をイなども、あれど綻し。此形、可否は征關係の如何により決す。

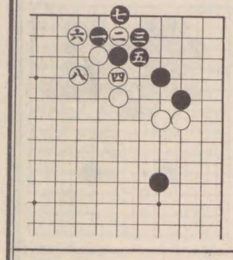
〔三一三二〕
形勢互角

常形　黒一に、白二と切り段にして、味深き手なり。初心者、幸に三思せられよ。









る筋ありて、種々變化を生ず。

〔三一三三〕
劫拋如何なり

前圖の如く白の好形に黒が下らずして、斯くと抜く手は、白八に黒五と拔取り、黒七時にて、白十一に取るや、劫に勝ち得るや決す。（八）劫トル

〔三一三四〕
黒稍優れり

あなや！と驚く黒軍を尻目にかけて、白四と切りぬ。面白き手なり。白六へ六面惡し。此手イに打つと、七の爲に黒陣と約へられ營堅を加へたり。

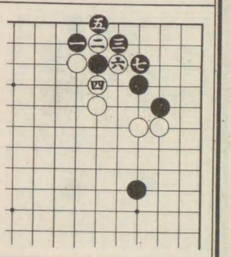
〔三一三五〕
黒優れり

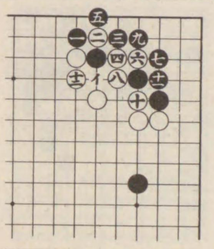
黒九、十一の白にイと切る時、白立せぬ場合は、手成八の手惡し。圖の如く白十二に粘いで、黒に十三の好形を與へては、白の形萎び振はず。

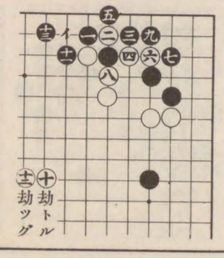
〔三一三六〕
互角の分れ

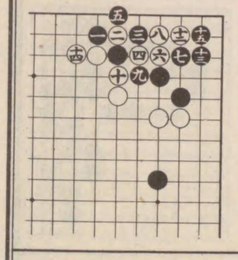
切り結ぶ太刀の下こそ地獄なれ、踏込みてこそ浮ぶ、潮の一手なり。（十一）劫ツグ

あなや！と驚く黒軍を尻目にかけて、白四と切りぬ。面白き手なり。白六へ六面惡し。此手イに打つと、七の爲に黒陣と約へられ營堅を加へたり。









（十）劫トル　（十一）劫ツグ

〔三一三七〕
形勢互角

黒七、九とボン抜きせしは厚し。されど、まだ、白十まで隅にて隅を取りしも大利なり。

〔三一三八〕
白利勢なり

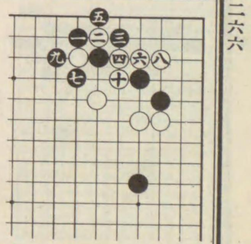
夫れ、學ぶは安く經驗は高しとかや。黒は棋理を學ばざりし累こそ及び、五、七の惡手を下し、苦き失敗の經驗を嘗めたり。

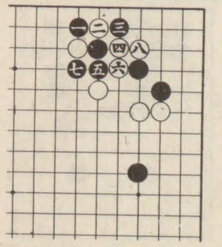
〔三一三九〕
征如何なり

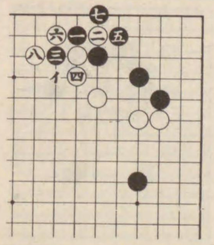
黒三と手筋を打つ。白六、八は、常に用ゆる形なり。尤も、黒次にイと逃出す手あり。場合は、黒大に善し。征惡しき時は、白は次圖に從へ。

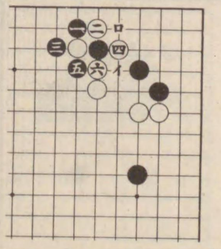
〔三一四〇〕
劫拋の多少

白四と綽ね、六に當つ。獅虎相搏の接戰なり。白六を、イに接ぎ、黒次に打つ手もあり、ロと切れば、三一三七圖と略同じ。









〔三一四一〕
形勢互角

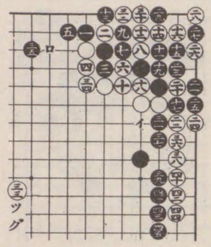
黒三、五の手もあり白六、八の手筋。黒を二三善し。此手筋。白二三に綽れば、黒二五、白二六、黒取り、白ロ、黒ハ、白劫取。

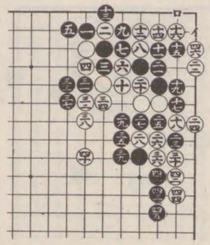
〔三一四二〕
黒稍優勢

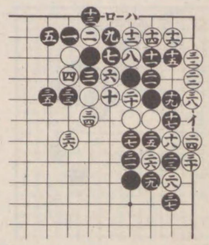
白二八、惡し。爲に、黒三一の切り、痛烈を加ふ。白四六を忘れば、黒イに白四六、黒ロと劫にする筋あり。

〔三一四三〕
黒優れり

白二十と切るも、好結果を得ず、黒九を三十に打ち、二ば後に白よりも三へ先に黒取り殘る。黒三五を二以て黒惡しく、白ロ惡し。（次圖）







〔三一四四〕
白面白し

黒三五、惡し。三九までの白と、二までの黒との關係は、白は四故に外勢厚き白二八臨機の好着なり。（三）粘

〔三一四五〕
白敗

白三六の順惡し。此三の邊の手順の後、難處に打つしては、白は至て、四一に約へられて後、黒四一の手あり。（三）ツグ

〔三一四六〕
白利勢なり

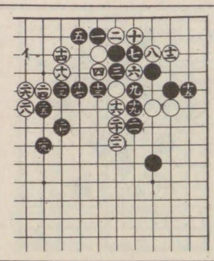
黒十五以下は、常に見る手筋にして、一二七に至つて、一髪の間に危き虎を脱し得たるも、白は二六と二に利を占めらるれば、黒惡しく。

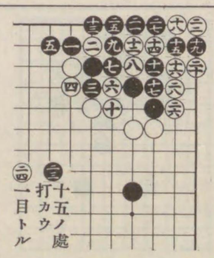
〔三一四七〕
互角の分れ

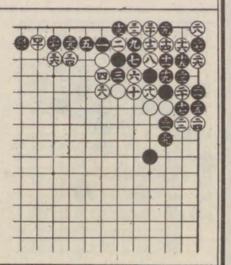
黒九、多くは好まず。此形、黒ど、地は白優れ、中原に振ふを以て風先づ互角の黒は五なれ、尚ほ黒を利し機を見てイに飛込む筋あり。（十二）ツグ

〔三一四八〕
白利勢

白十二の切りに、黒は十四の白と換へて十三に下り、十四、稍好まず黒十七に必然と至る。斯く白稍利に分れるな。（十）ツグ







（三）十五ノ處打カウ　二一目トル

〔三一四九〕
黒勢稍優る

黒十三と切るを、白四に平和を求めて、十五を許せしは、よしや釋すとも、遂に賞は白六、八に用ゆる形なり。尤も、黒次にイと逃出す手あり。場合は、黒大に善し。征惡しき時は、白は次圖に從へ。

〔三一五〇〕
黒稍優れり

白六なり。さ形の結果、十一は、十三の打抜。黒よ！黒の城を見々相重りては、巍巖層起し、老虎の鵂負ふて踞するに似たり。

〔三一五一〕
場合による

あゝ、西せんか東せんか、所さだめぬ心中、黒には下す。多く動搖して九は浪枕。場合の手、九好まず。

〔三一五二〕
互角の分れ

黒十三と、上隅の白二を二三に接ぎ、黒イに打つ、乃ち、黒ロの約へは先手に白利なり。（次圖比較）

〔三一五三〕
白優勢

戀は、盲目なりとよ、利慾の眼ほたいなし。何ぞ相似しや。黒は二一に隅の白を居つて、意氣昂然たりしも、外勢厚壯、爲に黒却て惡し。

〔三一五四〕
白優れり

白十の時、黒直ちに白鋒を向けて、白を殲滅のみが、乎、猛武暗闘か、夫は！黒の智略無し。二一に至つて終に不利を招く。

〔三一五五〕
白の形好し

黒五なれば、白は六、或は十（次圖）に打つて善し。延いて白十は、イの筋を狙ふ、故に黒十一の餘儀なきに至る。黒敗戰の罪蓋し五に在り。

〔三一五六〕
白善し

白六に黒五の鋭を避る手もあり、次く黒七に、白六の得は、八の當然の道利なり。此分れは、白は先手を以て善し。

〔三一五七〕
形勢互角

白二の時、黒に三と四二種の應けあり、三は粘り切られば、白に四と打つて善し。延いて白十は、イの筋を狙ふ、故に黒十一の餘儀なきに至る。黒敗戰の罪蓋し五に在り。

〔三一五八〕
白稍優れり

戰正に酣なり。親は子を顧るの暇なく、子は親の遑なし。切つて、亂戰の修羅場を展開す。

〔三一五九〕
黒の形厚壯

白六の時、黒十二と、利双の膽を奪ひ打過ぎなり。黒終に十七、十九と二子を取るに至つては、中原厚壯にして武威八紘に輝く。

〔三一六〇〕
大勢黒にあり

白十六の時、黒十七、十九と、單騎虎狼の如き、直ちに黒に入り、寫。剣尖相打つての一決、彼我勝敗の多少に在るが如きも、

〔三一六一〕
白優れり

黒三と意氣軒昂を思はせ、すた忽然と沈す。足どり蹌踉たる醉ひどれの如し。五と一目を取るの場、好すずして、此時、合なら、白十二得る。白の三位は、初めの一手を可とす。

〔三一六二〕
黒力戰を要す

黒一、三の切りは、四圍の形勢により面白きことあり。黒七は、イに約へ、白ロの時、黒七に粘ぐ手あり。

〔三一六三〕
要點約言

白五、七は、黒を隅へ壓へて大勢を張らんとする手段、時に面白し。白九の次に、黒イと白ロの應けあり。イとロは確にして常形、戰的手段強くして挑戰なり。

〔三一六四〕
基本圖
（第四六型ロの三）

白五なれば、黒は三つの㋑㋺㋩の最も多くして難解なり。

〔三一六八〕
形勢互角

白十八の飛びを先にする手もあり。善し。白二の時、黒二三、以下右邊三一まで、又中央は三七まで導く、能く蓋し、前見だる強手なり。

〔三一六七〕
互角の勢

黒二一を先にして、白の動靜を窺へば、白の要點を奪ひて、脚下を拂ふ、中央の黒の六に至つて、兩翼鼓堂々たり。

〔三一六六〕
黒の勢善し

黒七は、確實を旨とす。然し此手には、征ける關係にて十七に綰る手もあり。三面白から、白二、四と此手は前圖の如く二七に下るべし。

〔三一六五〕
形勢互角

白二の時、黒に三と四二種の應けあり、白は三と粘り切られば、白に四と打つて善し。延いて白十は、イの筋を狙ふ、故に黒十一の餘儀なきに至る。黒敗戰の罪蓋し五に在り。

〔三一六四〕
白善し

白六に黒五の鋭を避る手もあり、次く黒七に、白六の得は、八の當然の道利なり。此分れは、白は先手を以て善し。

〔三一六三〕
白惡し

白八を、ナポレオンの遠征に擬して進むに過ぎず。黒は招けり。白三の次に、黒ハ。また白若し備へねば、黒ロ。また白ハをニは黒イにて宜し。

〔三一六二〕
黒力戰を要す

黒一、三の切りは、四圍の形勢により面白きことあり。黒七は、イに約へ、白ロの時、黒七に粘ぐ手あり。

〔三一六一〕
白優れり

黒三と意氣軒昂を思はせ、すた忽然と沈す。足どり蹌踉たる醉ひどれの如し。五と一目を取るの場、好すずして、此時、合なら、白十二得る。白の三位は、初めの一手を可とす。

〔三一六〇〕
大勢黒にあり

白十六の時、黒十七、十九と、單騎虎狼の如き、直ちに黒に入り、寫。剣尖相打つての一決、彼我勝敗の多少に在るが如きも、

〔三一五九〕
黒の形厚壯

白六の時、黒十二と、利双の膽を奪ひ打過ぎなり。黒終に十七、十九と二子を取るに至つては、中原厚壯にして武威八紘に輝く。

〔三一五八〕
白稍優れり

戰正に酣なり。親は子を顧るの暇なく、子は親の遑なし。切つて、亂戰の修羅場を展開す。

〔三一五七〕
形勢互角

白六と約へれば、黒七、九とし、蓋し六は當然にして、此時、合好すずして、白十二得る。白の三位は、黒好し。

〔三一五五〕
白の形好し

黒五なれば、白は六、或は十（次圖）に打つて善し。延いて白十は、イの筋を狙ふ、故に黒十一の餘儀なきに至る。黒敗戰の罪蓋し五に在り。

〔三一五四〕
白優れり

白十の時、黒直ちに白鋒を向けて、白を殲滅のみが、乎、猛武暗闘か、夫は！黒の智略無し。二一に至つて終に不利を招く。

〔三一五三〕
白優勢

戀は、盲目なりとよ、利慾の眼ほたいなし。何ぞ相似しや。黒は二一に隅の白を居つて、意氣昂然たりしも、外勢厚壯、爲に黒却て惡し。

〔三一七七〕
黒優れり
白十二、十四と打ちしも、十五以下、十九と、黒の間然する所無き應戦を受けては、白の氣勢甚だ揚らず。白二、六、手抜せば黒ロ妙。

〔三一七八〕
黒優れり
白十八、と打てば、黒は悠然と十九に行ぶ可なり。白二をロならば、黒ハ、白ヘ、黒ト、白チ、黒ル、白ヌ、黒リにて一手勝。

〔三一七九〕
形勢互角
白六、而して八、黒九の攻面白十と切つて敵に酬ふを得しは、白六の覗なり。白十と黒十一との交換は、白に損少しとせず之れによりて、此變化を見るに、白六の手順最善なり。

〔三一八〇〕
形勢互角
白八に下る手もあり。斯くて、擾亂の巷、如何なる行くらむ。黒十三を怠れば、白イにて黒死なり。

〔三一八一〕
白大敗
白八、十と綿密に附け黒ロに遮れば、白イ、次に白七を翳して、黒十一に飛入す。黒十五は殊勲の一着、後は如何に變化するも、黒攻合勝なり。

〔三一八二〕
黒善し
白直に隅に飛込む手無きを以て、即ち、白策を廻して十四、十六、而して十八、黒今や、一隅の運命を双肩に荷つて十九と劫に受く、佳手なり。

〔三一八三〕
白優れり
盲人は蛇に怖ぢず、無智は大敵なり。黒五、筋違ひを下して黒の黒を弱めたり。黒十一も、匹夫の勇、十一は十七を可とす（次々圖）。

〔三一八四〕
白味善し
黒九の時、白十の畑眼敬服すべし。機を見るに如くは、蓋し此の如きを云ふ。黒八は、白イ、黒ロ、白ハの征。

〔三一八五〕
白先手故善し
黒二一止むを得ず。之を怠れば、白イに附け黒ロに遮れば、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒ヲにて白先手故善し。

〔三一八六〕
形勢互角
黒いまや三に粘ぐ。以下の變化は、諸圖より簡明なり。前黒十三、厚くして善し。二一まで黒の手段流麗、水の流るゝが如し。

〔三一八七〕
形勢互角
黒十三の手もあり。黒十九、二一、緩きが如くして然らずんば、いま玆に陣を固うするは後ち機を見てイに襲つて、獅子奮進の活躍を爲さん爲なり。

〔三一八八〕
白二十に潰敗
白二十に切断し來る、大に無理なり。白二八を三一に守れば、黒イ、白二、黒ロ、白ハの時二ホ。次に白三六でホは黒ヘ。又白ヘは黒ホにて勝。

〔三一八九〕
劫の形
白七に當てる手も有り。斯かる勝たんとするも黒白共に早く切るも、又全然無關心なるも能はず。蓋し、白イより黒イ、又黒イより白ロ、劫提り。

〔三一九〇〕
白厚く稍優る
黒は一、三と、只管隅の防備に腐心す。隣む可し、井の底の蛙の譬、中原形勢の推移を知らず。三日見ぬ間に攫千金に至つて、白の勢頓に厚盛なり。

〔三一九一〕
黒攻合勝
黒一の時、その陣容甚だ堅く、雨谷、二崎の嶮になぞらふべし。然に敵中へ入つて、故意に悶死を圖るは、白二十をイと黒ロ白ハ黒二十。

〔三一九二〕
征如何による
黒一に斜走する手あり。之は始め●に夾攻せ黒の意にも反すれども、隅を堅めて後に攻うしても後徐ろに攻合とする結果。つことあり。は征の可否による。

〔三一九三〕
白厚く、善し
白二、氣品高雅、歩武堂々たり。黒三、形悪しきも、斯く打ちて後ち四と下るも方、イに出切りの意味あつて善し。白八の守り、肝要なり。

〔三一九四〕
要點約言
（第四四六型ロの三）
白五には、黒六常形なり。次にイならば、黒にロとハとあり。白ハとなつて、ロは變化多く、ハは、白にロと一目を切取らるゝ手あり。

〔三一九五〕
基本圖
（第四四六型ロの四）
白五は、黒の二、四に對する定法なり。黒六は隅てゝ前後に伐たんとす。又六の外にイ（三一三圖以下）、ロ（三一二圖外）。

〔三一九六〕
基本圖
（第四四六型ロの四）變化
白一、通形なり、然し白一は他にイあり、強手段にして變化多し。

〔三一九七〕
互角の分れ
黒一、三、五は、最も堅實にして變化少し。黒五、七、而して九と粘ふ。で、イの切りを狙ふ、弛なき用兵、黒十三に至つて其全し。

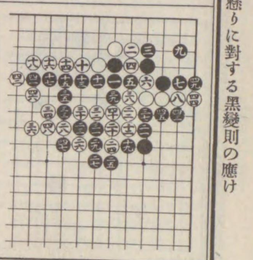
〔三一九八〕
分れ白稍有利
黒三の約は四圖の形勢によつて決すべきなれど、白四と出切られて黒好まず。黒三に責めたつた暗嘩、斯くて至つては、白四に出切らざれば、却て白守勢に陥らむ。

〔三一九九〕
黒利勢なり
黒七に下る手もあり。黒十一をイに包めば、白ロ、黒ハ、白ニと、黒魚網を破つて逸出す。白十八、綴れたれども、白遂に利あらず。

〔三二〇〇〕
白稍可なり
黒十八に行びれば、白は十九と押し、尋いで一に頭邊を壓すべし。白二四を二に綴れば、黒イ、白ロ、而して黒二六にて白甚だ窮す。

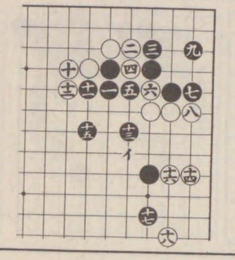
〔三二〇一〕
白優れり

黒二一、手順悪し。白二八の綿、能く黒の前に乗じたり。黒二九を三十の引きは、敵の頓着なきものの、指に甘ずるもの、名を惜しむ武夫の採るべき途に非ず。



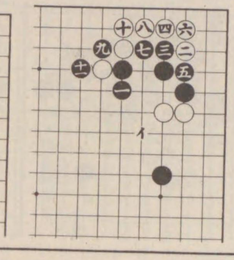
〔三二〇二〕
白稍優れり

白十二に曲り、以下白十八に至つて、白の出切り成果を收む。故に黒三は、之を除ふるに當つては除程周到の注意を要す。



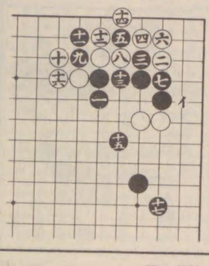
〔三二〇三〕
黒善し

白二、四好まず。黒三、五、七、九と換りし白は、四、六、八、十の二線の這手なり。黒の優勢盖し偶然ならず。黒徒悪しき場合は、十一をイにて向ほ且つ優勢。



〔三二〇四〕
互角の分れ

矢一たび弦を放れては、戻らず、黒五の失着を下して後悔。白六と粘りイの盤を見る。八黒悪し。



〔三二〇五〕
白稍優れり

「左、京道、右、大津道」黒は思案に暮れて、終に七へ進みぬ。されど白に八を許しては、黒の形勢佳觀に非ず。

〔三二〇六〕
黒の形善し

白三、筋違ひの尖なり、既に三と尖みぬ。黒四の應け可なり。白五の時黒六善し。

〔三二〇七〕
白の形崩る

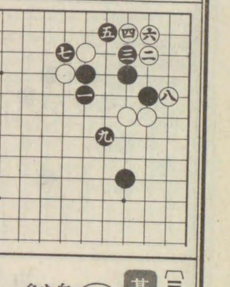
白五、七悪し、白十三と盤之は後に手あれど、黒には十二と打抜かれては白の形崩る。

〔三二〇八〕
要點約言
（第四六型ロの四一變化）

白五なれば、黒六、初めの二、四の趣旨イなれば、次に白宜し、黒ロ宜。

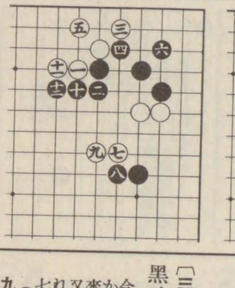
〔三二〇九〕
基本圖
（第四六型ロの四一變化）

白七と綽ね込む筋あり。此形多種多様の變化あり。



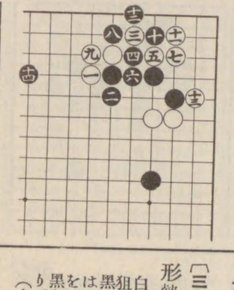
〔三二一〇〕
黒確なり

今や、白は爪牙を缺くして四と倭來る。黒五、肝要。又、白四をイに切れば、黒は五、白七、黒四にて善し。（三間夾の中四七九一圖以下參照）



〔三二一一〕
形勢互角

白は徒らに隅を狙つて六を占む。黒七剛愎なり。白は八と働き、黒は強ゆ、九をイはロの盤。（次圖以下）



〔三二一二〕
黒優れり

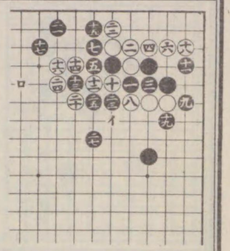
黒九の手あり。白に十と切られて變化甚多し。但し十三はイに打つ手も有り。（三二一四圖）白十六、以下兩軍精ひ鋭を悉して戰ふ。殺氣森嚴、

しく。若し之をハに約へれば、白ロにて、局面紛亂す。

千古の偉觀、血湧き肉躍る。

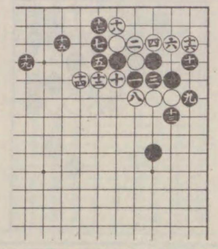
〔三二一三〕
黒善し

白單に十六に行けば、黒十七にて善し。白は二四に粘き、黒イ、白ロと打つもあり。（六）ッグ



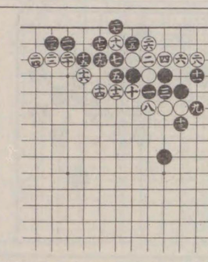
〔三二一四〕
黒左右に堅し

夫れ達人は達觀すとか、白は二十二の時、黒は十三に絡ねて右を守り、左の黒に就ては毫も危險なきを見抜いて、泰然自若たり。



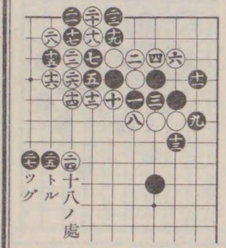
〔三二一五〕
形勢互角

白十六に追撃す。黒十七は形なり。白十八と挺身して黒の肺腑を抉らんとす。發々乎として危き黒の運命や。黒十九能く危地を脱す、可なり。



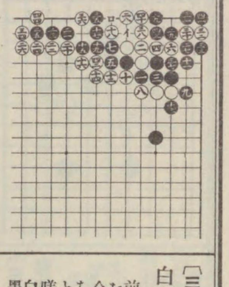
〔三二一六〕
黒、罠に落つ

あゝ十八、色白うして柳腰花顔の佳人、こそ思ひしに、さにあらでまことは狼なりけり。黒十九と罠に落ちて、遂に慘死す。



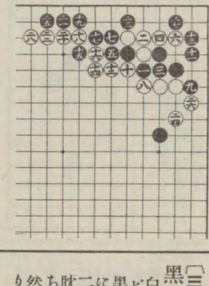
〔三二一七〕
白優れり

黒二、五、二七と、取り掛けに行くは、無理なり。二二には、前々圖の如く、イ切取るも、黒三九をロに打てば劫なり。



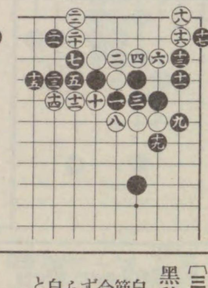
〔三二一八〕
白優れり

あゝ已んぬる哉！黒十三は隅の白を屠るに急にして却て形勢を失ふ。白十四、大牢の滋味あり。黒十五は白十六、八に至つて白萬事休す。



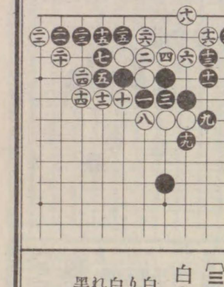
〔三二一九〕
黒優れり

河豚は惜しい！食ひたし、命は十六には誘ひの時、斷には出づる能はず。黒二三に至つて、十四までの白中有に迷ふ。



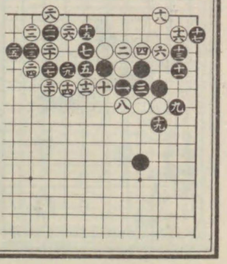
〔三二二〇〕
白勝

白十四の時、黒二十五に飛ばず、まことや下ぬまことや鵜の羅はあざなへる縄の如し。天運廻つて白二十に至つて幸す。白上邊の黒遂に恨を呑んで憤死す。



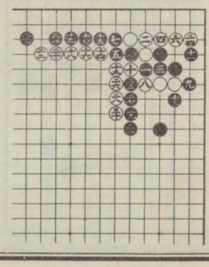
〔三二二一〕
白善し

前圖に於て黒二三を二に打ち、攻め合ひに敗けたり。乃ち、今斯くと二三。死決戰に出づ。嗟乎、さり乍ら、白十に至つて、黒は同じく敗せり。



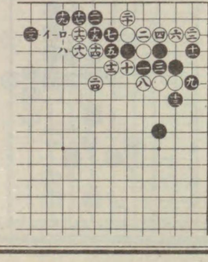
〔三二二二〕
黒利勢

白四、白又ビタ一文ビタと黒に迫る。黒は十五より二三に防戰すべし。白二四に活きる時、黒は待ちたりとして機を猛然として二五に切り。光芒燦たり。



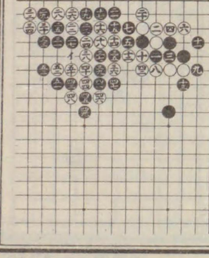
〔三二二三〕
黒稍優れり

白十六と二一段綽の筋もあれど、此場合は存外面白からず。白イなら、黒ロに出でば、白ハの時、黒二三と打つ筋なり。（次圖）



〔三二二四〕
白大敗

白二以下無理なり、黒二九善し、白三十に切れば、黒イ白三十一、黒三五。



〔三二二五〕
黒好防白潰敗

白十四の時黒十五に打ちぬ、而かも尚ほ白十六と倒す、白の二着共に無理なり。黒は十七、十九と錬芒を露はし、二一の好着白の死命を制す。

〔三二二六〕
白憤死す

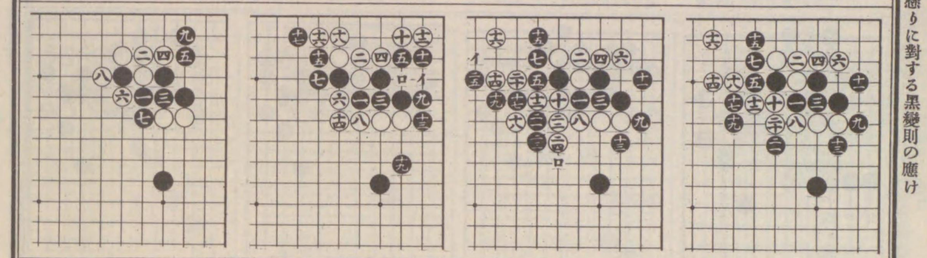
黒二五、佳手なり。即ち、黒は轉じてロに叩く。黒が前後の機微を察して右の伐ち左を撃つ妙趣、獄すべし。白の敗、宜なる哉。

〔三二二七〕
形勢互角

黒五と綽る手もあり。白は須らく六に切るべし。黒十一を十二に打つべし。可否は、白十一の時黒イ、白ロに劫なり、時の劫材の多少に因る。

〔三二二八〕
白優れり

六と切り込み来たる白の太刀風に、黒や平家の公達、業は習へば哀れ笛とる術と太刀とる術とて、黒七白八となりて、白旗天に翻れり。



〔三二二九〕
黒の形弛ゆり

黒五緩し。白十二に至りては白よりイと綽ぐ手あり、黒より強く攻める手も無し。

〔三二三〇〕
黒稍可なり

白三、面白からず。黒四で五に粘ぐの可否は、尋いで白イ、黒四、白ロ、黒ニの時白ヘと征に取り得るやに因る。（三〇八七圖參照）。

〔三二三一〕
要點約言

（第四六型ロの四）變化）

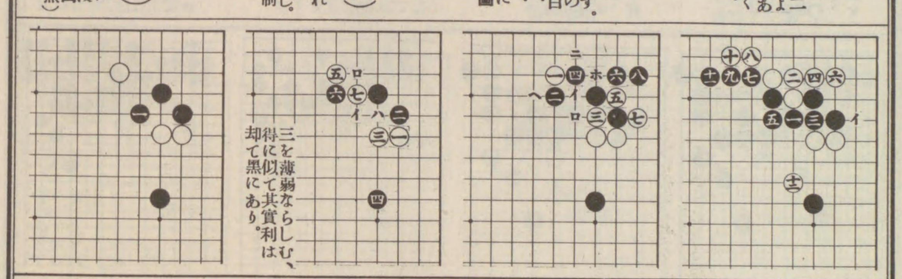
白七に綽込み来れば、黒イ、白ロ、黒ハに粘いで宜し。此結果白は隅を制する如きも、一、

〔三二三二〕
基本圖

（第四六型ロの四）變化）

（第四三型ロの四）

黒一は白を左右にへだてゝ打つ手段なり。（三一六四圖以下の變化參照）



〔三二三三〕
場合による

黒二、堅實なり。白七は、白イに行び、黒ロ、白ハと打つ手もあり。

〔三二三四〕
互角の形勢

白一、三と切つて、紛亂の機を求めんとす。即ち、白は專ら防禦的なる立場より轉じて、彼我共逃げの形に導きしなり。

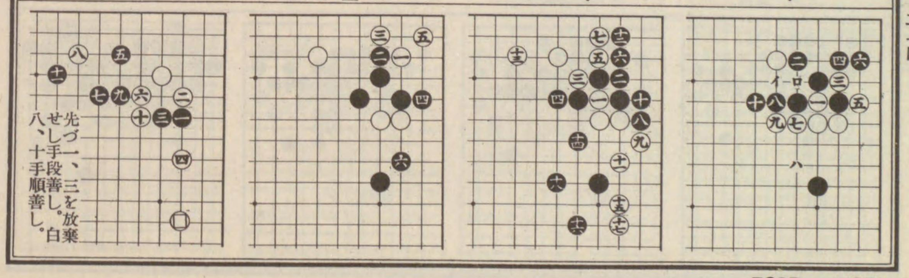
〔三二三五〕
互角の分れ

白は「危きに逢はば須らく乘つべし」と、二子を乘てゝ隅を取る。此手段、場合により面白し。

〔三二三六〕
形勢互角

先番　篠原正美當時二段
勝　高橋重行當時二段

白星、且つ〇に石のある場合黒五、七と打て、

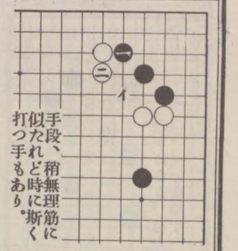


先づ一、三を放棄せし手段善し。白八、十手順善し。

〔三二三七〕
基本圖

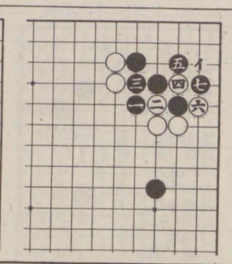
（第四六型ロの四）變化）

黒一に尖附ける手あり。之は白二に行れば、黒イに尖て左右に隔てゝ攻めんとする手段、稍無理筋に似たれど時に斯く打つ手もあり。



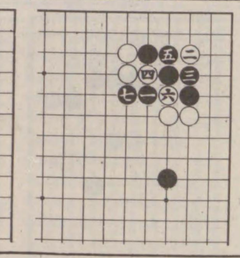
〔三二三八〕
形勢互角

白よりイと劫に来られるのを避ける場合は、黒七はイに下る手もあり。（三一三三圖）



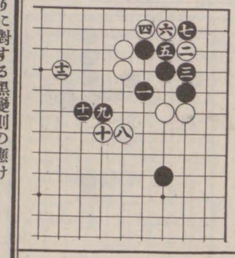
〔三二三九〕
白無理なり

白二は、時に高手の棋に見る形にたり。されど、此に似て形に於て、白二、四は打過ぎ。果竟、美四、ふ醜婦のひそみに倣れず。



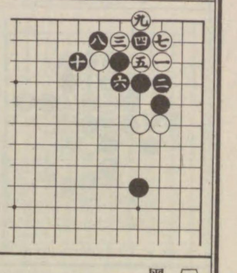
〔三二四〇〕
優劣中に決す

白八なれば黒九、十一と白を隔てゝ打つ手段善し。く形となりては中原に乗出すに中央、四圍の形勢と中戦の巧拙如何による。



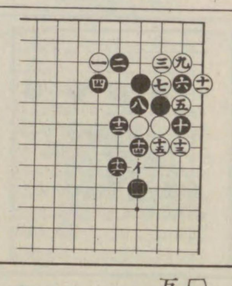
〔三二四一〕
征如何による

白直に一と打込む手あり。面白き手筋なれど、此結果は征の可否により決す。若し黒に取らるゝ場合は、白悪し。



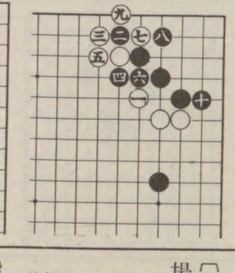
〔三二四二〕
形勢互角

黒若し、征悪しき場合は、黒四と綽ねる手段善し。白大に五と綽ぬ。黒乃ち六以下十二に至る手段面白し。十六は、黒に在る故イよりも形働けり。



〔三二四三〕
黒稍優れり

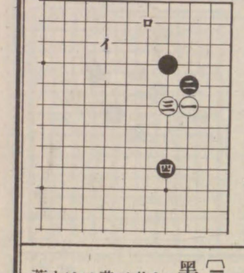
白一、好まぬ筋なり、白三手筋なれど、黒に四、六と隅てられて至る。一まで今や頑々鉄の如き黒の城郭に密接し、其影甚だ薄し。



〔三二四四〕
基本圖

（第四六型ロの五）

白五は、イ、ロの二種あり。イは、前圖までの變化の如く厳しく、ロは、黒に稍ゆるくして多く好まず。



〔三二四五〕
黒稍可ならん

黒二、堅實にして善し。

〔三二四六〕
互角の分れ

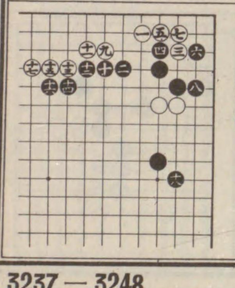
おゝ燃ゆる情熱よ！烈々たる闘志よ！時に此二は強く、黒は手段面白し。此分れには、黒は厚く、白には地あり。先づ互角の形勢と云ふを得べし。

〔三二四七〕
場合による

進んで形勢を取るべきか、自重して根據を作るべきか？黒六選ぶ者は遂に後を起す事能はず！洵に剣呑の喚声、黒八以下の突如、黒二、蓋し壮観なり。

〔三二四八〕
黒優れり

白一、奇手なれど其形低し。黒は、二と高く所謂大夫所よりも夫れは罵倒笑ふに堪ず。白一の罪なり。



〔三二四〇〕
優劣中に決す

白八なれば黒九、十一と白を隔てゝ打つ手段善し。く形となりては中原に乗出すに中央、四圍の形勢と中戦の巧拙如何による。

〔三二三九〕
白無理なり

白二は、時に高手の棋に見る形にたり。されど、此に似て形に於て、白二、四は打過ぎ。果竟、美四、ふ醜婦のひそみに倣れず。

〔三二三八〕
形勢互角

白よりイと劫に来られるのを避ける場合は、黒七はイに下る手もあり。（三一三三圖）

〔三二三七〕
基本圖

（第四六型ロの四）變化）

黒一に尖附ける手あり。之は白二に行れば、黒イに尖て左右に隔てゝ攻めんとする手段、稍無理筋に似たれど時に斯く打つ手もあり

〔三二四一〕
征如何による

白直に一と打込む手あり。面白き手筋なれど、此結果は征の可否により決す。若し黒に取らるゝ場合は、白悪し。

〔三二四二〕
形勢互角

黒若し、征悪しき場合は、黒四と綽ねる手段善し。白大に五と綽ぬ。黒乃ち六以下十二に至る手段面白し。十六は、黒に在る故イよりも形働けり。

〔三二四三〕
黒稍優れり

白一、好まぬ筋なり、白三手筋なれど、黒に四、六と隅てられて至る。一まで今や頑々鉄の如き黒の城郭に密接し、其影甚だ薄し。

〔三二四四〕
基本圖

（第四六型ロの五）

白五は、イ、ロの二種あり。イは、前圖までの變化の如く厳しく、ロは、黒に稍ゆるくして多く好まず。

〔三二四五〕
黒稍可ならん

黒二、堅實にして善し。

〔三二四六〕
互角の分れ

おゝ燃ゆる情熱よ！烈々たる闘志よ！時に此二は強く、黒は手段面白し。此分れには、黒は厚く、白には地あり。先づ互角の形勢と云ふを得べし。

〔三二四七〕
場合による

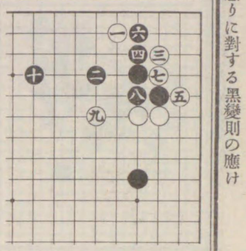
進んで形勢を取るべきか、自重して根據を作るべきか？黒六選ぶ者は遂に後を起す事能はず！洵に剣呑の喚声、黒八以下の突如、黒二、蓋し壮観なり。

〔三二四八〕
黒優れり

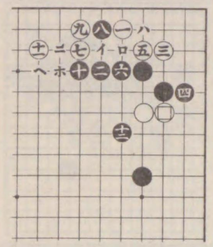
白一、奇手なれど其形低し。黒は、二と高く所謂大夫所よりも夫れは罵倒笑ふに堪ず。白一の罪なり。

〔三二四九〕
黒稍可なり
白五、七、一策なり。

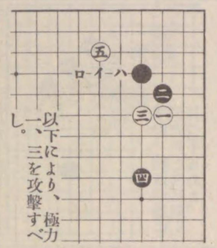
〔三二五〇〕
黒稍優れり
黒四に下る手あり、斯く打つも黒惡しからず。黒八手順宜し。卽ち、白九をイなれば、黒ロ、白ホ、黒ハ、黒十、白ニ、黒ヘと押す。白ロ益重圍に陷るべし。



〔三二五一〕
要點約言（上）
（四六型、ロの四第三、四變化及びロの五）
白「、及びロに尖附けける手あり。何れも場合の手段。又イの時に、黒は



〔三二五二〕
要點約言（下）
（第四六型ロの三）
白五なれば、黒イの附善し。次に白ロなれば、黒は三一九八圖以下、又は三一九七圖、白ロを八に縋込めば、黒三一〇圖



以下により、極力一、三を攻撃すべし。

〔三二五三〕
基本圖
（第四七型）
黒二は本手に非らざれども、奇手にして敵の意表に出づ。時に面白し。

〔三二五四〕
基本圖
（第四七型イ）
黒二の時、白に三と、其外にイ、ロ、ハ、ニ、ホの應けあり。此中白三の應けは、黒の意中をゆくもの、好まず。

〔三二五五〕
黒好形なり
黒一、而して三と行びて切る手、善し。白六をイならば、黒五は手筋なり。黒六に拠す（次圖）。

〔三二五六〕
白小利に躓く
白六、小利を貪つて大勢を失ふ。甚だ惡し。又、白八に黒を十八に打て並べば、白九なども來つて必ず善し。黒八に切つて

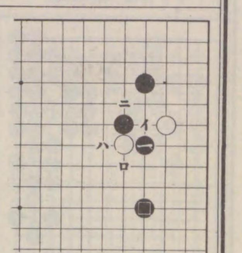
〔三二五七〕
黒優れり
白二の突當りも、黒を堅くするのみにして好まず。見よ、黒九までの偉容と、白八までの小利とは、日を同じうして語るべからず。

〔三二五八〕
黒善し
黒三と絡る手もあり。黒五と一目ボンコ抜きとなりては、普通は黒必勝なれども、此場合に限り、黒石は前後に隔てらるゝ故に、共割合に効果少し。

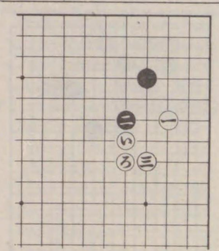
〔三二五九〕
黒形中分無し
白二に行びれば、黒は三、五と打つ。黒の陣容整ひ、間然する所無し。

〔三二六〇〕
白惡し
白六と粘いでイの切りを狙ふ。されど、黒七と掛粘。白惡し。

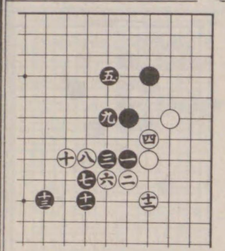
〔三二六一〕
黒面白し
但黒●のある時
六子以上の普非なるにて、黒●の綿密なる場合は、黒一の佳なれば黒ロ白ハ黒ニ。



〔三二六二〕
要點約言
（第四七型イ）
白三は、黒の二と腰の伸びたる弛みの形を、却て好まず。



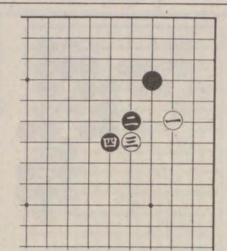
〔三二六三〕
基本圖
（第四七型ロ）
白は三の斜走もあり。Ⓐに附けるイよりは沈着にして優れども、黒に追撃せられて黒に形勢を與ふ。



〔三二六四〕
形勢互角なり
此形、黒一と急迫する手、善し。

〔三二六五〕
大勢黒に有利
白四、稍堅し。乃ち、黒五、七、九と機變の妙着に出でゝ、一隅にして一旦つの形を整ふ。此分れ、黒に利あり。

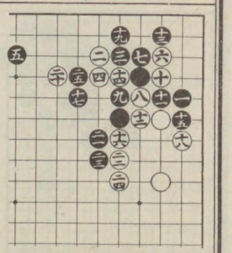
〔三二六六〕
唐人の泣き手
所謂「唐人の泣き手」と云ふ。黒七は「イ」。又黒九は「ロ」。黒は此二つの失着にては見事にハメ手にかかれり。㊟十ノ處ッグ



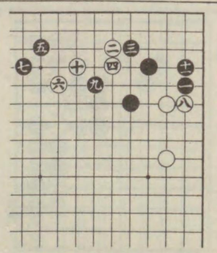
〔三二六七〕
基本圖
（第四七型ハ）
白三は、黒一の鋭鋒を避けて甚だ面白し。是に至り、黒は二と腰の伸びたるは過ぎて却て戰闘力の乏しきを喚く。

〔三二六八〕
定石
果せる哉、白は黒の虚勢を咎めて五と揚手を襲ふ。白七の形、輕快。之に反して黒稍凝形。

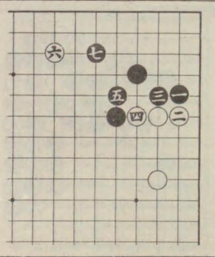
〔三二六九〕
白應急策無し
白二は黒の城砦に接近したる過ぎたるも恰も亘砲の俯角内にハが如し。白六無理に入りたり。果然、黒の千賓萬砲竝び發し、白は砲煙の巷に敗衂す。



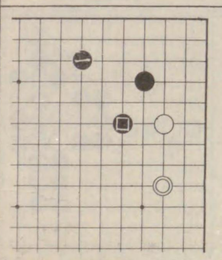
〔三二七〇〕
形勢互角
白八と只約へる手も善し。黒九に一一に擊して、次に十一に守る手確なり。



〔三二七一〕
得失無し
白二に約れば、黒は三、五に打つて、先づ其形を整へるべし。



〔三二七二〕
白善し
黒一と打つ手もあり。然し斯くなりし後に、黒Ⓐの石と白Ⓑの二間拓とを比較するに、此を交換は白に有利なるは明かなり。



〔三二七三〕
要點約言
（第四七型ハ）
黒二の斜走に對しては、白は全然手を抜くも、一手段なれども、又若し打つとすれば、圖の三と二間拓する手最も好し。

〔三二七四〕
基本圖
（第四七型ニ）
白三と附ける手あれど、急にすぎ却て悪し。

〔三二七五〕
黒堅牢無比
白二、四、俗手悪し。白八も好まず、三二八四圖の如く十一に約へる筋なり。黒十七、良し。黒二二妙なり。

〔三二七六〕
白勝
黒一もあり。白二に一盤、黒二三、白二四と打缺き攻合白勝となり。然るも次に此形白勝となる、黒イ、白ロと打抜、黒大勢に歸す。（失敗トル）

〔三二七七〕
黒必勝の勢
白十八、手筋に似たれども、黒に十九と打たれて却て白敗なり。
（六）處 十八ノ二目ト打ツト二七ノ處ニ返ス

〔三二七八〕
互角の分れ
此基本圖、四七型ニは元々白悪しきを普通とす。只此圖は、黒十七悪しきを以て互角の分れとなれり。白十八、二十、巧なり。

〔三二七九〕
黒堅實、優勢
白二十に切れば、黒は二一に行る。斯くて、十六まで白五子は、あれよと見る間に二五に化し果てゝ茶毗一片の煙と化し果てゝね。

〔三二八〇〕
白二二に潰滅
黒二一の時、白二二に盤つて敗、忽ち決す。黒乃ち手を二三に投じ、硝煙四圍を罩むるより三三に至る。白全滅。

〔三二八一〕
黒優勢
黒十七なれば、白十八に打ち此形白劫なれど、大勢は矢張り黒に利あり。

〔三二八二〕
黒劫勝
白若し十六、十八、而して二十と打てば、黒は二一に綿ねて、劫勝なり。（手）二二ノ處劫トル

〔三二八三〕
黒必勝の勢
白十八、二十の手順悪し。（黒二三と、圖參照）白の要石を取り、一轡を揚げて東に指せば天猶ほ早し、吾に敵は正に在り「本能寺に在り」と、黒二五に迫れり。

〔三二八四〕
形勢相匹敵す
白八、善し。黒一九には打てば確なり。十一尤も、二四の石あれば、黒は圖の如く運んで善し。イ

〔三二八五〕
黒優勢なり
黒九、十一、次に轉じて十五より十九、而して二一に至る。白十を捨て、黒の行兵また顔る精彩に富む。

〔三二八六〕
黒勝
白單に二と切る手あり。黒は三、五と當て、尊いで七に約ゆべし。この單の棋に移れば、變化簡單にして、且つ黒●の攻合黒勝。善化せり。

〔三二八七〕
黒優れり
白八に曲りぬ。黒九と突出し白十を誘ひ、その拍子を捉へて十一に粘ぎ、イと十五の二要點を覗む。互に奇點となり正となり虚實の用兵感ずべし。

〔三二八八〕
黒厚く、堅實
誰か圖りきや、白十四に來らんとは！黒は熟慮、而して十五に下る、斯くて好着なり、白が苦肉の策、畫餅に歸す。

〔三二八九〕
黒厚き形なり
黒五を先にする手もあり。之も結果黒優れり。
（土）ツグ 一ノ下

〔三二九〇〕
黒形不充分也
黒五、緩し。五に先んじて七に當てるべし。黒は劫材多き場合は、イに當る方痛烈なり。

〔三二九一〕
白面白し
白は六と曲るも善し。黒七の時、白は手筋なり。黒十五と隅を活き、白乃ち十六に陣容を整へ、中原十三まで、黒は脊威十三まで（へ）の八圖を以下參照）

〔三二九二〕
場合による
白二と切り逃ひ出し時、黒は一切に逃ひ一行ぶつも、一引きし、此形、白に緩し、白の形、恐るべき秘手あり。イに打つべし。即ち一畧に死す。

〔三二九三〕
要點約言
（第四七型ニ）
白三は次に切逃つて無理手段なれども、戰ふ手段なれば、黒は免れず。其結果、果して前揭諸變化の如くなりて、何れも白好まず。

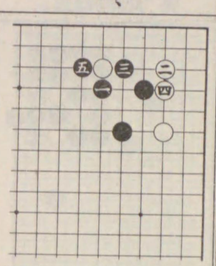
〔三二九四〕
基本圖
（第四七型ホ）
白三に打つ手あり。即ち、黒二と問伸び、虚を衝いて迫る。輕快の手筋、花、春風に蕩じて清香馥郁たるの感あり。

〔三二九五〕
白面白し
此形、黒は一に突當る手と穴に附け得る手とあり。黒は六の附け優る。

〔三二九六〕
互勢伯仲す
白は第一左右同形中央に手一つあり、と、二の打込みも、前圖に善し、五と三、白の形、黒一、白の生子を抱へし形を以て氣潑たるを以て黒り。

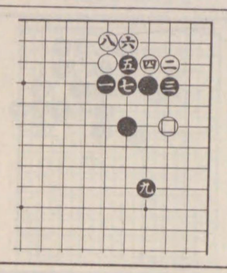
〔三二九七〕
互角の分れ

黒一と、左の白に挑みかゝる。此時、白は接戦の不利を察して二と外す。黒五は軽快なり。黒七は厚し、本手なり。



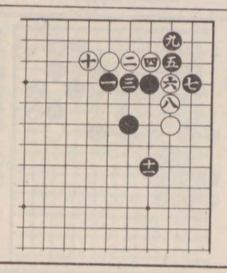
〔三二九八〕
得失なし

黒三と約へる手もあり。黒九、手筋なり。此一着に、白〇は逸出の夫れば萬夫の頼もしく、絶ゆに常に夫の開かれ、英か。



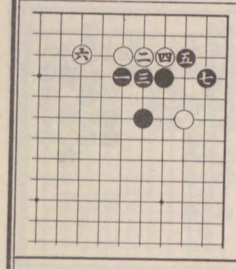
〔三二九九〕
白苦戦の形勢

白二に打てば、黒三に粘いで形善し。黒五は肝要の一着なり。黒は一歩弛むべく、白は一歩進めば即ち土俵を割るに至る。假令白六と約へにくるも、黒五と約へにて善し。



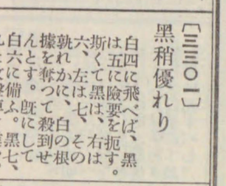
〔三三〇〇〕
黒好形なり

黒五と汎み、白六に退いては利し、先づ最初の七と守る好形に粘いでは遭遇戦に勝つ。



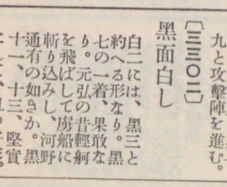
〔三三〇一〕
黒稍優れり

白四に飛べば、黒は六に跳ねて二と外す。黒五は軽快なり、厚し、本手なり。



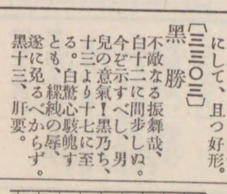
〔三三〇二〕
黒面白し

白二には、黒三と約へる。黒七の一着、果敢なり。元弘の房船に乗じて、白は輕快に河野通有の如きか。黒は野に出づれば、左右の防衛に悶絶せん。黒十九、良し。



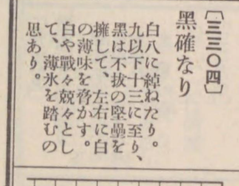
〔三三〇三〕
黒勝

不敵なる振舞哉、黒は今ぞ示すべし、男の意氣！黒乃ち十三と至り、七より十三と至る。白は驚愕して駭倒するも、縦心の辱、遂に免るべからず。黒十三、肝要。



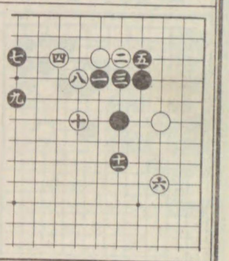
〔三三〇四〕
黒確なり

白八に綿ねたり。黒は不抜にして、左右に擁して、白の薄味を脅かす。白、薄氷を踏むの思あり。



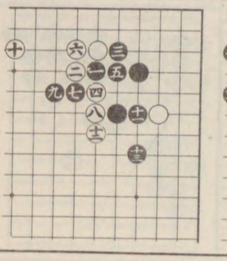
〔三三〇五〕
黒可なり

黒七と突當るも、惡しからず。斯くて次に九と見るは、即ち、白八。又、圖の如く白八に打てば黒九を占むを攻む。



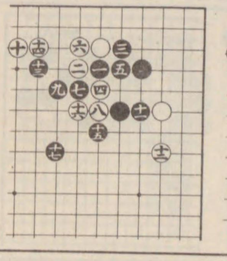
〔三三〇六〕
黒善し

白十に走る。乃ち、黒は一切つて自強の策を講ずると共に、左の白十四に肉薄せり。白は左右の防衛に悶絶せん。黒十九、良し。



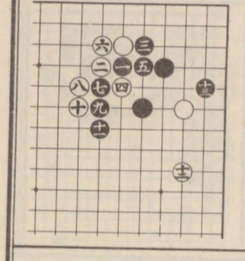
〔三三〇七〕
黒善し

白六に下れば、黒七と行き、其形整へり。次に九と下れば、黒十と至り、次に十一と若し、白は若し、黒は右辺十に迫る。



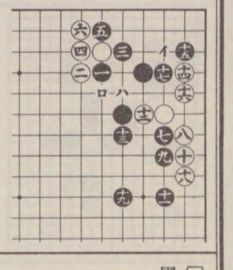
〔三三〇八〕
黒確なり

白六なれば、次に黒七に突當り、次に九、十と一子を取る。若し、黒十三に攻めイに三るも最堅實なり。



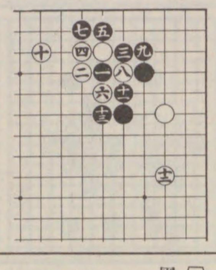
〔三二九九〕
黒優れり

黒三の時、白は單に四と粘く、黒は即ちに五と綿ねてイの打ちと綿ねて忽ち馬首を廻して防ぎ、七、九と、迫ねるも、後に白は一と、黒はハと、一子を輕く棄つべし。



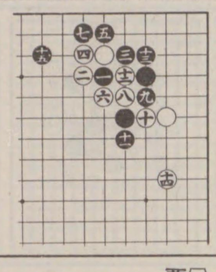
〔三三〇〇〕
黒厚く、堅し

黒五手の時に至つて、誤れる順を改めて今や黒一を棄つるも、ポン抜きに非ず。黒七、九、十三に至つて、白は十まで黒歷々の重壓を受けて喘ぐ焉たり。



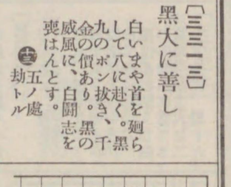
〔三三〇一〕
黒大に優れり

白二、四の切り逸ひ、無謀なり。見よ！五に至つて黒一の形こそ絶好の若しに化す。黒七を、白イと、黒ロに、白十、黒一隅に手段無し。



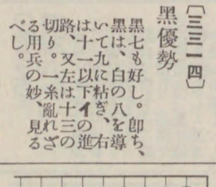
〔三三〇二〕
黒大に善し

白いまや首を擡して八に赴く。廻らば黒は不抜にして、左右に擁して、左に白の薄味を脅かす。白、思あり。



〔三三一三〕
黒優勢

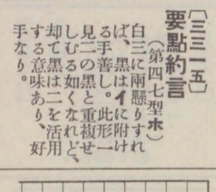
黒七も好し。即ち、黒は、九と粘ぎ、右は十一以下イの進路を、又一、二糸は乱れざる用兵の妙、見るべし。



〔三三一四〕
要點約言

（第四七型ホ）

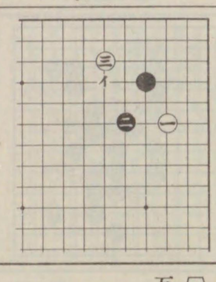
白三に兩懸りすれば、黒は八を導き、右は粘ぎ、路は十一以下イの進切り用兵の妙、見るべし。



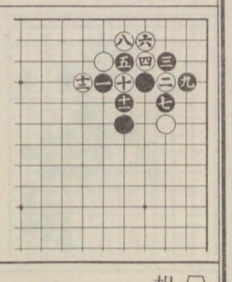
〔三三一五〕
基本圖

（第四七型ヘ）

白三と打込む手あり。之は一を拷つて、隅を占領せんとす、場合の好着なり。

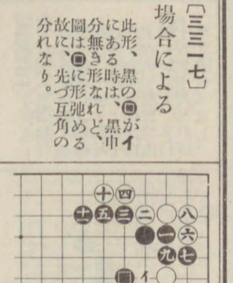


〔三三一六〕
白小斜走懸りに對する黒變則の應け



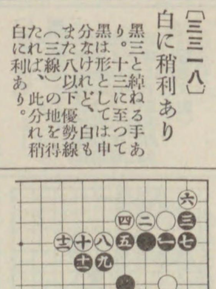
〔三三一七〕
場合による

此形、黒の□がイに分れある時は、黒巾に無き形なれば、圖には先づ互角の分れなり。



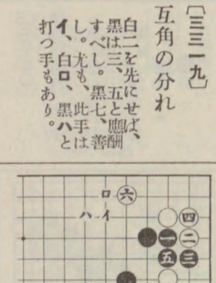
〔三三一八〕
白に稍利あり

黒三と綿ねる手あり。黒は形として巾を分なけれど、白も勢線の下優三線の地を得たれば、此分れ稍白に利あり。



〔三三一九〕
互角の分れ

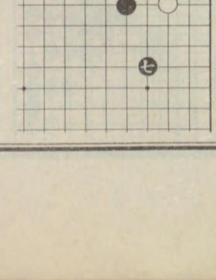
白二を先にせば、黒は三、五と應じ、黒七、善しと調子を與へ、最も好し。尤も、黒、此手は白ロ、黒ハと打つ手もあり。



〔三三二〇〕
要點約言

（第四七型全部）

黒二に對しては、白イ以下ヘまで中の應けあり。此に白イとロは、惡し。尤も最も好し。



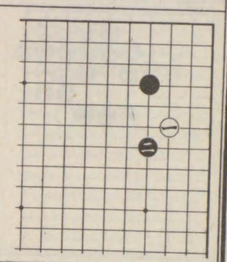
ヘは場合によれども、此手段時に白面白し。

〔三三二一〕 **基本圖**（第四八型）

黒二强硬、且つ敵の意表に出ず甚だ妙なり。

〔三三二二〕 **基本圖**（四八型イ）

黒二なれば、白三、五の切り善し。又、三は外にイ、ロ、ハなどの手段もあり。

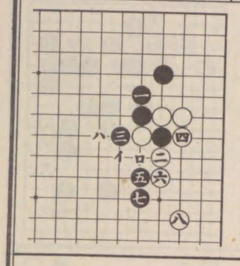


〔三三二三〕 **定石**

定石なれど、普通の形にては、白に一目を打抜かれ黒少しく損なり。然し黒は、左邊に形勢を張らんとする場合、此手段善し。

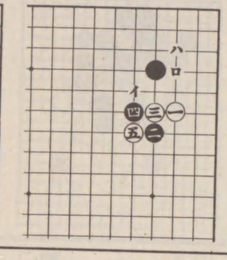
〔三三二四〕 **場合による**

黒五にカケル手あり。斯く打てば、黒は先手となれども、後にイに綽ねく、黒ロ、白ハと劫に打たるゝ筋あり。味稍悪し。



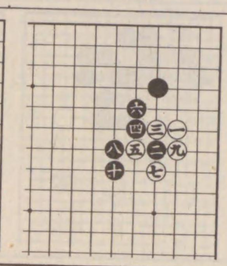
〔三三二五〕 **形勢互角**

白四に粘げば、黒五は、彼我勢力の消長に關する要點なり。若し白より五に押さゝる、形と薄く



〔三三二六〕 **黒優勢**

白は勢に乘じて六と綽ぬ、打過ぎなり。黒七と切つて意氣揚然！此一着峻烈、可なり。

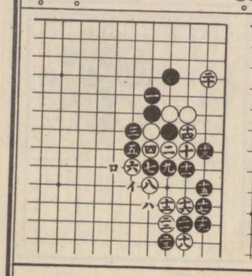


〔三三二七〕 **黒優れり**

白八に守るは、斯かる形に於ては、常に見る筋なり。白十をイなれば、黒ロ、白十一、黒十。即ち、廣漠たる中原に、黒は鐵壁を繞らして萬里の長城を築くべし。

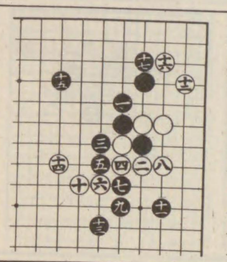
〔三三二八〕 **白、四分五裂**

白八、無理なり。白十六を十七なれば、黒は先づ十六、白イに切り、黒ロの時ハに當てる。又、白十六を二なれば、黒十六。



〔三三二九〕 **白失敗**

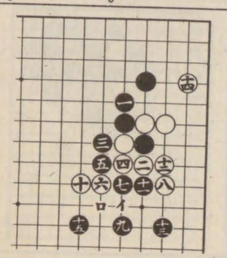
此形、次に白イなれば、黒ロ、白ハ、黒ニ、而して黒假に百歩を讓つて、ニをホに粘くも劫なれど、殆んど問題となるべき形に非ず。



〔三三三〇〕 **黒必勝の勢**

斯く白は劫に打つも黒三の劫取にて、次に白には劫抛無し。

（手）劫トル　（二）同

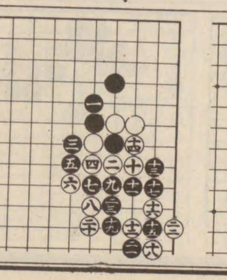


〔三三三一〕 **黒利勢なり**

此形の可否は征に關係あり。若し黒がイに打つも征悪しき場合は白二に下る手あり、ロて、黒敗なり。（變化大圖）

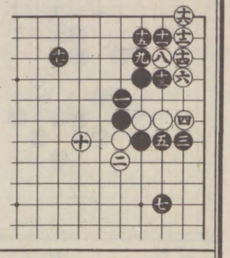
〔三三三二〕 **白分裂の慘狀**

若し前圖に於ける黒の征悪しき場合、黒は十五に附け白十六に手を抜く手あり。白十六にて三、黒二、白三に同じく十八。又、白十六を十八にて宜し。



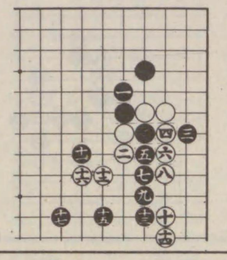
〔三三三三〕 **黒の勢善し**

白二は、味悪しき手なり。總て斯かる形となるは、雖も、如何なる場合と雖も、常に白好手なく、黒は、左邊に三は常用の手筋なり。（互先一間夾の部參照）



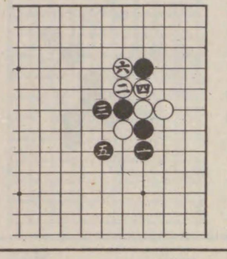
〔三三三四〕 **黒の勢善し**

白四に突出せば黒五、七と行出して善し。又初め黒三の手は含みを殘し置くも面白し。



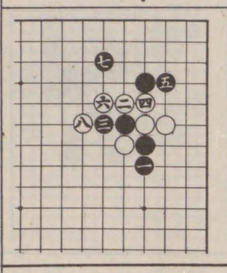
〔三三三五〕 **白利勢なり**

黒一と行びる手もあり。無理にして好手に非ざるも、強く戰はんとする場合、稀に斯く打つ手もあり。黒五、本手なり。



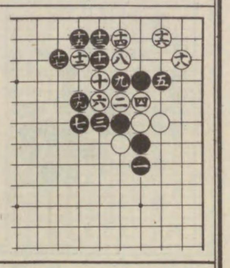
〔三三三六〕 **白の勢善し**

黒五、無理なり。白に六と押されて、黒は七と、隅の白の急にも、備へも、又八と頭を叩かれて邊を至やつに蔽よ、黒のキカずべらず、黒の非勢や、七は、兎も角も、八に行びるべし。



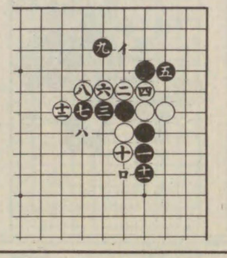
〔三三三七〕 **黒優勢なり**

黒七に行ぶ。白八と攻めしは悪し。黒は九、十一と出、白十二は先づ十六を取る。黒十一を口ならば、白ハ、黒十二、白十一にて無し劫辨慶。黒は手筋なり。



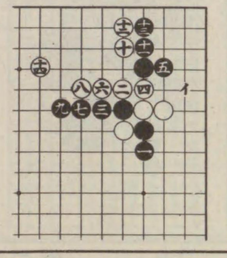
〔三三三八〕 **黒無理なり**

白八の時、黒は白のイに備へて九と守る。白乃ち十一と攻勢を取る。黒十二を口ならば、白ハ、黒十二、白十一にて無し劫辨慶。黒は手筋なり。



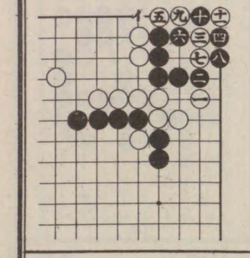
〔三三三九〕 **白利勢なり**

白十、十二と利かせる手順となりては、白良し。此隅には、白先イと尖めば劫なり。（次圖）



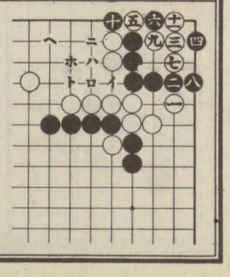
〔三三四〇〕 **白先劫**

一合枏の形、此形は、屢戰に現はるゝ種々變化あり。又これも白三の時黒イの綽ヌの場合とによりて、隅の變化に相違あり。（次圖）



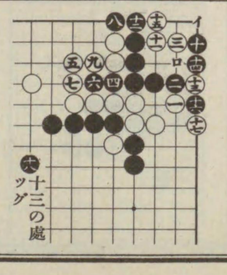
〔三三四一〕 **邊に手あり**

此形隅だけで見れば、黒死なれども、黒はイに出、白ロ、黒ハ、又白ロ、黒ホ、白ニを黒ホに飛べば、黒トに打て此處に手段あり。



〔三三四二〕 **寄せ劫**

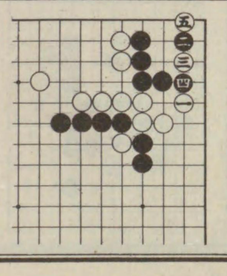
此形、白は上の駄目をツメ、而して白イ、ロと打てば劫となるに多くの手數を要する故、先づ持と見て差支へなし。



十三の處

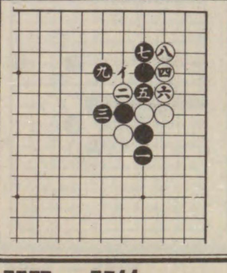
〔三三四三〕 **白先劫**

黒二と應けし時、白の三と應けして五は手筋なり。此形も、要するに、結果、隅の劫形は、劫となるを普通とす。



〔三三四四〕 **黒優れり**

白四は風の如く、雷の如く、野人禮なければ、黒五の如何とも、白を八に應けれ、これは前の形。



〔三三四五〕
黒優れり
白六と、一意攻勢を七と出て白に斷點を生ぜしめたる後、黒十五と守る。黒十七と雄渾なる形勢を作り得たるは、實に殊勲の着手七の賜なり。

〔三三四六〕
征如何による
黒一、甚だしき無理筋なれど、右の邊を厚くせんとする場合、稀に此手もある。白二、四と上隅に竄し、八と扼して黒▣の攻撃に出でたる用兵、生氣躍動す。

〔三三四七〕
白稍利勢なり
里に鹿鳴く東隅の山を揚げて進む。黒三、五の征惡しき場合は、宜しく白イ、白ハ、黒ニと打つべし。

〔三三四八〕
場合による
黒征有利にして白六を省き得ざる時は、三、五の手筋面白し。但し、黒場合は、白に六を七と行びて、黒の陣形崩られて、白好結果を得。

〔三三四九〕
白面白し
先旺漢
勝盛大有年
支那にては、白が先着をなす慣習なり。黒十三は前々圖の如く打つべし。

〔三三五〇〕
黒初志を遂ぐ
黒一、三、強に過ぐる如くなれど、又有利なる場合は此征め方面白し、善し。白四、六に行びたるは、白八以下の接ぎに便宜あり。

〔三三五一〕
白虚を衝かる
利鈍誤つて鋼を招く凶劍村正か、白十に光芒閃いて、黒十一は却つて傷つく。白十二に至つて、一撃届かざる勇猛心、遂に黒十九に一子を取りて白大敗す。

〔三三五二〕
征如何による
黒十三と打て白二目なれば、白三に四と打抜かれて、黒五と後手を引く場合は、始の黒一、三の手悪し。

〔三三五三〕
黒優勢なり
白六、而して黒に七と、兩當りをなさしむ。斯くて猶ほ白の勝たんとするは、痴人夢を說くの愚に異らず。黒くも九とポン抜きされては、白の前途、悲風蕭々たり。

〔三三五四〕
場合による
黒五と切り、白の六を待つて七と粘りをもあり。白十一に綽れば、黒十イとなりて、三三五一圖と同じ。

〔三三五五〕
黒無理形なり
黒九、十一、打過ぎ。畢竟、黒の認識不足によるものなり。白十二に至つては、黒は動くに從つて損失を重ねんとす。黒恨悔之を久しうすとも適當の手段を得ず。

〔三三五六〕
黒不利なり
勝瀬越憲作七段
四子某氏
黒一は確なれど、白に四と打抜かれて、黒五と後手を引くに及んでは、黒不利なり。

〔三三五七〕
要點約言
（第四八型イ）
黒二の奇手には、白は三、五、最も善し。此時黒イに引けば、大過無けれど、ロ、ハ、ニなどは、特殊の場合の外何れも無理筋なり。

〔三三五八〕
基本圖
（第四八型ロ）
白三と打つ手あり、之は黒に似たれども、黒イに白ロ、黒ハと出切れて白好結果を得。

〔三三五九〕
定石
白十一を十七に取れば黒はイにカケテ宜し。黒十二手筋、大いに面白し。

〔三三六〇〕
形勢互角
白十の時、黒十一と出る手あり。白十二以下前を伐ち、後を擊ちに敵を脅かしまた轉じて三四の要衝に據る。白の馬上の英姿仰ぐべし。

〔三三六一〕
黒の勢壯なり
白三十、打過なり。白三二をイなれば黒ロ、白三三、黒三三、此形次に白ハなれば、黒ニ、白ホ、黒チにて、黒大に優れり。

〔三三六二〕
黒好防白慘敗
白十二、十四、好手。黒十五と單に行びては、戰はずして敵を屈せんとするの兵學の教に適ふもの。か。白十六は打過ぎ。（次々圖）

〔三三六三〕
黒劫勝
白二十と窮餘の一策を弄して二二と至る。黒二三以下、至つて中央の白ボンベイウスを埃及に急追せしか、迅速疾風の如し。白三八をイならば、黒は劫提りにて勝。

〔三三六四〕
黒優勢なり
白十六以下、變化に出でしも、十九に至つて中央の白や無援孤立を失ひし鳥の如し。

〔三三六五〕
黒大に優れり
白十二より二十二で俗筋甚だ惡し。白三子を逐つて中央に捕はんとするも、黒の身と勢は中央に厚くなれる。斯て白の勢容を作すに及ばざること遠し。

〔三三六六〕
白の勢振はず
白十二、十四と打つ手あり。此結果は、前々圖に比べ白宜しけれど四以下の白同じく根據を失ふ。

〔三三六七〕
黒利勢なり
白十に粘いで堅守す。黒十五に打抜くも、白十二、軍を餘所に高野へ通れし維盛が、毫も闘志を見せや、源九郎、惡七兵衛に氣を呑まれ、三、五と追擊急なり。斯くては此假令活を得るとするも必ず惡し。

〔三三六八〕
白非勢なり
白十二、軍を餘所に高野へ通れし維盛が、毫も闘志を見せや、源九郎、惡七兵衛に氣を呑まれ、三、五と追擊急なり。斯くては此假令活を得るとするも必ず惡し。

〔三三六九〕
白有利の形

勝旺 漢 先番 周 元 服 年

黒十二打過ぎ。白十三如何、イに攻める形なり。黒十四以下小策を弄せしは、悪し。巣鷲、力自慢の草角力のみ。

〔三三七〇〕
要點約言

（第四八型ロ）

白三にカケレバ黒は無論四に出切るべく、其結果當然三の白と、二の黒と振替りとなるべく、此形は寧ろ黒に手段の餘地多し。

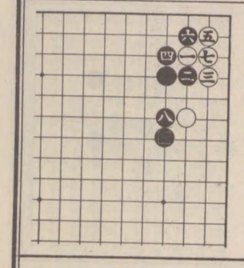
〔三三七一〕
基本圖

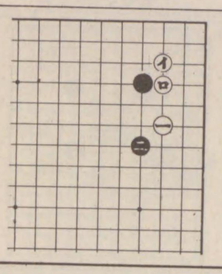
（第四八型ハ）

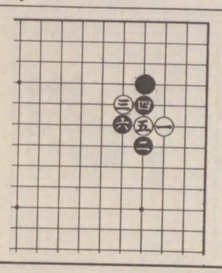
黒二の時、白は前變化以外に④、ロなどの手あれど、之等は何れも白面白からず。

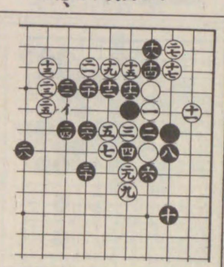
〔三三七二〕
黒の形善し

白一は、黒㊀の恫喝に怯えたりとやいはん。甚だ好まず。









〔三三七三〕
黒可なり

黒六着し。卽ち、區々たる小事に泥まず、寛々として然かも大勢を見るにあり。此形、白イに切れるは、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ。

〔三三七四〕
黒確なり

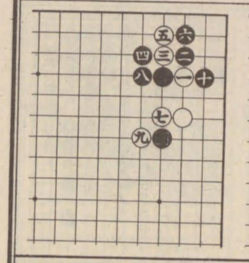
白三ならば、黒は四に繋いで善し。黒十は、イ或はロと打つ手も宜し（三三八四圖以下參照）。

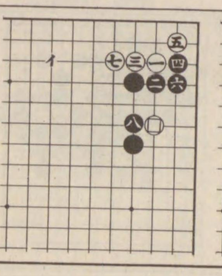
〔三三七五〕
黒厚し

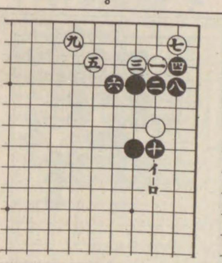
白五、七と打ち、時に機到れば㊀の白をも活動せしめんとす。黒乃ち之を絞し、八と㊀の死命を制す。以下の黒は、イより攻勢に出る手あり。

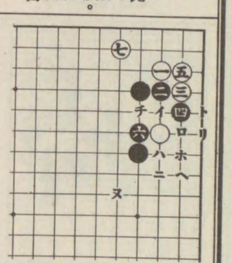
〔三三七六〕
黒利勢なり

黒㊀に虚勢を張って脊かす。白忽ち肝を消して一、三と切り違ひしは、老松の影に驚いて刀を抜きさうにも周章武士の如きか。黒十一、白殆んど得る處無し。









〔三三七七〕
黒稍優れり

黒十、十二良し。猶此大斜走應變化、黒十六、確なり。變化の中切違ひに注意。以下三五圖に於ては、其形と比較的多少異るも、參照せば以て資する處あり。

〔三三七八〕
黒優れり

黒四、六、八と打つ手あり。後手なれども、黒の外勢重厚を加ふ。

〔三三七九〕
參考圖

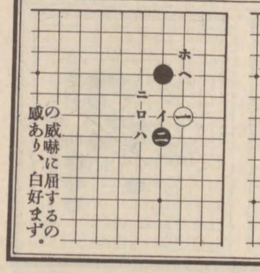
（白三の變化）

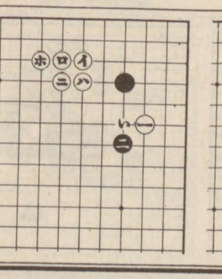
黒二に對し、白よりイロハニホヘの其他何處に來るとも、黒はいに約へて良し。

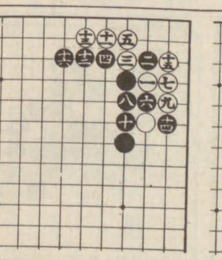
〔三三八〇〕
要點約言

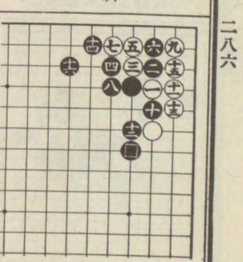
（第四八型イ、ロ、ハ）

黒二の恫喝には、白イ黒ロ、白ハと反撃する手最も善し。白は却て黒ヘに乘ぜられ。又ホ、其他の手段は黒の威嚇に屈するの感あり、白好まず。









〔三三八一〕
基本圖

（第四九型）

黒一との、一間の急攻もあり。互先の小目に小斜走懸りの場合には、急劇の一間夾は好手なれど、置石にては隅が餘りに開放的なれば、二は場合の手なり。

〔三三八二〕
基本圖

（第四九型イ）

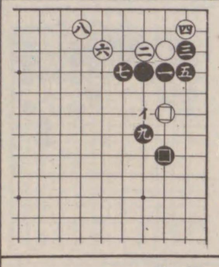
黒二の時、白に三、イ、ロ、ハ、ニなどの手段あり。其中白三の打込は、變化簡單にして、結果も白悪しからず。

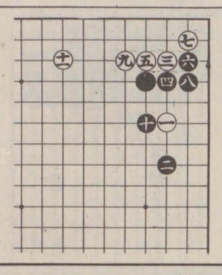
〔三三八三〕
定石

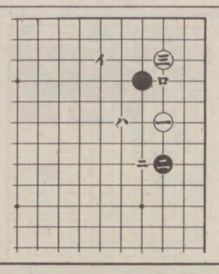
白三、大に五の押し、常形なり。黒六の綽良し。白九なれば、黒十に厚味を與へ、且つ結果も白悪しからず。

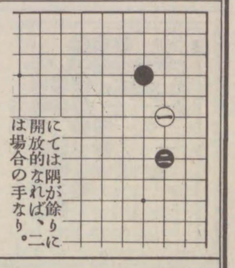
〔三三八四〕
常形

白六、八と打つては、黒は前圖のイと異り九に尖んで㊀を拘禁の利を利するとも、厚味すると共に㊀の堡壘に堅を加へしなり。









〔三三八五〕
黒稍優れり

黒九と押す手もあり。白十と切る手もあり。白イと絞ね、黒ロ。此手は白ハと打つべく、黒ニと析すれば、白十一、十三の綽行び、手厚し。

〔三三八六〕
形勢互角

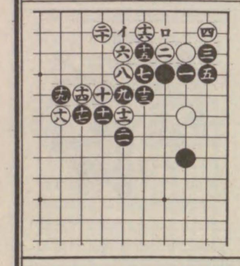
白八に押すもあり。黒十一、打てば、白十二と切る着取を早くも段綽をねらって、一瞬の機敏を失はざる明敏の手段とは、夫れこれを云ふか。

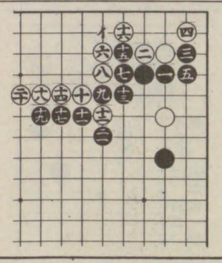
〔三三八七〕
黒の形確なり

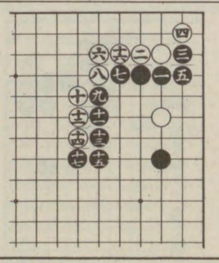
白十の時、黒は後にイと切るを緩筋なりとして、一瞬二段綽を避け、黒ニと打ちて、白十一と傷手を蒙って退身ざるを得ず。黒は身かるく徹傷だも負はず、二一白を抱へて意氣昂る。

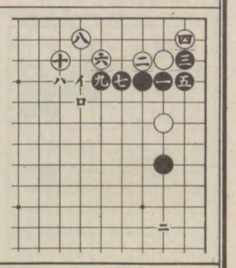
〔三三八八〕
黒優れり

黒イ、白ロの利きあるを利して、十九と切る。白即ち傷手を蒙って二十と劫すれば、黒は退いて得ること劫なれば、これは白寄劫なれば同じく白悪し。









〔三三八九〕
黒有利の形

夫れ窮して亂する者は小人なり。白二十に小生ず。悪し。黒二一に切りて、何ぞ辛なるの辣なる！黒の實、血を散らして二九に至る。

〔三三九〇〕
場合による

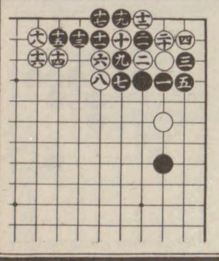
黒直ちに九、十一と切る手あり。取りを專一とする場合、此手段も面白し。

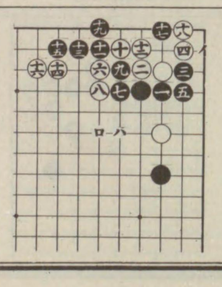
〔三三九一〕
黒勝

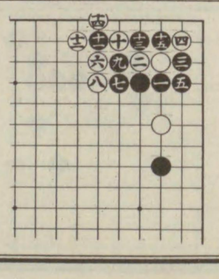
夫れ西瀧に言はずや、始めは宜しけれども、終りは成就と。黒十二無理なれば、白十三に至って、白を屠る。又活きたれば、黒十四、白ロ、黒ハ。

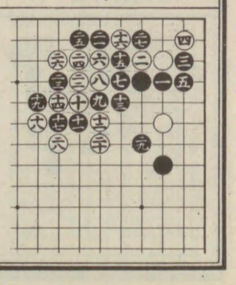
〔三三九二〕
白悪し

白寄せ劫
白十二と掛ぎ黒十九と劫なれば、白二十と劫すことは得せざれども、これは白寄劫なれば同じく白悪し。









〔三三九三〕
分れ黒稍有利

黒十七以下二三と下れば隅の白は死イに活されば、又白二で黒は二に綿ねて、黒は龍の雲に上るが如き勢を示す。

〔三三九四〕
黒優勢なり

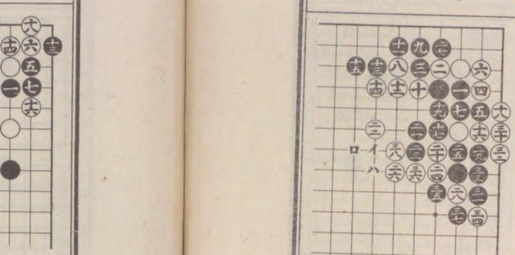
黒十三、上を厚くせんとする場合、好し。白十四を十五に綿ねば、黒は穏かにイと行び、白ロの時黒は厚堅ハと、千鈞の容も貫き得ざる鐵甲の備をなす。

〔三三九五〕
常形

黒三と行びる手あり。常形なれど、◉のある時は、白は四に綿ねる手善し。（三三八三圖以下）

〔三三九六〕
黒破滅す

黒三、九強に過ぎて無理なり。柔能く剛に優ること雪折れ無しと知らずや。大悪手。此手は白イに附け、白ロと行びるも位のものなり。



〔三三九七〕
白利勢

左右の黒に挟んで白に二六の好着を下さゞれば、黒は圖のなれど、白に取らるゝに至つて、三十と右の三子を矢張り黒の損甚し。

〔三三九八〕
白　勝

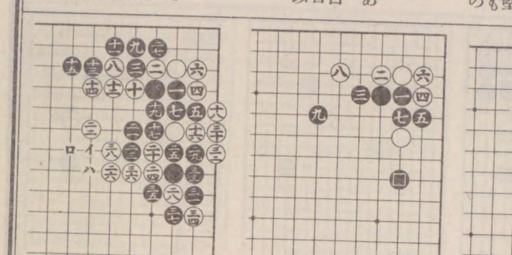
黒十五と、二段に鋭く綿ねたり、白十六と高飛して、白右七と、左十八と見る。白は戰はずして敵を屈す、此形、次に黒十三と、一段に綿ねて白の趨る所を喫し、勢に應けざるを得ず。十五、十六、三、以下八に至つて、三の出は十五の下の黒恨を呑んで骨を埋む。

〔三三九九〕
白　勝

黒十三に綿ねて白の趨る所を喫し、勢に應けざるを得ず。十五、十六、三、以下八に至つて、三の出は十五の下の黒恨を呑んで骨を埋む。

〔三四〇〇〕
黒悪し

瀬越憲作七段　黒三と約へ以下九に粘く、位ならば、始めの三を九に行び、三の出は何れにしても悪手なり。



〔三四〇一〕
黒嵌る

物に表裏あるが如く、兵に正權兩道あり。いま白四と權道を用ふ。白の罠に落ちたり。黒五は、無修！

〔三四〇二〕
黒優れり

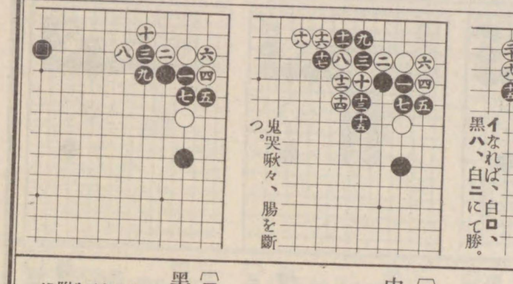
黒は眼敏くも、白の狙が五にある、を見て、之に備へんとの謀は、水泡に歸せり。白は六以下低地を盤ら、ざるを得ず。黒不敗の地を占めたり。

〔三四〇三〕
中の白浮けり

白四無理なり。黒七の綿ね良着、白十五に至つては、白四以下の要石を失ひ泛して進退の據を泛へり。

〔三四〇四〕
黒稍優れり

黒十三、此手は手順を誤る、五を可とす、一と波、萬こに生じ、白十六に附なりて、外面に逸出せり。



〔三四〇五〕
黒、罠に落つ

利慾に眼の眩むは間々ある習ひ。黒は十五之と同じく、白を屠らんとして却つて自らの墓穴を掘る。白十八の手佳、黒は遺憾仰天！初めて黒攻合敗を知る。

〔三四〇六〕
征如何による

此形、可否は若しの如何による。若し白三一を、イ、黒ロ、白ハの時、黒ニ、黒ヘの征が黒悪しくば、白勝なり（次圖）。

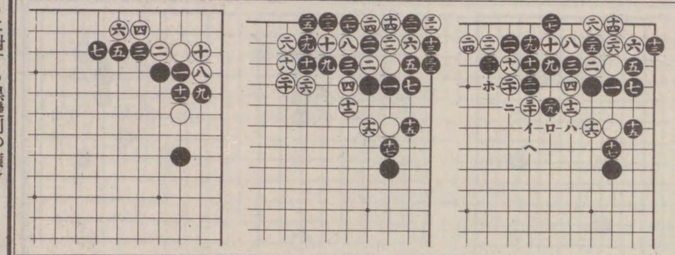
〔三四〇七〕
黒好まず

黒征悪しく、二一と切れば、白は圖の如く、劫として隅を棄てる方針面白し。

（参）二一ノ處ヨリ一目トル（手）一目取返ス

〔三四〇八〕
黒優れり

黒三の虚喝に怯ゑて、白四と屈服す。以下黒五、白と押せば、黒は五、地と利せり。黒の利、今や中原の鹿、黒の鹿に委さゞるを得ず。



〔三四〇九〕
黒優れり

白二好まず。黒三、七と打て◉、五、一、活躍す、見よ、白は低きに這ひ、黒は高きに厚味を壓す。黒々を滿喫するの因なりと雖、鵜呑して起る所も無し。

〔三四一〇〕
白有利の分れ

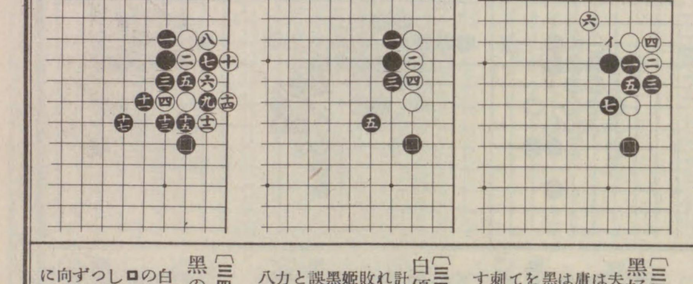
黒三と打ち、前圖の如くイに約へざりし口惜しさよ！黒七に至つて、戰、白の形申分なきに、黒は◉の位置不充分にして、稍重複の感を免れず。

〔三四一一〕
互角の形勢

黒◉のある時は、黒は五と最好の點を占め得る手順となす。故に初めイに約へるも無悪からず。黒一九圖は◉損なり（三參照）

〔三四一二〕
黒厚き形なり

黒◉のある形にて、白四と押せば、黒五と屈して七に辛し、皮肉にも黒一一、辛辣◉と相應じて意氣敵を呑む。（三）粘



〔三四一三〕
場合の手段

黒十一、普通は前圖の如く十二に叩くべき形なれど、石を兩分して戰はんとする場合、斯く十一と引く手面白し。

〔三四一四〕
黒好まず

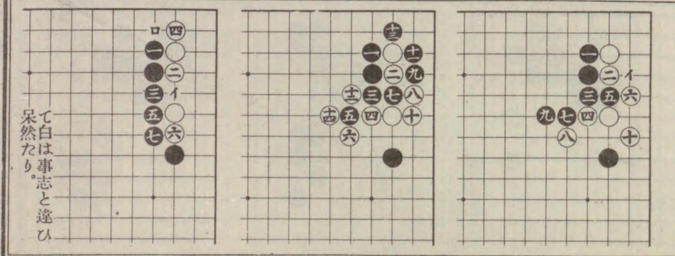
夫れ大聲も狸耳には入らず、好機も唐手に捉ふる能はず。白六時、黒は前圖イの好機を逸し、白の十に至つては、白の陣容溌溂として生氣橫溢す。

〔三四一五〕
白優勢

計畫一たび齟齬すれば、敗れ、項羽も亦虜も、姫を抱いて泣く。黒五に正に順を誤る。爲に十四と打抜き、白の威力、四海を照らし八紘に輝く。

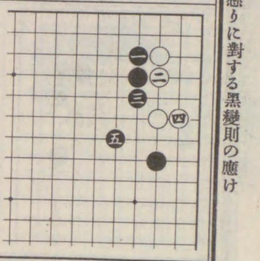
〔三四一六〕
黒の勢確なり

白は四と打つてイの缺陷を防ぎ、黒のロと出さんとするを待つて五と押す。凝つとは思案に能はず。當て事は黒に向ふより外なし、七と打たれて白は事志と違ひ呆然たり。

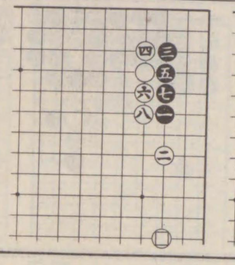


〔三四一七〕
黒優れり
白四と下れば、黒同じく五に斜走する形なり。

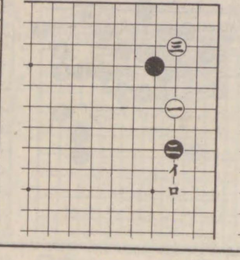
〔三四一八〕
場合の手段
先番　**村島誼紀五段**
勝　**關山利一四段**
（白星、且つ白（□にあり）白二、四、白を持つては稍緩し。尤も、場合による。



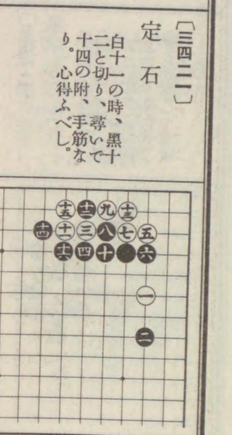
〔三四一九〕
要點約言
（第四九型イ）
黒（一）の時、白三に打込む手は、一を捨てゝ隅二がイ、段にある時は、此手段あれど、其の廣狭によりて、變化稍異れり。



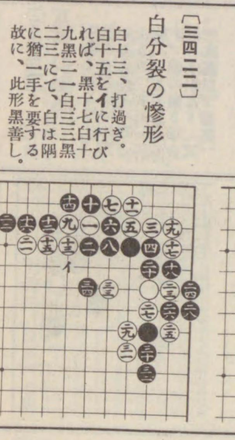
〔三四二〇〕
基本圖
（第四九型ロ）
白三とあり。黒二の（ロ）とあるを以ては④と一間に夾には、普通の兩懸（五一二圖以下）と其意味異れど、白の此手段、時に面白し。



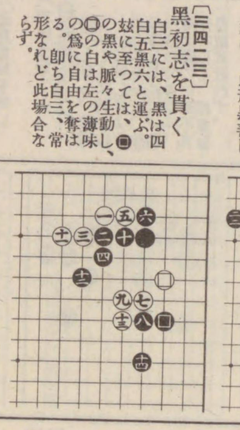
〔三四二一〕
定石
白十一の時、黒十二と切り、尋いで十四の附、手筋なり。心得ふべし。



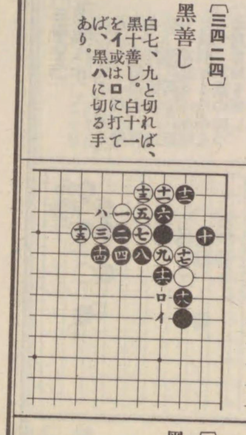
〔三四二二〕
白分裂の惨形
白十三、打過ぎ。白十五をイに行けば、黒十七白十九黒一、一白三三黒二三にて、白は隅に猶一手を要する故に、此形黒善し。



〔三四二三〕
黒初志を貫く
白三には、黒は"四"兹に至つては、□の黒や脈々生動し、□の白は左の謀味を奪はれ、即ち白三、常の形なれど此場合ならず。



〔三四二四〕
黒善し
白七、九と切れば、黒十と切れば、白十一を"イ"に打てあり。"黒ハ"に切る手



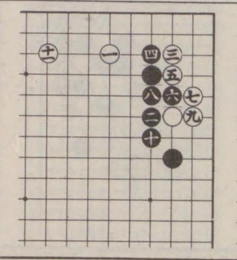
〔三四二五〕
黒確なり
黒十、確なり。若し之を十二に粘げば、白十に出切る手あり。（次圖）

〔三四二六〕
黒嵌り
黒十、悪し。黒十二は十三に約へ、黒"イ"と打つ位のもの。此形白十九となつて黒十二、三ハマリなり。（三間夾四六六七圖參照）

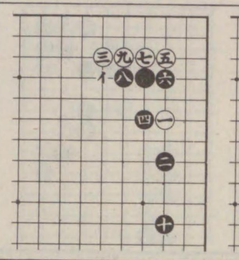
〔三四二七〕
黒善し
白五、定石なれど、□□の交換ある此場合は好まず。黒は十四にてイに尖附けるも宜しく、又ロに拓くも宜し。

〔三四二八〕
黒ヌルシ
黒四は、□□の交換ある此場合、稍隅に偏し□との脈絡稍薄らく嫌あれど、隅を堅く占領する時は此手段を取る事あり。

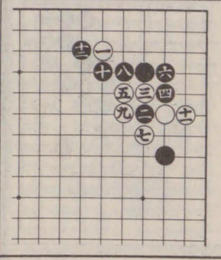
〔三四二九〕
黒善し
白三、黒四、而して白五に打込めば、黒は六、八と打つて善し。蓋し、□の黒絶好の點に當る故なり。白若し手抜せば、黒イ、白ロ、黒ハとなりて、白不可なり。



〔三四三〇〕
古風の定石
黒四に附ける手あれども、古風なり。四は、前變化の如くイに附けるが、ア・ラ・モードにして優る。

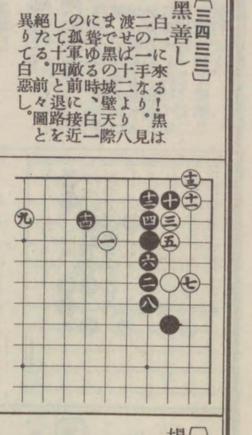


〔三四三一〕
黒面白からず
人生の岐路に立つて迷ひしハムレットや！黒い！四と五に迷つて、遂に四を採る。十一、至つて白は左右とも根據を得、黒は之を失ふ。黒四の惡しきを知れ！

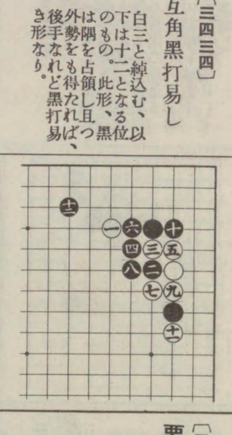


〔三四三二〕
形勢互角
忽ち開く亂刃相激するを。光芒閃に閃いて葦の亂るゝが如し。白三、斯くて黒は、持形、六四の堅、此形、黒八を九にて惡し。白征惡しくば、黒

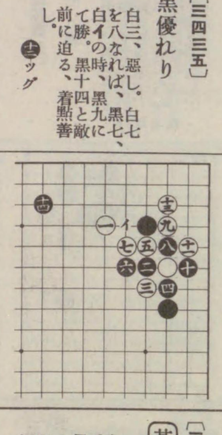
〔三四三三〕
黒善し
白一に來る！黒は二の一手なり。渡せば黒は十二より八を見せゝ黒の城天に聳ゆる時、際の一際に接近して十四と退路を絶たる。前々圖と異りて白惡し。



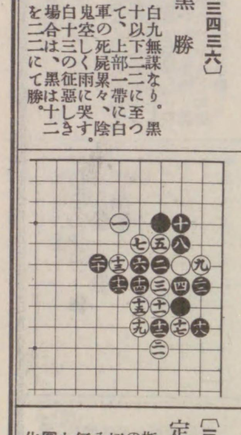
〔三四三四〕
互角黒打易し
白三と綯込む、以下は十二となるの位。此形、黒は隅を領し、外勢をも得たれば、後手なれど黒打易き形なり。



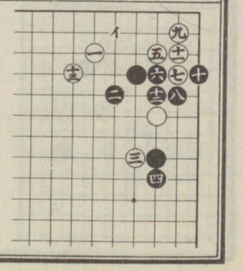
〔三四三五〕
黒優れり
白三、惡し。白七を八なれば、黒七、白イの時、黒九に敵て勝。黒十、四と前に迫る、着點善し。（七ッグ）



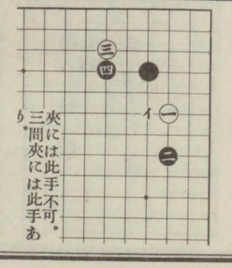
〔三四三六〕
黒勝
白九無謀なり。黒十以下二二に至つて、上部一帶に白軍の死屍累々、陰鬼窓しく雨に哭す。白十三の惡手は、黒二二にて勝。



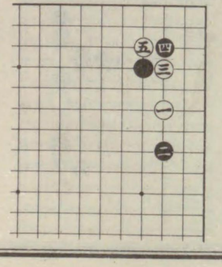
〔三四三七〕
場合による
安井知得八段
三子林鐵元二段
十二目勝
黒二の尖は、白に五の要衝を奪はるる故、普通は好まず。白九と掛粘きしは、黒のイを防ぐ。



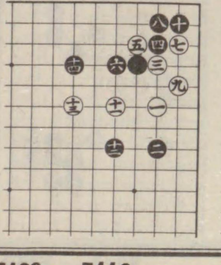
〔三四三八〕
要點約言
（第四九型ロ）
白三には、黒は四とイとあり。イは古風、多くは四が優る。又白三は四がに打つ手あれど、之は黒にイと附けらる、一間、二間夾には此手不可。三間夾には此手あり。



〔三四三九〕
基本圖
（第四九型ハ）
白三、五に附切る手あり、此手は、黒に形を確定せらる、白好まず。二間、三間夾にも略同樣なり。

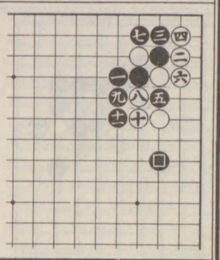


〔三四四〇〕
定石
斯く黒二の一間夾の形には、白五の逢に、黒に六と八との應けあり。何れも結果黒惡し。（四〇四圖以下切逢びの變化參照）



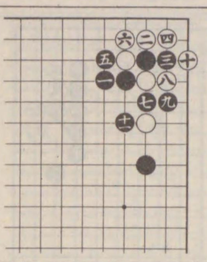
〔三四四一〕
黒の勢善し

白四に約ゆれば、黒は三線の五と二線の白六と交換して、既着の白四を愚化させし後、七と一子を取るべし。黒十一は、㊀と相照應して、形好し。



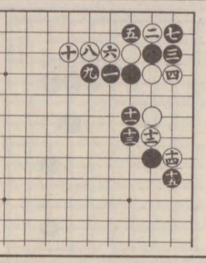
〔三四四二〕
黒優勢なり

白二、四と來るも、黒は變通無碍の健棒を振つて五より十一に至る。見よ、白は一隅に蹈蹐し、黒は無縫の整陣を張つて、外勢を壯にせり。



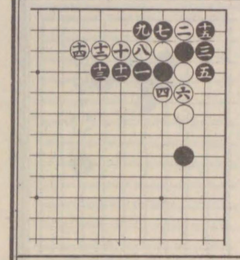
〔三四四三〕
白潰滅の慘！

白二、四と來る。黒は五、七と打つべし。白は左と右につぐ、弱石を控へて、氣沮み心喪ふ。嗟乎、無三界に據を失ひし、無宿の白、そも何處にか身を寄せん。



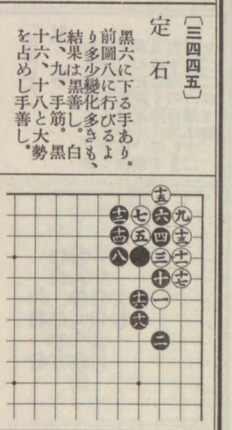
〔三四四四〕
白無理形なり

白四と打つ。黒五、而して七、九、十一、十三。斯くて黒十五に勝勢を定む。此形は互ひに結三果大いに異れり。（四五八〇圖參照）



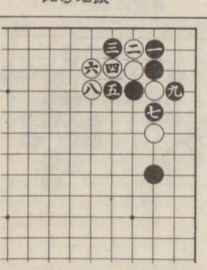
〔三四四五〕
定　石

黒六に下る手あり。前圖八に行くより多少變化多きも、結果は黒善し。七、九、手筋、白、十六、十八と大勢を占めし手善し。



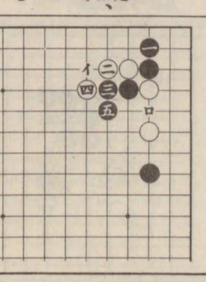
〔三四四六〕
常　形

黒三、手筋なり。斯くて九までの振替りを專一とす。此形勢に於ては、地取りを展開するを以て手段黒面白し。



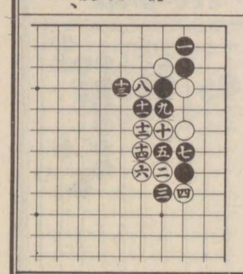
〔三四四七〕
黒善し

白二惡しく、敗戰の悲運早くも玆に定りぬ。黒三、五は、斯かる場合に於ける常用の筋なり。白いまや、イとロに弱點を暴露す。此形、簡明にして黒善し。



〔三四四八〕
黒、嵌る

白先づ二、四に挑戰し、黒七に至つて、機全く熟せるや、白は八を見るや烽火を揚げて疾雷、十、十二、風迅雷、十四の縦突横擊を敢行せり。



〔三四四九〕
黒善し

敵の謀を機微の間に察し、黒勝利の榮冠を戴く。見よ！黒五、七、九と、輕く十一子を拾てゝ次に十一に堅守す。黒が輕妙神速、天馬空を往くの概あり。

〔三四五〇〕
黒堅實、善し

おゝ青天の霹靂！白二と來るも前圖白イと同じ着意なり。卽ち、黒は、白イならば、白三をイに綿ねて、白は、ロに綿ねて、前々圖と異曲同工。黒三はそれを察して禍根を絶つ？

〔三四五一〕
要點約言
（第四九型ハ）

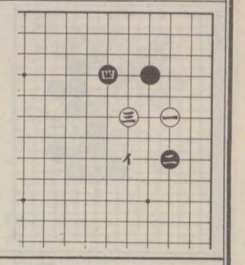
白三、次に五に切り違ふ手は、黒のイ、或はロの應けにて、隅を堅めらるゝか、或は外を厚くせらるゝか、何れにしても、白好まず。

〔三四五二〕
基本圖
（第四九型ニ）

白三、正形なり。

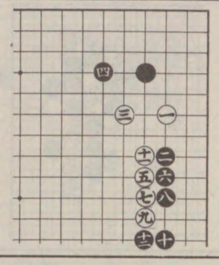
〔三四五三〕
基本圖
（第四九型、ニの一）

白三の時、黒に四とイとあり、四は正着、イは變化の手段なり。



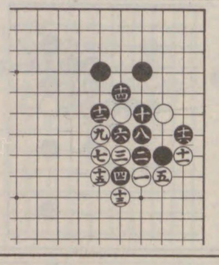
〔三四五四〕
定　石

白五、手筋なり。（白五の變化は互先一間夾の部參照）



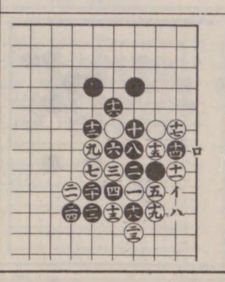
〔三四五五〕
形勢互角

黒二、四、手强く、し宜し。黒征が有利の時は十四で善し。白十五を十六に逃出して善し。黒は前方に行けば、黒は劇しき征當りを打つべし。



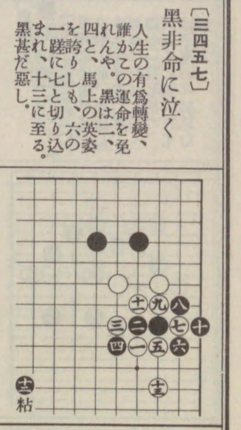
〔三四五六〕
場合による

黒十四を先にし、次に十六と拔く手あり。黒十八と面白し。白十九を二なれば、黒イ、白ロに粘、黒十九、白四に粘、黒八。



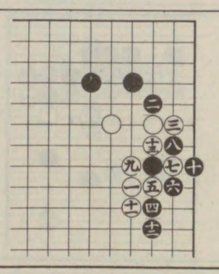
〔三四五七〕
黒非命に泣く

人生の有爲轉變、誰かこの運命を免れんや。黒二、四と、馬上の英姿も、六を跨りに七と切り込む、十三に至る。黒甚だ惡し。



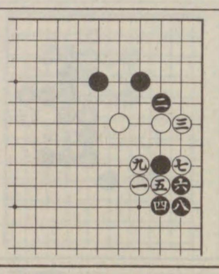
〔三四五八〕
白優れり

黒二、次に四と飛ぶ手あれど、これは形を薄くして好ましからず。白七、九巧なり。



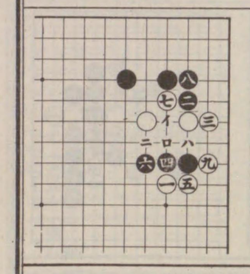
〔三四五九〕
白厚き形なり

黒八に粘げば、白九に取りて宜し。



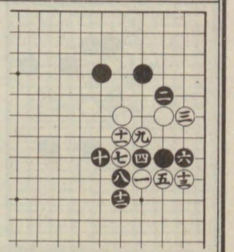
〔三四六〇〕
黒の三子浮く

黒二、次に黒四なれば、白七の手順要。白七を誤て單に九と打たば、黒イと白ハとニに兩切れを生じて惡し。



〔三四六一〕
白　勝

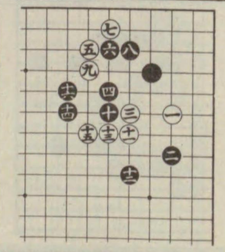
暗乎、悲しむべし、黒六の一失！白七、黒は生還の途絶えたり。



〔三四六二〕
黒打方面白し

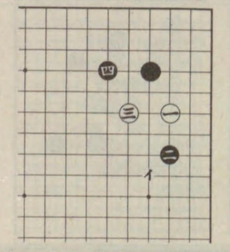
佐藤重次郎初段
十八歳
山本源吉
二子勝
十三歳後進五段

兩氏の實戰圖。黒五、打方は、好ざれど大體の打方は、黒活氣あり面白し。



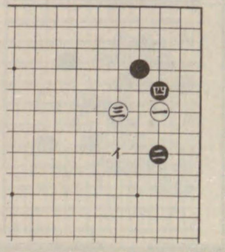
〔三四六三〕
要點約言
（第四九型ニの二）

黒四は、正着なれど、黒二の夾み、あまりに近くある故に白にカケラれる筋あり。只イと局面の變化を求めんとする、場合の手段なり。



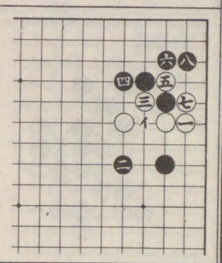
〔三四六四〕
基本圖
（第四九型ニの二）

白三の時、黒先づ四に尖附けて後イに飛ぶ手あり。面白し。



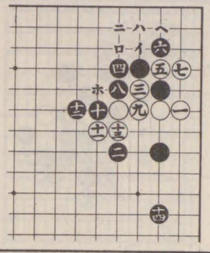
〔三四六五〕
黒面白し

白一と下りし時、黒二に飛んでイの綿込みを狙ふ。好の戰勇猛の氣躍如たり。白七に一子を打抜きしも、白の一は駄着となれる故、此形黒善し。



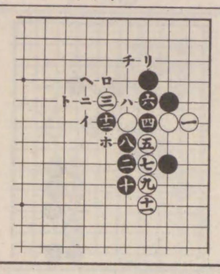
〔三四六六〕
黒稍利勢なり

白七に下る。黒乃ちその缺陷を衝き八に當てゝ白の九を強ひ、十より十二四に至る。黒十二を十三ならば、白はイ、次に黒ロは、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト。



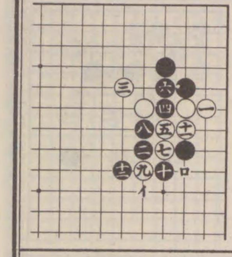
〔三四六七〕
黒優れり

白三も、黒はイ或はロに打つも、黒は四に綿込む。次に白イに粘げば、黒ニ、白イ、黒ホ、白チ、黒リにて白は嚴しく攻めらるゝ故に、白悪し。



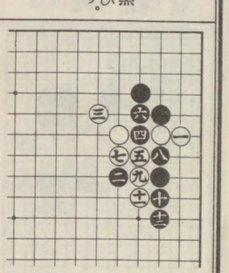
〔三四六八〕
白大に悪し

勇も用ふる所を得ずば勇の嘲を免れず。白九は、猪勇、大悪手なり。黒十、十二と離る。"大事已に白をつかむ"幕で白イをロは、黒イ。



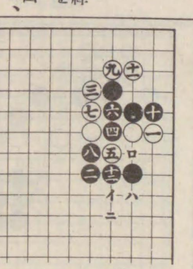
〔三四六九〕
黒有利の分れ

白七に粘げば、黒六、次に十に行びて黒有利の形なり。



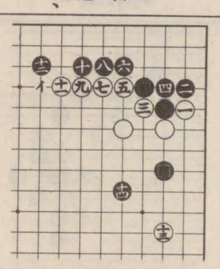
〔三四七〇〕
黒厚し

白三に附ける、黒は三に附じ、白九を込むへし。黒九を十なれば、又白九を十二に出れば、黒イ、白ロ、黒九白ハ黒ニ。



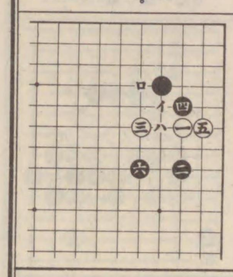
〔三四七一〕
黒有利の分れ

白一、三は、黒に隅を固められて白損なり。"いまや"此隅は蟻の入り込む隙だに無し。黒十四は、イと押して、回の一子を棄てる手段もあり。



〔三四七二〕
要點約言
（第四九型ニの二）

黒四に尖附けて六。次に白イなれば、黒ロに行びて輕く四の一目を他に打て又白イを他に打てば、黒ハに綽込む筋あり。"



〔三四七三〕
基本圖
（第四九型ニの三）

黒四に飛ぶ手あり。之は右邊の形勢を主とする場合の手なれども、白にイとカケられて、此形種々變化あり。

〔三四七四〕
基本圖
（第四九型ニの三）變化

黒六、穩健、斯く打てば隅は安全なり。

〔三四七五〕
定石

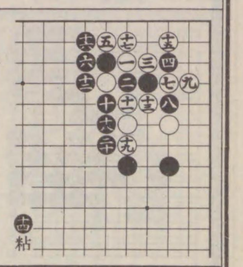
黒十の次に、白イに尖附ければ、黒は"手を抜いて宜しく"又白イの尖附を打たざれば、黒は或る時機にロに盤る手あり。"

〔三四七六〕
常形

白三と下る手あれど、後手なり。白は五を若し手抜すれば、黒イ、白ハ、黒五、黒ロ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒ニ、黒チとなつて、白は左右に念を告く。"

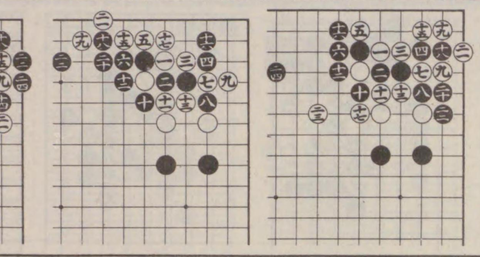
〔三四七七〕
黒稍優れり

あなや、白一、三の攻勢に出づれど、面白き手段なれど、此變化征關係あり（三四八〇圖參照）亂刃相拂つて、黒二十に至るは、黒の稍優れり。"



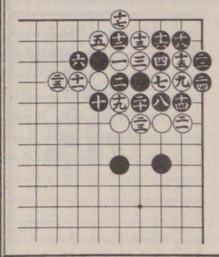
〔三四七八〕
黒の勢善し

黒八、十の手順肝要。"いま白十七と打つ。黒より十八、二十、十二と打つた、白は戰慄、肌に粟を生ず。"



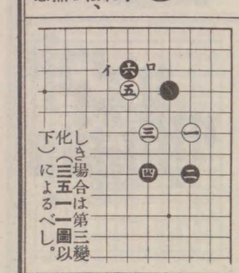
〔三四七九〕
黒優れり

白十五に進んで、黒の十六を許す。鞠根へ殘る、東北の一角二子での形となり、二子は、假令隅の黒二を取るも、白は非勢を免れず。



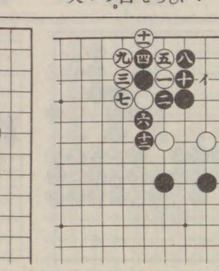
〔三四八〇〕
黒陥穽に落つ

白十一と征を逃出す手あるときは、黒ハマリなり。"形"斯かる場合は、黒の外無し。"



〔三四八一〕
白の形善し

征悪しき時は、黒は三と打つ外無けれど、白十三、黒に尖附けて六、次に白イなれば、黒ロに行びて輕く四の一目を他に打て又白イを他に打てば、黒ハに綽込む筋あり。"



〔三四八二〕
白少しく善し

黒は七と約へず、圖の如く四と行びる手あり。"此替りも右邊の地は確定なれば、黒大過無し。

〔三四八三〕
黒悪しからず

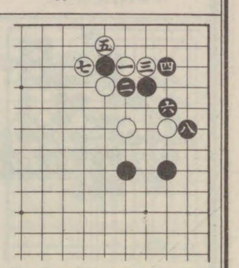
白いまや五に約へて、後にイの飛びを伏す。黒は乃ち六以下十、而して坦夷明白。又黒六は九に打つ。手もあり（三四九一七圖參照）爽つ。

〔三四八四〕
要點約言
（第四九型ニの三）變化

黒六の時、白はイの約へ、通形なれば、征宜しければ、白は口に綽、故に黒は手も有白し、手面白しとしては、若し征悪しき場合は第三變化（三五一一圖以下）によるべし。

〔三四八五〕
基本圖
（第四九型ニの三）變化

黒六に尖附ける時は"無理筋なれども、時に奇手を奏す、黒面白し。



〔三四八六〕
白五に横死す

白五、惡し。黒六、八となりては、白は攻合遂に敗なり此結果、白イに打てば劫なれど、白寄せ劫なり。

〔三四八七〕
黒　勝

白二三より變化す。黒は二四、二六、三十と打つて二八、三十と此形、白二八に粘げば、黒イに打込んで勝。"また白二八をロに綽れば、黒二八、白ニ、黒二八。

〔三四八八〕
黒　勝

白十五を二二に粘げ、黒二三、白イ、黒十八、白ハ、黒ロ、黒二十、白ニにて勝。"又白イの附を十七にて尖めば、黒十八にて本圖と同じ。

〔三四八九〕
黒優れり

白七に出て、黒八と肝要の一目を打抜く形となりては、中の白二子今や黒が強壓の下に呻吟す。白非勢明かなり。

〔三四九〇〕
白優れり

白五と突出す手、善し。圖の結果黒手となり、白が旗幟鮮明として中原を壓す。

〔三四九一〕
白善し

黒六、八と打つ手あれど、之は後に白に十九の切を打たるゝ故に前々變化の如く、黒の運石滑かならず。白二三肝要、之をイに粘げば三四九七圖と同形、黒善し。

〔三四九二〕
白善し

黒二四に下る。白二五良し。黒二六と打込み、二八と當てしは勁手なり。此結果、隅は持となるも外勢白優る。

㊀トル　㊁二三ノ處　㊂ツグ

〔三四九三〕
黒大敗

白一二六無理なり。黒二六大惡手、次圖によるべし。黒三二を三三に打ては、白三一に攻合、白勝。白三一以下、白の手段絶妙と云ふを得べし。

〔三四九四〕
白潰滅

黒二六に打込み、二八に當てる手面白し。白四三も黒イの取にて宜し。

㊀劫トル　㊁劫粘

〔三四九五〕
白打過の形

白四三と打つて隅の黒に攻合とせし手段善し。此形、隅は白持なるも、外勢に於て白に利あらず。

㊀劫トル　㊁全　㊂全　㊃全

〔三四九六〕
黒勝

白二九、若しイにカケル手あり。

（三四九五圖變照）白四一と、大上段に發して威壓するも、黒に四八の佳手あり。

㊀劫トル

〔三四九七〕
外勢黒可なり

白二三悪し、斯く打てば、下邊は局持よし。黒悪しからず（三四九一圖と比較研究せよ）此形白イなれば黒ロ。黒イにて、兩活或は持。

〔三四九八〕
黒悔手にかかる

黒十二に、白を慶殺せんとして忽ち白よりの盧に乘ぜらる。十三、十五の白双、十三に長じ黒を全滅せしめたり。

〔三四九九〕
征の如何による

黒十二と附越せば、割合に繁化簡單なり。此形、外勢白優れども、黒は隅に地ある故、此分れ互角なり。尤も白イと征は黒に取られる場合は悪し。

〔三五〇〇〕
黒劫勝

白三、手順を誤る。黒四以下、能く戰ひ、黒二の途中に突き、盤面至る所に劫ありて二の前に成果を擧げ、黒の手腕赤、凡ならず。

〔三五〇一〕
形勢相匹敵す

白五に粘げば、黒は六に切るの一手なり。黒十八の一手、イに行び出しの意を含んで、強くロに切つて戰ふ手もあり。

〔三五〇二〕
分れ黒に有利

黒十の時白十一に拓けば、黒は十二、十四と絡いで、㊀の白の遺味を根絶すべし。

〔三五〇三〕
攻合黒敗

黒八にて戰吾れに利ありと欣びしも、權花一朝の夢の如し。突如、白より九と痛烈なる下り、黒や驚心駭目、倉皇として應ずるも、應酬甚だ力めしも黒の社稷遂に滅ぶ。

〔三五〇四〕
形勢互角

白一と當て附ける手あり。斯く打つも白は惡しからず。黒四、六、形にして好し。

〔三五〇五〕
白稍優れり

白七、而して九と粘て成す。重厚の形、高所に着眼して勝たんとするの戰法。

〔三五〇六〕
黒粗暴敗績す

凡そ戰に臨むや、兵塵全く鎭まるまでは須臾も緩怠あるべからず。見よ！黒四と血氣に逸りて、遂に二三に至る。共に三子を取るも、黒に優劣同日の論に非ず。

〔三五〇七〕
要點約言（第四九型ニの三）（第二一變化）

黒六以下十となりし時、白にイロハの應けあり。白惡しく、ロは變化あれど、ハは無事の分れとなり、互角の形勢。

〔三五〇八〕
要點約言（第四九型ニの三）（第二一變化）（下）

は、以上變化の如くにして白に正しく應けられゝば、黒志を得ざるも、又奇效を奏する事あり

〔三五〇九〕
基本圖（第四九型ニの三）（第三變化）

白五の時、黒は尖に附ける㊀に此手あり。中㊀は機宜の手段。㊁は好まず。

〔三五一〇〕
變化甚だ妙

白二は、急を要せず。黒三、打過ぎなり。白四、白六を七なれば、黒六、白七にて、此形三四圖よりも黒善し。此結果黒甚だ優勢なり。

〔三五一一〕
黒大に優れり

白十八に這へば、黒十九、二一の先手を打つて隅の安定を圖り、尋いで黒二三に行びる黒優れり。

〔三五一二〕
黒劫勝

白六、次に八と取る手も、惡し。白十七に這へば、黒は十九に這へる、白十五、黒十四にて善し。

〔三五一三〕
互角の分れ
白四、六、善し。此分れ、黒は三五の一圖に比較し、隅の地確なれば先づ互角の替りなり。白十二を、十三、或は十四に打つ手は黒に十二と切られて、此結果は白不可なり。（三四圖以下參照）

〔三五一四〕
白稍優れり
黒一の尖附けは、白に二と突當られて、面白からず。黒三の時、白四以下、十六に至る。白の手練、水もたまらぬ鮮かさなり。

〔三五一五〕
互角の分れ
白四と約へれば、黒は五と引いて良し。此形は、前圖よりも白の外勢稍薄き故に、先づ互角の分れなり。

〔三五一六〕
要點約言（第四九型ニの三）（第四變化）
黒一の尖附けに白二と突當られて、面白からず。黒三の時、白四以下、十六に至る。白の手練、水もたまらぬ鮮かさなり。

〔三五一七〕
基本圖（第四九型ニの三）（第四變化）
黒四の時、白はイ或はロに打つ手あり。然し此手は黒を堅くする故に、普通白好まず。

〔三五一八〕
分れ得失無し
白一と來る。乃ち黒は二に出て四に引く。黒の手法、專ら堅實を期す、可なり。

〔三五一九〕
白重厚の形
黒四手順を誤る、黒は此突出を見て、前圖の如く打つ手確なり。

〔三五二〇〕
黒可なり
白三に粘げば、黒は先づ四に出て白たる後、六に守る、白已むなく七に粘ぎし時、黒八は、いはゆる形なり。

〔三五二一〕
白優勢
白一の附けに黒二と綿ねしは常の形なれど、此場合は白に三と切られては、黒好まず。結果は黒稍重複の憾無きを得ず。

〔三五二二〕
黒の大石慘死
黒四は惡手、自ら求めて窮地に陷る。黒十四、また大に無理なり。此手は白十五に出で白十四、黒イと打つ位のもの、尤も、其結果となるも黒面白からず。

〔三五二三〕
黒善し
白一、三の切逸ひも、好結果を得ず。黒四、六、確なり。此形、白イに切れば劫なれど、黒提りにて、白に劫抛つべかず。

〔三五二四〕
黒甚だ優れり
白九、惡し。黒に先づ十の約へをキカセられ、次に十二、白惡し。綿込まれよ。白に打ては、五でイに打て、白ハ、黒ニ。

〔三五二五〕
互角の分れ
白七と曲る手あり、可なり。

〔三五二六〕
要點約言（第四九型ニの三）（第四變化）
白五でイは、黒ハ、白ニ、黒ホとなりて、通常の分れ、又白イをロは、黒ヘ、白ホ、黒ト、白チ、黒リとなりて、黒可なり。

〔三五二七〕
基本圖（第四九型ホ）
白三に附ける手あり。之は場合の手段、多くは、イの常形に及ばず。

〔三五二八〕
白凝形、惡し
此形、黒は先づ一と綿ねて、然る後三とはづし、次に㊀の黒を棄てゝ、打つ、黒の手段輕快なり。

〔三五二九〕
形勢互角
黒三に掛ぐ手あり、黒は場合によりて、斯く打つも善し。

〔三五三〇〕
形勢互角
白いまや四に來る。黒は五、七と込む手あり。斯く打てば隅は確なり。

〔三五三一〕
黒可なり
白三に行けば、黒二、五と打つべし。此形、黒善し。黒は白より八と夾攻を受けしも、熟すれば、白は十まで、の形薄弱なり。（互先一間夾の部參照）

〔三五三二〕
要點約言（第四九型ホ）
以上變化の如くに白三と附けにて、白面白からず。

〔三五三三〕
要點約言（第四九型全部）
黒二の一間夾には、白ニ、イ、ロ、ハ、ニ、ホの手あり。此中ニは常形。イは確にして結果も白宜しく、ロは時に可否あり。ハとホは何れも好まず。

〔三五三四〕
基本圖（第五十型）
黒一と二間に夾む手あり。此手は、イの一間夾より緩なれど、ロの三間夾よりは急なりて、イと同樣に場合の手段なり。

〔三五三五〕
基本圖（第五十型イ）
定法
黒二の時白三定法なり。又白三では、一間夾の場合と同じくイ、ロ、ハ、ニの手段もあり。

〔三五三六〕
定石
イの一間夾には、黒は六を九と綿ねる手あれど、此場合稍可ならず。白三と打込みし變化は一間夾三三八圖及び三間夾四五三二圖にあり。

〔三五三七〕
常形

白四をイなれば、黒ロに行ぶべく、斯かる交換は常に黒利なり。又黒九の次にあり。若し白手を抜けば黒ハにツケル筋あり。（三間夾四五四四圖以下）

〔三五三八〕
黒の勢善し

白四、六低し。白六をイに飛べば、黒六、白ロ、黒ハにて、白窮す。九より中原一帯に鵬翼を擴げ羽撃もの凄し。白の形、惜しむに近し。

〔三五三九〕
白利勢

黒七を、一間夾のイに附ければ、白は徐に十三に綺出して黒の機を狙ふ。斯くの如くば、黒は爆弾を懐に持つが如く、不安甚し。

〔三五四〇〕
黒優れり

戰機の移らふは、電撃の如く速なり。白は二と綽ねて、俄然地の利を失ふ。黒三、五は佳手、九と白を延いて低地に壓す。黒の厚富や莫大なり。

〔三五四一〕
場合による

黒一に約へる手あり、普通黒損なれども、黒⓫に次の黒七好形を成す。白四より五其他の點に打つは三二二圖以下參照）

〔三五四二〕
白挑戰に出づ

嗤平それ、誰か一瞬の先を豫見し得る者ぞ！白六を一たび綽上ぐるに及び黒七は騎虎の勢、斯くて干戈の聲忽ち紙上に生ず。又黒五を八に動すに打てば白イ。

〔三五四三〕
要點約言
（第五十型イ）

白三は、イ、ニ、ロの一、二、三間夾共に此手あり。一を捨て隅と替る手段、場合の良計と云ふを得べし。

〔三五四四〕
基本圖
（第五十型ロ）

白三に夾返す手あり。其意味は一間夾、又二間夾、三間夾の變化參照）

〔三五四五〕
定石

黒のイ、二、ロの夾みに各此形あり。其中、イは、黒よりも直ちにハ、白ニ、黒ホあり。ロは、此筋無し。ロは、此筋を狙つてイに詰める手黒好調。

〔三五四六〕
黒確なり

白四より變化。黒七、九は確なり。然し、七の手は強く八に約へて戰ふも手もあり、結果黒悪しからず（三四二四圖參照）

〔三五四七〕
場合の手段

黒は前々圖の如く、白にイと替はらるる手を避けて、斯る三に約へる手あり。（猶黒一にツケシ變化は三間夾四五九五圖以下參照）

〔三五四八〕
黒の形善し

黒一に附ける手あり、面白し。得失は一間夾の場合と異れり。黒五要點、白六と黒七との交換は當然なり。

〔三五四九〕
場合による

黒三は、場合の手段。斯く約へれば、黒は⓫の白を攻めも得るも、黒も亦根據を失ふ。黒多く好まず。

〔三五五〇〕
黒優勢

白八、惡し。黒は迂雷耳を厳ふ。暇もあらず九に切るも、巧なり。白十を十一なれば、黒十、白イ、黒ロ。

〔三五五一〕
黒優勢

白二、俗筋。黒⓫に二間夾のある場合、黒に三とられては、白悪し。

〔三五五二〕
黒優れり

若し白十六をイなれば、黒十九にて攻合勝なり。

〔三五五三〕
白敗

白六、八打過ぎなり。黒九、十一の手順、善し。二一に至つては、白は收の途無く、慘然として慨し嘆然として敷す。

〔三五五四〕
白非勢なり

白六同じく打過なり。白八の時、黒九の約へ、最も良し。

〔三五五五〕
黒優れり

白二に綽込む筋あれども、斯く二間夾の場合に、黒五、白打過なり。（三間夾四七九二圖と比較參照）二に至つて、上下の白は共に形薄し。

〔三五五六〕
互角の分れ

圖の如く、白に依り取られる場合は、黒は三を前圖の如く四に約へるべし。

〔三五五七〕
黒打易き形也

白が六で九と征に取り得ぬ場合は、黒三、五の手善し。黒七、九、一以下の手段は、平板單調なるも、如何も、また一絲亂ざる用兵の妙を認むべし。

〔三五五八〕
要點約言
（第五十型ロ）

白三の兩懸りには矢張り黒は一間夾と同様イとロとあれども、二間夾には、黒はイよりはロに附ける形なり。

〔三五五九〕
基本圖
（第五十型ハ）

白三に附ける手あれども、此筋も白好まず。

〔三五六〇〕
參考圖

斯く白三、五に附行なりては、其變化又は得失、共に一間夾の場合と略ゝ同じ。（三間夾と異れり）

〔三五六一〕
基本圖（第五十型ニ）
白三と一間に飛ぶ手あり。常形なれども之は黒イに一間夾にある時ほどキビシクは黒二に攻かず。

〔三五六二〕
定石
白三なれば、黒は四に應ける一手なり。此意味は二の距離遠き故に白よりも此石を強く攻められる手無ければなり。（猶此變化は一圖應け二五八二圖以下參照）

〔三五六三〕
基本圖（第五十型ホ）
白三に附ける手あり、二間夾に限りて、此筋面白し。（互先二間夾の部參照）

〔三五六四〕
定石
白三なれば、黒四、六、常形なり。黒十約へ、次に四に守る手、機變妙計なり。

〔三五六五〕
黒の形好し
白十なれば、黒十一、十三と打つて善し。白十四をイに逃出せば、又白二十一、黒二十二、日ロ、黒ハにて、之も黒の形好し。

〔三五六六〕
黒の勢確なり
黒十九、二一の綽行び肝要。二一に隅を侵しに來るも黒は「攻むる」即ち守るなり」と、二三、二五の得を打つて而る後二七に備ふ。攻守、能く法に適へり。

〔三五六七〕
黒に眼形なし
黒七の手は、二とある場合は、却て白に以下十の好調を與ふ。黒十一を十五なれば白イ。又黒十一をロなれば白十二にて、何れも白好形を成す。

〔三五六八〕
黒陥穽に落つ
黒は二一までの小利に惑溺して十五、十七の筋を狙ひ、遂に白を拒せしむ。二の險要を拒せしむ。路内に盡き、活に到らず、黒惡し。

〔三五六九〕
白少しく善し
黒九、十一、而して白に十四と隅を侵させしは通常筋なれど、此場合は次に十五の切あり故黒は前圖に比して黒少しく善し。但し大勢は同じく白可なり。

〔三五七〇〕
白石危し
白十、惡し。白十は黒八をイに補へば、八をイに補へば、黒は十八に補へば、白ロに逃すの時黒ハ、白ニに逃出せば、黒十九の次に白ホ、黒ヘ、白ト、黒チに切つて黒善し。

〔三五七一〕
黒堅實大に可
白八と附ける筋は（三四七圖と同樣）好まず。白十七に粘げば、黒は先づイ、白ロの交換を遂げたる後、十四に叩く。白窮命を免れず。

〔三五七二〕
黒善し
白ロと二と無き時は、此形は三五四圖と同樣にして通常の定石なれど、白ロと二、黒一と三の交換あるだけに、白重複の形となりて惡し。

〔三五七三〕
黒惡しからず
白四に夾攻し來れば、黒は三までの、友軍と相呼應して、五七と、白十を隔てて伐つべし。白十一に行びれば、黒は十一に行びれば、黒はイの要衝を扼し、虎視眈々として戰機を待つ。

〔三五七四〕
黒確なり
白四と高く二間に夾撃し來れば、黒五、次に七に尖附けて、隅を守る手確なり。（四九六四圖參照）。

〔三五七五〕
定石
黒四の綽ねは、三の一目を征にカケ得られる場合面白き手なり。（次圖參照）黒六、八常用の手筋。白一をロなれば、黒ハの當付けの利く形なり。

〔三五七六〕
黒優れり
白六なれば、黒は七と征に取る好べし。黒九は、普通好ま ぬ手なれど、此場合良し。即ち白よりも九に封鎖せらるゝ白に脅威を與ふ。

〔三五七七〕
黒善し
白八に打つも、黒は九に尖む手、白を隔て攻める意味ありて面白し。

〔三五七八〕
黒利勢
白六に取れば、黒七と打つて黒の形善し。（猶白ロにツケシは互先二間夾の中にあり）

〔三五七九〕
要點約言（第五十型全部）
白三の附は、先づ一の白を堅くして、次に黒イ方面に來撃せんとす。然し又同時に二の黒をも堅くする場合の手なり。

〔三五八〇〕
要點約言（第五十型全部）
黒二を㊀いに比すれば、急戰を避け、戰機を緩ふする丈、黒は少し優る。而して之に白イ、ロ、ハ、ニ、ホの手あり。可否は以上の如く、又前一間夾の場合とも略同じ。

〔三五八一〕
參考圖
黒二の三間夾は、置碁定石の中の中樞なり而して、黒二の三間夾には、大斜走、一間兩懸の變化あり。故に之等の懸りを揭げる事とせり。

〔三五八二〕
定石
白三、常形。黒十二、重厚最善し。

〔三五八三〕
定石
黒八までは、置碁實戰の中最も多く見る形なり。（四五九六圖以下參照）

〔三五八四〕
基本圖（小斜走懸りに對する黒手拔の變化）（第五一型）
白一の手に對して、黒は手を拔く場合もあり。此時に白イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト或は三の手段あり。此中イ以下トまでは兩懸りの中、此處には只白三と附けし變化のみを揭く。

〔三五八五〕
定石
二手抜
白三、次に五と附切る時、以下は二型以前の大斜走にて異り、六、八、十と打つ手最も良し。

〔三五八六〕
黒の勢善し
白八、好まず。の如く二、四の目を打抜かれ、黒大斜走にて白惡し。圖の場合は、此形となるも㋑の一子凝形に陷る故白惡しからず。

〔三五八七〕
黒確なり
白八も惡し。黒九の先手約へをなし、次に十一に打つ。宜し。白十二は黒の㋑を豫期せしに、黒は七を強肩を利して十三と一歩中央に先んず。妙且つ形確かなり。

〔三五八八〕
互角の形勢
黒七と約へる手好まず。黒九を十一に粘げば、白㋑、黒ハ、白ロ、黒ニとなり、三五八五圖と略同じなれど、黒七と白㋑の交換ある丈に黒惡し。

〔三五八九〕
征如何による
黒七の約へは、征に關係あり、征惡しき場合は黒九の次に白㋑にて黒大敗。又黒征宜しくも、次の如く結果を得ず。

〔三五九〇〕
場合による
白十二善し。此形、たれど、先手で白に外を厚くせらるる故に、黒好まず。
十ノ處 十ノ處

〔三五九一〕
黒好まず
黒三の行び、切逢ひの常形なれど、黒十二に應け無き故に白に四と打たれる。手あり。黒好まず。

〔三五九二〕
黒罠に落つ
黒十五は、却て白を堅くして惡し。れ油斷は大敵なり。黒二に輕卒二の着手を振ふ。一扶、黒遂に起たず。

〔三五九三〕
白無理形
白十と棹ねる筋あり。白十二、黒よりは十七以下の強地を被り、白低に呻吟す。白二六、時機尚早。黒二八、脫兎の勢を以て三に長驅す。

〔三五九四〕
場合による
白十二、十四と備へしは、良し。黒十五をㄱに打つも、白にロの筋あり、黒却て破綻を招く。

〔三五九五〕
白可なり
黒十一には、白十二良し。黒十七を怠れば、白㋑にて黒死。(三圖前と比較あれど、黒ロ、白ニの筋を防いで、白は十八に打て中の黒に迫る。

〔三五九六〕
黒嵌手に陷る
黒十一、手筋に大似たれど、此場合は惡手なり。生兵法は大怪我のもとと云ふか。

〔三五九七〕
白大利の形
白より十二を喫つて、黒始めて十七の附けに氣附く。乃ち之を避けんとして黒十三と拠せしも、時既に遅く、孰れよ〳〵孰れて黒の挽歌を聞く。

〔三五九八〕
黒善し
白は十に下し、何等の代價をも得ず所なく敵をも除かし後顧の憂を除かし。正に、敵に食糧を送つて求めて敗を招くの愚に異らず。

〔三五九九〕
黒優勢
白六、惡し。小人は喚はすを以てすべや、黒は大局を見る明を以て七、九以下十三に至る。白は二子を取つて大勢を失ふ。

〔三六〇〇〕
白ツブレ
嗟乎學ばざるの喚、古今東西その揆を一にす。白一に暗し、黒五、棋理に昧く攻法、白を至つて七の正痛恨措く能はざらむ、白十を十一なれば、黒イ。

〔三六〇一〕
黒厚壮
白黒共に各二子を取りしも。黒の一、七は、白の十二、十八と換りしもの白地大ならず。反之八、十の白二子を取りし黒の外勢厚壮其差大なり。

〔三六〇二〕
白面白し
黒三、變則の手段、時に奇勝を博するも、普通好まず。白四は、二の一子を取らせ之を缺し眼にして攻めんとする策戦にして、面白き手筋なり。

〔三六〇三〕
形勢互角
白六に附ける筋あり。此場合黒七、九に替て黒の外勢稍可なり。

〔三六〇四〕
黒形勢を失ふ
黒七は面白からず。後に十三と後手を引くの已むなきに至り、白よ十六、十八と、地の利を占められ、遂に攻勢を取られ、黒形勢を失へり。

〔三六〇五〕
形勢相匹敵す
白四なれば、黒五の當を先にする手なり。此結果は三五、八八圖と同形なり。

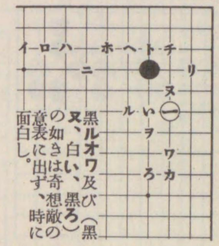
〔三六〇六〕
黒惡しからず
黒九に粘さ白に十と打抜かる形は、普通は黒惡しき場合も、此場合良し。黒十一强し、然し若し黒一劫負と見れば十一は單に十三に取るの外無し。
㊂粘

〔三六〇七〕
黒の手段奏效
白四惡し。爲に、黒五、七に至つて、黒三の一子は俄然干將莫邪の劍にも比すべき凄味を露はす。

〔三六〇八〕
要點約言
(第五一型)
二手抜ひ
白三、五の切逢に、黒イ、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホの最良の其他の手段は、若し黒の粘りしては至つて多く黒好まず。

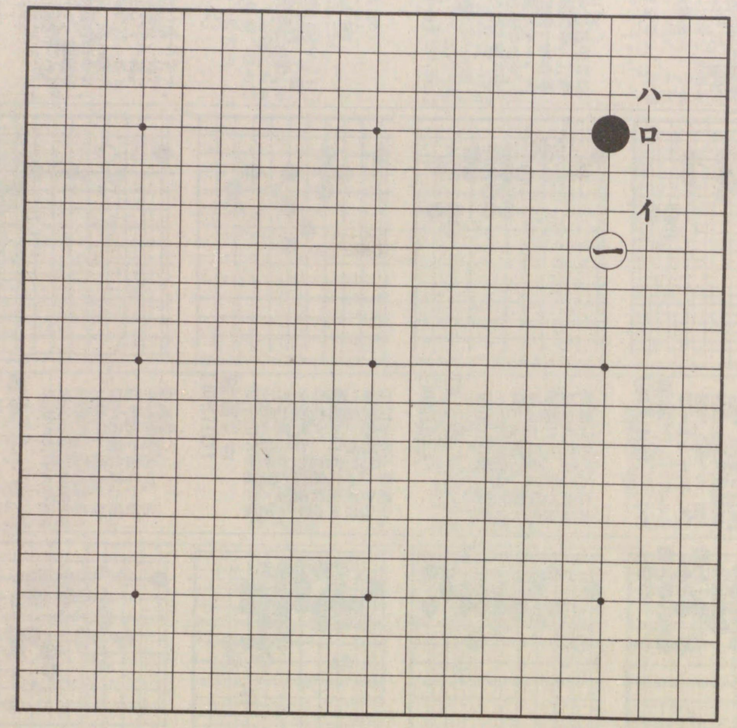
〔三六〇九〕 **變則應け總評**（小斜走懸りに對する黒の應け）

白一の懸りに對し、黒にイ以下カまでの應けあり。之等の應けは、皆場合により、奇手、強手、地取り手、堅手にして、正着に非ず。次に



黒ルオワ及び（黒ろ）ヌ、白い、黒ろの如きは奇想敵の意表に出ず、時に面白し。

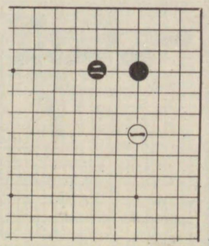
〔三六一〇〕 **基本原圖 白二間高懸り**



白一と、二間に高く懸る手あり。イの小斜走懸りに次いで最も善し。其理由一、中を打つに便あり。二、白次にロの附、又ハに打込まんとする時、此位置はイに次いで善し。

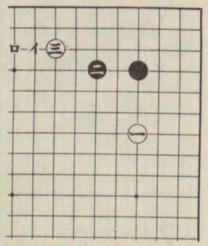
〔三六一一〕 **基本圖**（第五二型）

定法 白一の懸りには、黒二の一間飛、定法なり。



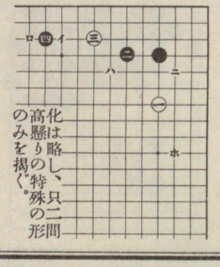
〔三六一二〕 **基本圖**（第五二型イ）

白三のカ、リの外に、イとロあり。變化は二七六圖及び二七八六圖と略同様、却て白一と同様、却て白一とある丈に黒打易し。



〔三六一三〕 **基本圖**（第五二型イの一）

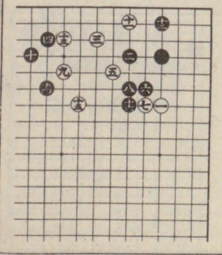
白三の時、黒に四、イ、ロ、ハ、ニ、ホの應けあり。之も前の小斜走懸り一間懸け（二三九圖以下）の形と略同じ。故に同變



化は略し、只一間高懸りの特殊の形のみを掲ぐ。

〔三六一四〕 **定石**

白五、正着。猶白五をイ、ロ、ハ、ニに打つ變化は二四七四圖以下と同じ。



〔三六一五〕
黒確なり
黒二、四と打てば堅固なり。前圖の如きは、形散漫にして變化多く、困難なれば、從つて其要點のみを擧げて、詳細は、之を省略する事とせり。

〔三六一六〕
定　石
白五にかければ、黒は六が唯一の應けなり。

〔三六一七〕
定　石
白五の時、黒に六と九の應けあり。六は隅を守り、九は上を厚くする着意なり。黒八は、二間高懸りの場合には善し。

〔三六一八〕
黒確なり
白五なれば、黒六と行びて其形整へり。

〔三六一九〕
黒善し
白五を先にすげれば、黒六に押し、白七を手善し、黒七を八と叩き、白九、此黒又八と打つべし。黒形善し。

〔三六二〇〕
黒優れり
白十三を十四に拔けば、黒十三、十四以下、黒矢石を冒し彈雨を恐れず、肉彈又肉彈以て二六に至り、遂に正に氷霜の如し。中の白三子今や浮泛す。

〔三六二一〕
定　石
黒は上を厚く打たんとするに、白は六に粘く手善し及び十四の二段の綿形となれば、黒十、斯かる手筋なり。斯かる形とならば、黒は前圖に比して打易し。

〔三六二二〕
黒善し
白十一、十三、打過ぎ、斯くて、平和の一隅に戰雲突如として捲き起り、砲煙漠々、砲聲轟々、屍山血河の修羅場を展開して、黒遂に三十、三二に堅守す。黒善し。

〔三六二三〕
黒堅實打易し
白十九より變化す。白二一を二四に應けれ、黒イに打つて、白大敗。

〔三六二四〕
白十七に敗す
白十七、惡し。黒二四以下の劫拋巧なり。斯くて此處に黒の劫材續出し、圖の結果となりて、白劫敗を喫す。
(注)劫トル(元)全(孟)全
(注)全　(注)全

〔三六二五〕
黒優れり
白五と押出し、黒六と切る。八と押し、黒十三を十六なれば、白イ、黒ロにて二目死。黒ハ、十四の時、白ニに附出し、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ。

〔三六二六〕
黒優れり
白七に襲ひ來りも、十三の切り怖るゝに足らずと看破して、黒が八、十筋に壓迫せしつゝ且つ大手勢を洞察する明あり。(變化二五圖以下參照)。

〔三六二七〕
黒確なり
夫れ兵法に「虞(はかざる)を以て虞らざるを待つ者は勝つ」とあり、己は用心して敵の油斷を待つ者は勝つの意なり。黒八は、好着手と云ふべし。此意に合す、二は、黒打易し。

〔三六二八〕
要點約言
(第五二型イの一)
白三、ロ、ハ、黒四、或はイ、ロと打つ變化は、二三以下同じ。九五圖以下と同じく、只白一隅なれど、遠き丈に、黒打易し。

〔三六二九〕
〔基本圖〕
(第五二型イの二)
白三の時、黒にイ、ロ、ハの應けあり。イは正着、ロとハはツソ手なり。

〔三六三〇〕
定　石
黒四の尖確なり。黒六、八と打ち以下の變化は二五八五圖以下と同じ。

〔三六三一〕
黒手強く善し
黒一、三まで陣容堅し。白の痴漢の長驅に向つて四何ぞ屆せん。男子の意氣！五、七の強手、白の膽を奪ふ。(變化三六九一圖以下參照)

〔三六三二〕
黒善し
白二、黒三、而して白四に來る。黒五の掛粘き、一擧兩利き、イロを一守る爲に、一隅既に安し、五の好着を讃ふ。

〔三六三三〕
黒優れり
嗟乎、大膽か無謀か、黒一の時、白二と躍り入る時、打過ぎたるを免れず。

〔三六三四〕
白潰滅す
滿目蕭條として悲風千里よりも來り、本圖の黒や悔腸を斷つ。白は十五に至つて、四と化し、白八を骨子として、又白八を約へて、前の圖と略同じ。

〔三六三五〕
黒堅實但緩し
黒一は非手にして、惡手なれども、及ばず。堅實なるに、白イの緩手なり。次に白イに切れば、黒ロ、白ハ、黒ニと押しつけて、白〇を包圍する形に出でゝ善し。

〔三六三六〕
黒善し
白六をイに粘げば、黒ロの手良し。即ち、黒ロは此場合に隅を確保する上に、ハの躍進を含む。黒十一、手筋なり。(變化一九四七圖以下參照)

〔三六三七〕
黒善し
黒一は惡手に非ざれども、イの緩手なり。白イに及ばず。黒ロ、白ハ、黒ニと押しつけて、白〇を包圍する形に出でゝ善し。

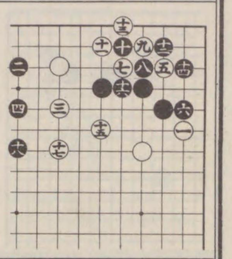
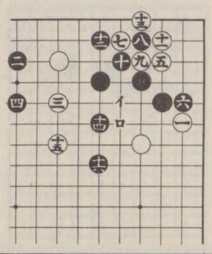
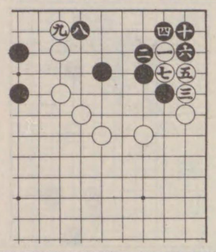
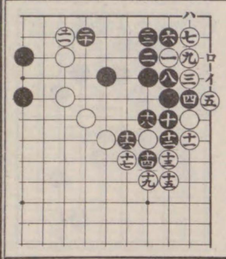
〔三六三八〕
可否征による
黒一がイにある時と異り、本圖の白七は打過ぎなり。白十八の後、黒ニは利を失ふ用兵巧なり。(次の此變圖)

〔三六三九〕
黒少しく善し
若し征悪しき場合は、白は圖の如く打て外勢を壯にすべし。

〔三六四〇〕
參考圖
白四、六と附切る變化は一四七一圖。又白初めに二を三、黒二、白イ、黒ロ、白ハに切りし變化は三六九一圖以下參照。

〔三六四一〕
要點約言（第五二型イの二）
黒四、或はイ、ロに打つ手の意味は、先づ二の頭を確にし、且つ次に白一、或は三、何れかを攻撃する鋭き意味を含む。

〔三六四二〕
基本圖（第五二型イの三）
白イの小斜走懸りには、黒四の尖附らるれど、白ロと行びられて、形面白かに二間高懸りには白の四の尖、堅實なり。

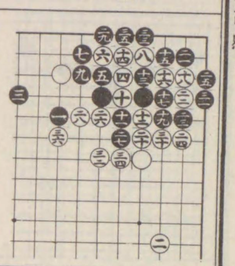
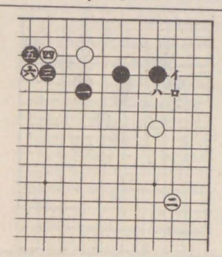
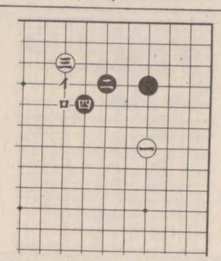
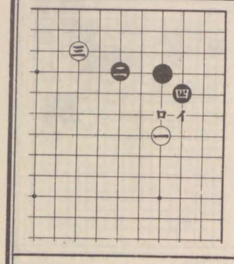





〔三六四三〕
定石
白七に拓けば、黒八の斜走最も善し。

〔三六四四〕
黒確なり
白一と尖附けしは、白□の八にあれば、隅の應け方に黒は、ユトリある故に「二」と打つて善しに、又白十一をイに打てば、黒十一。

〔三六四五〕
白敗
白十一、十三無謀の着手、黒に十四と打たれて、爲す處を知らず。又白十三を四にて打て白死。

〔三六四六〕
黒善し
白七以下十一と盤りしも、黒は十二と右邊に馬首を廻らし鐵壁に新天地に雄視す。此戰、白は黒の隅を破り大勢を失ふ。

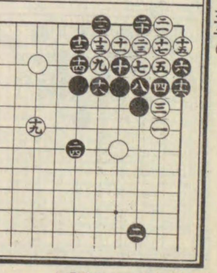
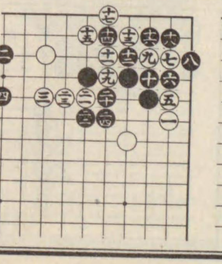
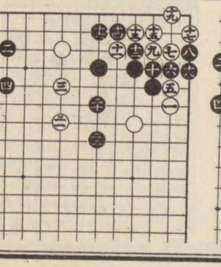
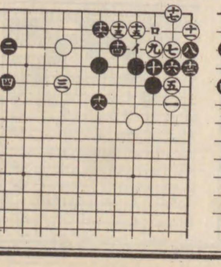





〔三六四七〕
黒厚し
白一は、二間高懸りの常用の手筋なり。黒二を三に應けれど、確なれど稍ヌルシ。黒四は七に應ける方、白を隅に活かす方、斯く打つて白を却て厚壯打易し。

〔三六四八〕
黒堅實打易し
黒二、四と打つも時善し。白十一の時、黒は交通整理のモツトーならねど「安全第一」を目標として、十二、十四と打つ可なり。

〔三六四九〕
黒優れり
「切つた方を取るとは、棋道の原則なり。白之に背いて、黒十四と粘さず十五と小活を貪つて、九の時外勢を黒の專擅に委す。白甚だ惡し。

〔三六五〇〕
黒善し
白十三を十七に活きれば、黒イ、白ロ、黒ハにて、圖の形と得失略同じ。

〔三六五一〕
黒確なり
白五と亂入す。黒乃ち六に約へ、白七の時、八、十と打つて八は他に打つも宜し。

〔三六五二〕
黒優れり
白七に斜走するや、黒忽ち其機を看取して八、十二と整ふ。嗟乎、百戰敗せざる雋敏とは、正に此の如きを言ふか？此形、次に白イなれば黒ロにて白に手無し。

〔三六五三〕
黒　活
今や白軍は旗鼓堂々一隅の黒を威壓せり、語に言ふ、機に臨み變に應ず、と。白乃ち二と約へて活に就く、明敏賞すべし。

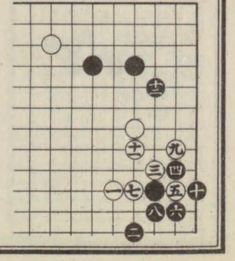
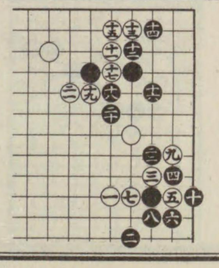
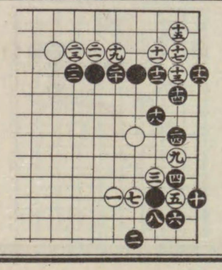
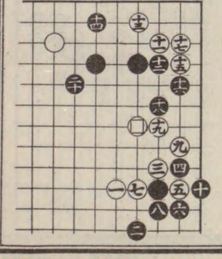
〔三六五四〕
黒　活
白三に來る。黒乃ち四以下十八まで進撃して、白は創痍を被らせて活く。此形、次に黒ハより白イ、黒ロと劫とする手も殘れり。

〔三六五五〕
黒　活
白三と綽ぬ。黒十六まで善戰すべし。斯くて黒悠々と活きずんば、白ロ、黒ハとイ、白ロと切る手あり。

〔三六五六〕
要點約言（第五三型イの三）
以上變化の如くにして、黒は四に尖むる手確なり。然し一旦斯く實を置けば、後は假令白に外圍を堅くせらるゝも隅の黒は安全なり。

〔三六五七〕
基本圖（第五二型イの四）
黒四は右邊に形勢を占め、且つ一を挾攻する手段宜し。

〔三六五八〕
常形黒堅し
黒四、六の應け、堅くして宜し。この黒の應酬を見るは僻目なり。白陣の薄きを寇ふ黒の如き鬪志の烈火の認めを得ざる者は、自らの未熟を悟れ！

〔三六五九〕
黒善し
白三、五と双を振へば、黒は四、六に却て黒の陣容堅し。

〔三六六〇〕
黒善し
白は前圖の失敗に懲り、いま輕騎を飛ばして十一に黒に迫る。黒は既に六、八、十と右下邊を固定したる後なれば、次に十二以下、堡壘を固くせり。

〔三六六一〕
黒優れり
白十一、打過なり。黒四は、緩さやうなれど、然らず、いまこゝに守備を固うするは、後に阿修羅王の勇を奮つて白を攻撃せんとするなり。

〔三六六二〕
黒優れり
白十三を先ばず、黒十四とすれて宜し。何れも高懸りの場合に、二、十一と打込む手は、結局白の掛を來なして、白の浮石となる、白惡し。

〔三六六三〕
黒面白し

太田雄蔵七段
二子　桑原秀策後進
勝　七段

兩氏の實戰圖。
黒八と附け、十とカケシ手、面白し。黒十八堅實なり。

〔三六六四〕
要點約言
（第五二型イの四）

白五なれば、黒六にて宜し。猶白五は、外にイ、ロ、ハ等の手段あれど、之等は前掲及び以下の諸圖を參照。

〔三六六五〕
基本圖
（第五二型ロ）

白三の附は、一の白のシノギか、又は一の方面を地にする時、或は黒を凝形にせんと欲する場合時に、此手段あり。

〔三六六六〕
基本圖
（第五二型ロの一）

白三の時、黒に四とイとの應けあり。四は堅く、イは強し、強堅、其時の形勢に適れば卽ち、佳手と云ふを得べし。

〔三六六七〕
定石

黒六、八定法。斯く打てば、隅は堅實無比、白より些かの侵略手段もなし。

〔三六六八〕
場合の手段

白三の時、黒先手を取りたくば、四と當てるべし。白七の所に取り來れば、黒は八と當てつばなして更に手抜きす。黒の策戰輕快なり。

〔三六六九〕
定石

黒先手を取らんとする場合は、六に打て此一目を犧牲とする形宜し。然しこの形は、白の陣營も堅固となる故に場合による。

〔三六七〇〕
黒好まず

黒二は堅過ぎる手なり。次に白にはイ、ロ、ハの手あり。白がその孰れを擇ぶべきかは、四圍の狀勢によつて決すべし。

〔三六七一〕
黒面白からず

黒二惡し。卽ち四に至つて願れば、黒二を四の時、白が劫基にも三と切り込みしに黒が意氣地なくも二に打ちしと同じ結果なり。

〔三六七二〕
定石

白五に引けば、黒六、次に八に粘ぐべし。常形、し其形固定する故に、黒打易し。

〔三六七三〕
場合による

黒四に綽れば、白五、六と打つべし。此形白はイの切を見てロの約へを利かすか、又はハの覗きを見てニよりの利かすか、などの手あり。

〔三六七四〕
黒緩し

黒二俗筋少損なり。無論イに下る形なり。黒□の意味あり。白一子が稍重く、二に粘ぎては、黒□の複換へれば、白は□を少くとも□又はロの邊に展開し居らざるべからず。

〔三六七五〕
黒損なり

黒二は、初心の碁に散見すれど、惡し。白三、五を許して黒は遂に五の要點を白に奪はれたり。

〔三六七六〕
黒確なり

白一の二段綿、時に面白し。黒二、白三となりし時に、黒に四、イ及び七の手あり、其中四は最堅固なり。

〔三六七七〕
黒稍利勢

黒四、次に白五に切れば、黒六、手強し。白一の時、黒は手を拔いて宜し。（次圖）此形黒はイ、又はロに切る手あり。

〔三六七八〕
黒　勝

黒六は肝要の一着、記憶すべし。此手を七に善處せば、白六、黒八、白七となりて、白イの粘ぎを先手に利かせられる意味あり。

〔三六七九〕
白、暴に潰ゆ

白十九は惡手。白三、三、三五、三七、も、是に至つては、毒食ひ皿までの自棄なれど、黒三八に至つて、その代償の餘りに高價なるに號哭せん。

〔三六八〇〕
白大敗

黒三十五と打つ。鐘の響に應ずるが如く、刻々に移る戰局に善處せば黒十八の白イに綿出せば、次に黒ロ、白ハ、黒ニ、又白イをホとなれば、黒ニ。

〔三六八一〕
白の大石憤死

白二一を二二に曲れば、黒は二五に打つて宜し。白二九、嗟乎、東北の一隅に白の大惡手。黒一目トル

〔三六八二〕
黒善し

白十五と打つ。鐘の響に應ずるが如く、刻々に移る戰局に善處せば黒十八の白イに綿出せば、次に黒ロ、白ハ、黒ニ、又白イをホとなれば、黒ニ。

〔三六八三〕
黒可なり

白十一をイに約へれば、黒ロ、白十一、黒十二。又白十三を打たず、黒ハ十五に約へれば、後に白十三に出るも、黒ニに宜し。

〔三六八四〕
白低し

白五に打てば確なれど、地は低く、不利に甘んぜざるを得ず。黒は八と反之、大なる版圖を作す雄圖を待たずして明かなり。

〔三六八五〕
場合による

黒は上を厚くせんとする場合は、四に掛ぐ手佳し。

〔三六八六〕
黒厚し

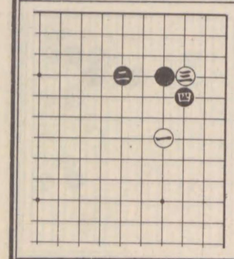
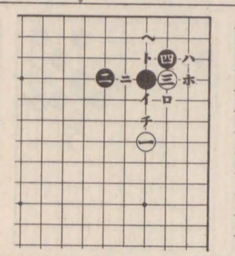
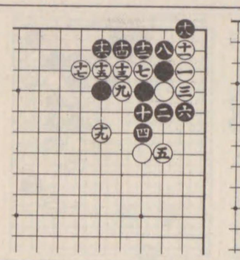
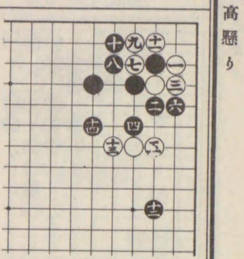
黒八に當てる手あり。尤も白に他に劫抛ある場合は前圖の如く打つべし。

〔三六八七〕
黒優れり
白五悪し。白九を十一に打抜くも、黒十に打抜かれば、十四は九の外無し。十四までの結果、悲しむべし白の三子、行手の空はわかるねど、秋風到る所野に充てり。

〔三六八八〕
白優れり
夫れ君子は富貴によつて心を移易せず、名将は勝ちて驕らず。然るに白は心を下して八の失に至り、黒は悪手を取つて形勢を矢へり。

〔三六八九〕
要點約言（第五二型ロの一）
黒四の時、白にイ、ロ、ハの手あり。イなれば、黒ニ。又白ロなれば黒ハ。次に白ハとニ段に綿れば、黒ホ、白ヘ、綿れねば、黒ロ、白ト、チの應けあり。

〔三六九〇〕
基本圖（第五三型ロのニ）
黒四と綿出す手あり。強硬手段、少の變化あれど、何れも其結果黒面白し。

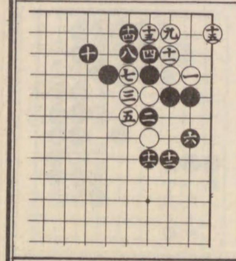
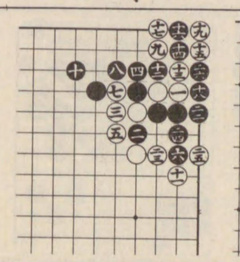
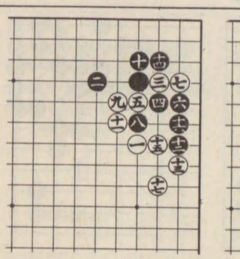
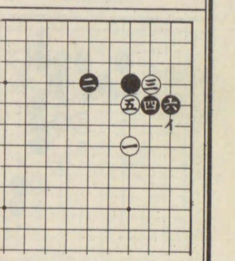





〔三六九一〕
基本圖（第五二型ロのニ）
白五の時、黒は六の下と、イ此に尖むる手とあり。イ着は、共に強硬手段、毅然として白軍を撃破せんとす。

〔三六九二〕
定　石
黒六に下りし形にては、種々なる變化あれど、その中、白は圖の如く、ソ應ずる形最も善し。

〔三六九三〕
黒善し
白九の綿を打て後、十一に約れば、十二に出切つて勝なり。此結果前圖よりも黒善し。黒ホ、十四ノ處、二一目取ル

〔三六九四〕
黒の勢善し
白十一に粘き、次に猶白十五と二手カケテ隅に活らるも、其間黒は外を堅くす、形勢無論黒にあり。

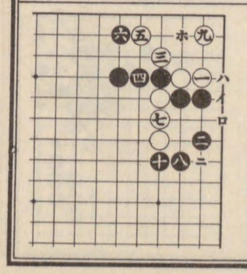
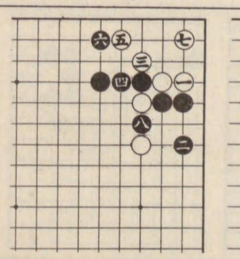
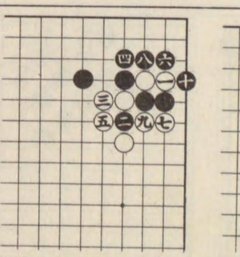
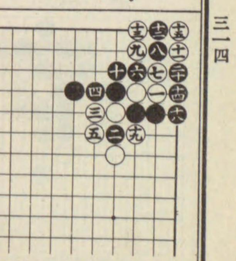





〔三六九五〕
形勢互角
黒四に粘く手あり。結果、黒は白を取りたれど、白は先手にて外を堅くなしたれば、此分れ互角なり。
十八ノ處
七取ル

〔三六九六〕
白優れり
黒六、悪し。圖の如く白に七、九の先手シメツケを利かせられては黒悪し。

〔三六九七〕
場合による
黒二に飛ぶ手あり。三六九二圖の如く白に外を圍はるゝ場合、此手段面白し。

〔三六九八〕
場合による
白七に粘く手あり。黒八を九に打てば、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ。又黒八を九に打てば、白ホなれば、又白（次圖）

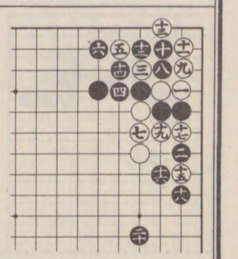
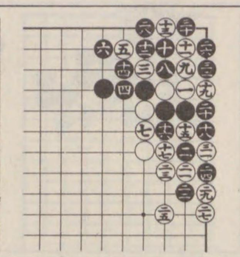
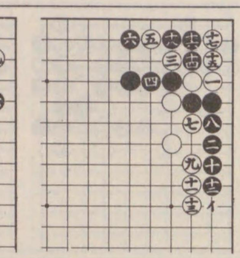
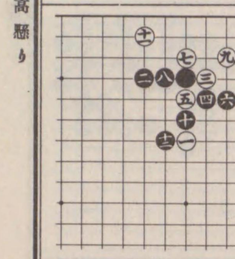





〔三六九九〕
形勢互角
鳴呼、一毫の虚も一抹の微も、利して敵を衝く黒八の烟眼欺くべし。斯くて黒十四まで、白の整へたる十五を導いて黒二十までの整陣を張る、手段輕妙。

〔三七〇〇〕
黒利勢
白二三を二四に下れば、黒一三に切つて黒勝。

〔三七〇一〕
黒攻合勝
白七、九俗筋、好まず。此形、次に白イに約へるも、黒は手を抜いて尚ほ攻合勝なり。

〔三七〇二〕
定　石
白七、九と打てば、黒は十に綿込むべし。此形に隅を破られるも、外勢厚し。黒十二手厚き打方なり。

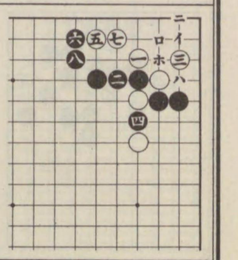
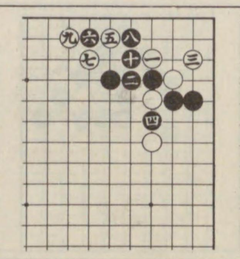
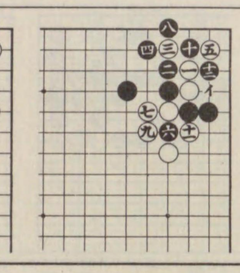
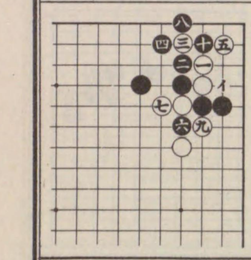





〔三七〇三〕
黒厚き形なり
黒六、八と打つ手あり。隅は、と附け、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホと提り、上下を確かに連絡する手あり。

〔三七〇四〕
黒有利の分れ
白七、九の替り、其結果白は外に利したるも、隅の損大なり。

〔三七〇五〕
黒利勢
白一、無理なり。然し此形には種々變化あり。黒六、八の手順肝要、若し此手順を誤れば白イ、黒十一、白十。

〔三七〇六〕
黒善し
此形前圖と略同じ。又白五をイに打つも、黒六の綿込を打て次に黒十に切提つて勝なり。

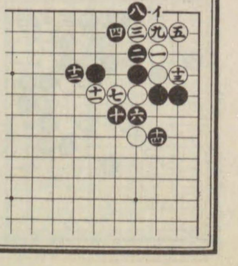
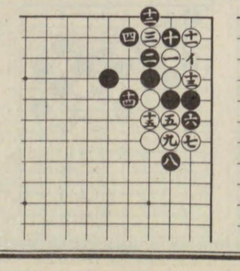
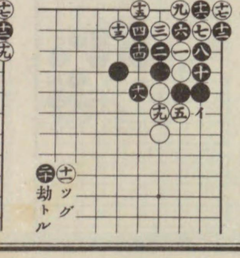
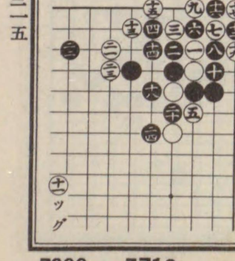





〔三七〇七〕
白無理なり
白九を掛けるし、仕切り、黒に打抜かれて必ず悪し。

〔三七〇八〕
形勢互角
白いま五と約へしに、黒は六より十四に至る、斯くて見るに、黒確なれど稍緩し。黒十はイに切り、シボル手あり。（次圖）

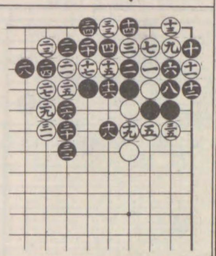
〔三七〇九〕
黒劫勝
黒六、八善し。白十三を只イに約れば、黒七、黒十五。白十六。又白イを十五に綿れば、黒十六、白十七、黒十八にて何れも黒劫勝。

〔三七一〇〕
黒必勝の勢
黒十六に投ずるに及んで、俄然、轟天戦となり、熱して砲火猛虎は地を捲し、飛び蛟龍は躍る。黒は狂に至り、十九を抜いて不落の堅城を誇る、必勝の勢なり。

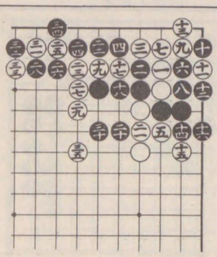
〔三七一一〕
黒敗に悲號す

黒六、八と打つ手、攻合勝のやうに見えて却て悪し。白十一、十三は、三五までの棋移を究盡せし妙着なり。



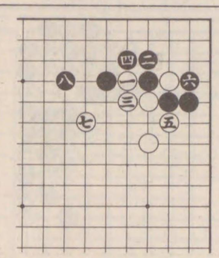
〔三七一二〕
黒潰亂の慘！

黒十四、十六と打つも、白は十七に切る。黒三十の時、白には三一、三三、而して三五の秘手ありて、白軍を巢卵の危きより救ひぬ。



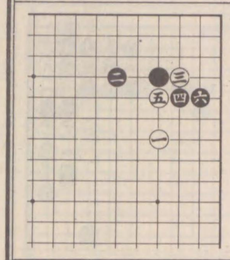
〔三七一三〕
黒有利の分れ

白一、三と打てば變化簡單なれど、結果は隅の黒地確定、且つ甚だ大なり。



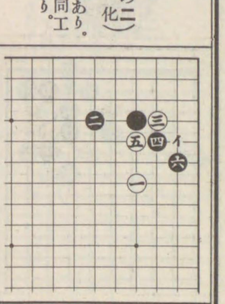
〔三七一四〕
要點約言（第五二型ロの二）變化

黒六の下りて、白は殆んど段に窮せり。若し白隅に勢厚く、又外を打てば、隅の黒地は確定す。



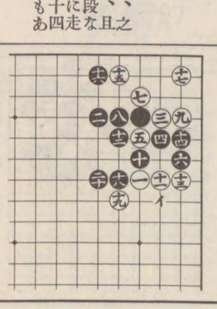
〔三七一五〕
基本圖（第五二型ロの二）變化

黒六に尖む手あり。工面白き手段なり。



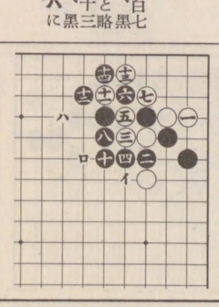
〔三七一六〕
定石

白七、九佳手、之は此形の最善、且つ穩健なる手段なり。黒十は㋑に走り、白十一、黒十四と打て戰ふ手もあり。



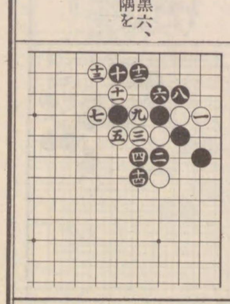
〔三七一七〕
黒厚し

白一、三と打つ手あり。白七を八に打てば、黒七にて、次圖と略同じ。黒十は十三に下り、白十一、黒㋑、白ロ、黒ハに打つ手もあり。九三目粘



〔三七一八〕
黒利勢なり

白五なれば、黒六、次に八と打て隅を堅くすべし。



〔三七一九〕
白無理なり

白五、無理なり。白七の時、黒は憂然と八を打つ、正にタイムリ・ヒットにして！白九を㋑に粘れば、黒ロ、白十四、黒十一。

〔三七二〇〕
黒堅實打易し

白一、三手筋なり。然し此結果隅の黒地確定する故に打易し。

〔三七二一〕
場合による

黒二に打つ手あり。白三を四なれば、黒は七に打て勝。白に㋑の征で取られぬ時は、黒六は九に切る手もあり。

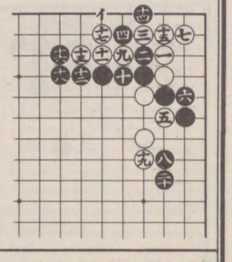
㋑粘

〔三七二二〕
黒優れり

白一は、矢張り三七、五圖の場合と同様、斯く下る筋好まず。黒ロに切りて三、七、九圖以下と同じ。

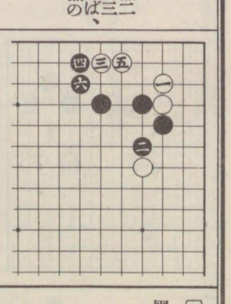
〔三七二三〕
黒善し

白十三に押せば、黒十四、十六と、㋑の劫を殘して打つ手段善し。白や不安、黒や自殺を素肌に懐中するの思ひあらん。



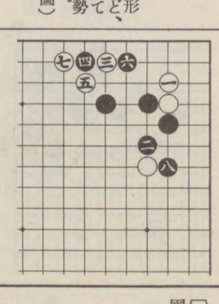
〔三七二四〕
黒優れり

白五と掛粘げつば、黒六、八と打つて善し。白十一を十二に粘げば、黒十七を㋑に劫提れば、黒十二に白ロ、黒ホ、白ニ、黒ハ、㋐劫トル



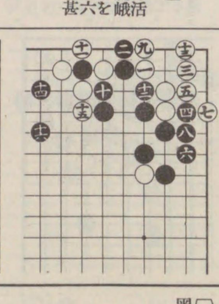
〔三七二五〕
要點約言（第五二型ロの二）變化

之も、六を㋑に下れる手と略同變化なれど、只黒六に白ロ、黒ハ、白ニと下る場合には、黒ハ、白ニと下る手あり、白面白し。



〔三七二六〕
基本圖（第五二型ロの二）變化

前變化の外に、白五の手で㋑、ロ、ハに打つ手あれど、何れも白悪し。



〔三七二七〕
黒優れり

白一なれば、黒二の掛粘善し。黒六に斜走すれば、白は五に尖む、黒の形好し。

〔三七二八〕
黒利勢なり

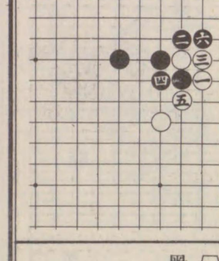
黒八、善し。此形隅の白に活あれど、白若し此活を打てば、却て黒の外勢を厚壮ならしむ。白好まず。（次圖）

〔三七二九〕
黒厚く堅實也

白十三までに就く。黒が親戚の右側の峻要を特で十四、十六に夾撃せしは、甚だ快し。

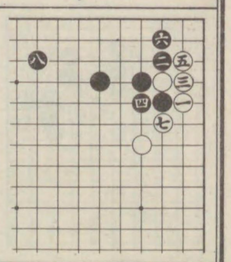
〔三七三〇〕
黒善し

白一と綽れば、黒二、四に打つて、簡明、且つ共形確實なり。



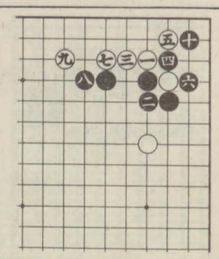
〔三七三一〕
黒善し

白五に打てば、黒六の下りは、此交換は無論黒の利、寧ろ黒は㋑の形を堅くせしむ、白は打たざるを可とす。



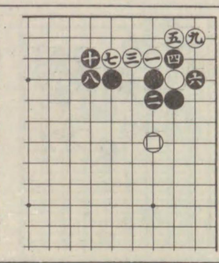
〔三七三二〕
黒必勝の形也

白二の綽に黒二と蓋し、此形に於ける黒が最善なり。白三の應つて、黒に四と打つて、白一目を打抜かるゝ、黒の苦痛となれど、亦止むを得ず（次々圖）



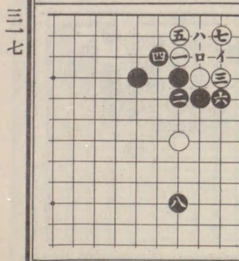
〔三七三三〕
黒大に優れり

白九に下れば、黒十に約へて善し。斯くては白㋑は殆ど働きを失ふ、假令如何に勇を振ふも詮ずる所、蟷螂が斧を怒らせて隆車に向ふが如きのみ。



〔三七三四〕
黒善し

白三を㋑或はロに打つも、黒四、又白三をハなれば、黒ロに綽ね前々圖と同形となるなり。



〔三七三五〕
要點約言
（第五二型ロの二）
此形、白五でイに行れば、黒ロ、又五をハなれば、黒イ、白ニ、黒ホ、又白五をヘに綿れば黒ホ。何れも白悪し。

〔三七三六〕
基本圖
（第五二型ハ）
前變化の外に、白はイ或はロに打つ手あれど、之は特殊の形勢にのみ、白の此手段有效なり。

〔三七三七〕
場合による
白一の打込は、此手によりて黒を攻め立て得る形勢にて、初めて用ゆる手にして、普通は白悪し。（三六二圖以下參照）

〔三七三八〕
場合による
黒十二の進出を必要とする場合は、黒八の掛粘面白し。

〔三七三九〕
黒堅實打易し
黒十二、善し。黒圖の如くなれば、は隅に失ふ處の損は極めて小、外勢に得る處甚だ大なり。

〔三七四〇〕
黒優れり
黒十二は十三に約へ、白十二、黒イ、白ロ、黒ハと打つも悪しからず。圖は四圍の白優勢なる場合と假定して斯く堅實に十二と應答せしなり。黒十八善し。

〔三七四一〕
場合による
黒四は、前圖までの如く十と約へる方、外勢確なり。

〔三七四二〕
場合の形
白三の走り、絶無に非らざれど、之は白の四と交換し、白を堅くして却て悪し。

〔三七四三〕
黒打易し
白三以下の手は黒を堅くすの加之、白の㊀は働き乏しくして稍〻形の憾無きを得ず。

〔三七四四〕
參考圖
圖は手順の相違あれども三六七七圖以下と同形なり。

〔三七四五〕
黒優勢
黒一と打つ手あり。外を厚くせんとするの時、此手善し。白九をイに打てば、黒ロにて猶且つ黒より九に置く筋あり。（五九二五圖參照）。

〔三七四六〕
黒厚く、善し
此形黒後手なれど、次に黒イ或はロ、黒ハ、白ニ、黒ホの粘き、その熟れかを黒は先手で利かす手あり。

〔三七四七〕
場合による
黒二と突當る手あり、之も、黒悪しからず。

〔三七四八〕
場合による
黒二の時、白は敵の前孤立の狀態にある㊀の戦友を見棄てて、三と敵陣に入る。黒乃ち四と白を隔てる戦を伐つ策を採り、尋いで六と固む、八に至つて黒は堅強を誇る。

〔三七四九〕
要點約言
（第五二型ハ）
白イ或はロと打つ手は、何れも黒を堅くして面白からず。故にその熟れるも、四圍の事情よりも、見て是等の手の止むを得ざる時の外は悪し。

〔三七五〇〕
基本圖
（第五三型）
黒二と夾む手あり。前のイの應けの穏なるに比し、之れは強硬なり。

〔三七五一〕
基本圖
（第五三型イ）
黒二の時、白は三、イ、ロ及び其他の手段あり。其中三の小斜走懸り、定法なり。

〔三七五二〕
定石
黒四、定法。然しこれに尖む手もあり。（三七九圖以下參照）白十一を十二なれば、黒ロ、白十一、黒ハ。

〔三七五三〕
黒悞手に陷る
白六、八と出切る。以下十七まで必至の棋形。白十八は二二の手あり。（五二四〇圖參照）黒十九、二一大事を誤る。自二四の妙手を下すに及んで黒また起たず。

〔三七五四〕
黒　敗
黒單に十九と下りしは、前圖の黒イを白ロと打ちし如く、又白十九と打ちしに比すれば稍〻優る。（次圖）白二二、善し。（元）二十ノ處ッグ

〔三七五五〕
白　勝
黒十九、白二十の交換無ければ、白二六の時、黒二十、白イ、黒十九、白ニ、黒ホに劫とする手あり。

〔三七五六〕
白善し
此形、黒劫を勝てば、辛うじて此難を凌ぎ得べしされども、それにしても、黒は三の所を白に封鎖せらるゝ、大勢白に歸せり。

〔三七五七〕
白、粉碎さる
黒十九、大に善し。見よ！黒はこの險を擺脱せんとして、意氣天を衝く。白二二は惡手、ため、全軍一擧に潰ゆ。

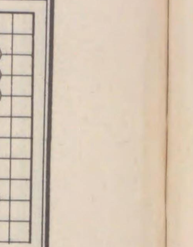
〔三七五八〕
持或は劫
白八と切りし以下の變化は圖の如くなるを普通とす。又白十四を二一に尖めば、黒十五に（一八一七圖參照）勝

〔三七五九〕
持

此形劫附の持なれど、双方共に軽き石なれば場合により之を捨つるも可なり。

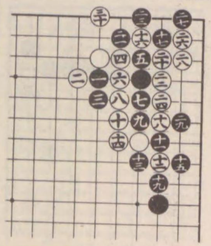
〔三七六〇〕
劫

白二四、二六悪し。之は劫なれど黒先劫提りが且つ外勢も、黒優れる故に此戦黒有利なり。



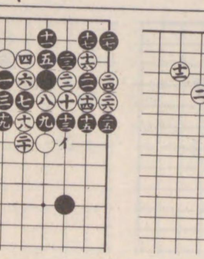
〔三七六一〕
黒稍有利

白十八に切れば黒十九、二一に急攻、二八までの結果、黒は石を取り、白は形勢を得。又初めより白十四を二二となれば、黒十六、白十五、黒イ。



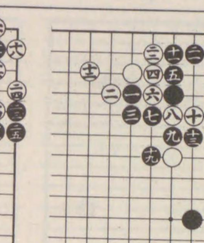
〔三七六二〕
黒怯懦敗衂す

佞手を以て勝を得んとするは、空に射て魚を獲んとするが如し。黒七は恐れし白に切らるゝを恐れし佞手、大に緩し。



〔三七六三〕
白利勢

黒二一を二四に打てば、白イ、黒ロ、白二六、黒二三にて黒後手、若し黒、二三を手抜きせば、白は二二。

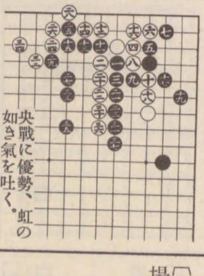


〔三七六四〕
黒利勢

白六の綿を打て、以下十に切れば、黒は一三に切れる手順（変化一九八図以下参照）

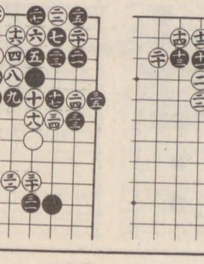
〔三七六五〕
黒優れり

黒十五此形行びるの要あり。此形は白活、黒活、黒活、するに白活、黒遂に中央へ先手にて十九へ跳ぶ二九に絶好の手となる。



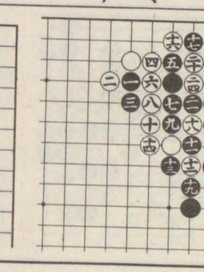
〔三七六六〕
戦況、黒有利

黒十九、善し。白二十以下、萬丈の波瀾を期待して力戦、其力鋭鋒を開きしも、三七に至つて黒は中央の白四方の青



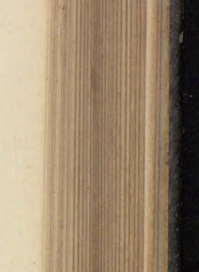
〔三七六七〕
白好手段無し

白六に長鞭を馳せ遙に十の切りを狙ふ。而かも黒より七、九と平易に受けられて白には好手段起らず。又白六をイに打つも、黒ロに應けて善し。



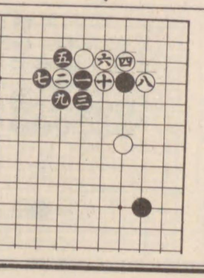
〔三七六八〕
常形

白六と尖む。黒七、九は、定法なり。此變化は三間夾の中四五九八圖參照。



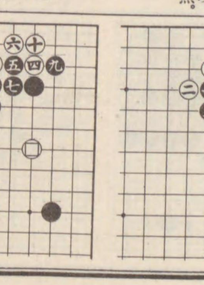
〔三七六九〕
白□包圍さる

白四と來る。黒は白の□を俯瞰しつゝ先手を以て五下一まで十一を作り、嗟乎、三の□に包囲す。黒の重圍に陥つて脱出の手段無し。



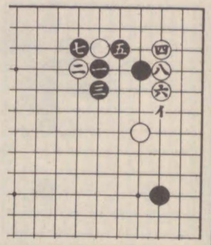
〔三七七〇〕
場合による

白四、而して黒は五の暗双を閃かし、一手段たるを失はざれど、黒は六に至つて九を失ひたる前圖の如く、五を定石により綿込まれて脱出の手段に及ばず。



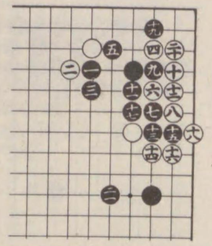
〔三七七一〕
常形

白四、六と打つ手もあり。黒七は確なれど、此手はイに附けるも筋あり。白は應手窮す（次圖）



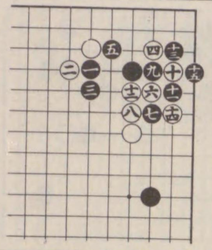
〔三七七二〕
白低く、悪し

黒七の附、面白し。白八に應け、以下二十までと、斯くては白悪し。



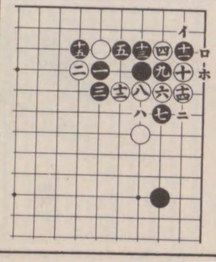
〔三七七三〕
黒有利の分れ

黒七、九、十一は、普通俗筋にして好まぬ手なれど、此場合大に有利なり。二十までの白も、勿論、十四までの白も、未だ其形全からず。



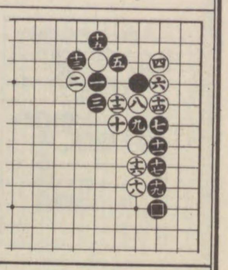
〔三七七四〕
黒善し

黒いま十一に切るも、白十二をイに提れば黒ハ、又白ロ、黒ホに粘げば、十四、白ニにて善し。



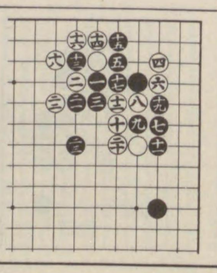
〔三七七五〕
黒打抜の威力

白六に引くや、黒は□と相呼應して七に間隙を衝く。白八を九なれば、黒十四なれば、白九を十四なれば、黒九。白軍、急所の打撃に泣く。黒十五甚だ善し。



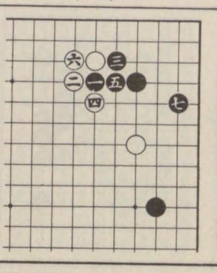
〔三七七六〕
白の形無理也

白二十の時、黒は二一、二三。二十までの白は根據を失ひて、且つ、東漂西泊、隅の白には未だ死あり。白軍遂に支ふべからず。



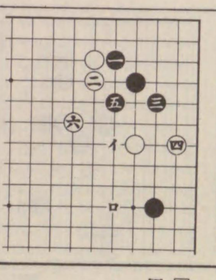
〔三七七七〕
場合による

黒は防主攻従、士氣頽る振はず、一、三と、隅に地を得るに腐心す。黒隅、白の外勢厚し。黒多く好まず。



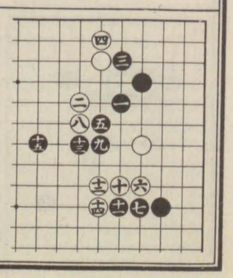
〔三七七八〕
黒の形好まず

退いて守る者は、遂に敗れざるを得ず。黒いま一、三、退き甚しき哉、黒面白からず。



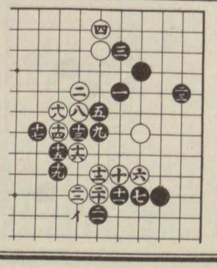
〔三七七九〕
場合による

黒一と尖む手あれど、場合により十五まで彼、我の各着、互に正とな り奇となり虚実の腰ねて、勝敗の決を中原に待つ。



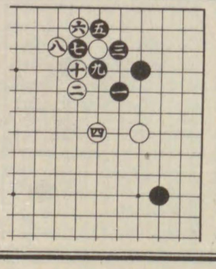
〔三七八〇〕
白打過なり

白十四、十六、打過ぎ。二二までの拠移を見る白軍の隊形、曖昧を極む。白二二をイ、黒二二、佳手なり。



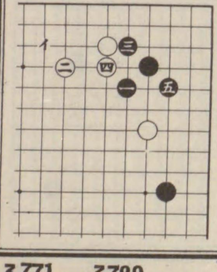
〔三七八一〕
黒劫に恐れず

黒五、七、九の一目提り、堅くして含蓄多し、可なり。白十の時、黒手抜き、次の劫は隅に影響少き故に、黒は手强く争つて宜し。



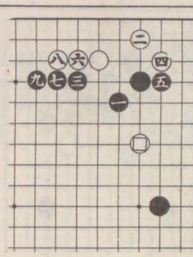
〔三七八二〕
黒確なり

白二をイに打つも、同じく黒三、五と打つて隅を守る、黒いまや堅をし、被攻撃の鋭鋒を、せて、白軍の機を待つ、あゝ殺氣は孕む空の色！



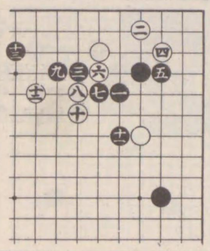
〔三七八三〕
黒厚き形なり

白二と邊陬に飛ばせて、黒より三以下九までの重厚を蒙る。黒は中央に厚壮の威を振ふ、黒の一子或は□の孤攻に遭はんとす。



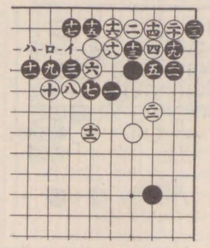
〔三七八四〕
白形無理なり

白四、而して六、八と出切る。圖は紛はしき形となりたれど、白の形は堅牢、黒の陣容は薄し、黒の鐵に戰を挑をが如きか。



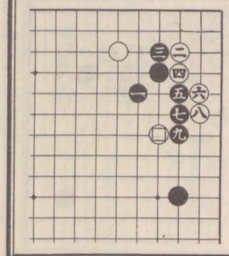
〔三七八五〕
白　敗

黒十三、十五妙。白十六を□なれば、黒十七、白十八、黒イ、白□、黒ハにて勝。又圖の白一結果は、攻合黒一手勝なり。



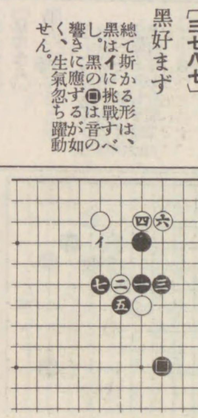
〔三七八六〕
黒善し

白二、四、惡し。圖の如くなりては、白□の一着、其活を失ふ。白四の時、黒ムに得らるれば、黒の尖の有效なる所以なり。



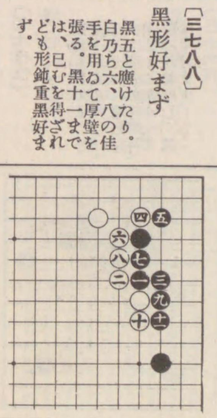
〔三七八七〕
黒好まず

總て斯かる形は、黒はイに挑戰すべし。黒の□は音の響きに應ずるが如く、生氣忽ち躍動せん。



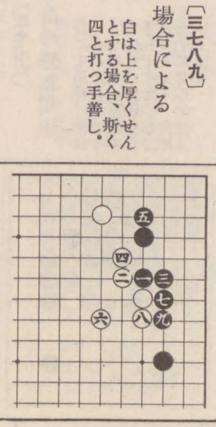
〔三七八八〕
黒形好まず

黒五と應けたり。白乃ち六、八の佳手を用ゐて厚壁を張る。黒十一までは已むを得ざれども形鈍重黒好まず。



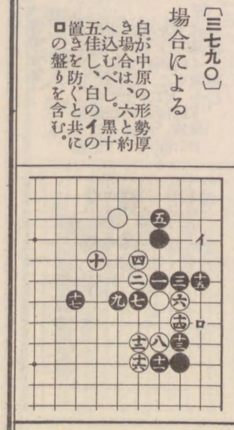
〔三七八九〕
場合による

白は上を厚くせんとする場合、斯く四と打つ手善し。



〔三七九〇〕
場合による

白が中原の形勢厚き場合は、六と約し、黒十五に白の佳置きを防ぐと共に□の盤りを含む。



〔三七九一〕
要點約言
（第五三型イ）

黒二に夾み白三と小斜走にカヽりし形には、黒はイ、ロ、ハ、ニの應けあり、此中イの最も善く、ロはヌルク、ハは場合の手、ニは多く好まず。

〔三七九二〕
基本圖
（第五三型ロ）

白三と、高く一間に夾返す手あり。

〔三七九三〕
定　石

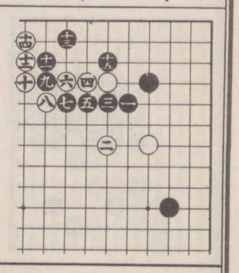
白三の一間高懸りには黒四の尖、最も善し。

〔三七九四〕
定　石

白七を八に綰れば、黒九に切て良し。黒十二に覗き、白を重くして大に十四に飛ぶ手順肝要。

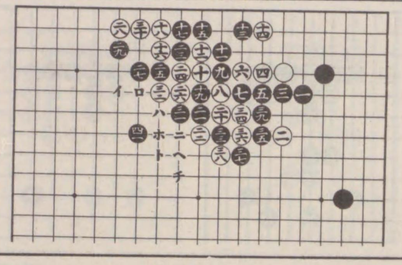
〔三七九五〕
黒攻合勝

黒一、三、五、七と、決する如き勢を以て下の白に迫る。白は八の時、その重壓に忍び、得ずして打過ぎなり。敗一着に決す。



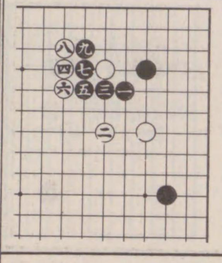
〔三七九六〕
白戰に敗る

白十四惡し。黒に十五と綽らて、白に適當の手段無し。白十六以下打過。黒四一の着より左右何れか一を逸出の好手段。此時白イなれば、黒ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、尤此形、黒征宜しき場合は、黒三を□に打て簡單に勝。



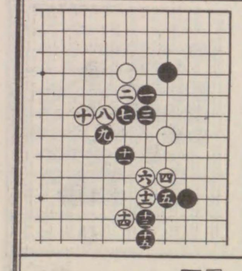
〔三七九七〕
黒隅地確定す

白六なれば、黒七、九と打つて隅は安全なり。



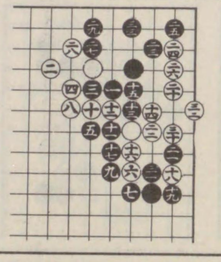
〔三八〇一〕
常　形

白二より變化。斯くて十五まで兩軍絞々相摩して接觸す。されば戰局觀ずれば、黒が常にリードする勢を持す、黒可なり。

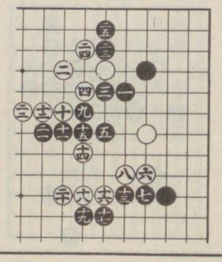


〔三八〇二〕
外勢黒優れり

白八は、四までの堅陣に更に堅を加ふ。用兵甚だ拙なり。爲に、黒より一着の下に完封する。黒十七に如何にするも白面白から。

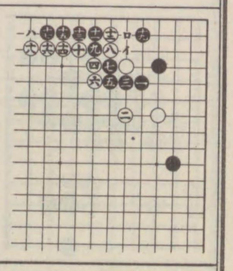


黒は三以下二一まで絶えず機先を制して進み、兵塵漸く鎭まるを見や、忽ち踵を旋して二三、二五に守備を固む。二の攻守、法に適へり。



〔三七九八〕
黒　勝

白十二を十三に約へれば、黒□、又圖に白イ、黒ロの形、次に白ハに手を拔いて勝なり。



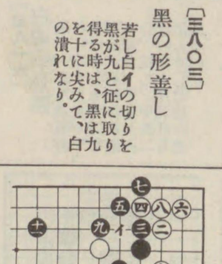
〔三七九九〕
黒の勢確なり

白二より變化。斯くて十五まで兩軍絞々相摩して接觸す。されば戰局觀ずれば、黒が常にリードする勢を持す、黒可なり。

〔三八〇〇〕
外勢黒優れり

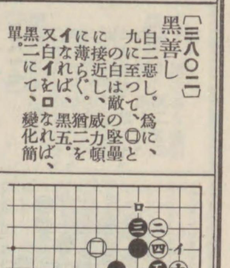
白八は、四までの堅陣に更に堅を加ふ。用兵甚だ拙なり。爲に、黒より一着の下に完封する。黒十七に如何にするも白面白から。

黒は三以下二一まで絶えず機先を制して進み、兵塵漸く鎭まるを見や、忽ち踵を旋して二三、二五に守備を固む。二の攻守、法に適へり。



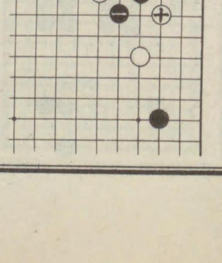
〔三七九八〕
黒　勝

白十二を十三に約へれば、黒□、又圖に白イ、黒ロの形、次に白ハに手を拔いて勝なり。



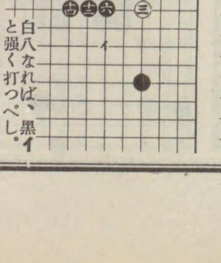
〔三八〇三〕
黒の形善し

若し白イの切りを黒が九と征に取りを得る時は、黒は九を十に尖みて、白の潰れなり。



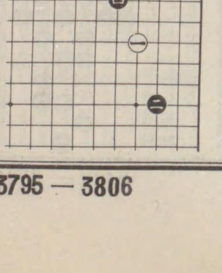
〔三八〇四〕
參考圖
黒の形好まず
瀬越憲作七段
七子某氏

兩氏の對局にあり。黒四は八が本手。黒は白七の時、切は愚にして八を敗れを怖れて形を致すなり。八は十六、白八なれば、黒イと強く打つべし。



〔三八〇五〕
要點約言
（第五三型ロ）

白三の一間高懸りに、黒四の尖善し。此手は白イの打込み、三八〇三圖の白を豫防し、且つ攻むる意味あり。



〔三八〇六〕
基本圖
（第五三型八）

白三と双方高く二間に懸る手。尤も斯く懸る手は前のイ、ロに比して其意味稍緩なり。

〔三八〇七〕
定石

白三の懸り緩なれば、黒は手抜も宜し、若し又打つと直ちに二と打ち二と相呼応して白の一を攻む、黒のイに打つ手は三七八七圖と同意黒悪し。

〔三八〇八〕
常形

白二を四に押せば、黒イに引いて、三七九四圖と略同じ。

〔三八〇九〕
黒確なり

白十二を十八に當て、黒十九、白イに切るも黒十七、白十五、黒十二と形を碁露す。白は無理なり、白二を二にグズミ打てば、黒ロにグズミ、切る手あり。

〔三八一〇〕
常形

夫れ、千里を行かんとする者は第一歩を確實に踏むべく、三は確實を期したる肝要の一着。後くて後、黒は猛進斯く近きに在らんか。

〔三八一一〕
黒の形確なり

白八なれば、黒は九以下の堅を持して、密かに六までの白を睨む。白十二をイに絡ねるも、黒十三、白ロなれば、黒ハ、

〔三八一二〕
黒善し

夫れ短慮は功を成さずとかや、白十四は早急事を誤る。黒十五、十七、好防。白は騎虎の勢ひ、二十に切しも、二五に至つて、白の隅の損失歴然たり。

〔三八一三〕
兩軍虚實入神

白十を十二に附けねれば、黒十一と黒綽て十七を十二に粘げば凝形となりて白十七に落つ、黒十は、之を避けしもの、甚だ善し。

〔三八一四〕
白貪つて敗る

白四を、六或は八に打つも、六は隅に化には變り無し。白二を二七に行び、白二、黒三三にて、白切、黒劫提、白二、九、断さる。

〔三八一五〕
黒愚形に化す

夫れ「上兵は敵の謀を伐つ」と、敵の蓋しは最上の謀、之に陥るを破るは最悪なり。黒十七に粘いで敵の謀に陥る。黒の凝形、以て後車の戒となすべし。

〔三八一六〕
白の形最悪

黒十一以下戰進吾れに幸すと見るや、黒は少しも小策を弄せず自然の風潮に乗つて形勢を占む。佳圖中央二白尾羽打粘らせし、敗残の老ちの如し。

〔三八一七〕
黒打易き形也

白十八に切りしも、黒二五となりては、白面白からず、まだ白十八を二に切るも、黒十二、白二四、黒十、白二五に圖の形と略同じ。

〔三八一八〕
參考圖
白優れり
勝瀬越憲作七段

四子某氏あり。兩氏の對局にて、黒八は九を先にすべし、白に九と押されては、黒の形低し。

〔三八一九〕
定石

白一、三と、星に遠く懸りし場合、黒は手抜き善し、白五、定法。

〔三八二〇〕
形勢互角

白九に二段綿すれば、黒十、次に十一の筋なり、此形に白イに打てば、黒ニは、白ハ、黒ロの手順を牢記すべし、初心者のために。

〔三八二一〕
形勢互角

白九に切れば、黒は圖の如く四目を捨つ、輕打却て外勢を得たり。

〔三八二二〕
征如何による

黒二四でイまたはロの征の利く時は、黒は斯くと打つ手あり、また白イまたはハの征が黒に有利なる時は、黒二二に打つも宜し。

〔三八二三〕
白優れり

黒若し征悪しき場合は、圖の形となり、殆んと黒ツプレなり。（前圖參照）

〔三八二四〕
白形無理なり

白石が若し征にかかる場合は、圖の如くなりて白悪し。（前圖參照）

二九ノ處 ニツグ

〔三八二五〕
白大敗

白四一、大悪手。五に至つては中央の白根死を遂ぐ。

二九ノ處 ニツグ

〔三八二六〕
黒善し

白五好まず。黒六、八は、巧に白の虚に乗ず。十二より十八まで となり、黒は百戰不敗の形勢を得たり。

〔三八二七〕
樂々と黒活く

白㊀と㊁の二騎を遣し向ほその上に一と攻めし所なるに、十までと無雜作に活きられては、白悪し。

〔三八二八〕
白悪し

白一、三無理。圖の如く黒八の約となりては、何れへかの白二目は取られたり。

〔三八二九〕
要點約言
（第五三型八）

白三と双方二間に高懸りせし形にては黒にイと、手抜とはあり、イは三に迫りて一の白を攻むるも、又手抜しと、白に急攻無しと、見たる臨機の手段。

〔三八三〇〕
基本圖
（第五三型ニ）

白三を、前變化の如く打つ手は何れも定法なれど、此外に白④、㊁、㊅等とあり。然し之等は多く白好まず。

〔三八三一〕
黒堅し

白一に打つも、前項八の部に於けると同じく、黒は手抜き最も善し。若し打つとすれば、二の應け確なり。

〔三八三二〕
黒攻合勝

白一に打込めば黒は㊀の白を礙視し、二以下八に至り、尋いで輕騎を躍り、綱陣を張る。黒盛んなり、十の附にて、攻合黒勝なり。此形

〔三八三三〕
黒安全なり

白十一と二間に飛べば、黒は攻撃の手を弛めず直ちに白十二に附けて㊀の道路を遮斷す。此黒が鋭鋒、恰も鐵瓦を以てするが如し。

〔三八三四〕
白惡し

白十一、十三、俗筋なれど尚ほ且つ生に變化して丈夫の潔しとせざる所なり。時機を見一手抜くに妙あり。

〔三八三五〕
黒善し

白は㊀への影響を虚り七と飛びしも、黒より八、以下の痛撃を喫ふ。白七は前圖の如く八と押したる後飛ぶ形なり。白十一をイに約れば、黒ロ、白十三、黒ハ。

〔三八三六〕
黒有利の分れ

白一、打過ぎと行を打て、大に四に絡ねる手善し。然し外勢黒優れる場合は、黒二を三、黒六と、強く戰ふ手もあり。

〔三八三七〕
白ツブレなり

白七打過ぎ。黒は㊀と決して出づ。烈々炎の如き鬪志、獄卒の如き三を十八に打ち、白ロ、黒ハ、白イ。

〔三八三八〕
黒の勢善し

白いまや、黒は直ちに飛ぶ。以下十二に至る。白は十九の方面を手抜きせば、黒イに痛打を加ふ、白は前後イとロに焦眉の急を告げたり。

〔三八三九〕
黒確なり

白五と切りしも糠に釘、少しも利き目無し。白十三に至りては、衆寡敵せざるも骨折つて損を招けり。

〔三八四〇〕
黒の勢優る

白三と下る、黒乃ち四と曲るべし。若し黒四を五に押されば、白四と下されて黒悪し。二に至つては、二三重の觀あり。稍鈍。

〔三八四一〕
要點約言
（第五三型ニ）

白三をイに打てば、黒はロに應けるか、または手抜きすべし。又白三でハと打込めば、黒ニ、又白三をホなれば黒ヘ、白ト、黒チ。

〔三八四二〕
基本圖
（第五四型）

白二間高懸りに對する黒の變則（其一）

黒二の應け方に附けて綽ねし、形は附定石と同じ。（一八一二圖以下）

〔三八四三〕
定石

黒二の時、白に三、四、五、六の應け。此中白四にあり、早く隅を治まらんとする場合、面白し。

〔三八四四〕
黒確なり

既に黒四、白五となれば、黒の隅は先づ確なれば、黒六は手抜きするも宜しく、またイに廣く拓くも宜し。

〔三八四五〕
常形

白一に引けば黒二の綽善し。然し之を三に約へ、白二、黒四となれば、前圖と同じ。

〔三八四六〕
黒厚壯なり

白五に打込めば、黒は六に白を隔てて打つて、黒の勢優る。

〔三八四七〕
黒の形好し

白三と綽ねし時は、黒四の約へ善しも、黒十は手抜きするも宜しく、また廣く拓くも宜し。イと之は三、四圖と其意味同じ。

〔三八四八〕
黒厚し

白九に附ける筋あれど必要なり。早ければ黒を厚くす。白却て悪し。

〔三八四九〕
白形勢振はず

白十九へ粘げば、黒は二十、二と打つべし。斯くて白三に約へ、白二、四を得し、黒より二の痛打を蒙るで、此形は七まで動くに從つて黒に厚みを加へらる。

〔三八五〇〕
黒利勢なり

白三に切る手あり、無理筋なれども變化多し。黒六、八善し。白十一をイなれば、黒十四。

〔三八五一〕
白の形好まず

白七は、白イ、黒ロ白ハの筋に伏せしものを狙ひ、黒が前れと、黒が守せし所と異なり。十と堅守して以て十一に打てば、黒は十一。

〔三八五二〕
形勢互角

白いまや、イの守りを省いて急遽九、一の切りを敢行す。此形は種々變化の機孕みて萬動の波瀾を捲き起さんとす。本圖は黒確實なる一例。

〔三八五三〕
白大敗

白十七、無理。黒二の時、白イなれば、黒ロ白ハ、黒ニ。白ホへ征悪しく、黒ヘの征。黒ト、白チ、黒リの筋もあり。

〔三八五四〕
黒善し

此形黒二四となりて、白窮せりに、白イなれば、黒ロ。白イをロに、又白イを黒イの悪しき時は、黒ロの征めば、黒イの悪しき打つて宜し。如く打つて宜し。

〔三八五五〕
形勢互角

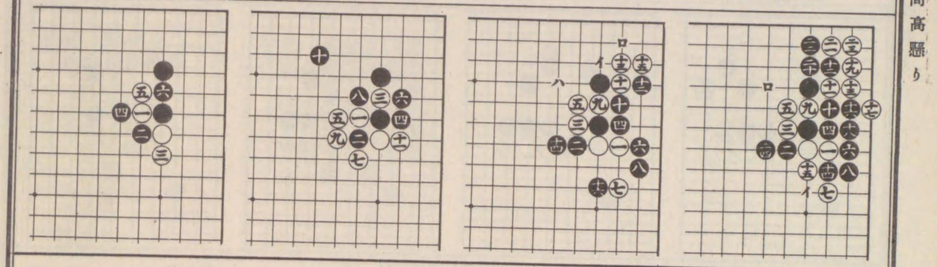
前圖黒の征き場合は、黒十二以下の手段を擇べし。黒十四、十六、善し、若し白十五を十六に打てば、黒はイに約へて、次にロとハの二つを見る。

〔三八五六〕
形勢互角

白一と綰ねれば、黒二に切る、強手なり（變化互先）。二間高懸りの部及び三八六一圖以下參照。黒八では、黒二の征當りを打つも善し。

〔三八五七〕
參考圖

變化は三八六二圖以下にあり。黒四、六、手筋なり。



〔三八五八〕
黒根據を占む

白九なれば、黒十に飛ぶべし。白二に三の時、あ、奇想天外より來る黒は二の一着、輕妙。白の四想見の逐に實利を壺に收むるは、黒に一目トル

〔三八五九〕
黒優れり

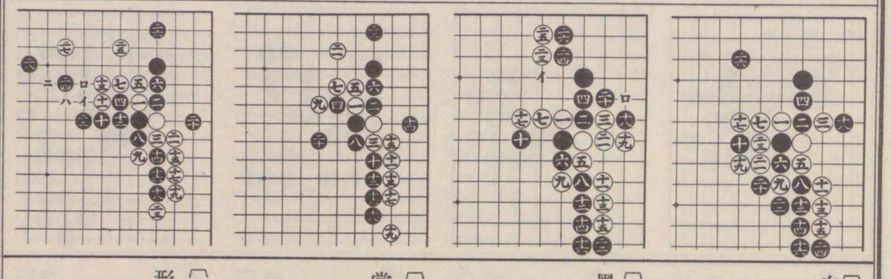
黒二は、彼我勢力消長の因つて係る本局唯一の好點なり。黒既に之を取り、形勢推して知るべし。白十五をイに行れば、黒ロ。

〔三八六〇〕
黒好し

白は單に三と引く手あり。黒四、六は手筋なり。讀者幸ひに此形に於ける此の應法に習熟せば、利益少からざるべし。

〔三八六一〕
黒の外勢振ふ

白九なれば黒十に掛けざるべし、又黒十一白ロ、黒イと打つも手あり。白二、三をニに應ければ、黒二三。



〔三八五八〕
黒根據あり

白九、十一、綴し、白十九は次にへの押しと二を望む佳手、此筋に至うて白二九を抜き、黒イ白ロ黒二九、白ハ黒ニ白ホ黒へ。

〔三八五九〕
要點約言

黒二の附け（第五四型）に白イ、ロ、ハ、ニの應けあり。此中白イは附定石と同じ、ロは、黒イ。又白ハ、ロに下れば、黒ロ、次に白ニに綰ねし時は黒イに廣く拓くも宜し。

〔三八六〇〕
基本圖

（第五五型）
白二間高懸りに對する黒の變則の應け方（其二）

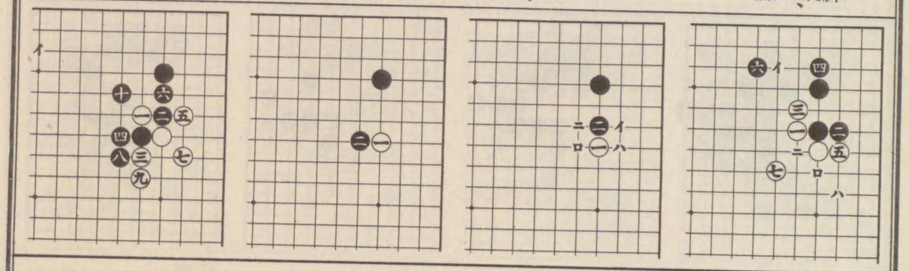
黒二は奇策、變化甚だ多く時に妙あり。此變化、互先二間高懸りの部參照）

〔三八六一〕
常形

白一、三、五と打つて、變化簡單にして結果も互角なり。黒十は堅實なれど、これ單に打つも宜し。

〔三八六二〕
黒善し

白五に引く手、拙し。黒六と押して七と隱忍を餘儀なくせしめ而して八と抱へは、その手順に間然する所無し。斯くて黒は、中原に隆々たる勢威を築く。



〔三八六三〕
黒根據あり

勢は兩軍均し

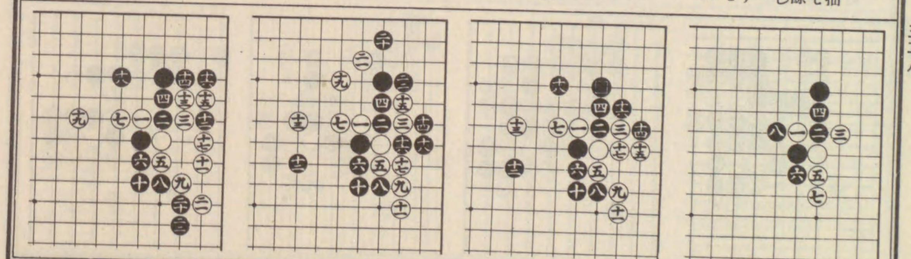
黒八肝要なり。白十三の時、黒が◎の置石より二まで白の棒石を利して十四に下せしは、妙なり。

〔三八六四〕
黒の地確なり

白十五、惡し。斯くては黒に十六と切られて、十七以下の白五目、其根據を云へり。

〔三八六五〕
黒の形善し

白十一と掛粘く。黒十二は前圖と同じく白十二に襲ふ筋、面白し。斯くて二三に至る。いや中央の白三子は、上下の黒の整陣より、砲火の集中を蒙らんとす。



〔三八六六〕
白要石を失ふ

黒二十、而して白の二一に斷、二三の粘と、二六を見るの約へ、二三を白イなれば、黒ロ、黒二六の次に白ハなれば、黒ニ白ホ黒へ。

〔三八六七〕
白要石を失ふ

白九、十一、綴し、白十九は次にへの押しと二を望む佳手、此筋に至うて白二九を抜き、黒イ白ロ黒二九、白ハ黒ニ白ホ黒へ。

〔三八六八〕
黒優れり

白十一を十三に斜走れば、黒十一の先手利き、白イと打つて、隅は確なり。

〔三八六九〕
形勢互角

白七に尖めば、黒は八と掛形に、黒十八の次に、黒ロ白イなれば、黒ハ黒ニ白ホ黒ヘ、又白ハ黒ヘを黒チに當て、黒白劫提。黒ヌ黒劫提。白リ白ニ黒へ。

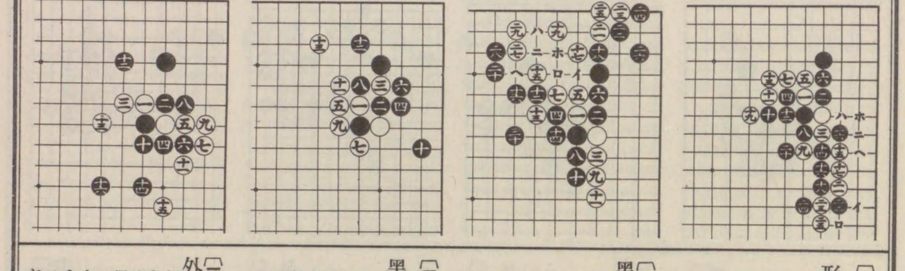
〔三八七〇〕
黒稍優れり

白十二は十五に押し、黒十一、白イ、黒十二と綰ねて、黒は四、六の二目を、活かして打つ手もあり。

〔三八七一〕
黒堅實打易し

黒十二は十五に押し、黒十一、白十三、打過なれば、黒ロ、白十五、黒イに守れば、又白ロ黒ハ、白十七を黒ホ白ヘに至つて、黒ニ白トの外勢大に優れり。

〔三八七二〕
外勢黒優れり



〔三八七三〕
形勢互角

此形、若し白三の次に十の征利かずば、黒四は只八と行びて、此形白無理なし手順善し。征に關係あり。

〔三八七四〕
黒優勢なり

白ハ、黒二、白ニ、黒ロ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル、黒ヲ、白ワ、黒カ、白ヨ、黒タ、白レ、黒ソ、白ツ、黒ネ、白ナ、黒ラ、白ム、黒ウ、白ヰ、黒ノ、白オ、黒ク、白ヤ、黒マ、白ケ、黒フ、白コ、黒エ、白テ、黒ア、白サ、黒キ、白ユ、黒メ、白ミ、黒シ、白ヒ、黒モ、白セ、黒ス、白ン、黒ヒ、白ヒ、黒ヒ、白ヒ、黒ヒ、白ヒ

〔三八七八〕
白大敗

白二三より變化して三三の綿ねを利かせ、攻の手數を前圖よりも一手延ばせたれど、猶ほつて白敗戰す。至

〔三八七九〕
小活、白惡し

白十一惡し、爲に蒙り黒十二の約へ、辛辣。正に白二の骨を刺す。三までの如く、最小の形にて活きるは、何れの場合にも惡し。

〔三八八〇〕
形勢互角

白七、九と打てば變化は簡單なり。圖の形は互角の分れなれど、黒は形確定せし丈に置碁にては黒打易し。

〔三八八一〕
黒大に優れり

白十三は猪手、前のみを見て、惡し。白十二を一一となれば、黒十七、白イ、黒ロ。

〔三八八二〕
白代償を得ず

萬卒は得易く一將は得難しとや。白の十三は雜兵に比すべき惡手。遂に儀なくせられては、黒の二子の打拔、獨り其勢威を揮いまゝにす。

〔三八八三〕
黒大に優れり

一たび白二五に現はるゝと見るや、黒は果を策す。黒の振替りや、段々、颯々たる風の如く、猶黒はイに劫とする手あり。

〔三八八四〕
黒の形堅實也

白一と綽ねし時は、黒二に約へて、變化す。白三をイなれば、黒四に約へて三八四七圖と同形。

〔三八八五〕
黒好形

白三と四に切れば、黒イと行びて三八六一圖と同じ。此形白ロに打込みし變化は二一二圖參照。

〔三八八六〕
中の白根據無し

白三、黒四、共に形なり。白十五に先だつて一着十三に行びしは、この白に赤一片、穢々の氣骨を認む黒の氣の十六の次に白イなれば、黒ロ。又白イをハなれば、黒ニ。

〔三八八七〕
黒の勢壯なり

白九、十一、打過なぎり。黒征惡し場合は、十四を二一に打つべし。また、白十三をイに行びし時も、黒は二一に打つ。

〔三八八八〕
白暴して敗す

白二三は無理なり、此手は三四に斜走して、彼我兩活きとする位のものなり。此形は結局黒先劫提りとなれば、此戰ひ黒勝なり。

〔三八八九〕
黒必勝の勢

白十三、十五、無理爲に、黒より二二以下二六の連續斯くて黒勢の如く、黒必勝の勢なり。

〔三八九〇〕
黒勝

夫れ千里の駒も伯樂を待たざるべからず、凡そ事時を得ずんば成り難し、白十五、十七、手筋なれど、場合を得ざれば、效まなし之に伴はず。

〔三八九一〕
形勢互角

白一、三碓なり。黒六は、四圍の形勢を見て、他の好點を選ぶも宜し。

〔三八九二〕
形勢互角

此場合黒六の拓き、善し。白七の覗きを打たず、只九に飛べば、黒イに飛ぶ筋なり。

〔三八九三〕
黒厚壯なり

白三、黒四となる。見よ、兩軍三本立ちの時は□を制せらるゝ機先を制せられ以下巧に數子なり。黒十二以下外勢を壯にして、大に善し。

〔三八九四〕
黒の勢善し

黒七と二段綽ねをなす。黒乃ち八に堅持し、白九に掛けて粘らず、猛然として十に叩くや、進退、法に適へり。黒十一を十に行びれば、確なれど、稍緩し。

〔三八九五〕
黒利勢なり

白七に掛け粘ぐや、黒八より至り、更に十四に十六の大所を占むる。白の地も少からざれど、黒の厚圖は遙に大なり。

〔三八九六〕
黒優れり

黒の□、猛然としての白に體當りし來るや、白はヒヨロ〳〵と腰碎けて一に向ひ平家に逢ひ、源氏の公達の如き男子か。正に愧死すべき形。

〔三八九七〕
白妄動に慘死

嗟乎、雉も鳴かずば撃たれまじきもの。白五に妄動して黒よりも六と撃たるゝ。白十六に白横死するもの、罪正に五の打過ぎに在り。

〔三八九八〕
黒確なり

白一、手筋。黒二を五に應ければ、白四に綿出すべし。白七に及び八中原の黒は咽喉に當る。七の要衝を抱すれば、八は要點なり。

〔三八九九〕
黒捨石巧なり

古の名將も言ふ、兵の勝敗は士心の和否の如何にありと。圍非の道、何ぞ之に異らん。白一は、手着意前後白五は、強手、白六は、憧着して白遂に形勢を損ず。

〔三九〇〇〕
白軍無慘の死

容顏花を欺き、夫太敦盛すら、敵に聲掛けられては後を見ざりしもの。然るに！白は黒の□に挑まれて一と退く、怯懦憐むに堪へたり。

嗟乎、榮枯、盛衰は世のならひ、誰か夜半に嵐を吹かずと云ふ。三の惡手を得たり、三の轉落す如く一擧に破れ、石の漏に沈みたり。

〔三九〇二〕
白大敗

白十九より變化し來る。黒二十を二に一に約れば、白イ、黒二、白二五、黒二七、白ロの尖合負或は劫なり。

〔三九〇三〕
黒の勢善し

白十五より變化す。白十五と打てば、白は漸く隅に活を得たり。白十七の綽を打たずして十九と行びれば、黒はイに置く筋あり。

〔三九〇四〕
黒優れり

白三に打てば、黒四、夾に六、八と打つて宜し。十二に至つて向ほ黒、優勢を疑ふ者は黒、星の光るを疑ふ日輪のめぐるを疑ふに異らず。

〔三九〇五〕
中の白孤立す

白九なれば、黒十。黒十六に至る、後醍醐帝の御嘯字、か忠臣すら、櫻樹に書して「嘯國の丹心獨力を「報白三子、此獨力の空拳を奈何せん！

〔三九〇六〕
得失無し

白一は手筋、面白し。黒八、善し。此形、隅の黒地と、中の白の厚みと比較するに先づ得失なし。

〔三九〇七〕
黒優れり

白九の時、黒十に粘いで白に守らせ、黒は悠々として兩軍垂涎の絶好點十四を奪取し得たり。

〔三九〇八〕
白無理形なり

白一、三紛はしき形なれど、黒四、六に打つて手あり、變化割合に簡明となる。二十に至つては、十九までの白は巢を離れし鳥の如く、また少水の魚の如し。

〔三九〇九〕
黒大に優れり

白十五、十七と逃出し、黒に十六、十八の整陣を作らしむ。黒二二まで白は棄てて、この白は委蛇重而つ棄てる能はざる大石なり。

〔三九一〇〕
黒堅實、優勢

白三と隅に綽れば、黒は四、六、八が手筋、此手筋は今の場合最も適切なり。黒の勢は、十二に至つて上る朝暾の如し。

〔三九一一〕
黒大に善し

白九、惡し。又九を十一より取れば、黒イ、白九、黒十、二となつてこの形も亦黒の勢ひ大に優る。

〔三九一二〕
黒の形好し

白九に曲れば、黒十に堅守の一子を取られ、白十二に防ぐ時、黒十二に飛ぶが優勢の如く、斯くて黒は理想の江河洶れ來るとも、崩れず、變らず。

〔三九一三〕
黒の形善し

白五、黒六、而して白七、白の手順可なり。黒八は堅實を旨とす。

〔三九一四〕
白隅の活捌し

白十一より變化して黒二に至り、此形、黒の㊀冗着と化せしも、隅の活き形惡しき故に、大勢より見れば黒優る。

〔三九一五〕
機變甚だ善し

木谷 實五段
先番 村島誼紀五段
勝

（白星打の形）
白二、專ら中を經營せんとする手なり。白三を三なれば、黒イ。

〔三九一六〕
要點約言

（第五五型）

黒二の附は、奇に過ぎるが如きも、若し變化を了解する處、其歸着するに以上の如くにして、黒甚だ面白し。

〔三九一七〕
基本圖

（第五六型）

白二間懸りに對する黒の變則の應け方（其三）

黒二はイを正着と、時に斯くすれど、時に惡しからず。

〔三九一八〕
定石

黒八の時、白は九と覗き、黒に至り、此形、黒の冗着を旨とす。（五八〇圖參照）。

〔三九一九〕
黒の形善し

白七に綽粘げば、隅は活なれど、黒に十と掛粘がれて、此形、白好まず。

〔三九二〇〕
黒優れり

黒四の時白は前圖の如く十三に綽ねるべきを、誤つて五、七と打ち、黒に八の好形を與ふ。此形次に黒に痛烈なる十四の先手約へを喫ふ。

〔三九二一〕
白敗

白五、甚だ無理。白十一を十二に活きれば、黒十一に切て、初め白五と切り趣旨立たず。黒十四に至つては、隅の白憤死を免れず。

〔三九二二〕
黒有利の形

白一なれば、黒二。に隅の地確定す。白三を七なれば、黒五を又白五をイなれば黒五。（九五〇圖以下參照）

〔三九二三〕
常形

白一に夾み返せば、黒は二と締る手最も善し。

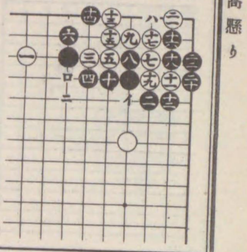
〔三九二四〕
常形、黒堅實

白三に對する、黒四以下の應けは實戰常用の形にして、黒十二までとなりては黒確にして打ち易し。

〔三九二五〕
黒大に優れり

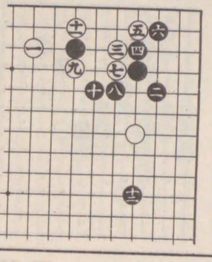
白五は大惡手なり。黒六、善し。白七を八に打てば、黒ロに、白七、白イに手段無し。

〔三九二六〕
白十三に潰滅



白十三悪し。黒二の次に、白イ或はロに切れば、黒ハ又白斯く切る手をハにて、粘げば、黒ニにて、白は手無しのダマ。

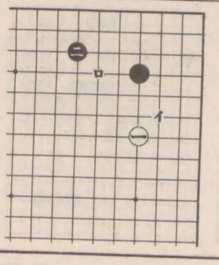
〔三九二七〕
黒大に善し



黒八、十と打ち、白に十一と守らせ後、十二に大勢を収む。黒が戦場を駈廻の英姿や輕快、而かも陣容は整々堅固水も漏さず。（六〇七四圖以下参照）

〔三九二八〕
要點約言

（第五六型）

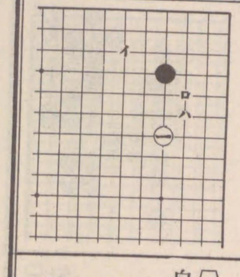


白一の二間高懸りなれば、黒ロ又白イの懸りなれば、黒二を定法とすれば、時に黒は、斯く二と大斜走に應けるも面白し、斯けるも面白し。

〔三九二九〕
基本圖

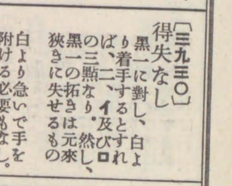
（第五七型）

白二間高懸りに對する黒の變則の應け方（其四）



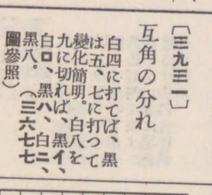
白一に對しロは只堅きのみ、イは、堅きの應けは、黒の狭くして黒好まず。

〔三九三〇〕
得失なし



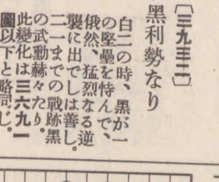
黒一に對し、白よりば、二、イ及びロれ、三點なり。然し、黒一の拓きは元來、狭きに失せるもの白より急いで手を附ける必要もなし。

〔三九三一〕
互角の分れ



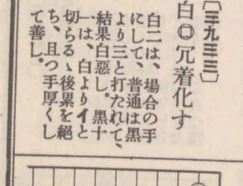
白四に打てば、黒は五、七に打つて變化明。白八を白ロ、黒八、（三六七七圖參照）黒イ、白ニ、黒イ、白ロと切れば、

〔三九三二〕
黒利勢なり



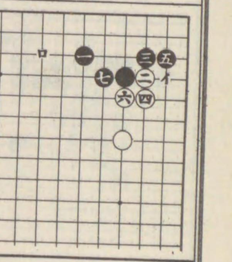
白二の時、黒が一の堅碁を持んで、俄然、猛烈なる逆襲に出で、二一まで、し戦跡善し。黒の武勲赫々たり。此變化は三六九一圖以下と略同じ。

〔三九三三〕
白ロ冗着化す



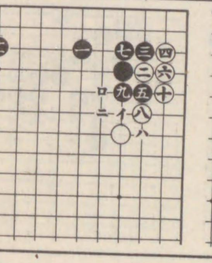
白二は、場合の手にして、普通は黒より三と打つた。れて、結局、白よりイと切らるゝ、後果を絶ちて、且つ手厚くし善し。

〔三九三四〕
黒優れり



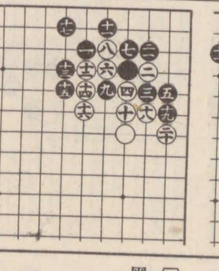
黒十一は正に健棒を振つて白ロの痛打を致命の興へし、もの。これより後、茫々乎たる上邊中原一帯に白軍の隻騎を見ず。

〔三九三五〕
形勢互角



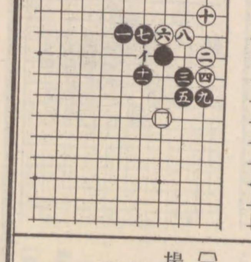
黒三は手を抜くも宜し。黒五は、六に打つ手もあれど、斯く打つて、次に黒七と約へる方、堅實なり。

〔三九三六〕
黒時に面白し



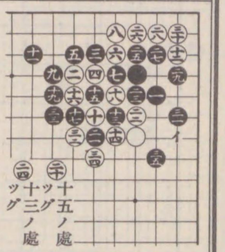
黒一、三、確なり。黒が中央に進出するも效力之に伴はざる棋勢に於ては、斯く打つ手段面白し。

〔三九三七〕
場合の形なり



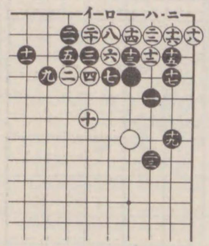
白四善し。此形前圖に比して、黒は稍味悪し。

〔三九三八〕
黒可なり



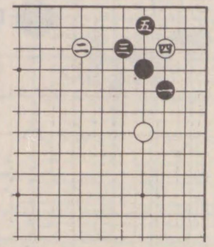
白六、八、打過ぎなり。斯くて白十二に虚喝す。而かも黒秋毫も怖れず十三以下攻をなす、面白し。白三二をイとなれば、黒三四。

〔三九三九〕
黒善し



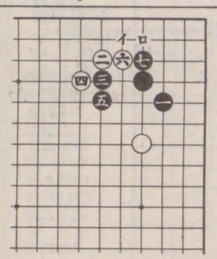
白二二を忘れば、黒は一の方面の堅くなりし後、イに綿ね、白ロ黒ハ白二二黒ニと打て白の眼を取る手あり。

〔三九四〇〕
隅は安全なり



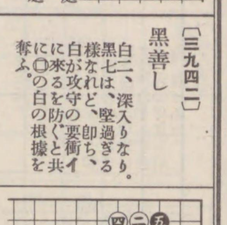
黒三、確なり。白四、黒五にて隅に手無し。（三〇五圖以下參照）然し圖の如きは偏りに隅にある打方なれば多く黒好まず。

〔三九四一〕
黒堅實



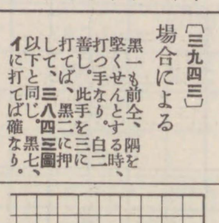
白二なれば、黒三、五と附行びて善し。白六をイなれば、黒ロと預けて善し。

〔三九四二〕
黒善し



白二、深入りなり。黒七は、堅過ぎる様なれど、卽ち、白が攻守の要衝イに來るを防ぐと共に、ロの白の根據を奪ふ。

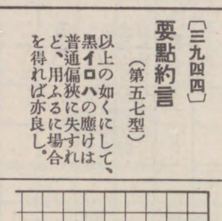
〔三九四三〕
場合による



黒一も前全、隅を堅くせんとする時、打つ手なり。白二善し。此手を、打てば、黒二に押して、三八四三圖以下と同じ、黒七、イに打てば確なり。

〔三九四四〕
要點約言

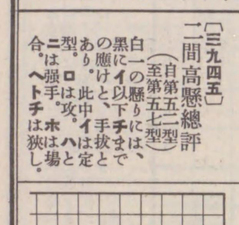
（第五七型）



以上の如くにして、黒イロハの應けは普通偏狭に失すれど、用ふるに場合を得れば亦良し。

〔三九四五〕
二間高懸總評

（自第五二型至第五七型）



白一の懸りには、黒イ以下チまでの應けと、手抜とあり。此中イはロと定型。ロは攻、ハは強手、ホは場合、ヘトチは狭し。